

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第207集

西近津遺跡群

西 近 津 遺 跡 VIII
西 近 津 遺 跡 IX

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第8・9次調査

2013.3

茂 木 義 秀
佐 久 市 教 育 委 員 会

西近津遺跡群では、中部自動車道・市道改良・集合住宅建築などに関わり700軒を超える弥生時代後期、古墳時代、奈良・平安時代の竪穴住居址等が発掘調査されています。

国内最大級の弥生時代後期の住居址、弥生時代の大きな溝、弥生時代の周溝墓、古墳時代前期の古墳、古墳～平安時代の墓、奈良・平安時代の掘立柱建物址群などがみつかりました。

遺物も弥生時代・古墳時代～平安時代の土器や鉄器・石器が大量に出土しました。古代銅印「鋳?子私印」・「郡」と刻まれた須恵器・祭祀用の玉や鏡が発見され注目を集めています。

今回の西近津遺跡Ⅷでは、これらの時代よりさらに遡った縄文時代後期の深鉢や土偶・石棒・石剣が新たに検出されました。



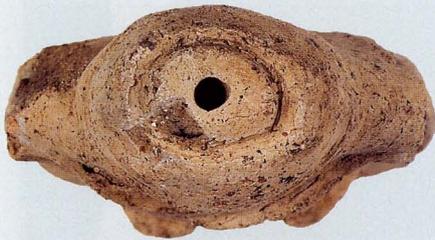
土偶の顔面
(L3 Gr)



上向きの顔面・帽子を被った
ような頭部を持つ土偶 (カ3 Gr)



陽形土製品
(D2)



側面形が板状で頭が肩の真上に付かず、体部上端の前面についた土偶 (D13)

縮尺1:1

下の写真縄文時代深鉢など多くの土器と土偶や石棒・石剣も出土しました。

D2号土坑は、深鉢を正位に埋設し、内部に丸み帯びた礫と鉄平石、その上部に長さ29.5cmの大型石棒が納められていました。

石棒は住居址や墓坑・土坑等からも出土しますが、土器に埋納された出土状態は極めて稀であります。深鉢と20cm離れて陽形土製品が出土しました。小さな石棒は、丸い小さな礫と並んで見つかりました。

土偶はほとんど女性像で大半が壊された状態で出土します。豊かな収穫を願う“まつり”に使われたり、生命の再生を願って作られたともいわれています。土偶を壊すという行為の目的が探られています。

大型石棒と石皿、または大型石棒と丸石が対で数多く確認されたり、石棒の形から神霊の強い活力・生殖力・生産力がイメージされ、石棒祭儀も論じられています。

今回の調査では、墓域と推定する一帯から深鉢内に土偶と丸みをおびた礫が納められた土坑、その近くから顔面と頭部の土偶が出土しています。何らかの“まつり”の場所であったと推測できましょう。



石棒
(x5 Gr) 1:3

大型石棒
(D2) 1:3

石剣
(3トレンチ) 1:3

深鉢 (D2) 1:5

深鉢 (M3) 1:5

例 言

1. 本書は、茂木義秀が行う集合住宅建築に伴う西近津遺跡群西近津遺跡Ⅷ及び西近津遺跡Ⅸの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市塚原382番地1 茂木義秀
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫
4. 遺跡名及び所在地 西近津遺跡Ⅷ (NTⅧ) 佐久市長土呂1796-2、1796-4
西近津遺跡Ⅸ (NTⅨ) 佐久市長土呂1764-1、1764-15
5. 調査期間及び面積 西近津遺跡Ⅷ (NTⅧ)
発掘調査 平成22年 9月27日～平成22年11月26日
整理調査 平成23年12月26日～平成24年 3月18日
平成24年 4月10日～平成25年 3月 報告書刊行
開発面積 1,500㎡ 調査面積 598㎡
西近津遺跡Ⅸ(NTⅨ)
発掘調査 平成23年11月24日～平成23年12月08日
整理調査 平成23年12月 7日～平成24年 3月18日
平成24年 6月29日～平成25年 3月 報告書刊行
開発面積 407㎡ 調査面積170㎡
6. 発掘調査の担当
西近津遺跡Ⅷ(NTⅧ) 林幸彦・佐々木宗昭
西近津遺跡Ⅸ(NTⅨ) 上原 学
7. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址—H 掘立柱建物址—F 円形周溝墓—O T 土坑—D 溝状遺構—M ピット—Pである。
2. 挿図の縮尺は、遺構 1/80・遺物 1/4が基本である。挿図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水系標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたが、間隔は4m×4mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 挿図中のスクリントーンは、以下のことを示す。



地山断面



床下埋土



焼土



焼け込み
灰軸範囲



炉



柱痕
黒色処理 (土器)



粘土
磨面 (石器)



赤色塗彩



須恵器断面

9. 住居址の区割りは、右図のとおりである。

目 次

例言・凡例・目次

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 経過と周辺遺跡 1

第 2 節 調査体制 2

第 II 章 西近津遺跡Ⅷ

第 1 節 調査体制 2

第 2 節 調査日誌 2

第 3 節 基本層序 2

第 4 節 検出遺構・遺物の概要 2

第 5 節 竪穴住居址 2

第 6 節 土坑 51

第 7 節 円形周溝墓 62

第 8 節 溝状遺構 63

第 9 節 ピット 65

第 10 節 遺構外出土遺物 69

図版

第 III 章 西近津遺跡Ⅸ

第 1 節 調査体制 137

第 2 節 調査日誌 137

第 3 節 発見された遺構・遺物 138

第 4 節 竪穴住居址 139

第 5 節 掘立柱建物址 145

第 6 節 ピット 146

図版

第 I 章 発掘調査の経緯

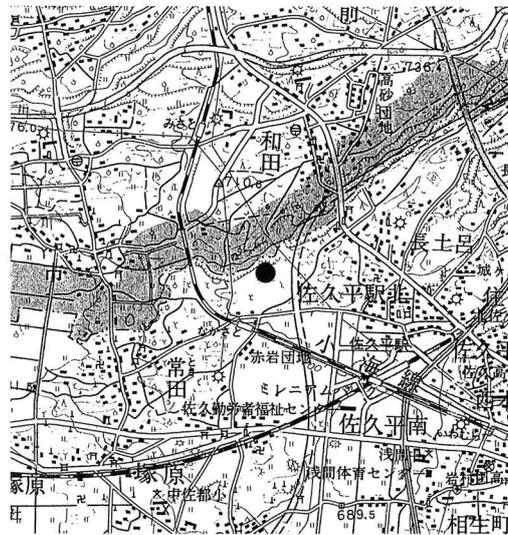
1.経過と周辺遺跡

西近津遺跡群は、佐久・小諸両市境を南西に流下する湧玉川左岸の田切り台地上に立地し、標高は700～713mを測る。台地の南・東側は、浅い低地で周防畑遺跡群と画されている。近津神社西からJR小海線に至る大きな遺跡群で、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺構や遺物が多く知られている。鷲林城跡が西端にある。

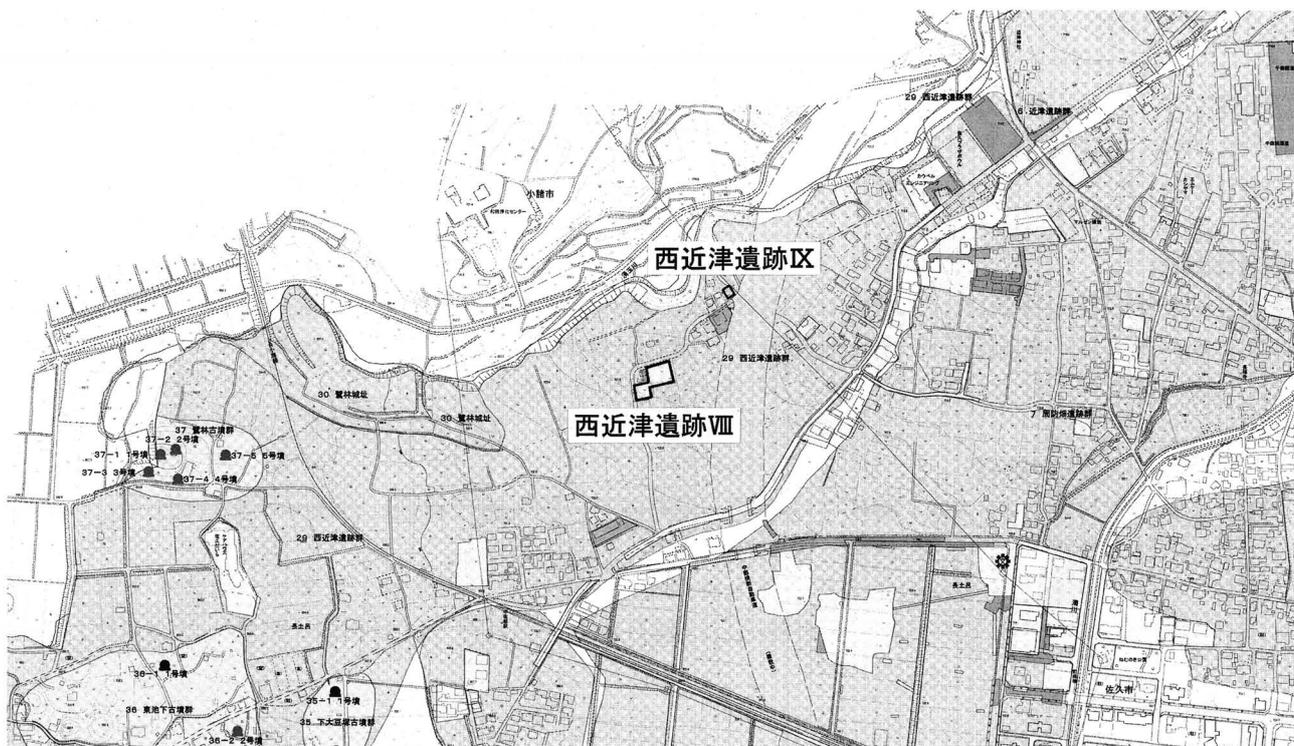
今回の調査地点に近接した長野県埋蔵文化財センターが行った中部横断自動車道に関わる発掘調査では、500軒を超える弥生時代後期、古墳時代、奈良・平安時代等の竪穴住居址をはじめ、国内最大級の弥生時代後期の住居址や古代銅印「鋳子私印」が発見され注目を集めている。

付近の市道改良工事に先立つ発掘調査では、約100軒の竪穴住居址（弥生後期～平安時代）等が検出されている。本調査地点の西に接する西近津遺跡Ⅳでは弥生後期～平安時代の多くの竪穴住居址や縄文時代中期末～後期の土坑と遺物が多数検出されている。

茂木義秀氏の行う集合住宅建築に伴い、平成22年度に西近津遺跡Ⅷ、平成22年度に西近津遺跡Ⅸの記録保存調査を実施した。



第1図 西近津遺跡Ⅷ・Ⅸ位置図 (1 : 50,000)



第2図 西近津遺跡Ⅷ・Ⅸ周辺遺跡 (1 : 10,000)

2.調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫 (平成21年7月就任)

事務局 社会教育部長 工藤 秀康(平成22年度) 伊藤 明弘(平成23・24年度)
 社会教育部次長 藤巻 浩(平成23年度)
 文化財課長 森角 吉晴(平成22年度) 吉澤 隆(平成23・24年度)
 文化財係長 三石 宗一
 文化財調査係専門員 林 幸彦(平成22・23年度) 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田卓也
 富沢 一明(平成23・24年度) 上原 学(平成23・24年度)
 文化財調査係 並木 節子 富沢 一明(平成22年度) 上原 学(平成22年度)
 神津 和明(平成23年10月～) 井出 泰章(～平成23年9月)
 出澤 力(～平成23年6月) 久保 浩一郎(平成24年度)

第Ⅱ章 西近津遺跡Ⅷ

1. 調査体制

調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭
 調査副主任 堺 益子
 調査員 赤羽根充江 浅沼 勝男 磯貝 律子 市川 光吉 岩崎 重子 岩松 茂年
 白田 絢佳 加藤ひろ美 狩野小百合 神津 和子 神津 千春 小林 節子
 小林 千勝 清水 律子 副島 充子 田中ひさ子 土屋 邦子 中山 清美
 花里佐恵子 広瀬梨恵子 堀籠 保子 依田 三男 柳沢 孝子

2. 調査日誌

平成22年 9月24日 器材搬入。 9月27日 重機による表土除去。遺構確認。
 10月 1日 測量基準杭打設、遺構掘り下げ開始・随時記録作業。
 11月24日 現場作業終了。 11月26日 器材撤収。
 平成23年 1月16日 室内整理調査開始。凶面・写真等記録の整理及び修正。遺物洗浄・注記・接合
 平成23年 4月25日～平成24年11月26日 実測・写真撮影。原稿の執筆、報告書の作成。
 平成25年 3月 報告書刊行をもって調査終了。

3. 基本層序

古墳～平安時代の遺構は、第Ⅳ層の上面で確認された。第Ⅳ層・第Ⅴ層の上部は、縄文時代の遺物を包含する。調査区の北東部は、第Ⅰ層直下が遺構確認面であった。第Ⅵ層の上部5～10cmは黄褐色土以下にぶい黄褐色土さらに堅く締まるにぶい褐色土がみられた。

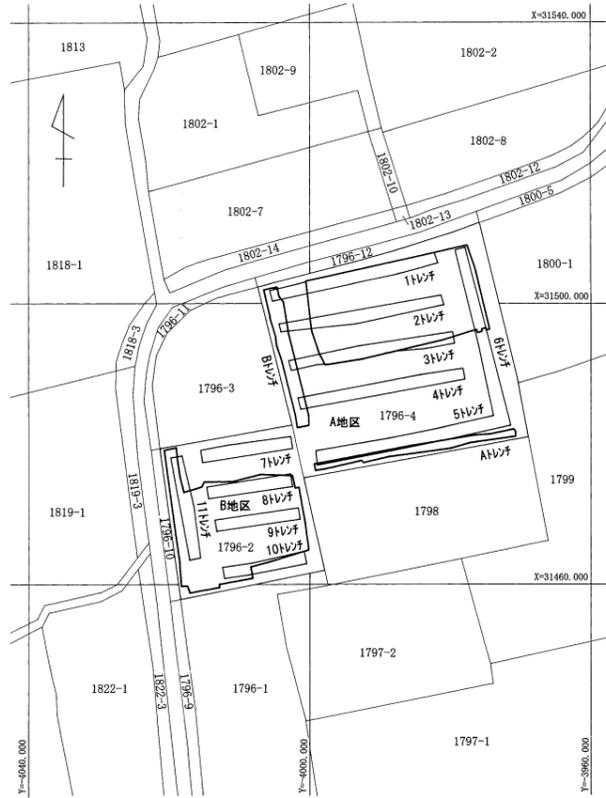
4. 検出遺構・遺物の概要

遺構 竪穴住居址25軒（縄文時代中期後半・後期前半、弥生時代後期、古墳～平安時代）
 円形周溝墓3基、土坑37基、溝状遺構3条、ピット202基
 遺物 縄文中期後半・後期前半土器、弥生後期土器、土師器、須恵器、土製品（円盤・土偶等）
 鉄製品（紡錘車・刀子等）、石製品（打製石斧・磨製石斧・打製石鏃・石棒・凹み石等）

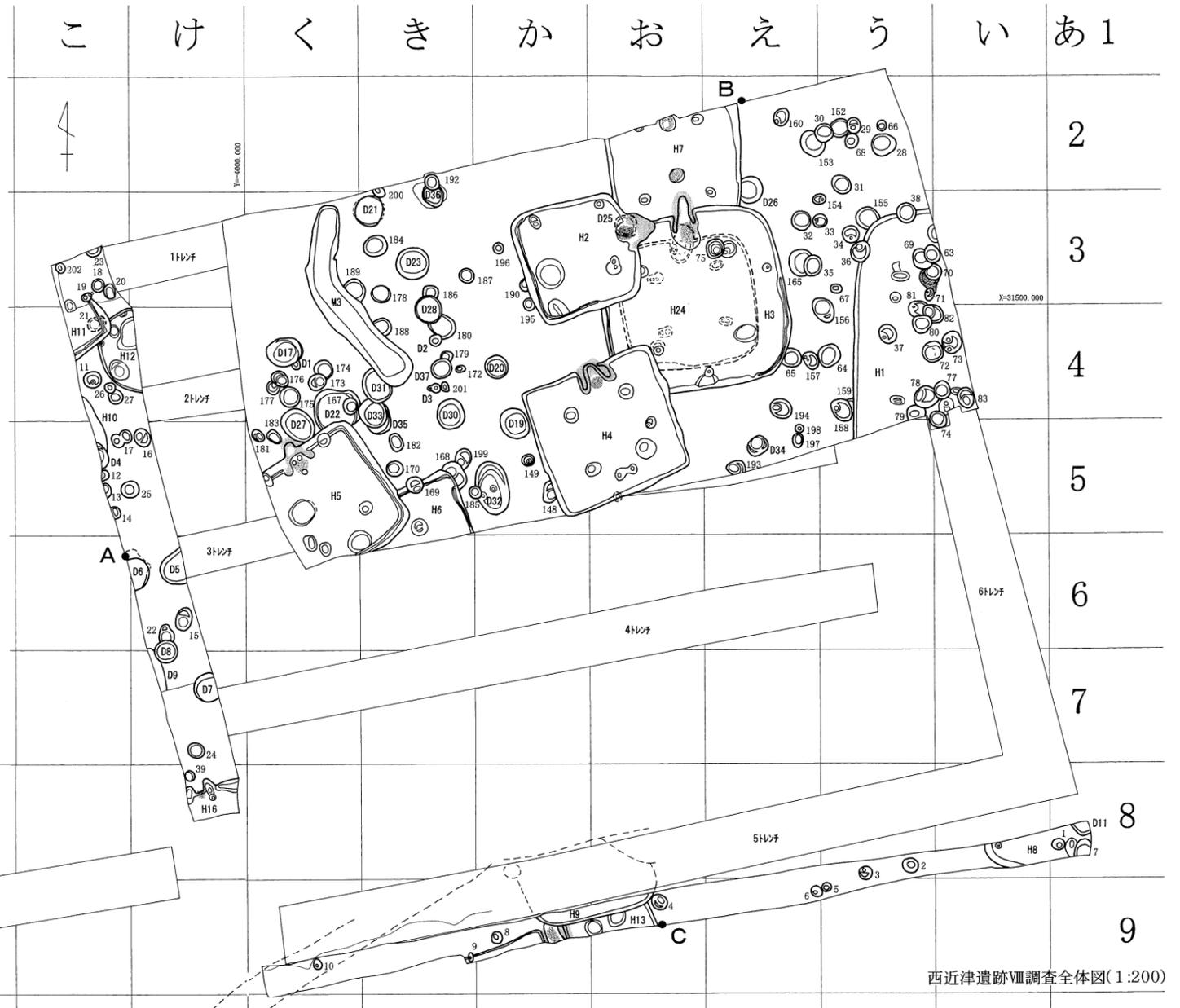
5. 竪穴住居址

(1) H1号住居址

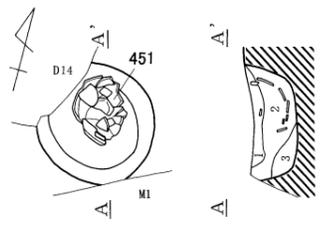
I区東端い・う-3・4 Grにあり、P36～38、P63、P69～74、P77～83に切られ、P159を切る。炉は支柱穴P1の東脇と住居址中央に、2基ある。炉1は地床炉で10cm程度掘りこまれ、炉2は明確な掘り込みはない。ピットは8個検出され、P1～P3の支柱穴と棟持柱P4、さらにP6から五平状柱痕が確認された。P7・P8は床面下から確認され、古い出入口施設で南側への住居拡張も考えられる。



西近津遺跡Ⅶ調査範囲(1:1,000)

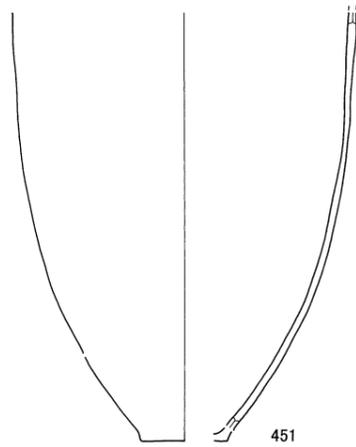


西近津遺跡Ⅶ調査全体図(1:200)

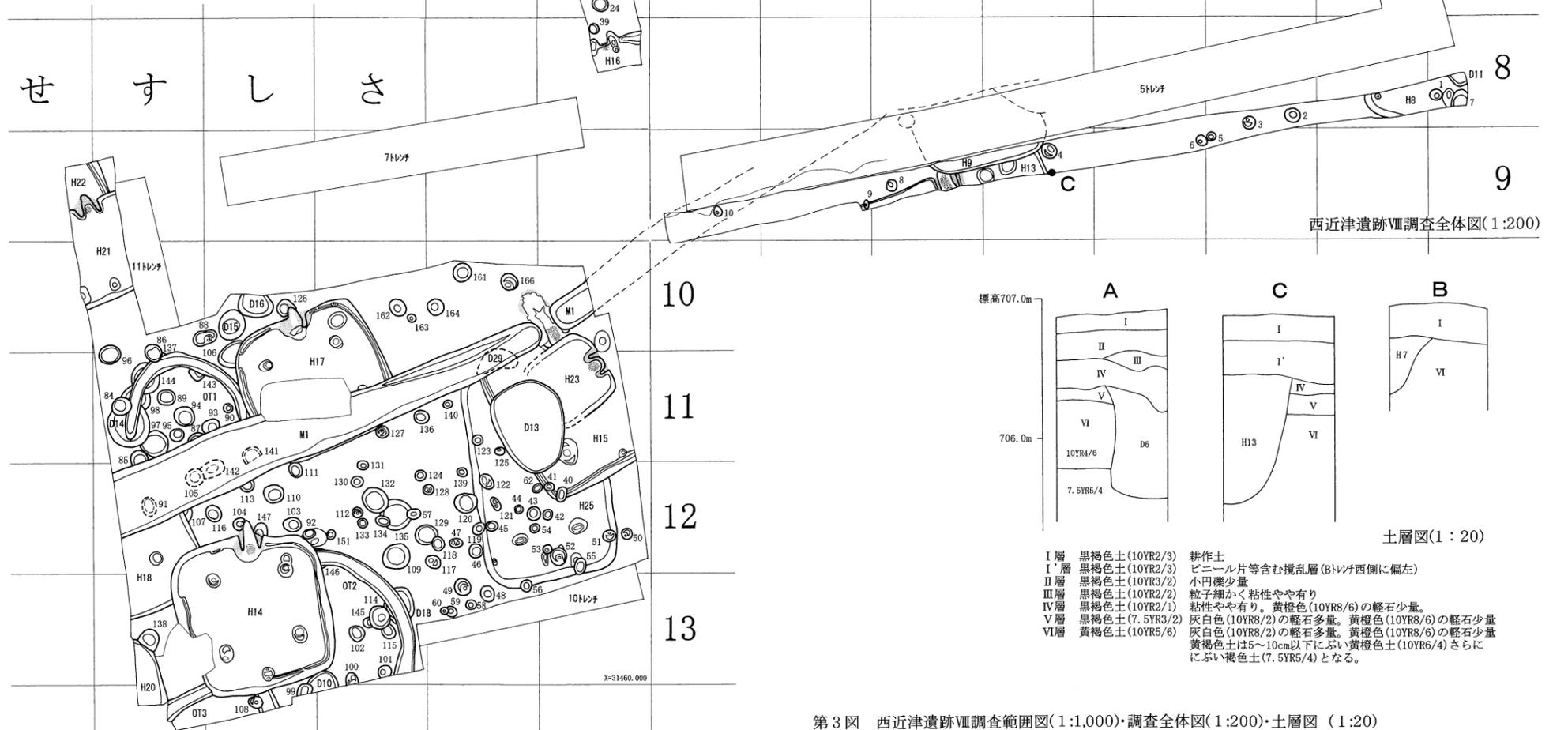


- 1層 黒色土(10YR2/1)主体。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3)にふい黄褐色土(10YR5/4)少量含む。
- 3層 灰黄褐色土(10YR4/2)にふい黄褐色土(10YR5/4)ブロック黒色土(10YR2/1)を含む。

0 標高706.00m (1:60) 1.5m



0 (1:10) 50cm
P97号ピット

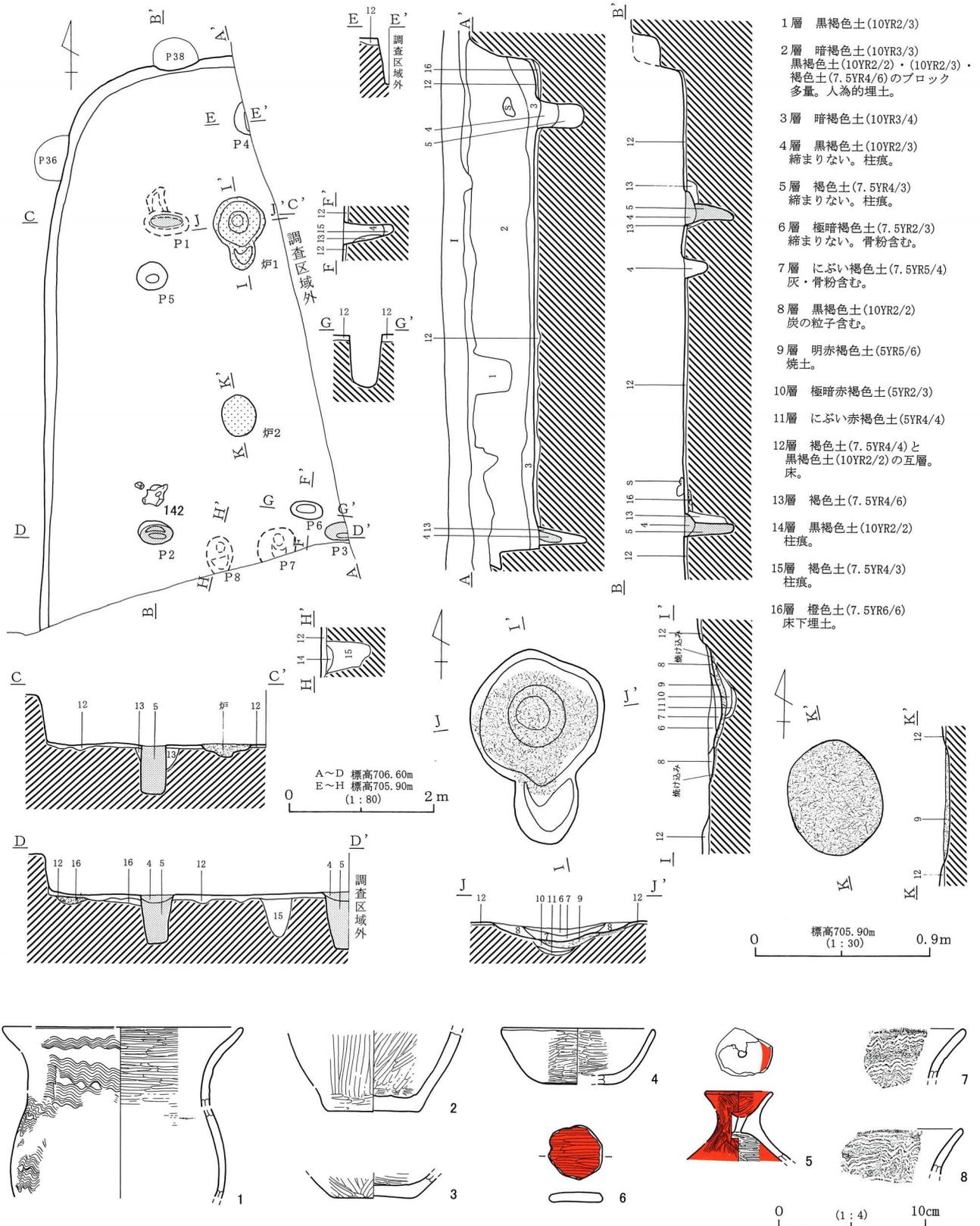


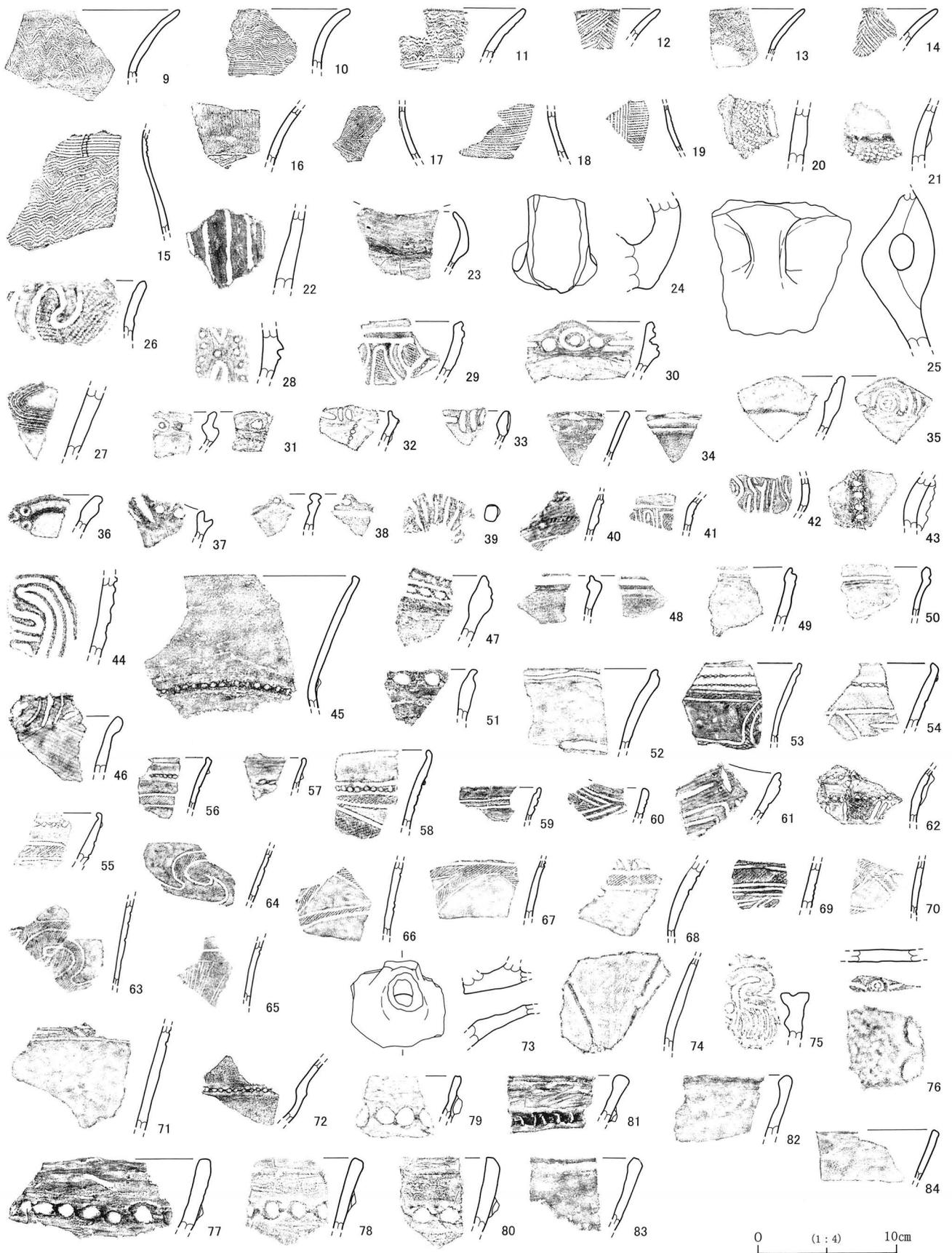
土層図(1:20)

- I層 黒褐色土(10YR2/3) 耕作土
- I'層 黒褐色土(10YR2/3) ビニール片等含む攪乱層(Bピット西側に偏左)
- II層 黒褐色土(10YR3/2) 小円礫少量
- III層 黒褐色土(10YR2/2) 粒子細かく粘性やや有り
- IV層 黒褐色土(10YR2/1) 粘性やや有り。黄褐色(10YR8/6)の軽石少量。
- V層 黒褐色土(7.5YR3/2) 灰白色(10YR8/2)の軽石多量。黄褐色(10YR8/6)の軽石少量
- VI層 黄褐色土(10YR5/6) 灰白色(10YR8/2)の軽石多量。黄褐色(10YR8/6)の軽石少量。黄褐色土は5~10cm以下にふい黄褐色土(10YR6/4)さらににふい褐色土(7.5YR5/4)となる。

第3図 西近津遺跡Ⅶ調査範囲図(1:1,000)・調査全体図(1:200)・土層図(1:20)

床は堅く平坦。覆土3層は人為的埋土。遺物は赤彩の壺・甕・無彩の鉢・赤彩の蓋・土製円板(赤彩の壺
 転用)等の弥生土器、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・ミニチュア土器・土製円板(深鉢等の転
 用)がある。多数出土した石器の時期は明確でない。本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

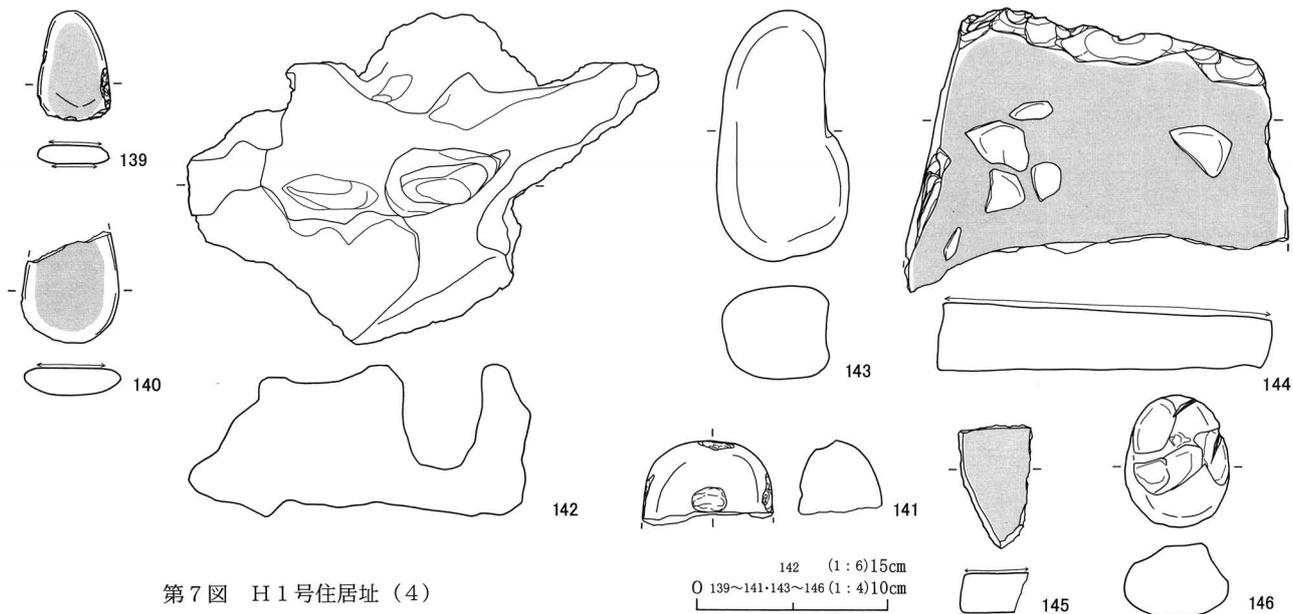




第5图 H1号住居址(2)



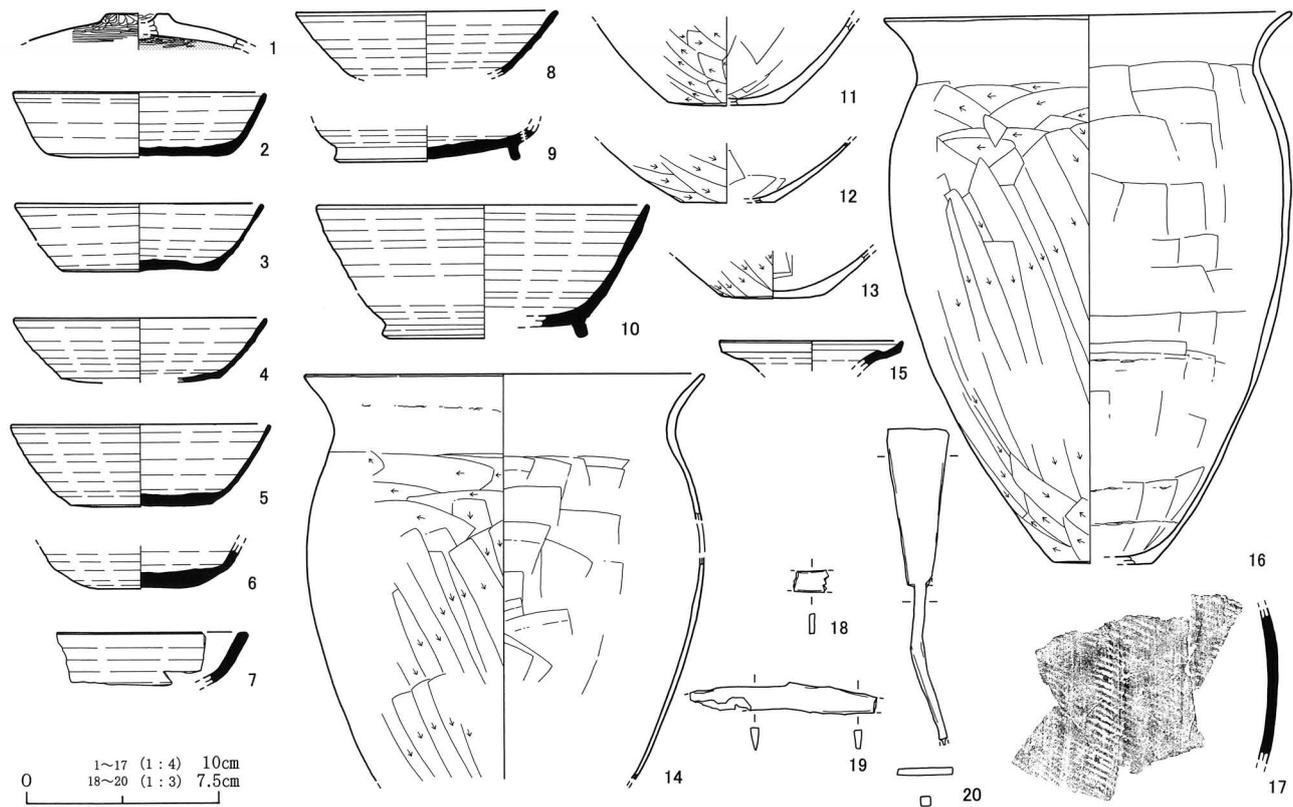
第6图 H1号住居址(3)



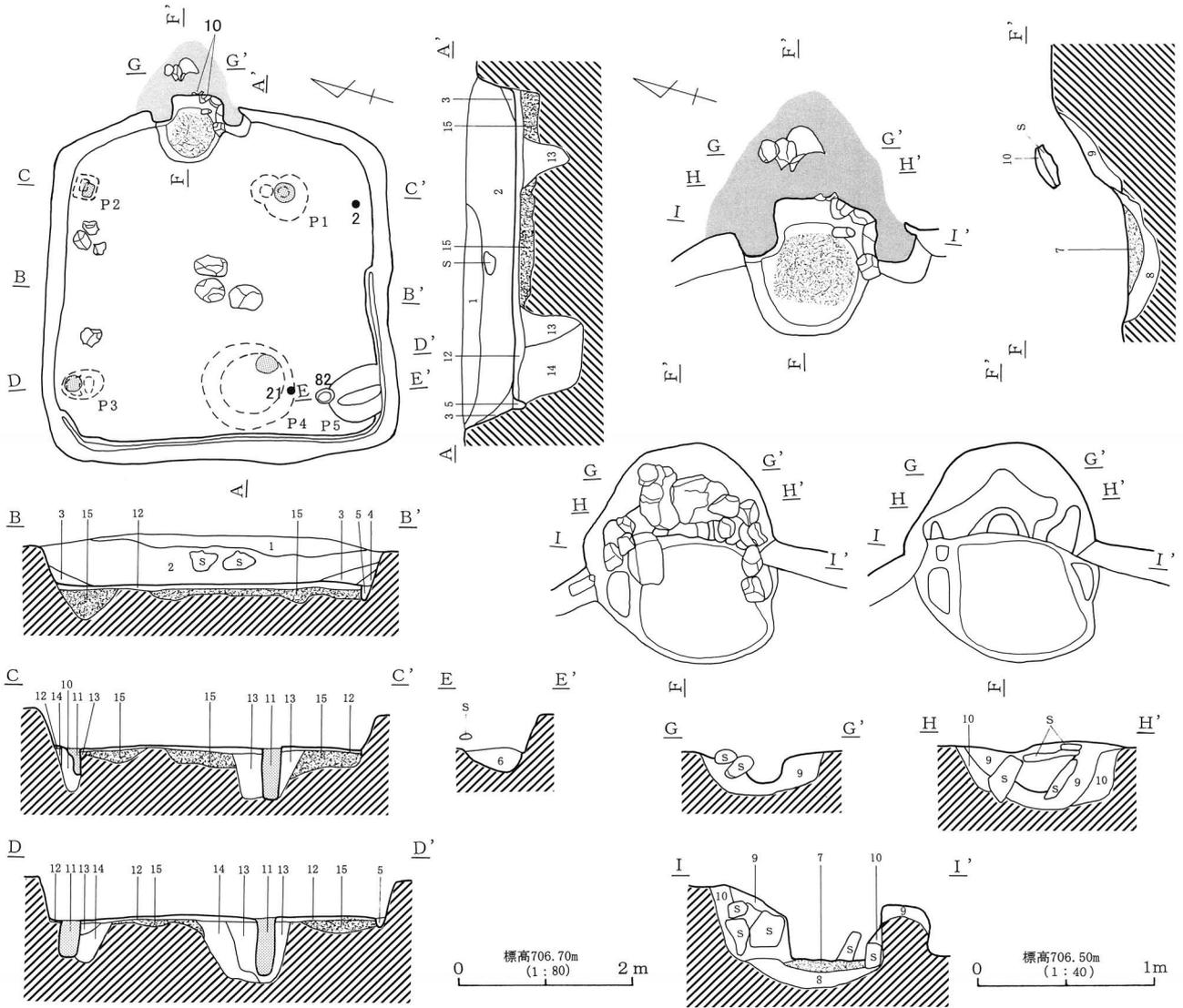
第7図 H1号住居址(4)

(2)H2号住居址

I区お・か・3・4Grにあり、H3・H7・H24・D25・P190・P195を切る。カマドは東壁中央に、粘土と面取軽石・安山岩・熔結凝灰岩等で構築されている。ピットは、柱痕が確認されたP1～P4の支柱穴等5個検出された。床は堅く平坦。南壁中央～西壁下を壁溝が巡る。覆土2層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・鉄器、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。底部すべてヘラ成形・調整痕ある須恵器坏(2～6)・高台坏(9・10)、口径と胴部最大径がほぼ等しい武蔵甕(14・16・23)、鉄器は刀子(19)、鎌身平面形斧箭で造込は平の鉄鎌がある(20)。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅱ期-8世紀前半(第2四半期)に位置づけられる。

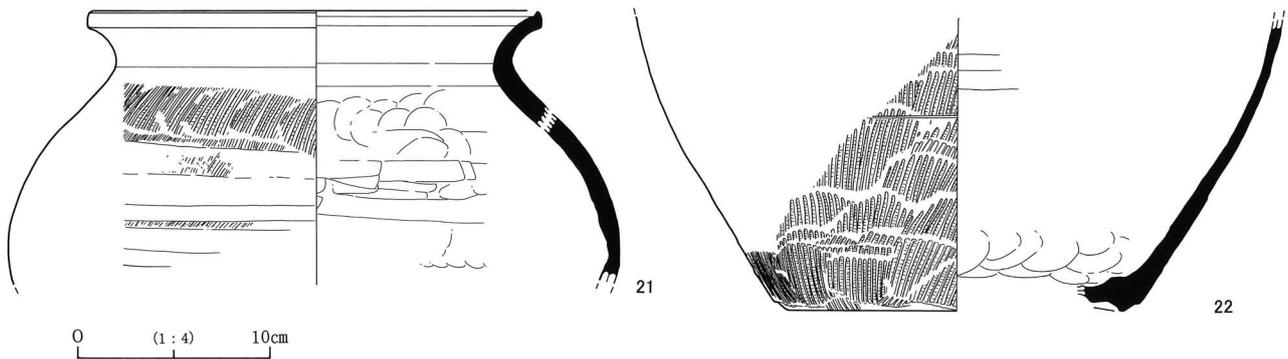


第8図 H2号住居址(1)

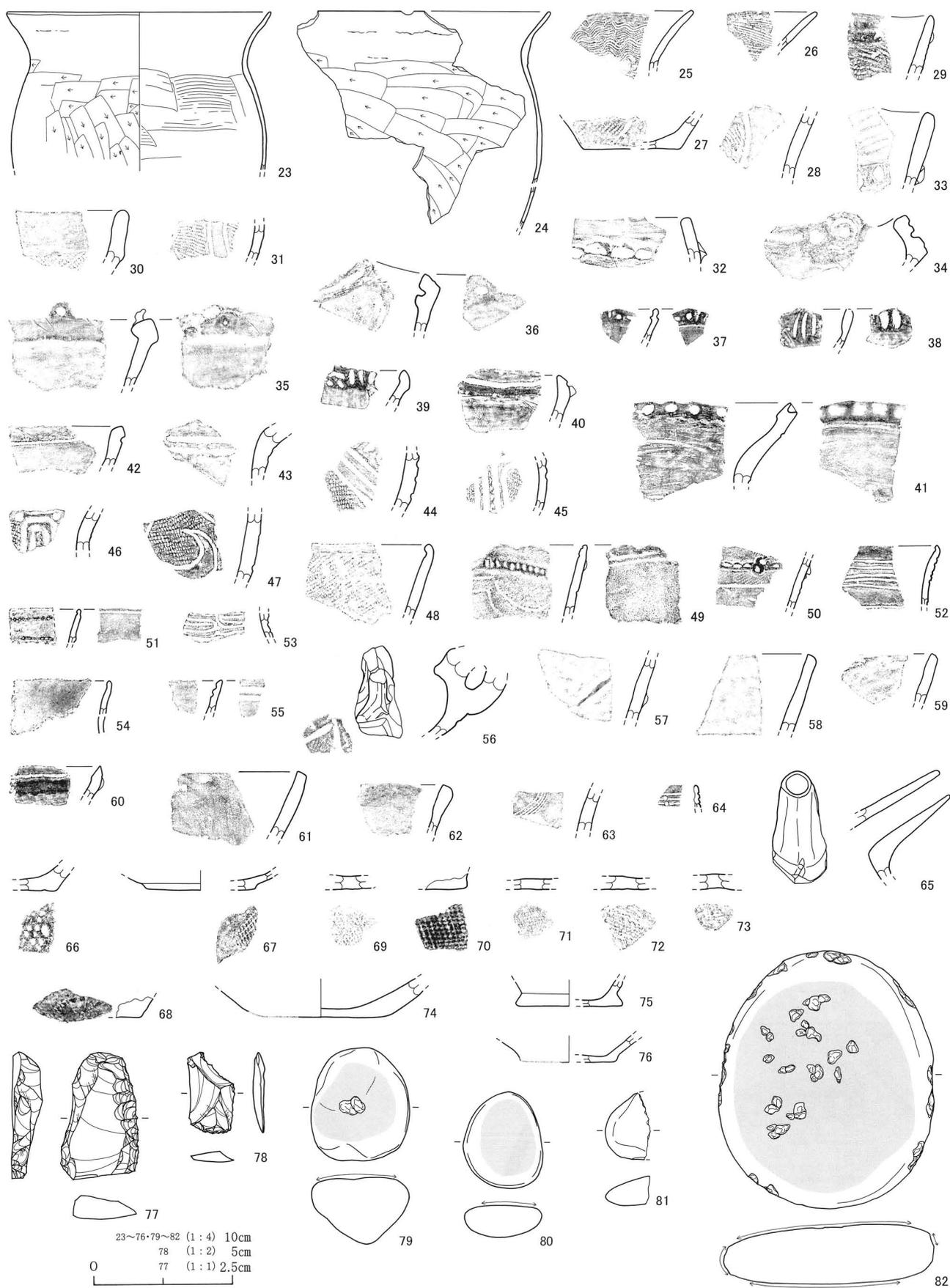


- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 砂質土多量。締まりない。自然堆積。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 黒褐色土(10YR2/2)・黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。30~40cm大の熔結凝灰岩・安山岩7個含む。人為的堆積。
- 3層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性やや有り。
- 4層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック含む。
- 5層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック多量。
- 6層 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。
- 7層 明赤褐色土(5YR5/8) 焼土。火床。
- 8層 黒褐色土(5YR3/1) 褐灰色(7.5YR4/1)の粘土少量含む。

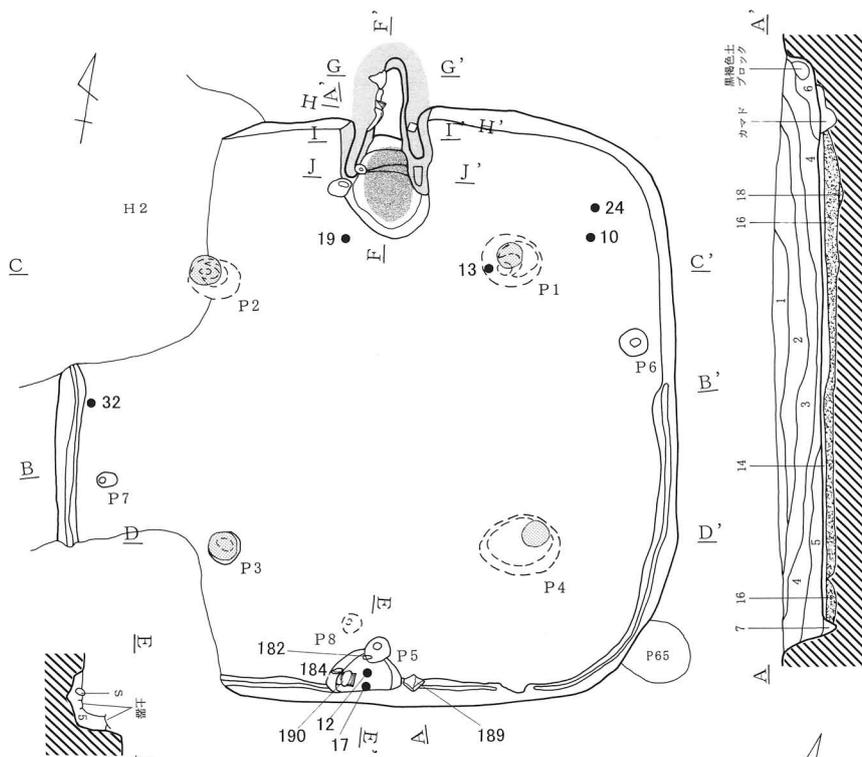
- 9層 黒褐色土(7.5YR3/1) 褐灰色(7.5YR4/1)の粘土が主で黒褐色土(10YR3/2)が含まれる。
- 10層 黒褐色土(10YR2/2) 締まりない。
- 11層 黒褐色土(10YR2/2) 締まりない。柱痕。
- 12層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6)と黒褐色土(10YR2/3)が互層となる部分がある。堅く締まる床。
- 13層 暗褐色土(10YR3/3) 明褐色土(7.5YR5/6)・黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量。締まりない。ピットの埋土。
- 14層 暗褐色土(10YR3/3) 明褐色土(7.5YR5/6)・黒褐色土(10YR2/3)の大ブロック多量。締まりない。
- 15層 明褐色土(7.5YR5/6)・暗褐色土(10YR3/3) 床下の埋土。



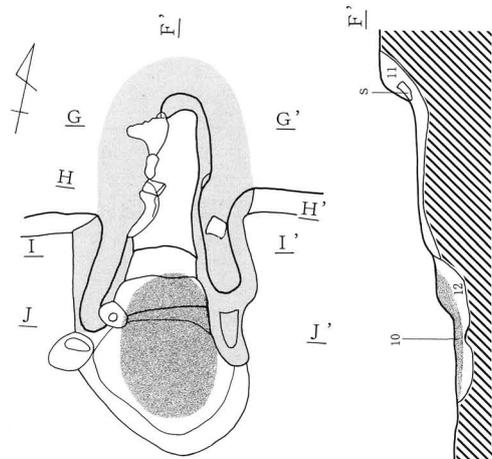
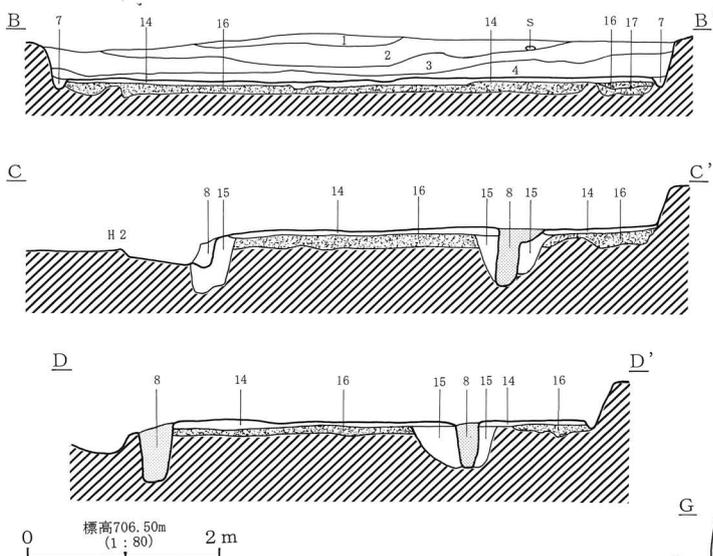
第9図 H2号住居址(2)



第10图 H2号住居址(3)

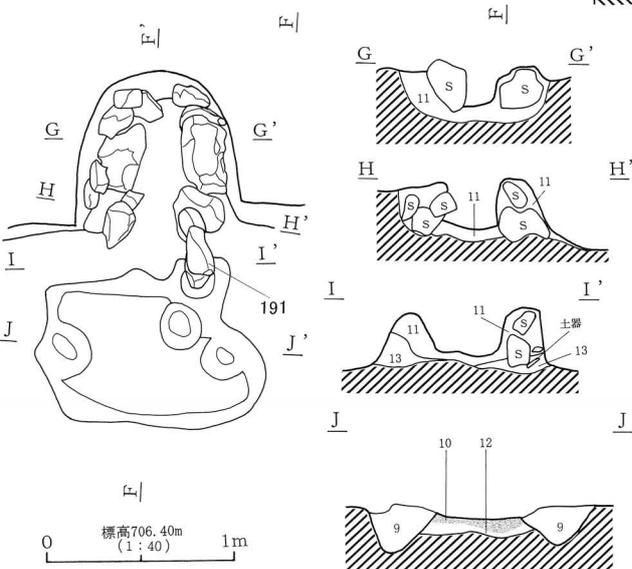


- H3
- 1層 黒褐色土(10YR2/3)
 - 2層 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/6)・黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量。人為的堆積。
 - 3層 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(7.5YR4/6)の小ブロック少量。人為的堆積。
 - 4層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2)褐色土(7.5YR4/6)の小ブロック少量。人為的堆積。
 - 5層 黒褐色土(10YR2/2)
 - 6層 暗褐色土(7.5YR3/3) 褐色土(10YR4/6)・焼土・粘土の小ブロック多量。
 - 7層 暗褐色土(10YR3/4) 締まりない。黒褐色土(10YR2/2)・にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック多量。
 - 8層 黒褐色土(10YR2/3) 締まりない。柱痕。
 - 9層 暗褐色土(7.5YR3/3) 黒褐色土(10YR2/2)・焼土・粘土の小ブロック多量。
 - 10層 赤褐色土(5YR4/6) 焼土。12層が被熱したもの。火床。
 - 11層 極暗褐色土(7.5YR2/3) 粘土。
 - 12層 黒褐色土(5YR3/1) 焼土ブロック少量。
 - 13層 黒色土(10YR2/1) H7の覆土。カマド袖部の基部。
 - 14層 黒褐色土(10YR2/3) 堅く締まる。床。
 - 15層 黒褐色土(10YR2/3) 黒褐色土(10YR2/2)・にぶい黄褐色土(7.5YR5/4)のブロック多量。
 - 16層 黒褐色土(10YR2/3) 黒褐色土(10YR2/2) 橙色土(10YR6/6)の小ブロック少量。床下埋土。
 - 17層 暗褐色土(10YR3/4) 柔らかく締まりない。
 - 18層 暗赤褐色土(5YR3/2) 灰・焼土粒子。

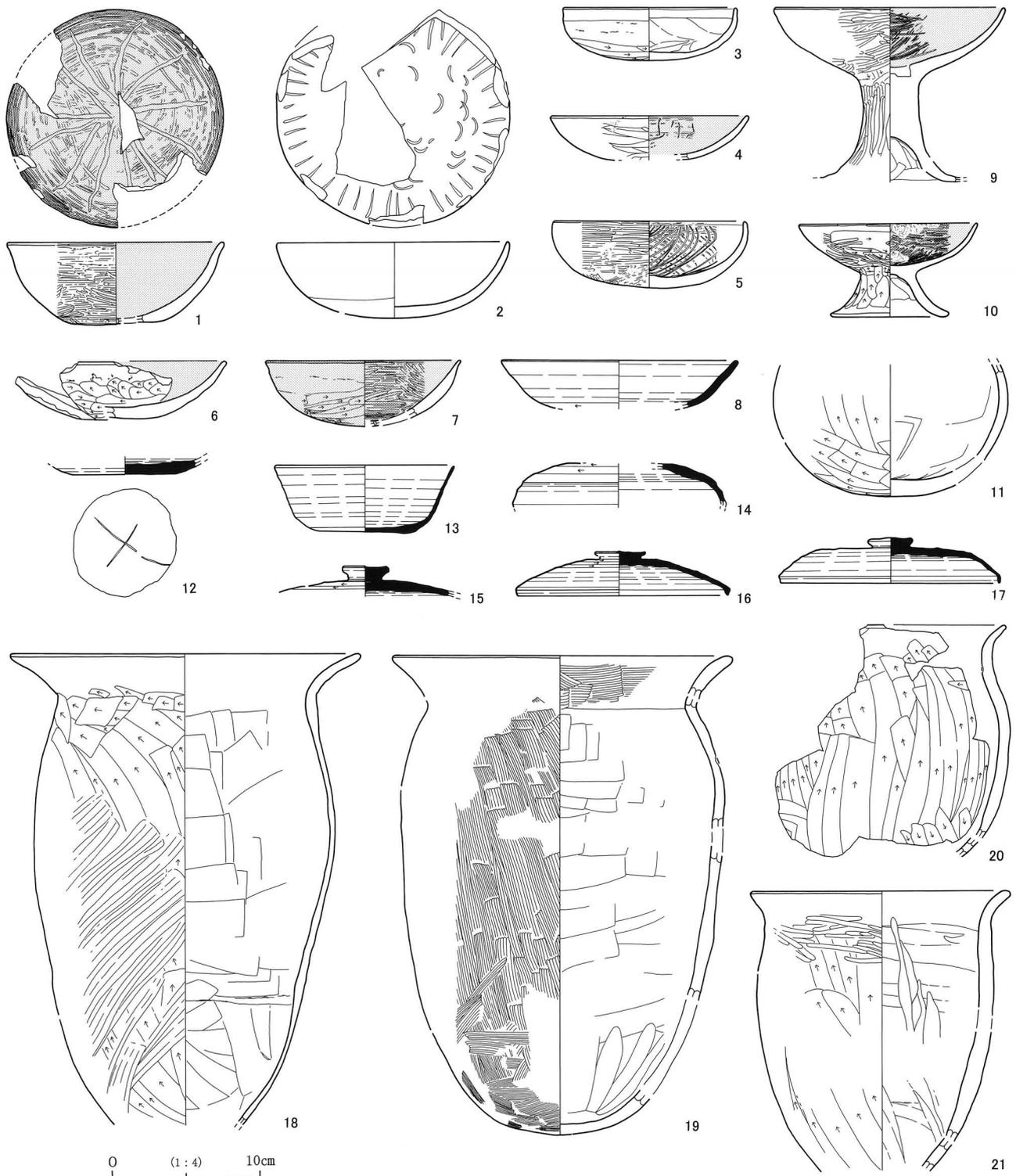


(3)H3号住居址

I区え・お・3・4 Grにあり、H2・H4・P65・P75に切れH24を切る。カマドは北壁中央に、粘土と面取軽石・安山岩等で構築される。ピットは、柱痕が確認されたP1~P4の主柱穴等5個検出された。P5は、入り口施設と見られる。床は堅く平坦。東壁中央から南壁下に壁高が巡る。覆土2~4層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・鉄器、本址に伴わない縄文時代中期末~後期土器・土

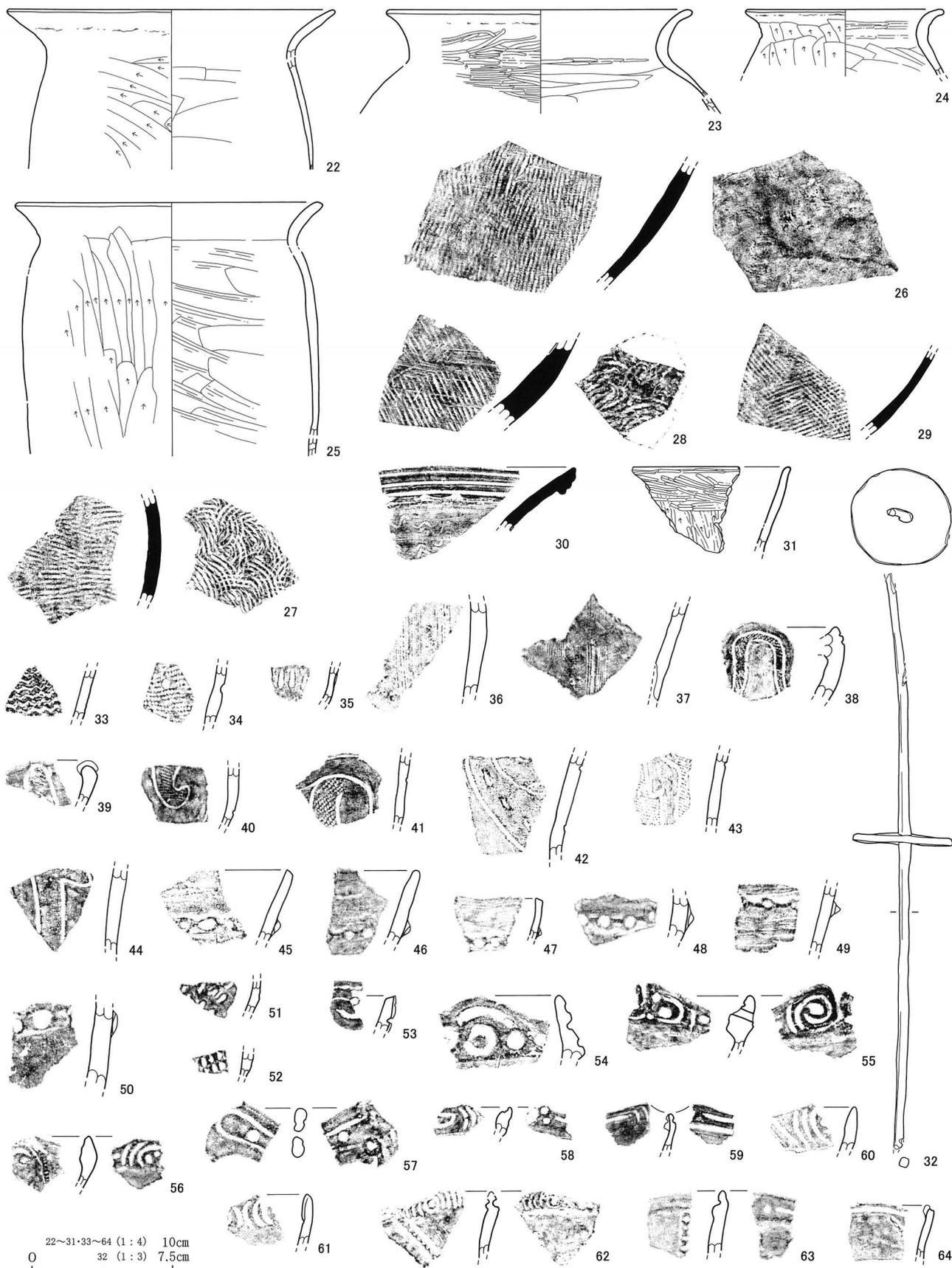


第11図 H3号住居址(1)

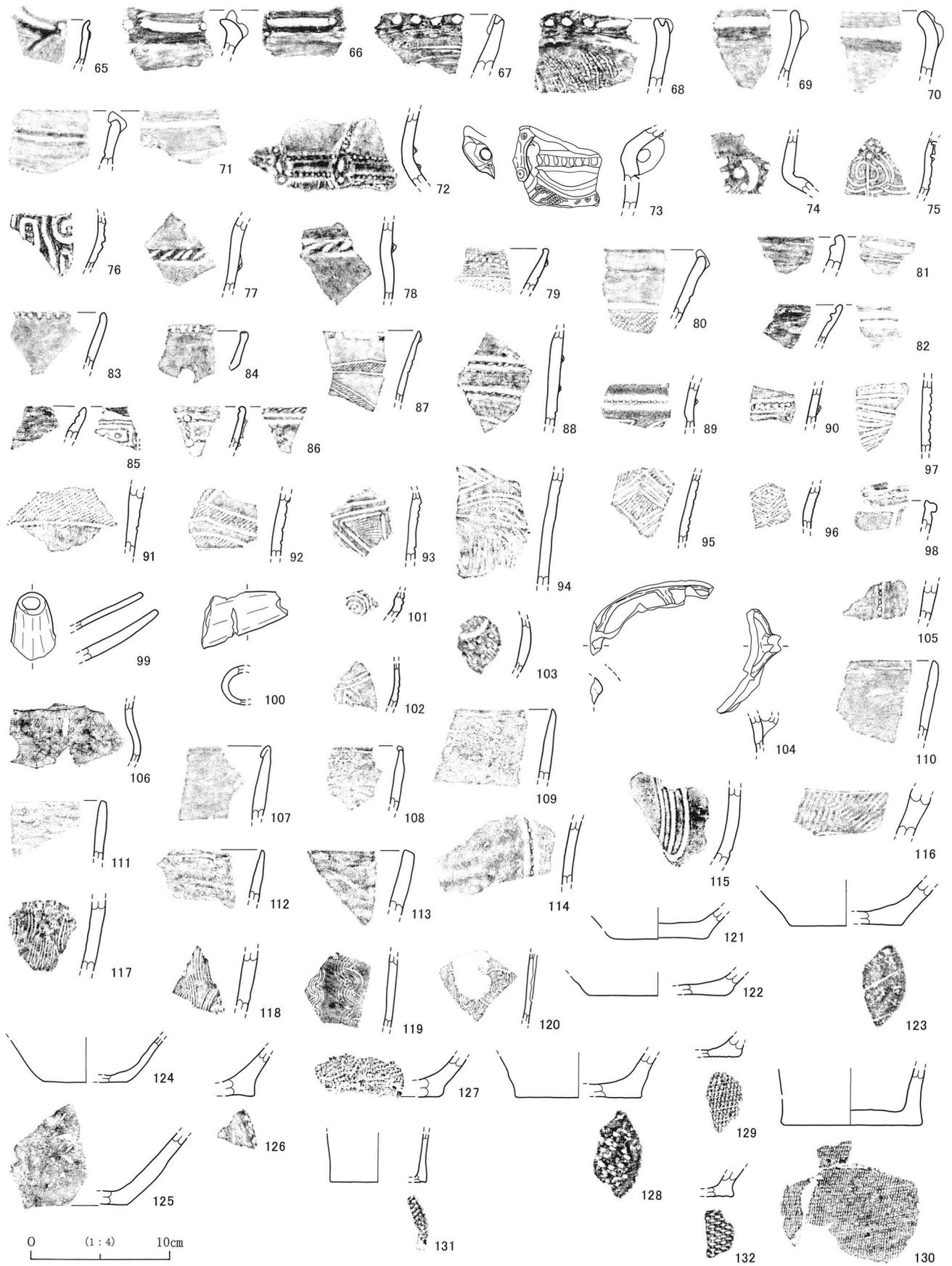


第12図 H3号住居址(2)

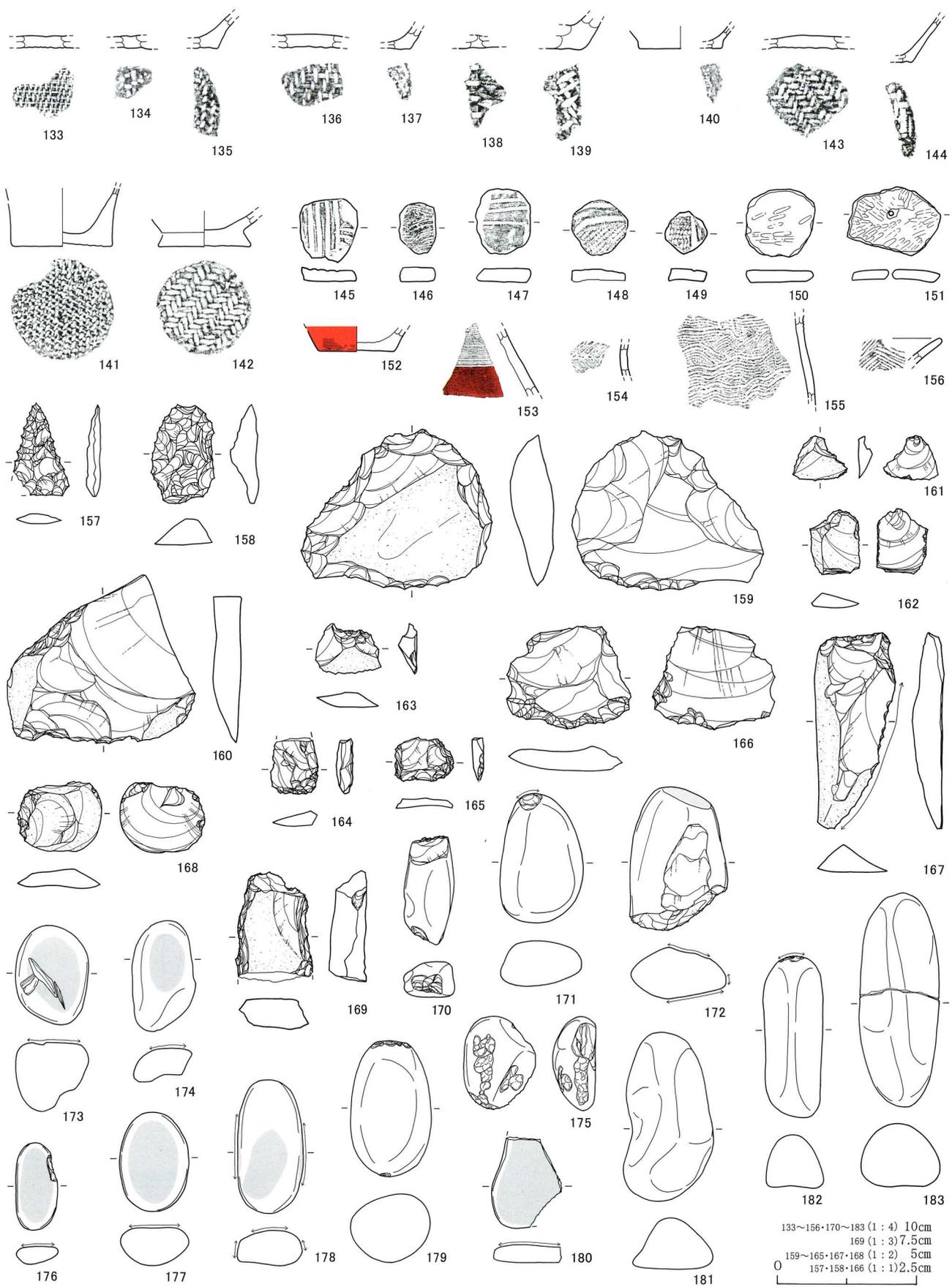
製品、弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。ガラス小玉は弥生時代後期であろう。土師器には坏・高坏・武蔵甕・甕・甑・壺・鉢が、須恵器には坏・蓋・甕がある。鉄器(32)は紡錘車である。須恵器坏(12・13)は底部へラ成形・調整痕、武蔵甕(19・22)は「く」字状口縁部に最大径がある。本址は、これらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀前半(第1四半期)に位置づけられる。



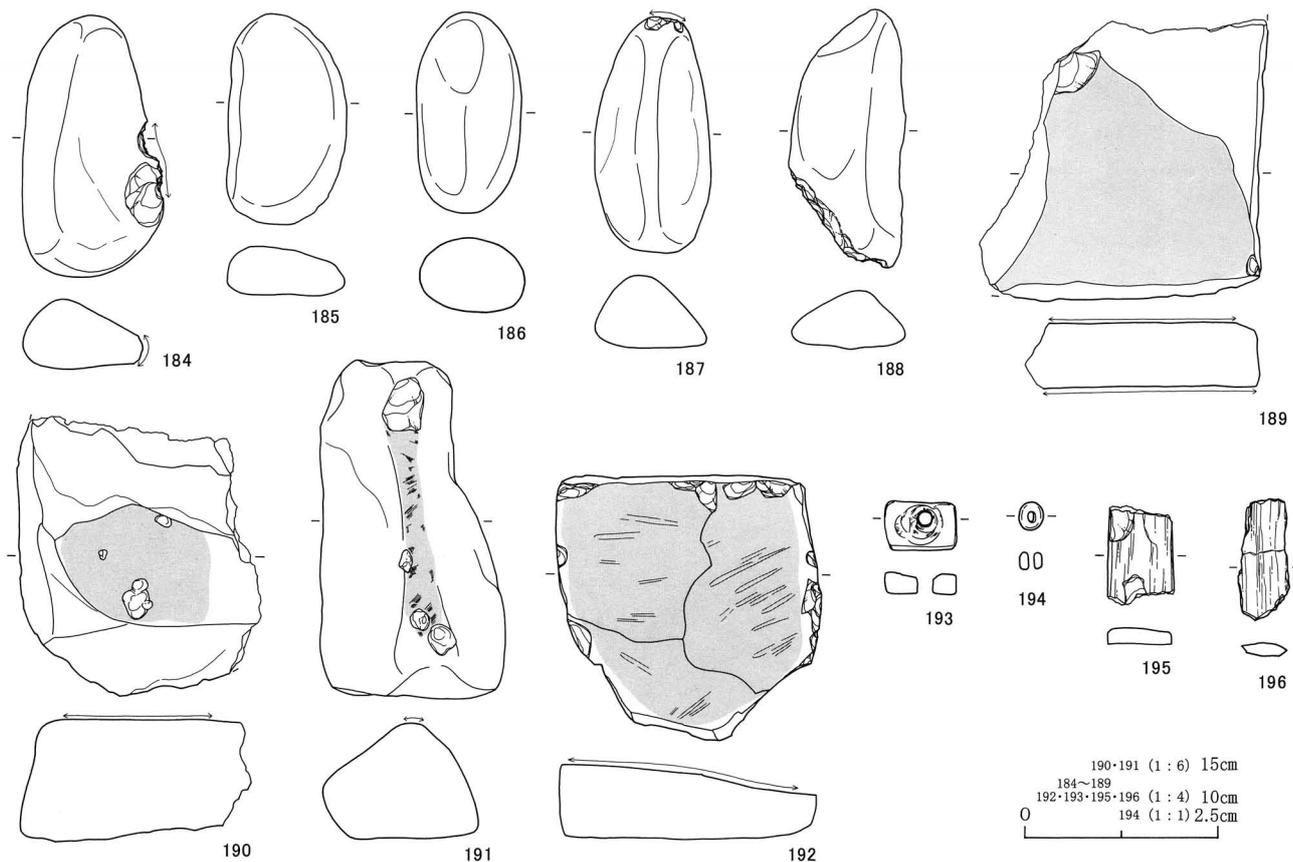
第13图 H3号住居址(3)



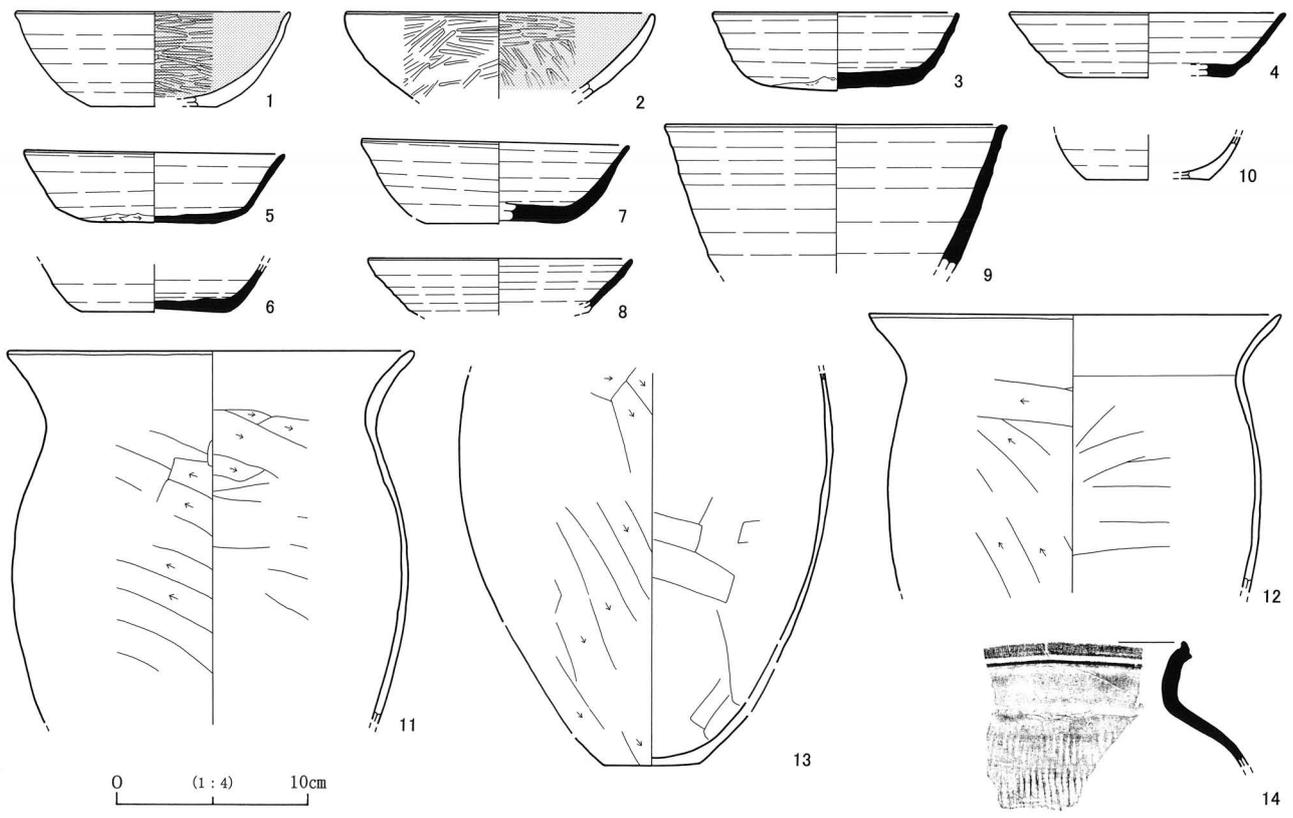
第14图 H 3号住居址 (4)



第15图 H3号住居址(5)



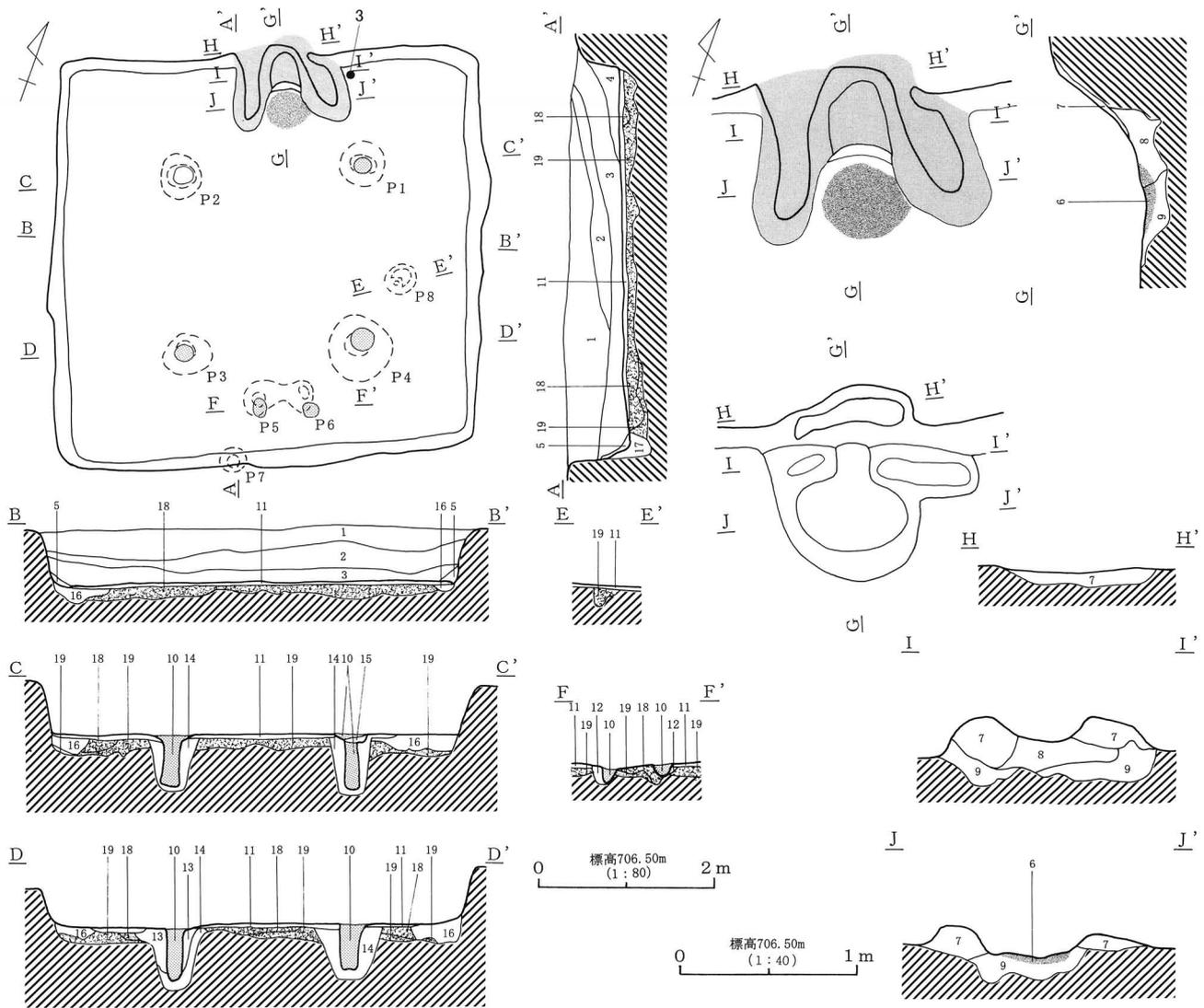
第16图 H3号住居址出(6)



第17图 H4号住居址(1)

(4)H 4号住居址

I区お・か-4・5 Grにあり、H 3・H24・D19・P148を切る。四隅が角張る正方形でカマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、柱痕が確認されたP1~P4の支柱穴等8個検出された。P5・P6は入り口施設と見られP7は壁柱穴である。床は堅く平坦。覆土2・3層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器、本址に伴わない縄文時代中期末~後期土器・土製品、弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。土師器は坏・武蔵甕・甕・ロクロ甕が、須恵器には坏・鉢・甕・甔がある。底部にへら成形・調整痕がある土師器坏(1)・須恵器坏(3~6)、回転糸切りを見せる須恵器坏(7)、口径と胴部最大径がほぼ等しい武蔵甕(11・12)がある。本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀後半(第3四半期)に位置づけられる。



H 4

- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 砂質土。自然堆積。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/2)・砂質土の小ブロック多量。人為的堆積。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6)・粘土の小ブロック少量。黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量。人為的堆積。
- 4層 黒褐色土(10YR2/1) 粘土ブロック多量。焼土小ブロック少量。
- 5層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土小ブロック多量。
- 6層 明赤褐色土(5YR5/6) 焼土。焼け込み。

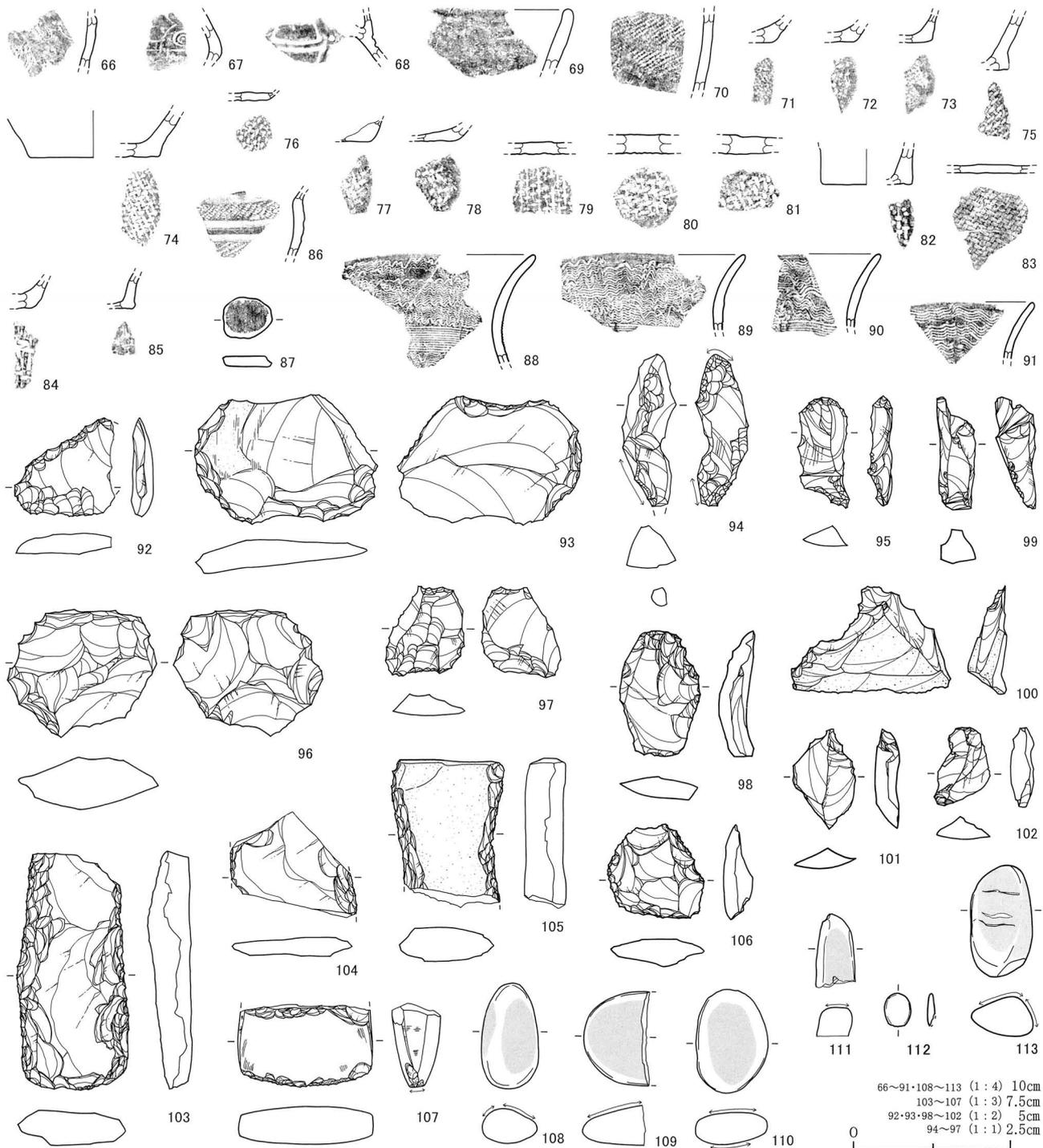
- 7層 黒褐色土(10YR2/2) 粘土。カマド構築土。
- 8層 黒褐色土(10YR2/2) カマド構築土。にぶい黄褐色土(10YR5/4)の小ブロック含む。
- 9層 褐色土(7.5YR4/4) 焼土粒子・粘土・灰・黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック含む。カマド構築土。
- 10層 黒褐色土(10YR2/3) 締まりない。柱痕。
- 11層 黒褐色土(10YR2/2) 床。
- 12層 黒褐色土(10YR2/3) P5・P6の埋土。
- 13層 褐色土(7.5YR4/4) P1に黒褐色土(10YR2/3)の小ブロック含む。P1~P4の埋土。

- 14層 褐色土(7.5YR4/4) P1が主。P1~P4の埋土。
- 15層 褐色土(7.5YR4/4) P1が主。
- 16層 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック少量。
- 17層 黒褐色土(10YR2/3)
- 18層 褐色土(10YR4/4) 黒褐色土(10YR2/3)・黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。床下埋土。
- 19層 褐色土(7.5YR4/4) P1が主。黒褐色土(10YR2/3)の小ブロック少量。床下埋土。

第18図 H 4号住居址 (2)



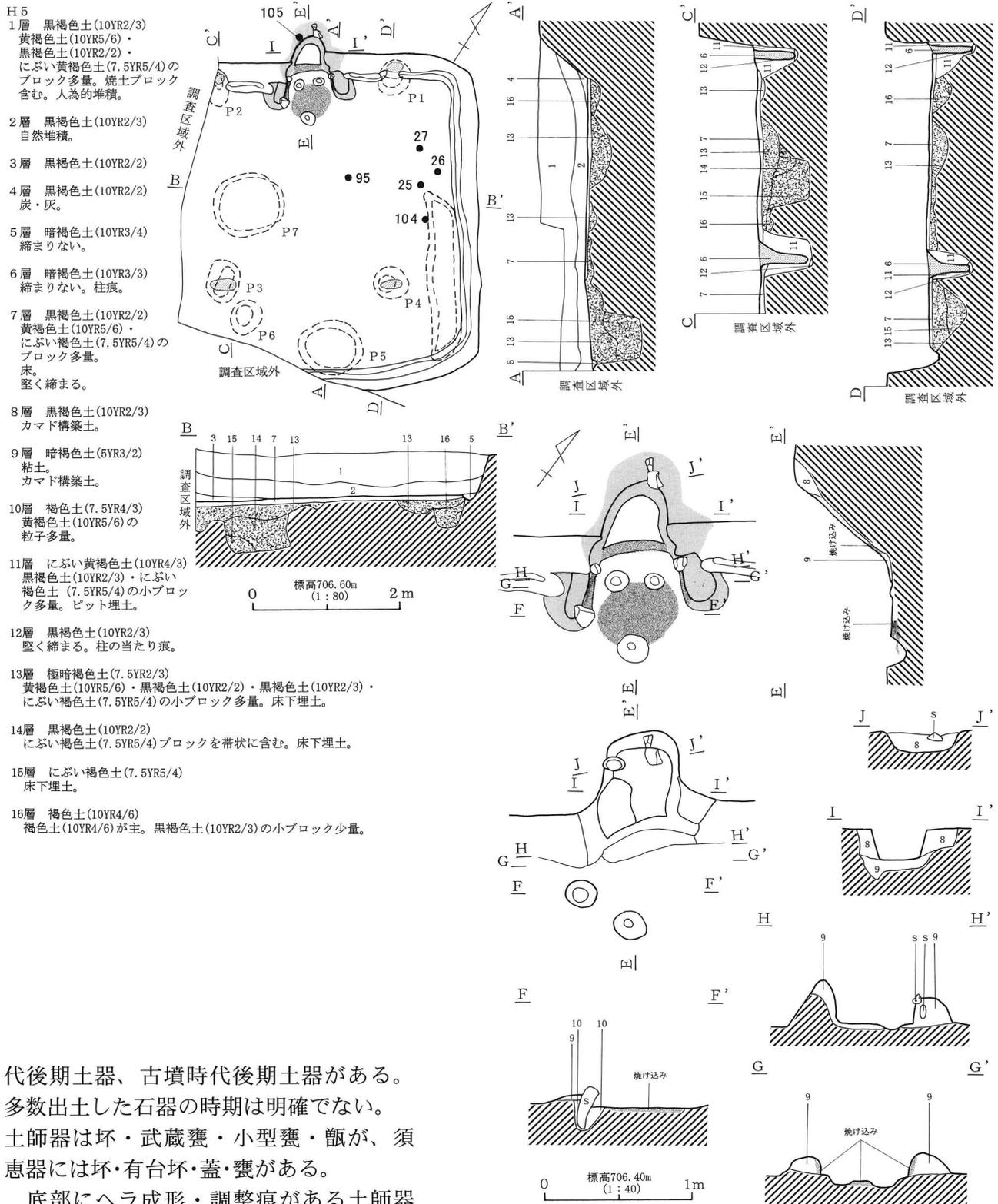
第19图 H4号住居址(3)



第20図 H4号住居址(4)

(5)H5号住居址

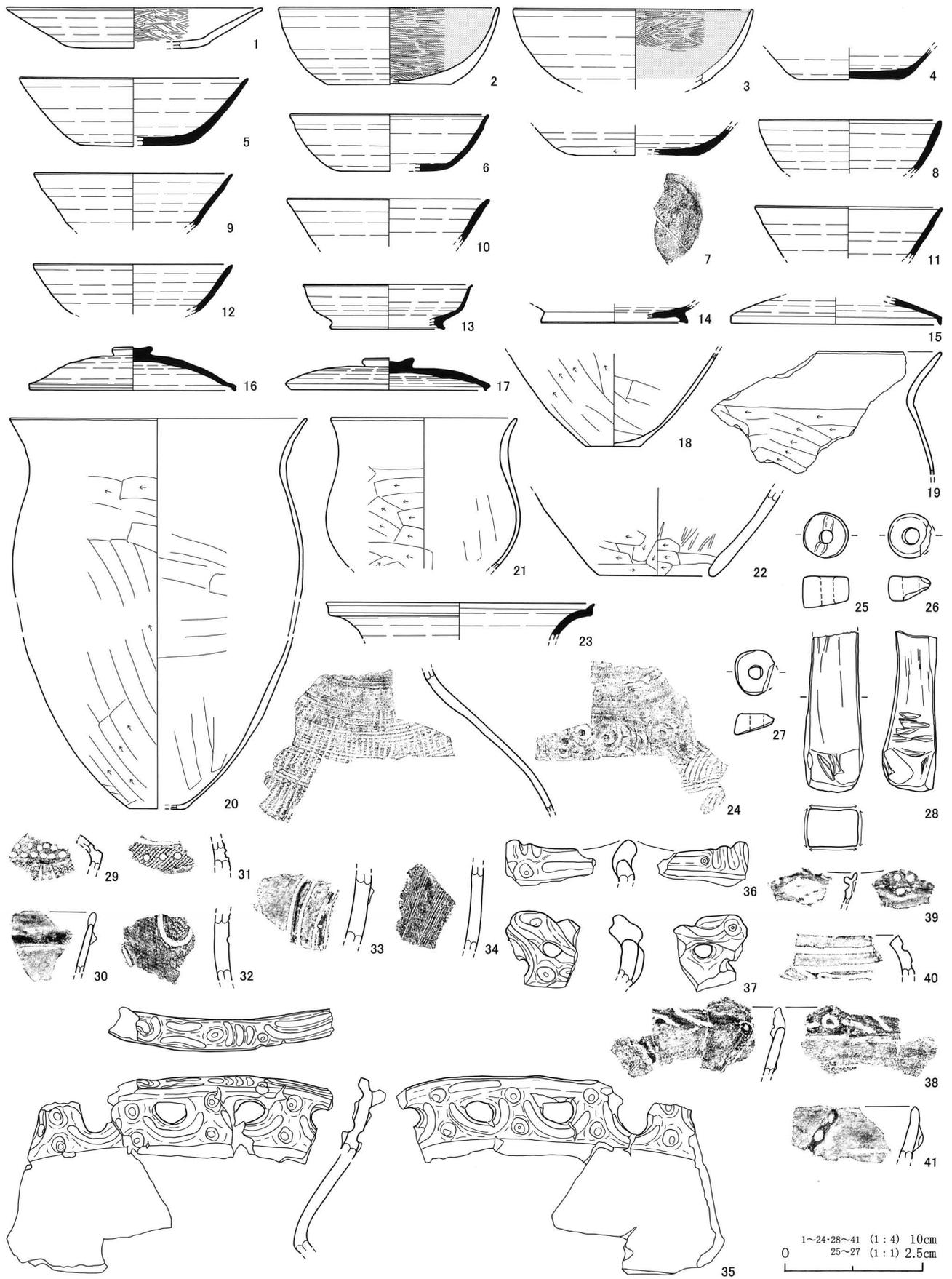
I区きく-5・6 Grにあり、H6・D22・D27を切る。南壁が少し膨らむ方形でカマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、柱痕が確認されたP1~P4の支柱穴等7個検出された。P5は入り口施設と見られP6・P7は床面下から検出された。床は堅く平坦。覆土1層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・滑石製の白玉、本址に伴わない縄文時代後期土器・土製品、弥生時



代後期土器、古墳時代後期土器がある。
 多数出土した石器の時期は明確でない。
 土師器は坏・武蔵甕・小型甕・甑が、須
 恵器には坏・有台坏・蓋・甕がある。
 底部にへら成形・調整痕がある土師器
 坏(2・3)・須恵器坏(4~7)、皿状のつま
 みを有す蓋(16・17)、口径と胴部最大径が
 ほぼ等しい武蔵甕(11)がある。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅱ期-8世紀前半(第2四半期)に位置づけられる。

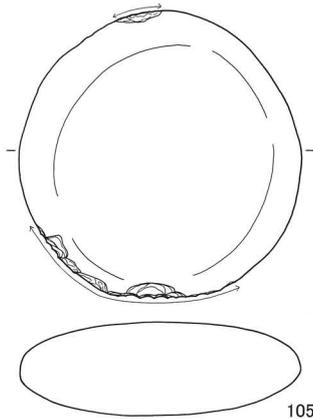
第21図 H5号住居址(1)



第22图 H5号住居址(2)



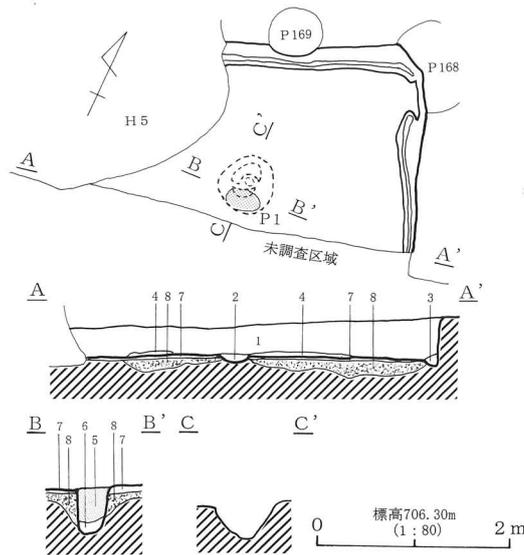
第23图 H5号住居址(3)



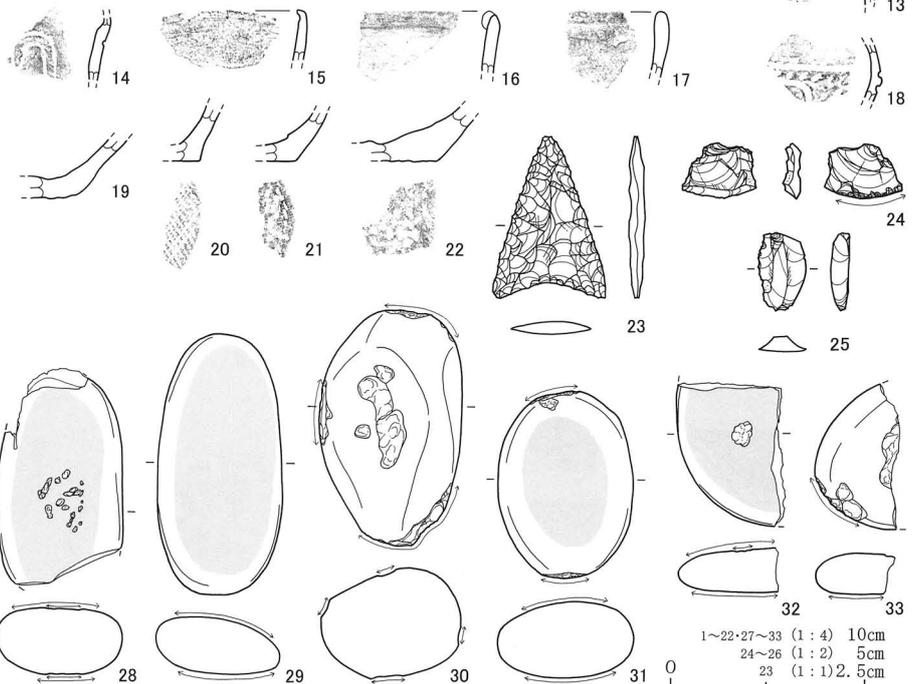
第24図 H5号住居址(4)

(6)H6号住居址

I区き-5・6 Grにあり、H5・P168・P169に切られ、壁溝が北・東壁下を巡る。P1は、柱痕が確認された。床は堅く平坦。覆土1層は人為的埋土。遺物は、土師器坏・甕、須恵器甕、本址に伴わない縄文時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。底部ヘラケズリされる須恵器坏は、P1から出土した。本址の時期は、8世紀前半(第2四半期)以前である。



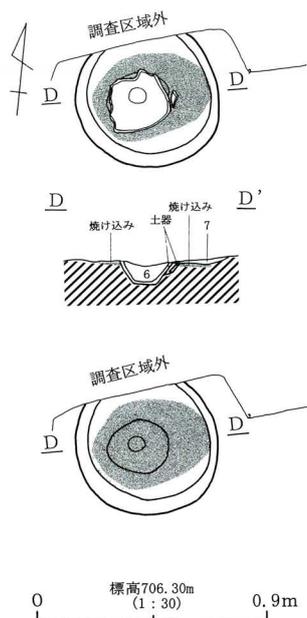
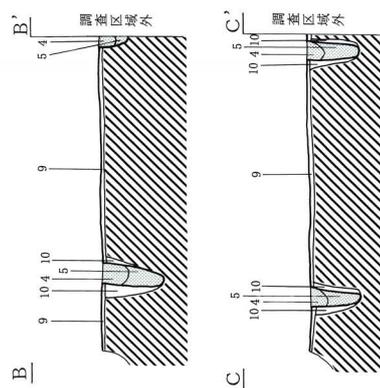
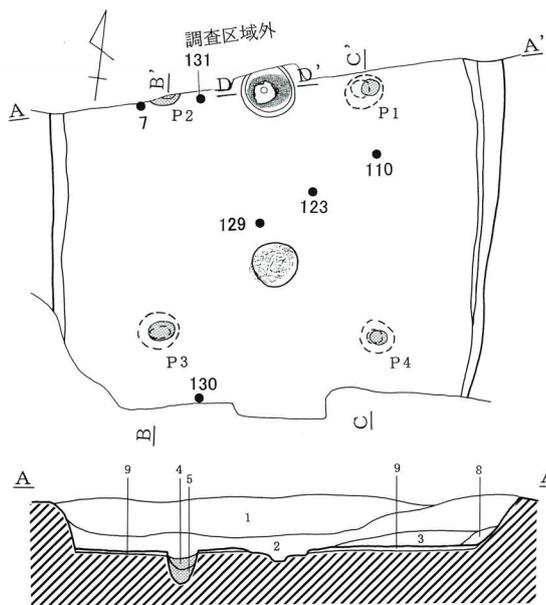
- H6
 1層 黒褐色土(10YR2/3) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(10YR4/6)のブロック多量。人為的堆積。
 2層 暗褐色土(10YR3/4) 締まりない。
 3層 暗褐色土(10YR3/4) 締まりない。
 4層 にぶい褐色土(7.5YR5/4)
 5層 暗褐色土(10YR3/3) 締まりない。柱痕。
 6層 にぶい褐色土(7.5YR5/4)
 7層 暗褐色土(10YR3/4) 床。
 8層 暗褐色土(10YR3/4) にぶい褐色土(7.5YR5/4)のブロック多量。



第25図 H6号住居址

(7)H7号住居址

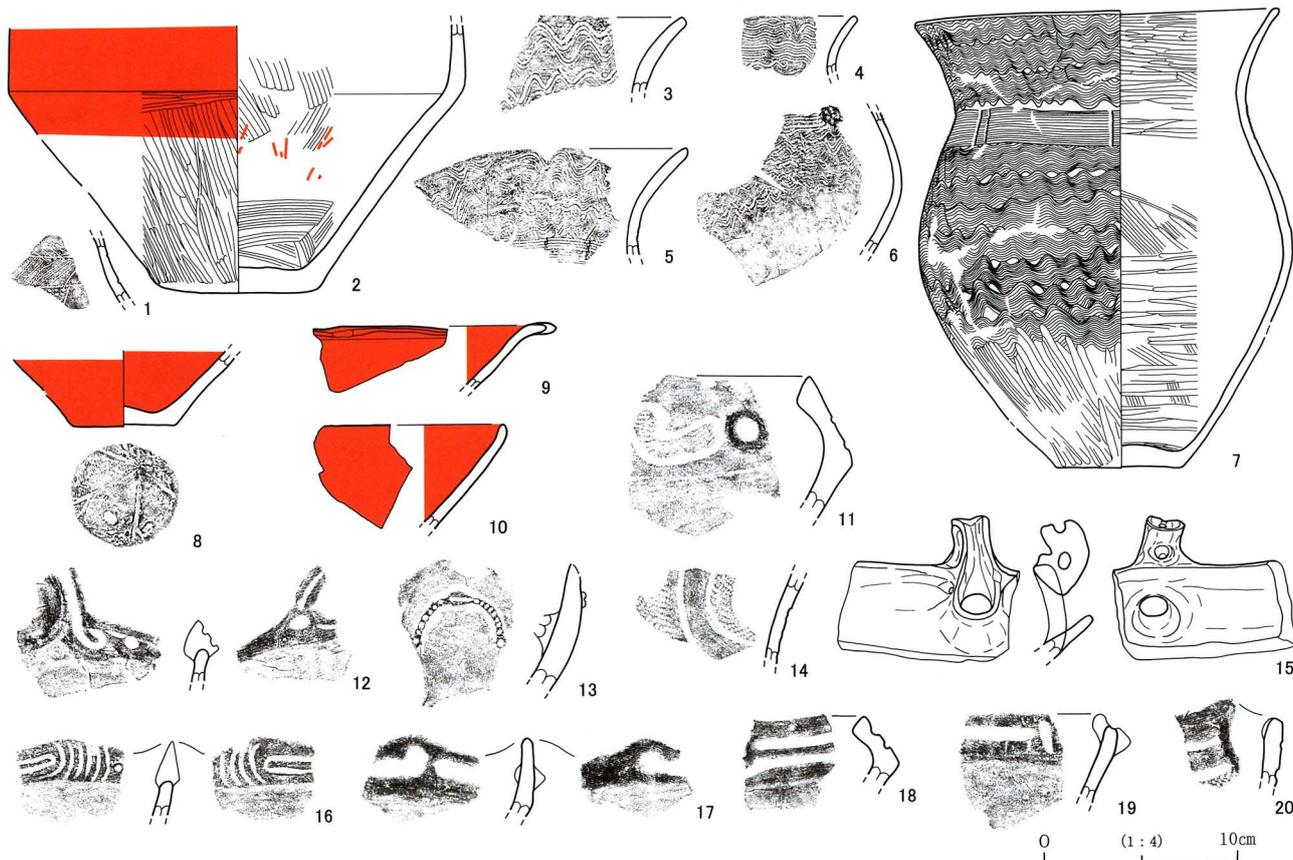
I区え・お-2・3 Grにある。H2・H3に切られ、D25・D26を切る。壺底部(2)を用いた土器埋設炉が支柱穴間中央にある。ピットは、柱痕が確認されたP1~P4の支柱穴4個が検出された。床は堅く平坦である。覆土1層は人為的埋土。遺物は弥生時代後期土器・炉から焼骨片、本址に伴わない縄文時代後期土器、多数出土した石器の時期は明確でない。1・2は赤彩の壺、3~8は櫛描波状文・簾状文の甕、9は鉢、10は高坏、11は鉢か高坏、どれも内外面赤彩。本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



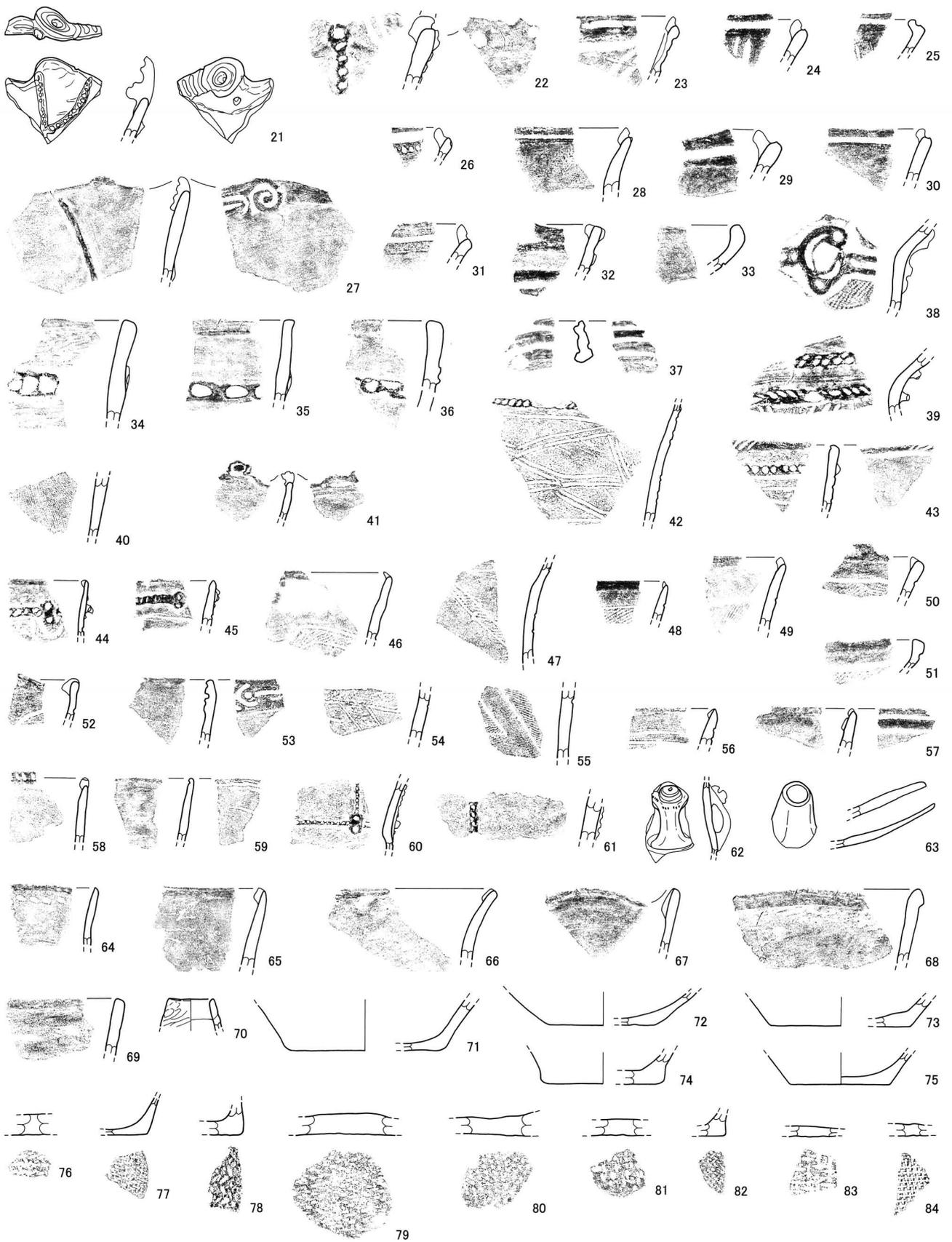
H 7

- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/6)・黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量。人為的堆積。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1) 褐色土(10YR4/6)のブロック少量。堅く締まる。人為的堆積。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2) 炭・褐色土(10YR4/6)のブロック少量。人為的堆積。
- 4層 黒褐色土(10YR2/2) 締まりない。柱痕。

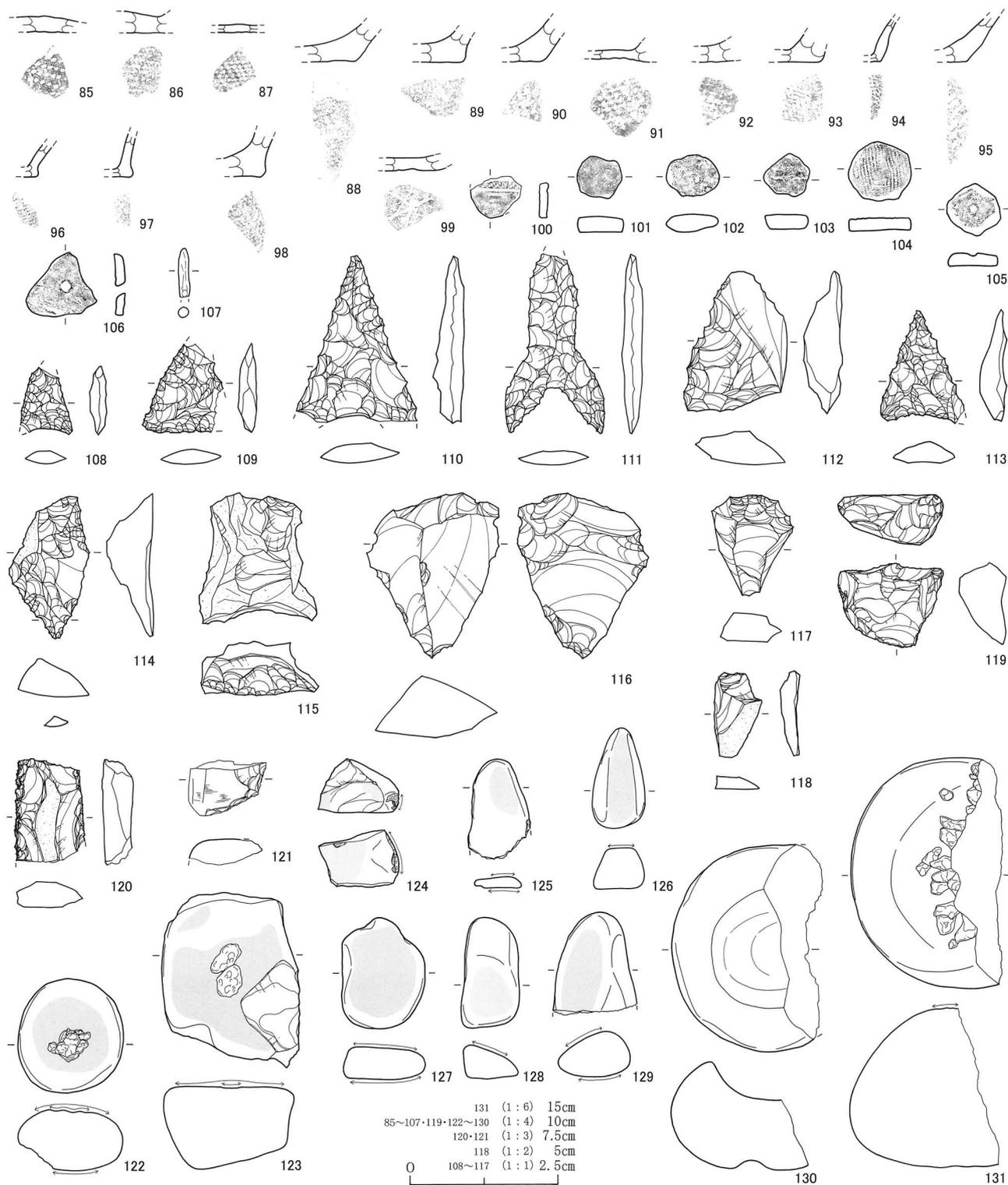
- 5層 暗褐色土(10YR3/4) 締まりない。柱痕。
- 6層 暗赤褐色土(5YR3/2) 焼土粒子多量。
- 7層 黒褐色土(10YR2/3) 炭の粒子含む。
- 8層 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土(10YR4/6)多量。壁くずれ。
- 9層 黒褐色土(10YR2/2) 堅く締まる。床。
- 10層 褐色土(7.5YR4/4)



第26図 H 7号住居址(1)



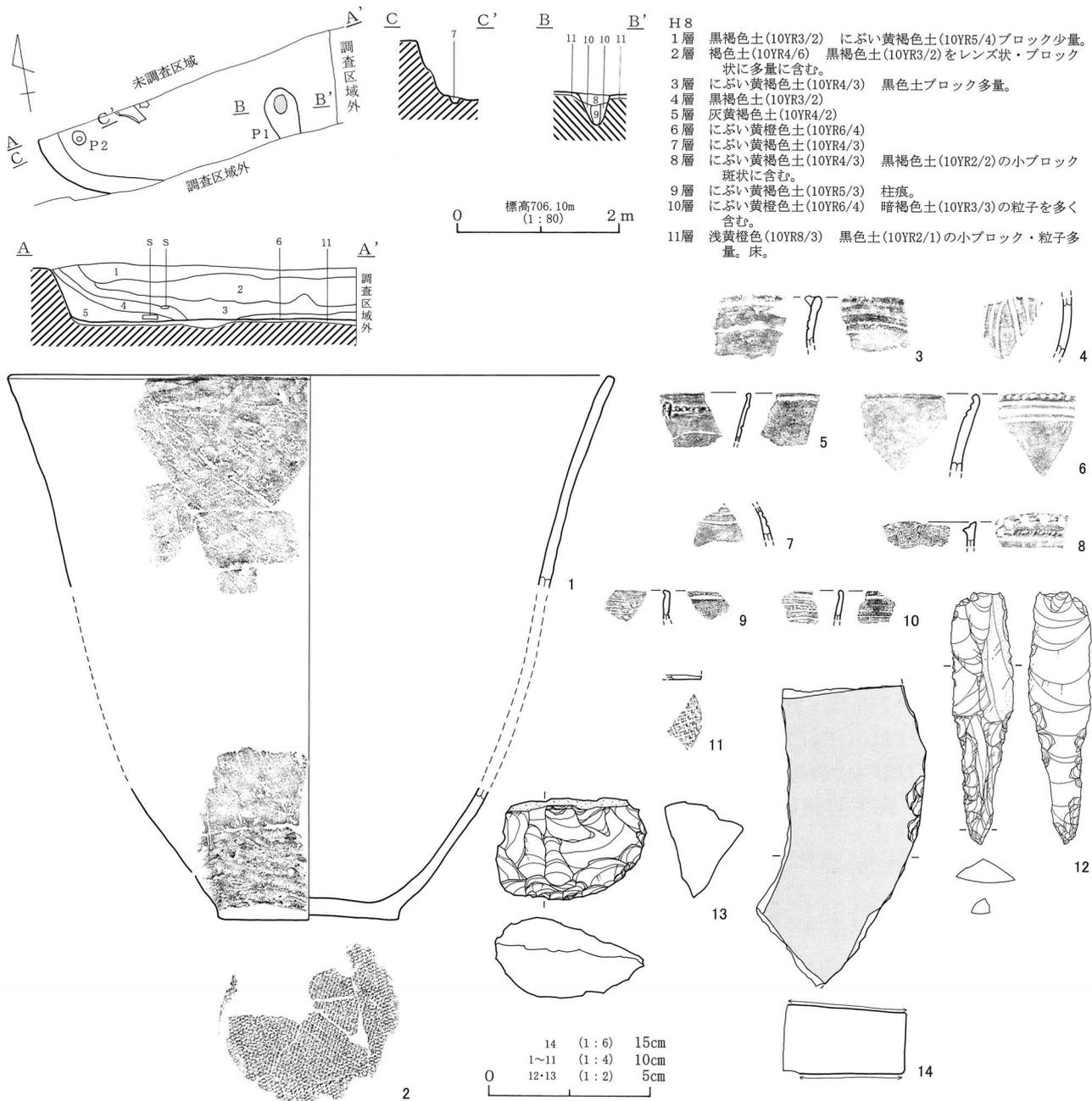
第27图 H7号住居址(2)



第28図 H7号住居址(3)

(8)H8号住居址

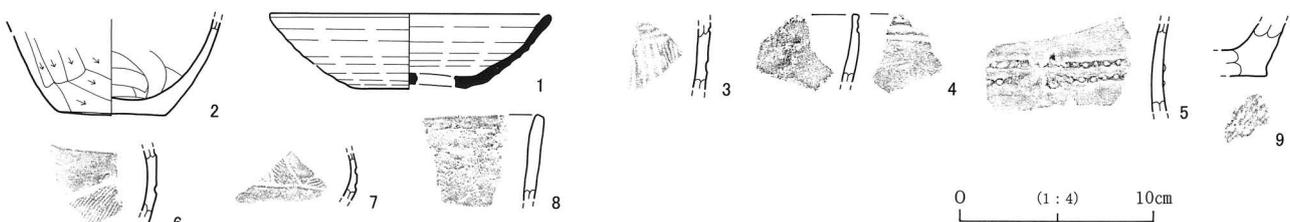
I区あ・い-8 Grにある。D11・P7に切られる。南・東側の調査区域外と北側の未調査区に伸びる。柱痕が確認された主柱穴P1と西南角に1個のピットが検出された。床は堅く平坦。遺物は小片で図示できなかったが、土師器内面黒色処理される坏、外稜を持つ土師器坏がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器、弥生時代後期土器、石錐・削器・台石は混入遺物であろう。本址の時期は明確でない。



第29図 H8号住居址

(9)H9号住居址

I区お・か-9 Grにある。H13を切る。北側の未調査区に伸びる。床は平坦。遺物は、底部回転糸切りを見せる須恵器坏、土師器武蔵甕底部がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器、弥生時代後期土器、分厚い土師器甕がある。本址の時期は、9世紀代であろう。



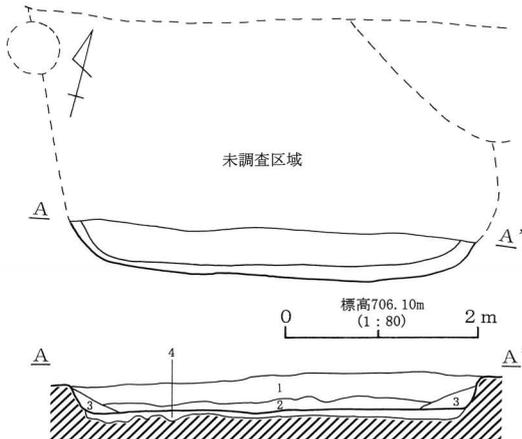
第30図 H9号住居址(1)

(10)H10号住居址

I区こ-3・4Grにある。D4に切られる。東壁下端は西側の調査区域外に伸びるため、床等詳細は不明。

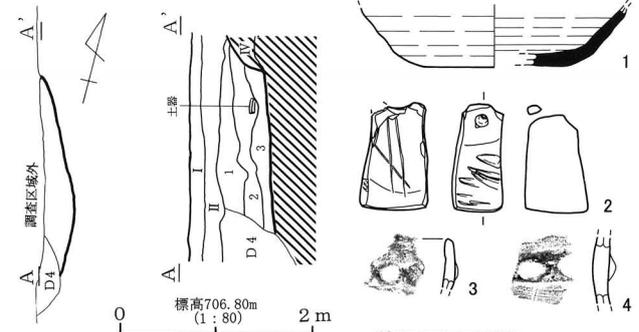
遺物は、底部手持ちヘラケズリの須恵器坏、砥石がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器がある。

本址の時期は、8世紀代であろう。

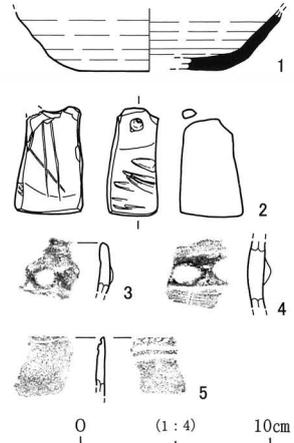


- H 9
 1層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック少量、粘土ブロック微量含む。
 2層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック・粒子多量。粘土ブロック微量。
 3層 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黄褐色土(10YR5/6)粒子多量、暗褐色土(10YR3/4)を少量含む。
 4層 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 暗褐色土(10YR3/4)ブロック・粒子を含む。上端が床面。

第31図 H 9号住居址(2)



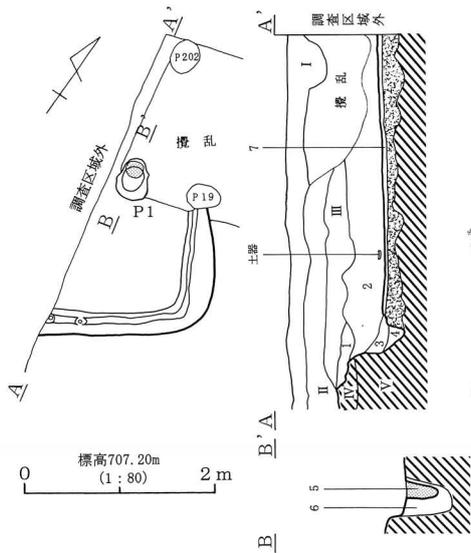
- H 1 0
 1層 黒褐色土(10YR2/2) 全体層序Ⅲ層。
 2層 黒褐色土(10YR3/2)
 3層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR3/2)ブロック含む。



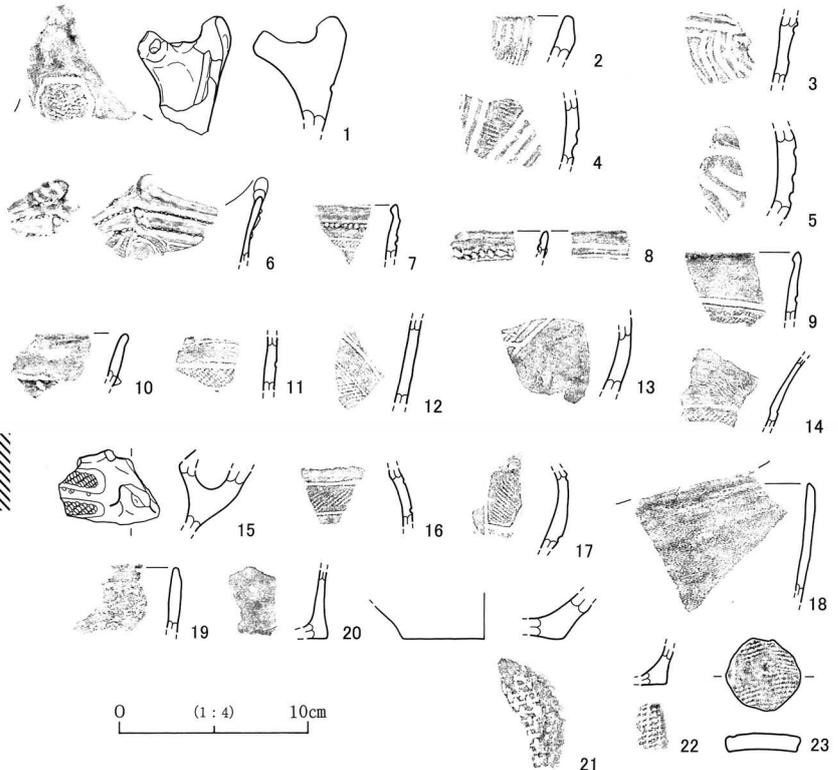
第32図 H10号住居址

(11)H11号住居址

I区こ-3・4Grにある。H12・P21を切り、P19・P202に切られる。大半が調査区域外にある。柱痕が確認されたP1は、支柱穴であろう。床は堅く平坦。覆土2層は人為的埋土。遺物は小片で図示できなかったが、古墳時代後期の土師器内面黒色処理される坏、須恵器蓋等がある。他に縄文時代後期土器・土器片円板、弥生時代後期土器が出土した。本址の時期は明確でないが古墳時代以降であろう。



- H 1 1
 1層 黒褐色土(10YR2/2)
 2層 黒褐色土(10YR2/3) IV・VI層のブロック多量。人為的堆積
 3層 黒褐色土(10YR2/2) VI層のブロック少量。
 4層 暗褐色土(10YR3/3) VI層のブロック多量。
 5層 黒褐色土(10YR2/2) 柱痕。
 6層 黒褐色土(10YR2/3) VI層の小ブロック多量。
 7層 黒褐色土(10YR2/2) 粘質有り。
 8層 黒褐色土(10YR2/3) 黒褐色土(10YR2/2)・黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。上端が床面。床下の埋土。

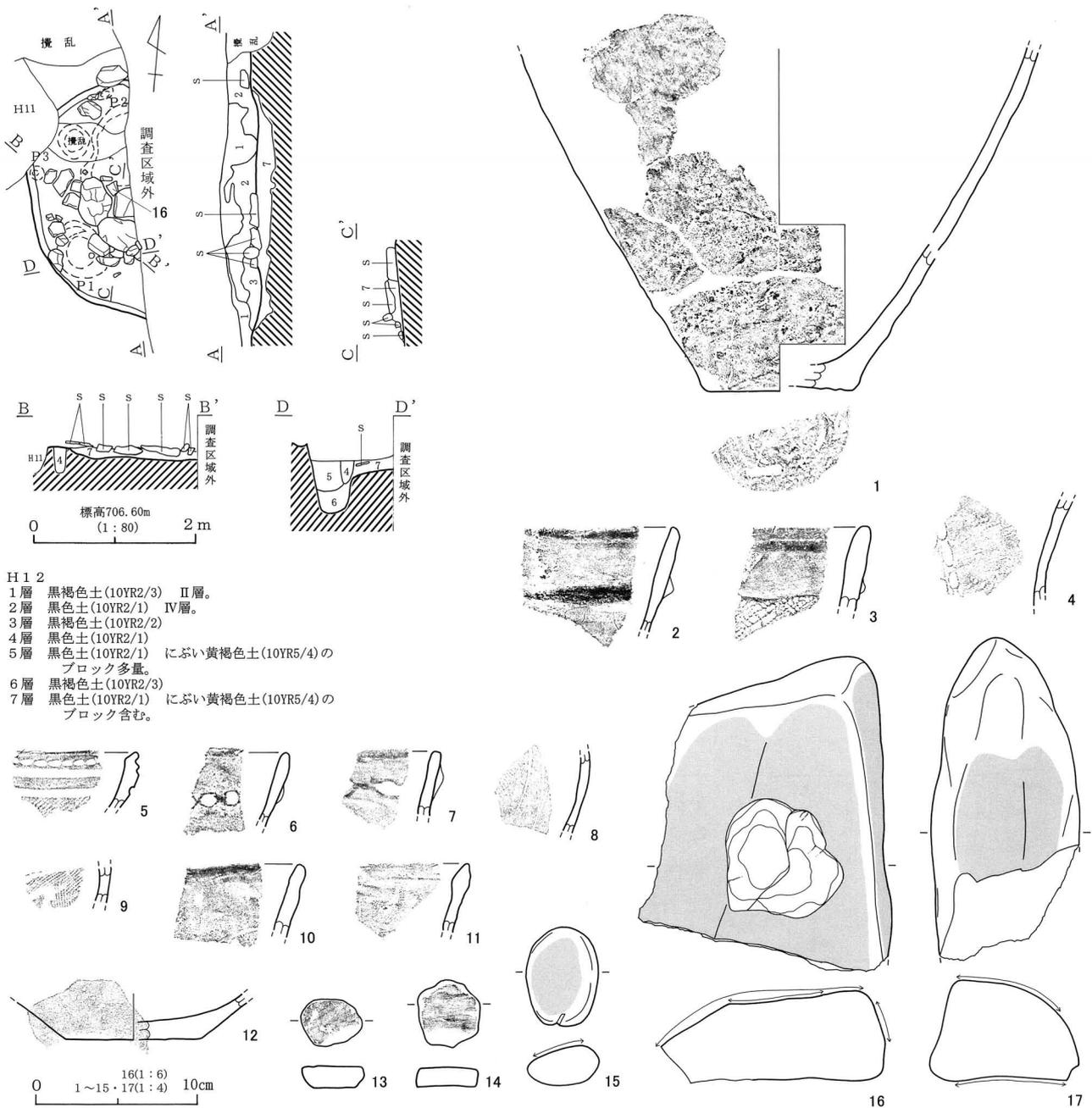


第33図 H11号住居址

(12)H12号住居址

I区け-3・4、こ4Grにあり、H11に切られる。敷石住居であるが大半が未調査区域外にある。壁際のピット4個は、敷石下端面から検出された。敷石は鉄平石を主に安山岩の平らな面を用いている。小礫で隙間を埋めていたようである。礫下面を掘方の黒色土に入れ平坦を形成している。炉は調査範囲では確認できなかった。遺物は縄文時代中期末葉・後期前葉の土器少量、磨石・台石がある。粗製深鉢1は胴部以上が欠損し文様構成不明、底部には木葉痕がつけられている。他に小片の縄文時代中期後葉2～5、後期称名寺式6・7、後期堀之内1式8、堀之内2式9、後期前半10～14がある。15は1面に磨り面ある磨石、16・17は台石で、16の中央には広めの敲打痕が窺える。

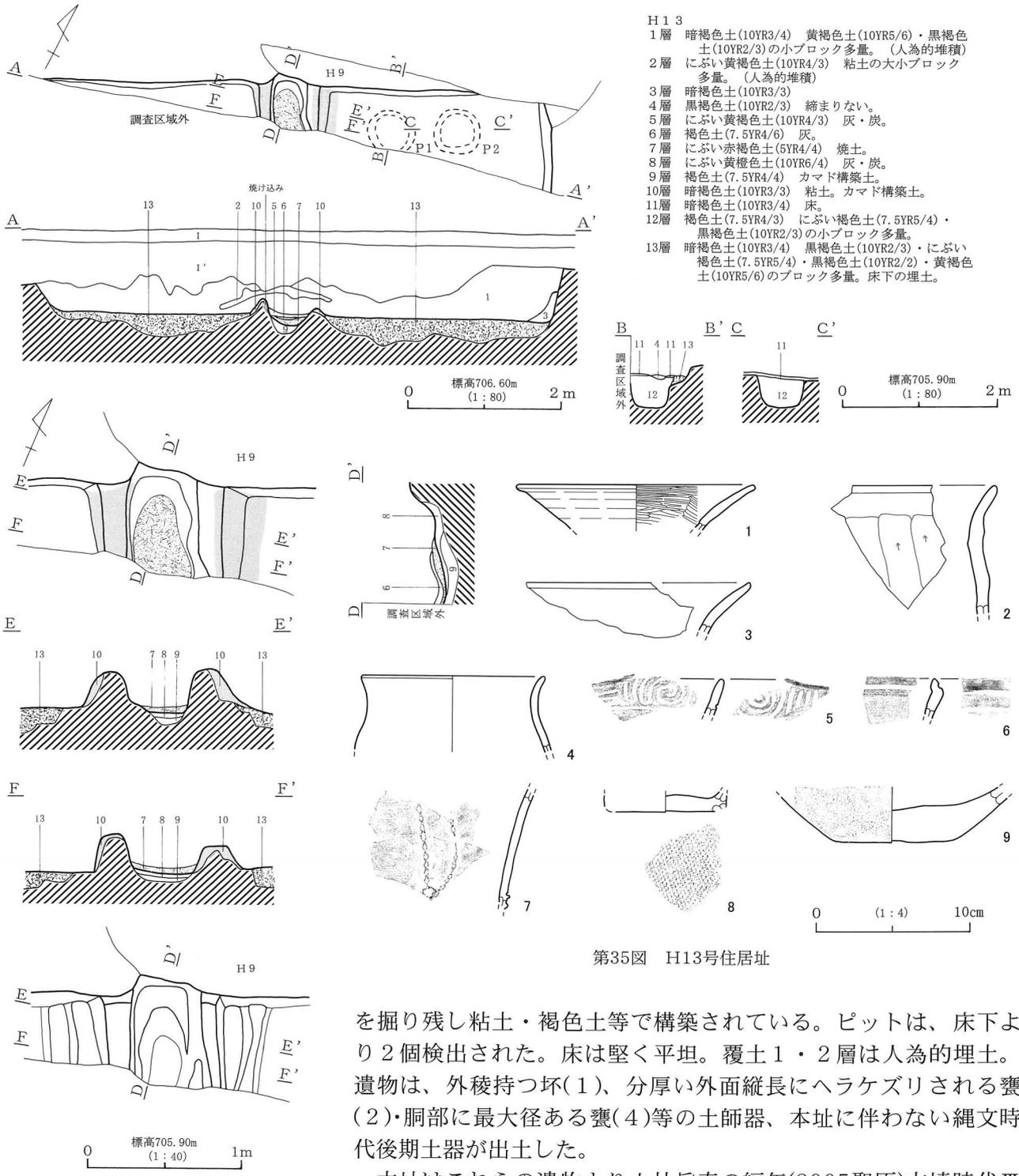
本址の時期は、縄文時代後期前半であろうか。



第34図 H12号住居址

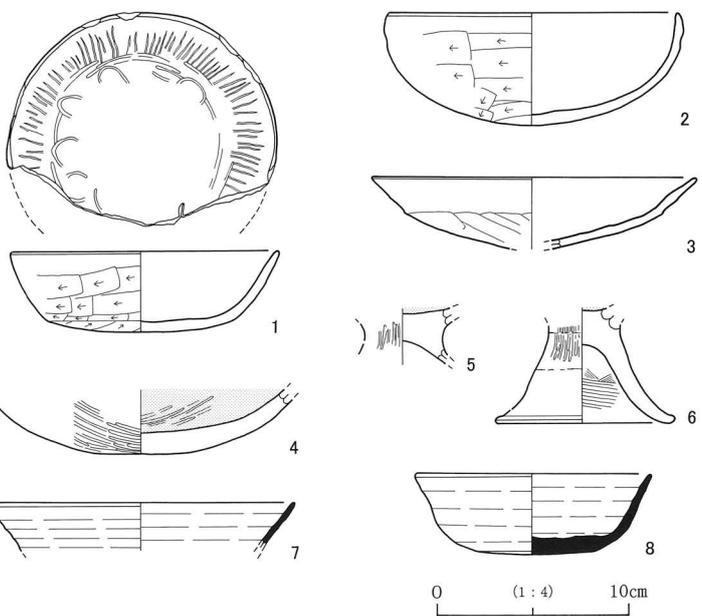
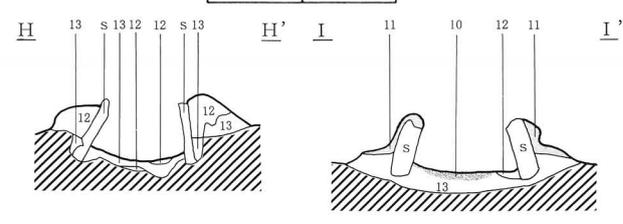
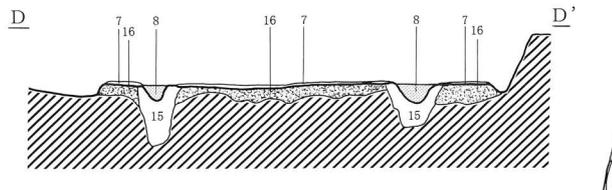
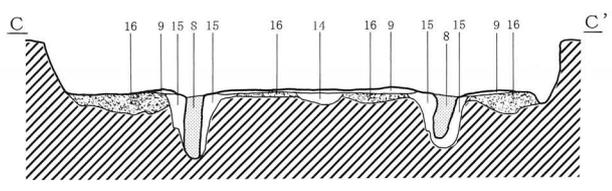
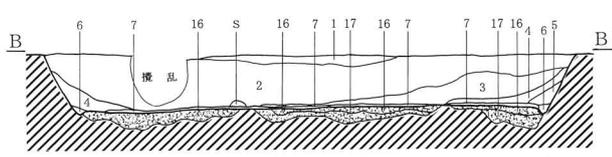
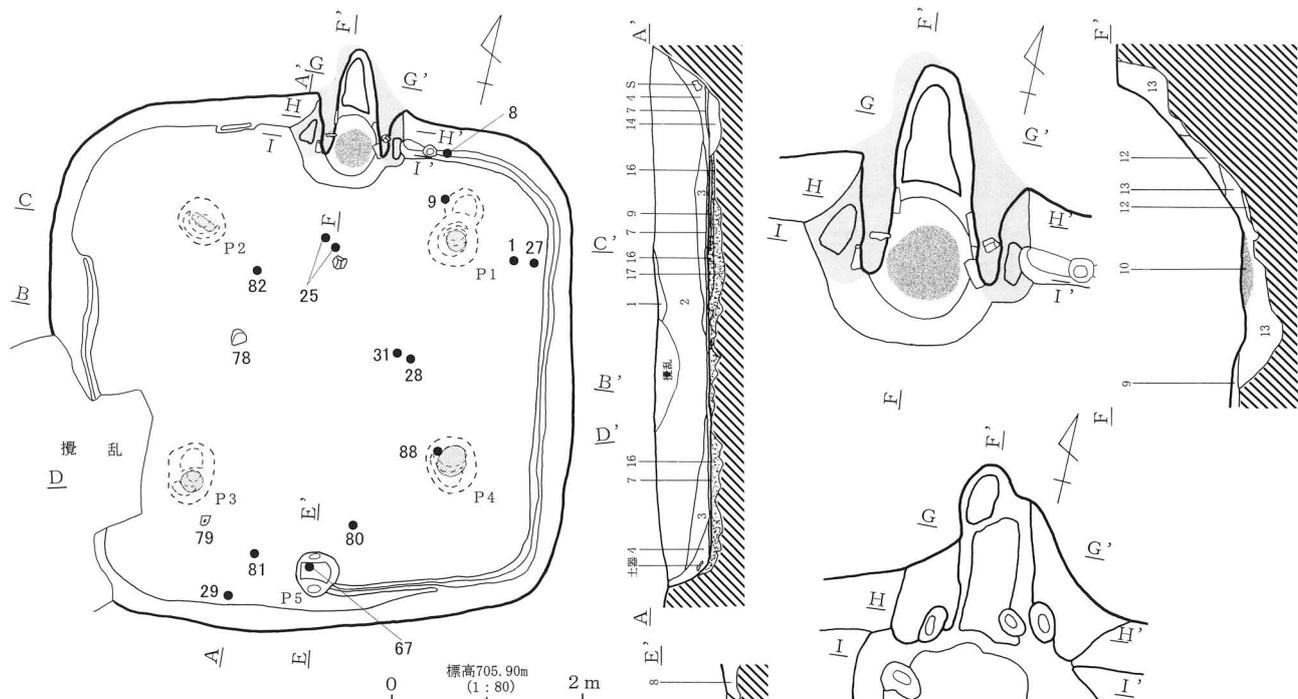
(13)H13号住居址

I区お〜き-9 GrにありH9に切られる。大半が南側調査区域外に伸びる。カマドは北壁中央に地山



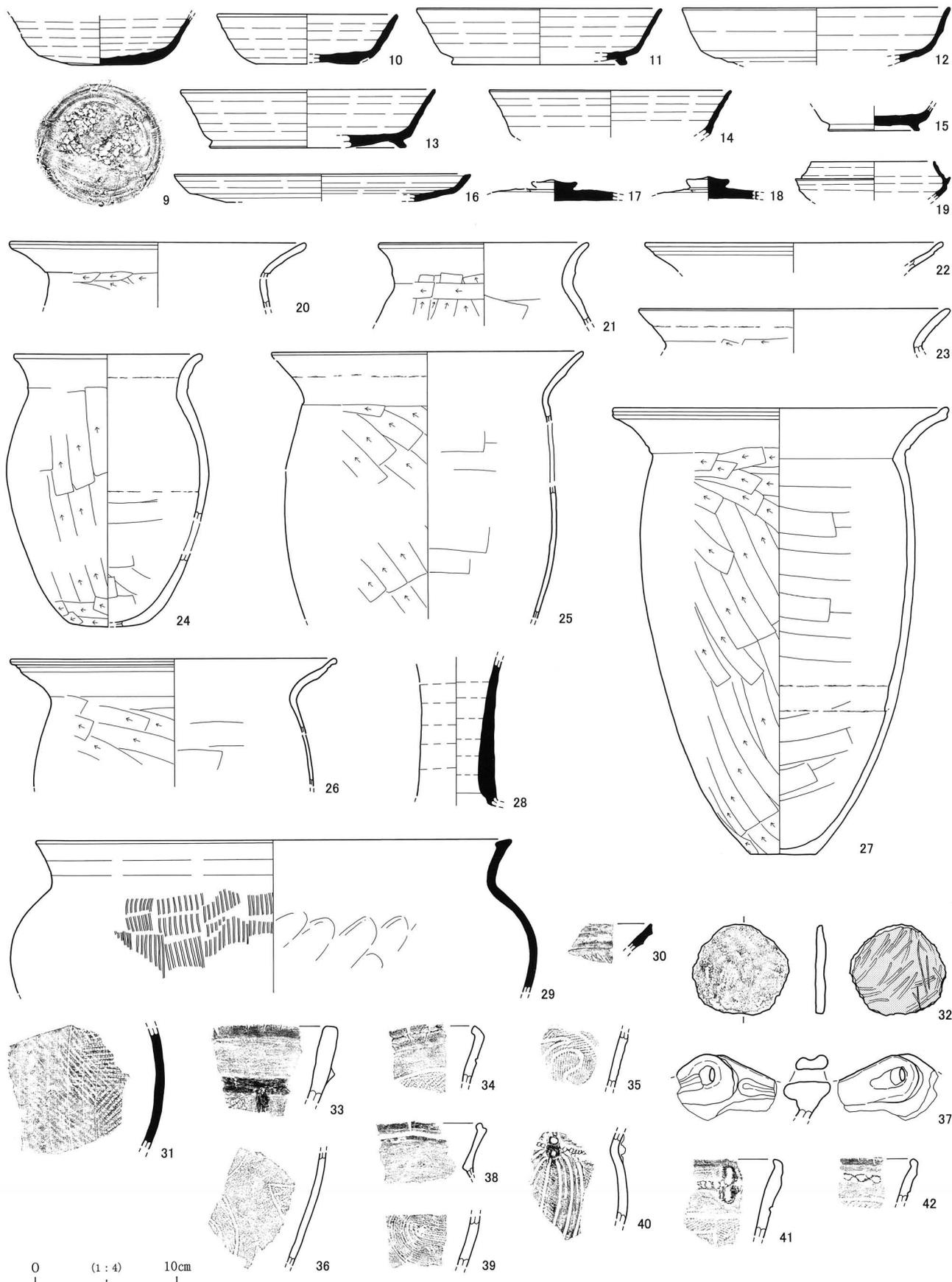
(14)H14号住居址

Ⅱ区さ〜す-12~14GrにありH18・H19・D10・P92・P104・P146・P147・OT2を切る。西壁の南半分は攪乱で破壊されていた。カマドは北壁中央に、粘土と安山岩等で構築されている。ピットは柱

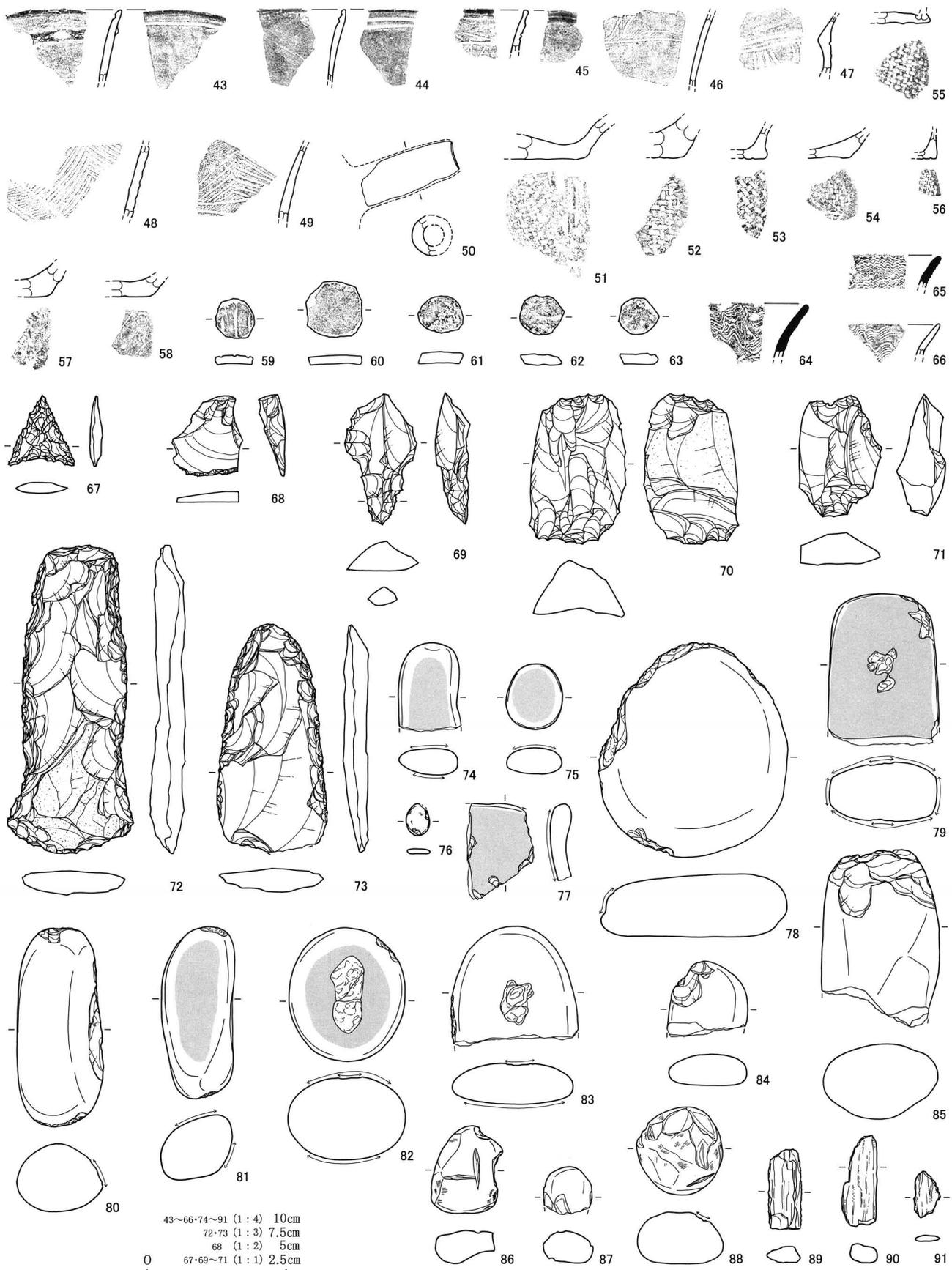


- H14
- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/3)の小ブロック多量。
 - 2層 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土(10YR2/3)の帯状ブロック含む。
 - 3層 黒褐色土(10YR2/3)
 - 4層 黒褐色土(10YR2/2)
 - 5層 暗褐色土(10YR3/4)
 - 6層 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。
 - 7層 黒褐色土(10YR2/2) 床面直上の粘質土。
 - 8層 黒褐色土(10YR3/2) 締めない。柱痕。
 - 9層 黒褐色土(10YR2/2) 堅く締まる。床。
 - 10層 明赤褐色土(5YR5/8) カマド構築が被熱したもの。(焼け込み)
 - 11層 黒褐色土(10YR3/2) 粘土。カマド構築土。
 - 12層 暗赤褐色土(5YR3/2) 粘土多量。カマド構築土。
 - 13層 暗赤褐色土(5YR2/3) 焼土粒子・黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。
 - 14層 黒褐色土(10YR2/3) 粘土・焼土ブロック。
 - 15層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/3)のブロック多量。
 - 16層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/3)のブロック多量。床下の埋土。
 - 17層 褐色土(10YR4/6) 黒褐色土(10YR2/3)のブロック含む。

第36図 H14号住居址 (1)



第37图 H14号住居址 (2)



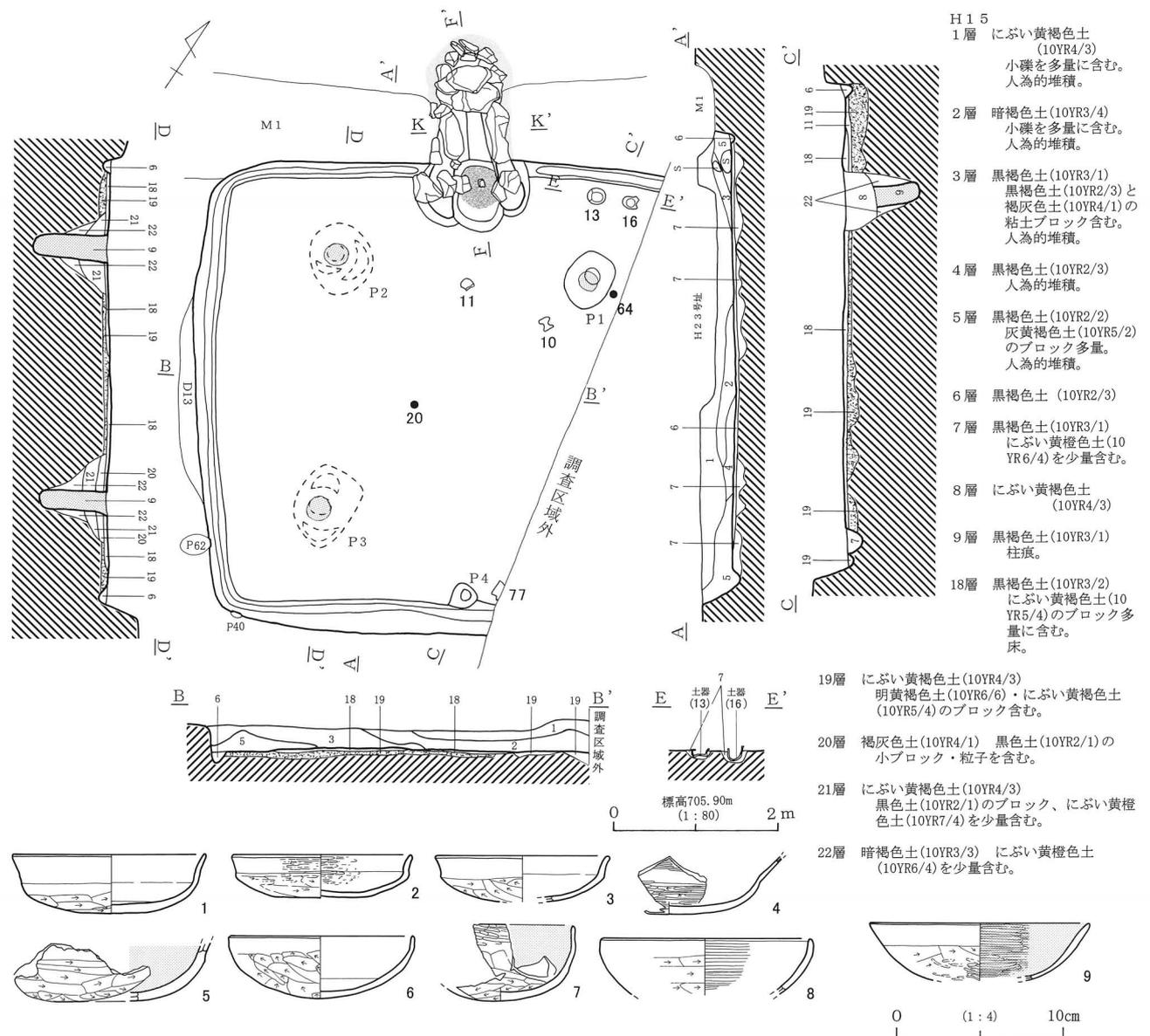
第38图 H14号住居址 (3)

痕が確認されたP1～P4の支柱穴等5個検出された。P5は入り口施設と見られる。床は堅く平坦。カマドからP5にかけてと西壁中央に壁溝が巡る。遺物は、土師器・須恵器・土製品、石器、本址に伴わない縄文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。土師器には畿内系暗紋坏1・半球状の坏2、くの字の口縁部に最大径がある武蔵甕20・22・23・25・26・27、高坏5・6がある。須恵器には底部ヘラケズリ調整の坏8～10、有台坏11～15、皿16、擬宝珠つまみの坏蓋17・18、長頸壺28・30、甕29・30がある。32は底部ヘラケズリ内面黒色処理される土師器坏を転用した円板。3の土師器坏、19の須恵器坏、25・26の器厚く口辺部に最大径のある土師器甕は、本址北西壁あたりで重複する古墳時代後期住居址H18との関連が考えられる。多量にある石器で磨石・敲石・軽石製品は本址に帰属する可能性があるが、他は伴わない。

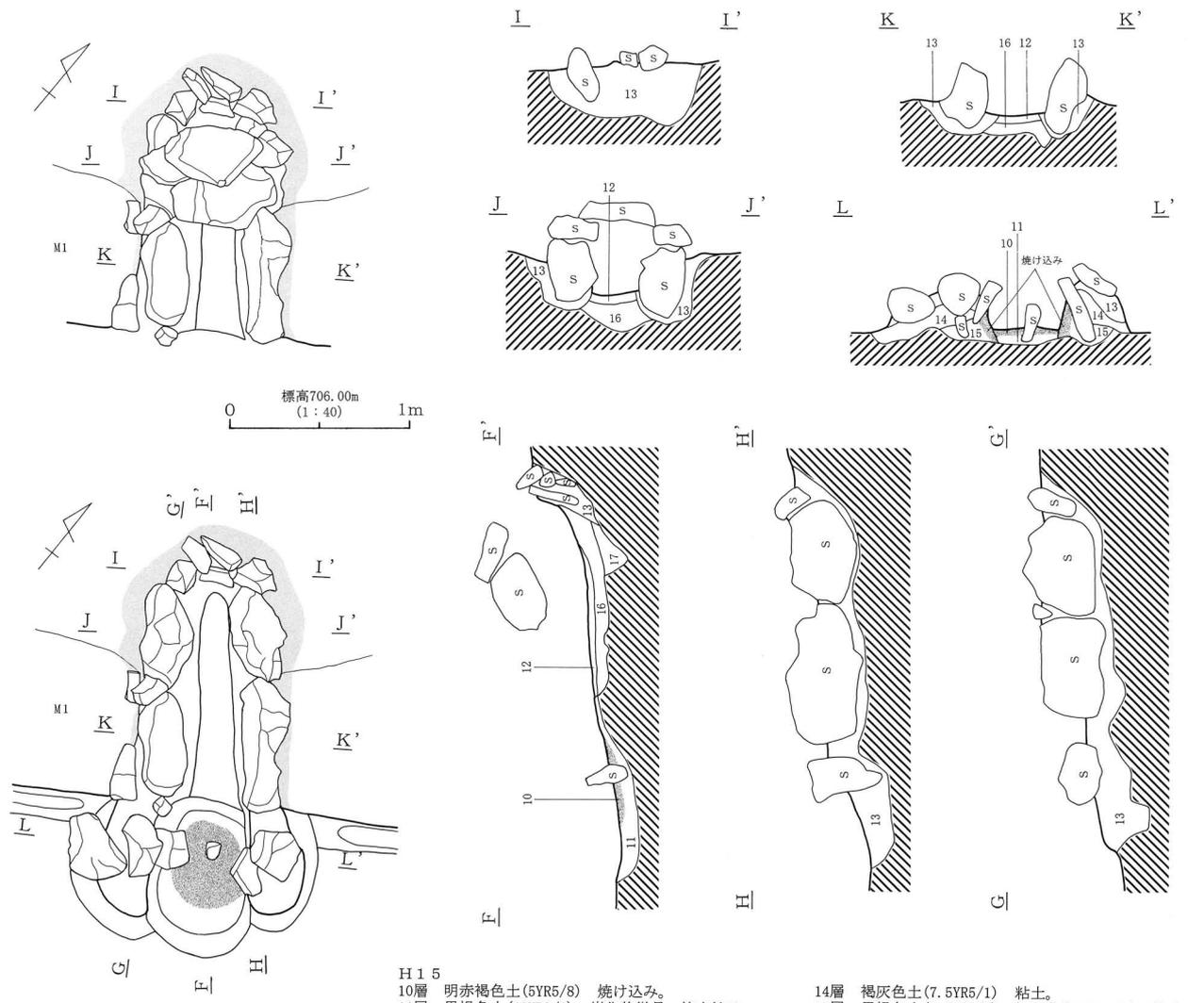
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅱ期-8世紀前半(第1四半期)に位置づけられる。

(15)H15号住居址

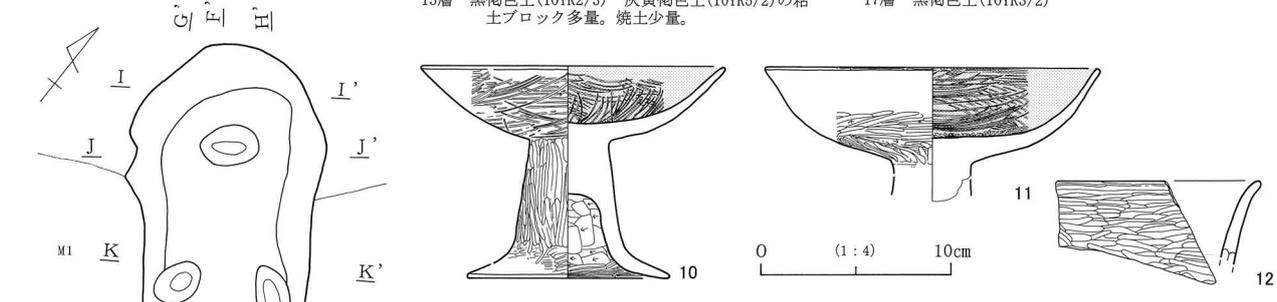
Ⅱ区けこ-10～12Grにあり、H23・D13・M1・P52・P53・P55・P62に切られ、H25・D29・P40



第39図 H15号住居址(1)

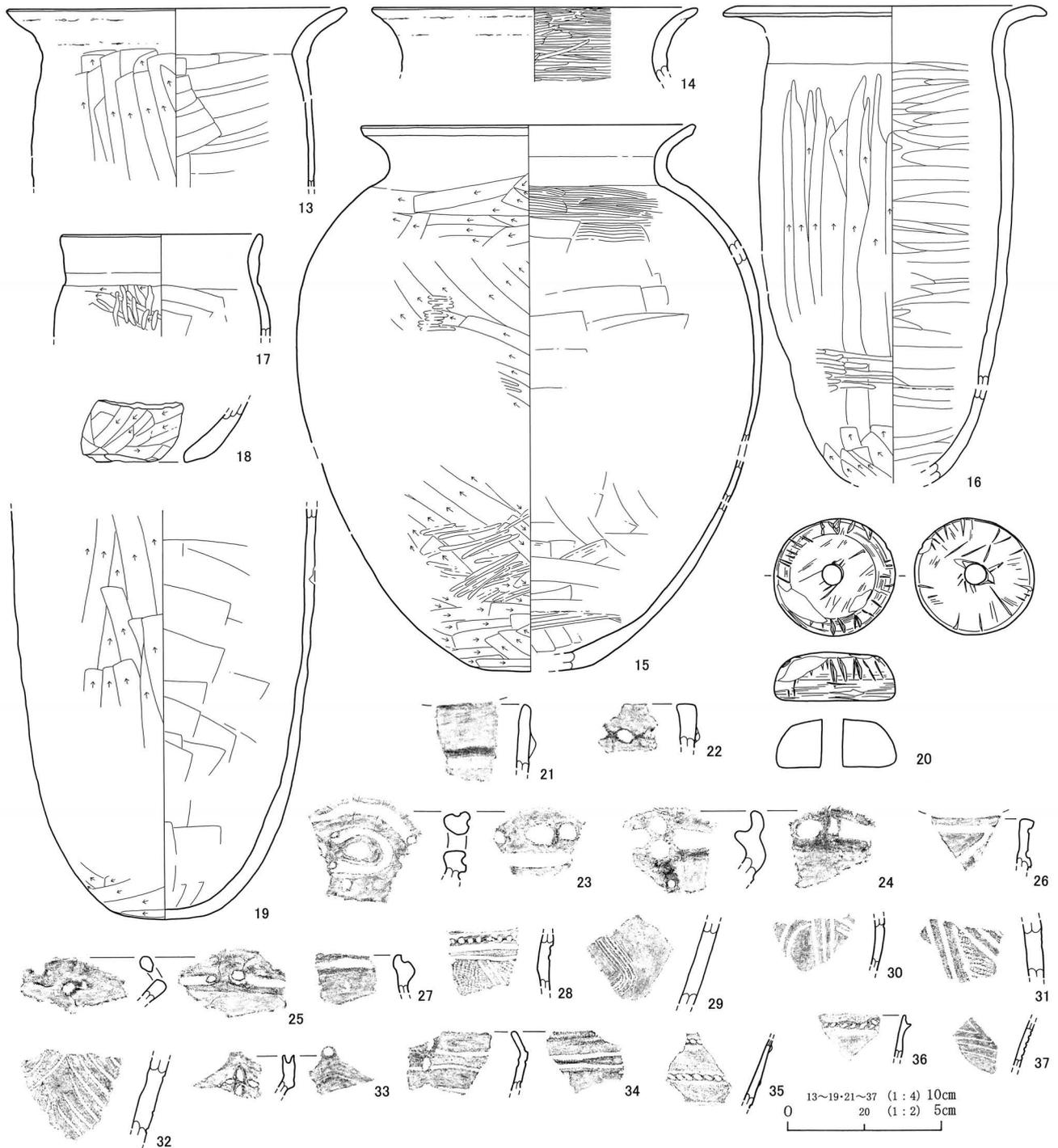


- H15
- 10層 明赤褐色土(5YR5/8) 焼け込み。
 - 11層 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物微量。焼土粒子・にぶい赤褐色(5YR5/3)の粒子ブロック少量含む。
 - 12層 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物・焼土ブロック少量含む。
 - 13層 黒褐色土(10YR2/3) 灰黄褐色土(10YR5/2)の粘土ブロック多量。焼土少量。
 - 14層 褐灰色土(7.5YR5/1) 粘土。
 - 15層 黒褐色土(7.5YR3/2) 褐灰色(7.5YR5/1)の粘土ブロック少量含む。
 - 16層 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR7/4)ブロック・黒褐色土(10YR3/2)を含む。
 - 17層 黒褐色土(10YR3/2)



第40図 H15号住居址(2)

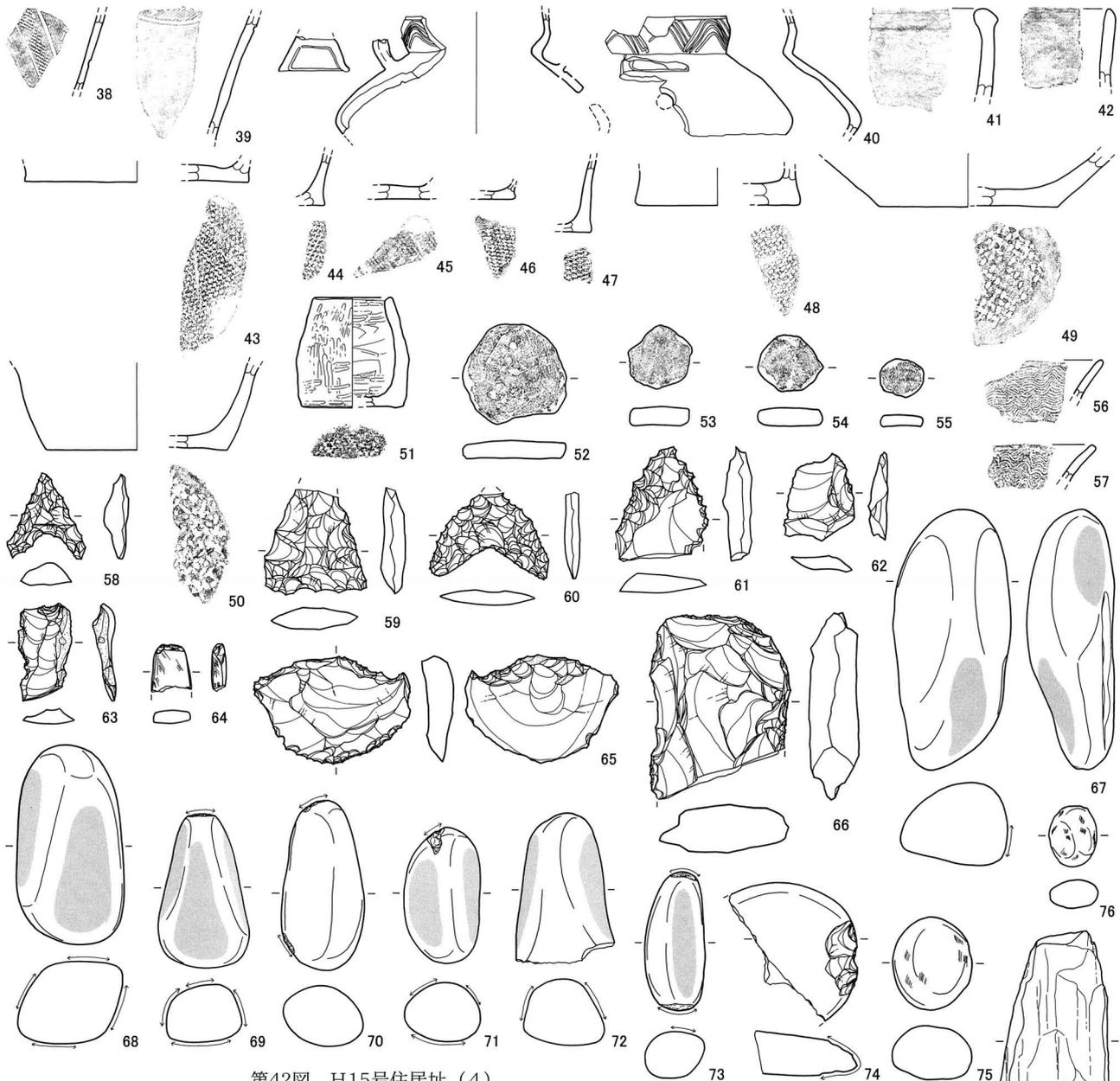
を切る。東壁が調査区域外にある。カマドは北壁中央に、粘土と鉄平石・熔結凝灰岩・安山岩等で構築されている。火床端から長い煙道部が壁外に伸びる。火床に支脚石が残る。ピットは柱痕が確認されたP1~P3の支柱穴等4個検出された。P4は入り口施設と見られる。床は堅く平坦。壁下に壁溝が巡る。覆土1~5層は人為的埋土。13と16の甕がカマド東脇床面に正位に埋め込まれていた。



第41図 H15号住居址(3)

遺物は、土師器・石製品、本址に伴わない縄文時代中期後葉・後期土器、弥生時代後期土器、他に多量の石器があるが磨石・敲石は本址に帰属すると思われるが、石鏃・打製石斧等は伴わない。土師器には須恵器坏蓋模倣の稜を持つ坏1～5、半球状の坏6～9、坏部内面黒色処理の高坏10・11、鉢12・17、口縁部に最大径があり胴が長い甕13・16、胴部丸みを持つ甕23、単孔の甑18がある。20は滑石製の紡錘車である。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。



第42図 H15号住居址 (4)

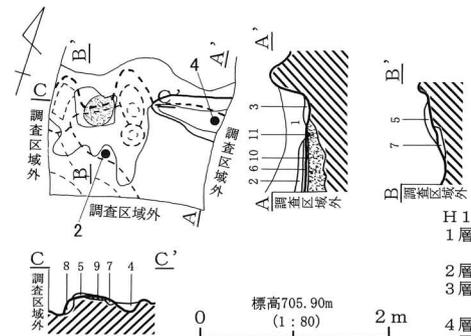
(16)H16号住居址

I区け-8 Grで検出、大半が未調査区にある。攪乱が深く、北壁と袖部地山を掘り残して構築されたカマドが僅かに残る。

覆土1層は人為的埋め土、検出された範囲の床

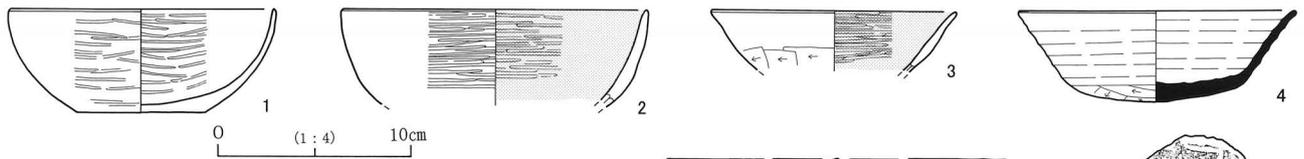
面は平坦で堅い。遺物は内面黒色処理される土師器坏1~3、須恵器坏4、土師器甕、縄文時代後期堀之内式鉢転用の土製円板

77	(1:6)	15cm
38~57・67~76	(1:4)	10cm
64~66	(1:3)	7.5cm
62・63・65	(1:2)	5cm
58~61	(1:1)	2.5cm



H16		
1層	黒褐色土(10YR2/3)	黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。人為的堆積。
2層	黒褐色土(10YR2/3)	
3層	褐色土(10YR4/4)	黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。
4層	黒褐色土(10YR2/3)	炭・粘土少量。
5層	黒褐色土(5YR2/2)	粘土。
6層	黒褐色土(10YR2/3)	粘質土。
7層	暗褐色土(10YR3/4)	
8層	暗褐色土(7.5YR3/3)	明褐色土(7.5YR5/6)のブロック多量。
9層	暗赤褐色土(5YR3/4)	焼土。
10層	暗褐色土(10YR3/4)	床。
11層	褐色土(10YR4/6)	黒褐色土(10YR2/3)のブロック少量。床下の埋土。

第43図 H16号住居址 (1)



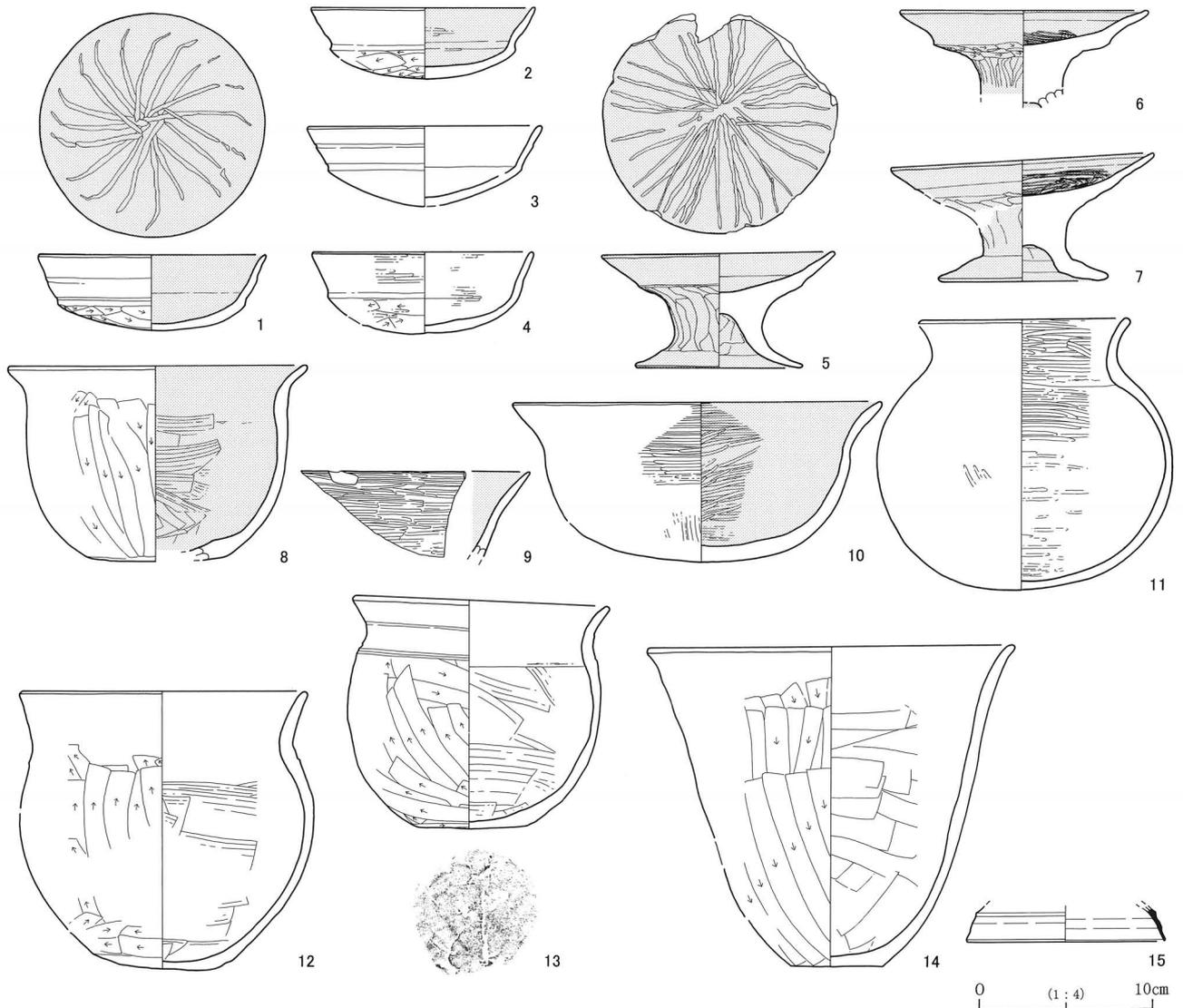
が出土した。1の坏底部はヘラケズリ後ヘラミガキされ、4の須恵器坏は手持ちヘラケズリ調整される。

これらの出土遺物から本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀前半(第I四半期)に位置づけられる。

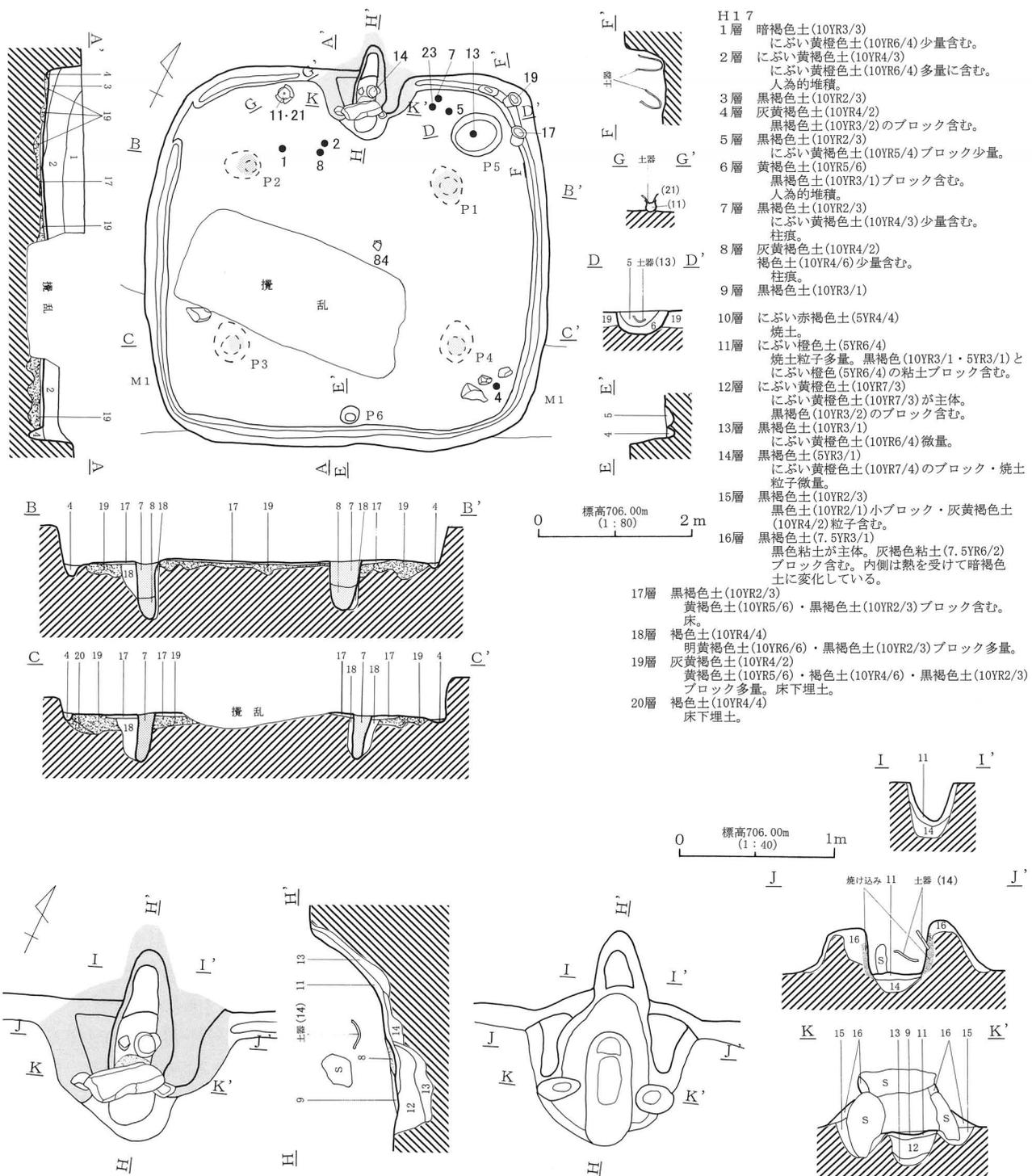
第44図 H16号住居址(2)

(17)H17号住居址

Ⅱ区け・こ-10~12Grにある。M1に切られ、OT1・P106・P126を切る。Ⅲ区に床面に達する攪乱がある。カマドは北壁中央に、地山を掘り残し黒色の粘土で構築されている。袖部先端と焚き口天井部には芯材に安山岩を用いている。火床中央には支脚石が残る。ピットは柱痕が確認されたP1~P4の主柱穴等5個検出された。P5は入り口施設、P6は深く貯蔵穴であろう。床は堅く平坦で、北西角



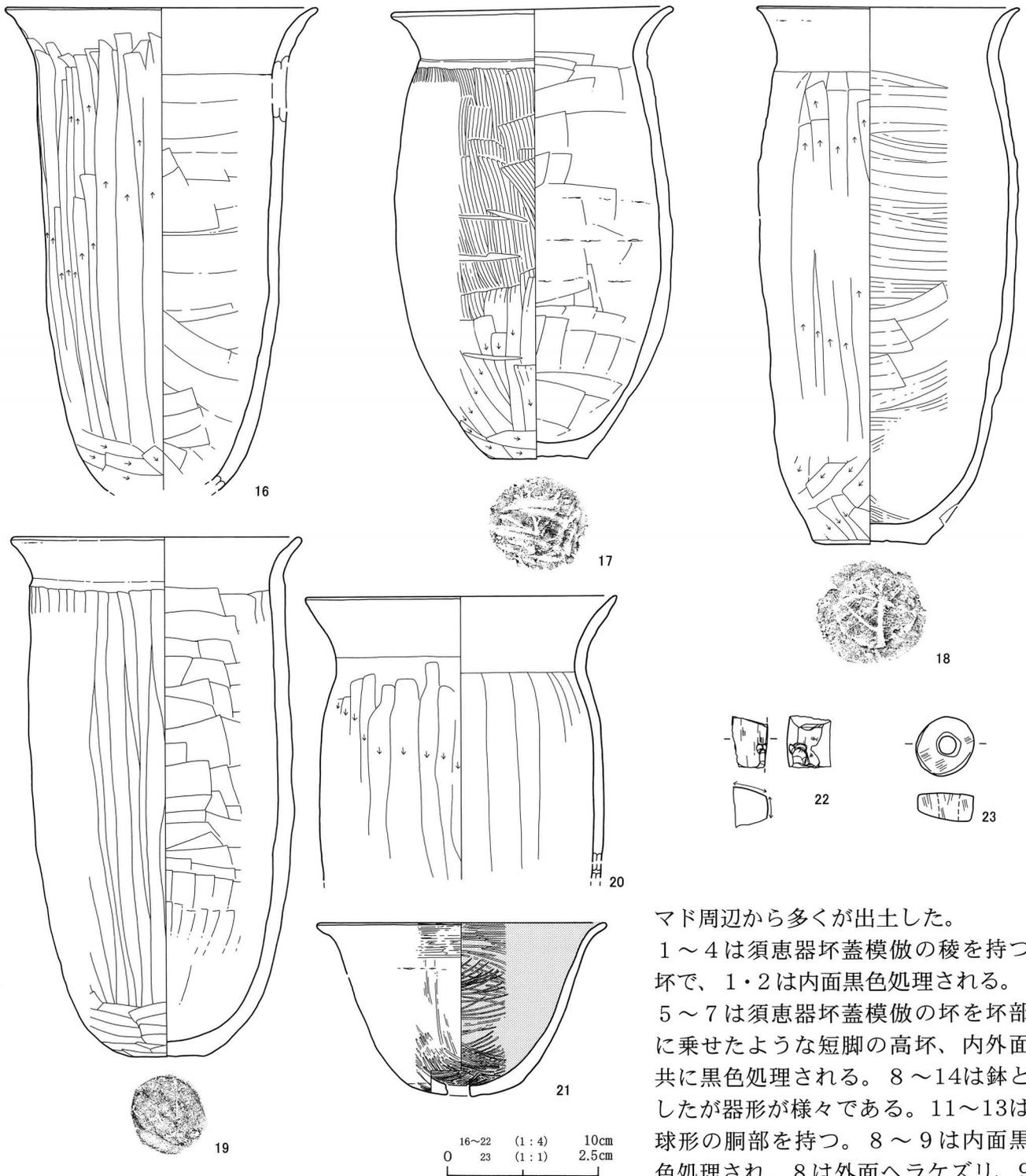
第45図 H17号住居址(1)



第46図 H17号住居址(2)

を除き壁溝が巡る。覆土は2層は人為的埋土であった。

遺物は、土師器坏・高坏・鉢・甕・甌、須恵器坏蓋、白玉、石器、本址に伴わない縄文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。6・12・14がカマド内、16・18がカマド内と周辺出土片接合、9・13がP5内、17・19が北東壁下に寄りかかって正位で、カマド西床面から11に21が乗る状態で、1・2・5・7・8がカマド周辺床面直上ないしは5cmほど浮いて、4が南東角床面5cm上、などカマド内やカ



第47図 H17号住居址(3)

マド周辺から多くが出土した。1~4は須恵器坏蓋模倣の稜を持つ坏で、1・2は内面黒色処理される。5~7は須恵器坏蓋模倣の坏を坏部に乘せたような短脚の高坏、内外面共に黒色処理される。8~14は鉢としたが器形が様々である。11~13は球形の胴部を持つ。8~9は内面黒色処理され、8は外面ヘラケズリ、9・10は内外面よくミガかれる。14は甑の形態によく似る。16は口縁部に最大径がある甕。17~20は口径と胴部最大径が等しい甕で、いづれも長胴である。17はハケメ調整、他は縦長のヘラケズリ調整である。21は1穴の甑で内面黒色処理される。23は滑石製の白玉。22の砥石以外の石器は、本址に帰属するか不明である。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。

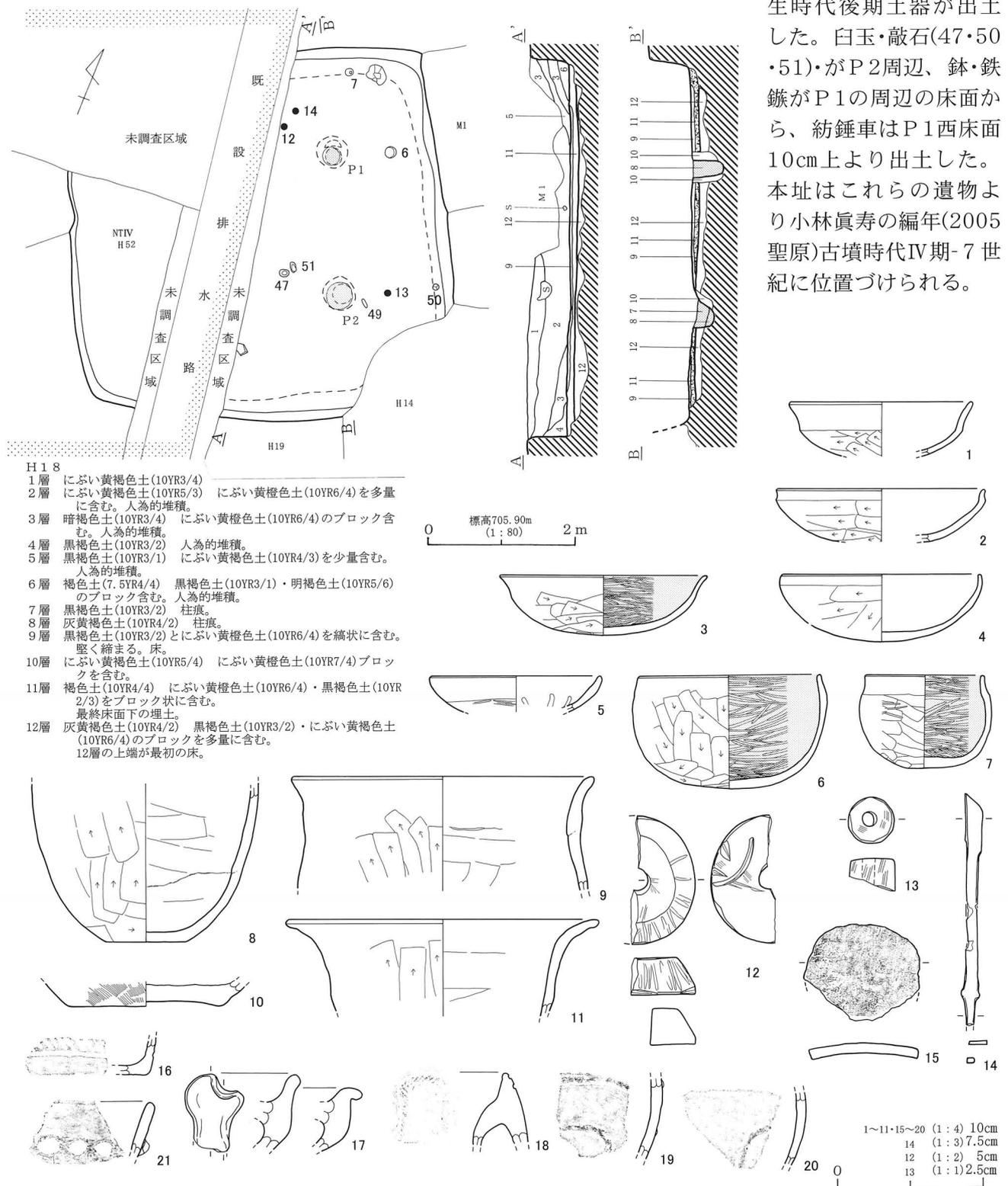


第48図 H17号住居址 (4)

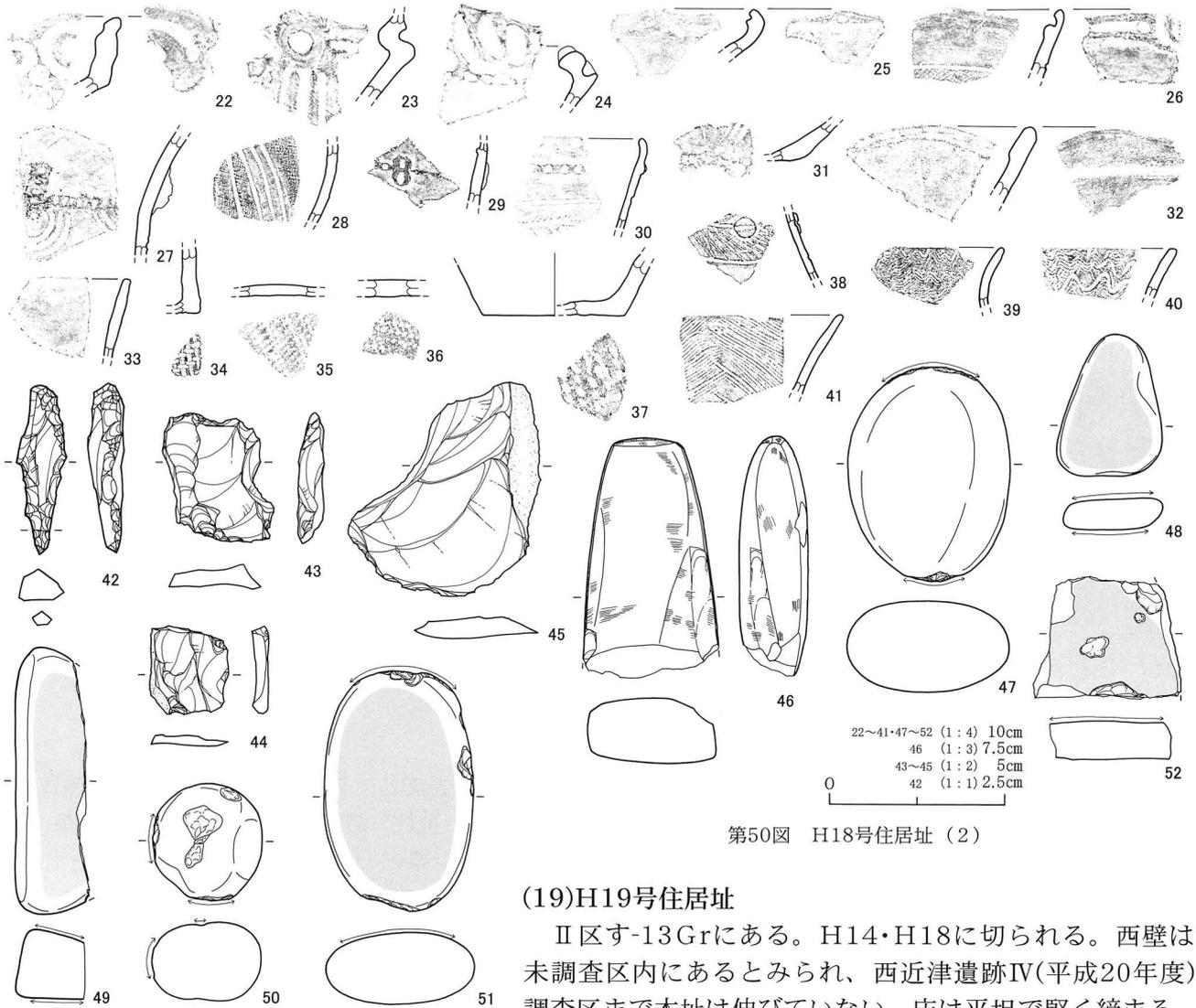
(18)H18号住居址

Ⅱ区す-12・13Grにある。H14・M1・P91に切られ、H19・P85・P97・P107を切る。西側半分は、西近津遺跡Ⅳ(平成20年度)H52号住居址として調査されている。ピットは柱痕が確認されたP1・P2の支柱穴が2個検出された。堅く平坦な床が2面検出された。各壁が15~25cm程度拡張されている。

カマドは、未調査区の排水溝下であろうか。覆土2～6層は人為的埋土。遺物は、須恵器坏蓋模倣の坏(1)・須恵器坏身模倣の坏(2)・半球状で口縁部短く外反する坏(3)・半球状の坏(4・5)・内面黒色処理される鉢(6・7)・胴部に最大径を持つ分厚い甕(9)・甕？(11)等の土師器、土師器甕胴部片を加工した円板(13)、長頸棘状関平造片刃状式の鉄鎌(15)、紡錘車(12)、白玉(14)、石器、本址に伴わない縄文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。白玉・敲石(47・50・51)がP2周辺、鉢・鉄鎌がP1の周辺の床面から、紡錘車はP1西床面10cm上より出土した。本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005 聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。



第49図 H18号住居址(1)

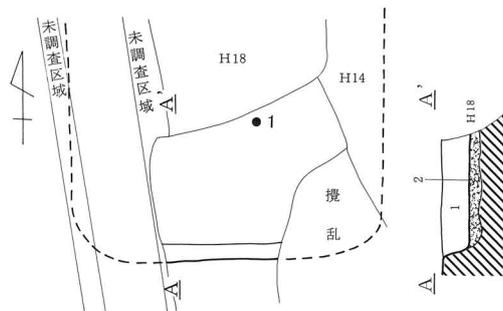


第50図 H18号住居址 (2)

(19)H19号住居址

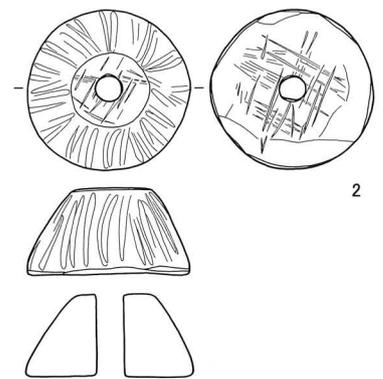
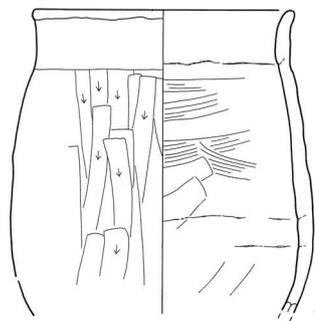
Ⅱ区す-13Grにある。H14・H18に切られる。西壁は未調査区内にあるとみられ、西近津遺跡Ⅳ(平成20年度)調査区まで本址は伸びていない。床は平坦で堅く締まる。

遺物は、1の胴部に最大径を持ち縦長にヘラケズリされる分厚い甕、3の須恵器甕2の滑石製の紡錘車、本址に伴わない縄文時代中期・後期、石器が出土した。本址はこれらの遺物と7世紀のH18号住居址に切られることから、7世紀代としたい。



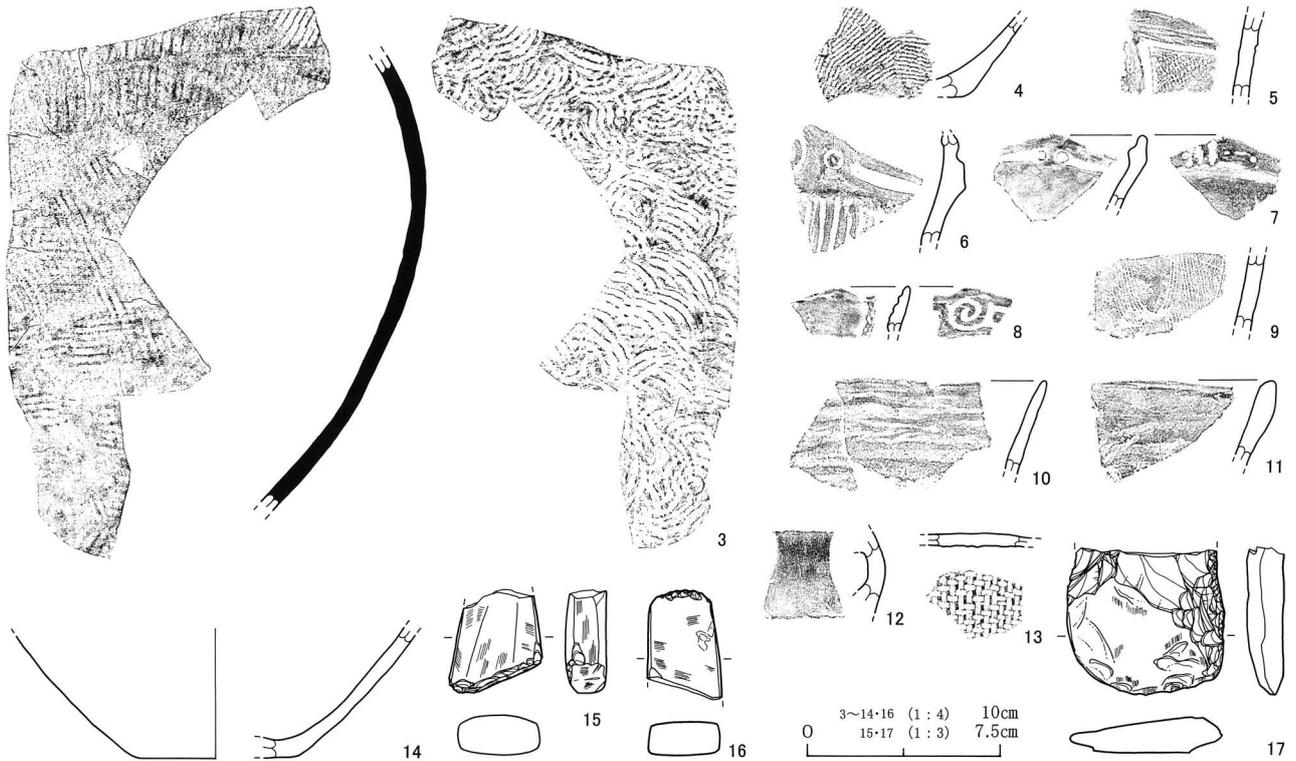
H19
1層 黒褐色土(10YR3/1)
褐色土(10YR4/6)のブロック
少量含む。
2層 におい黄褐色土(10YR7/4)
黒褐色土(10YR3/1)ブロック・
粒子含む。床下埋土。

0 標高705.90m (1:80) 2m



0 1 (1:4) 10cm
2 (1:2) 5cm

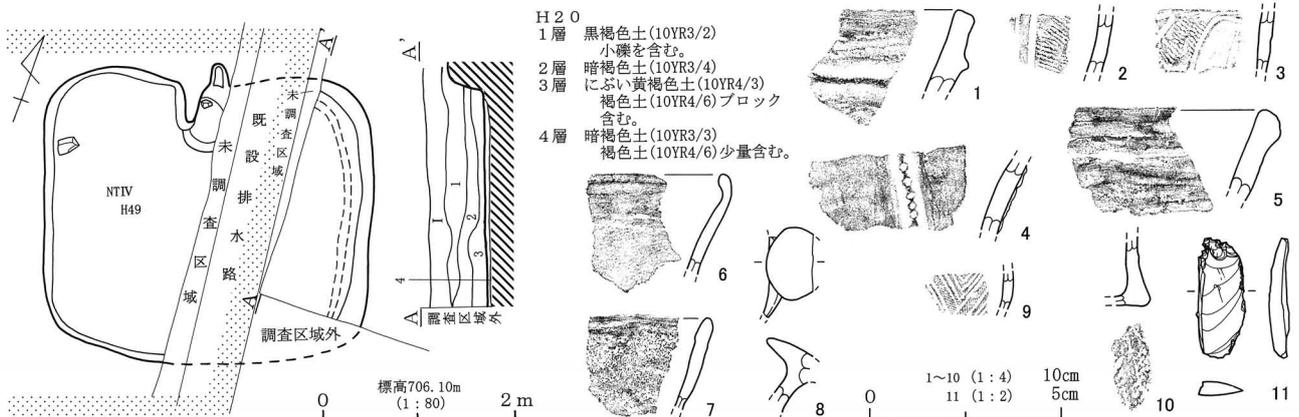
第51図 H19号住居址 (1)



第52図 H19号住居址 (2)

(20)H20号住居址

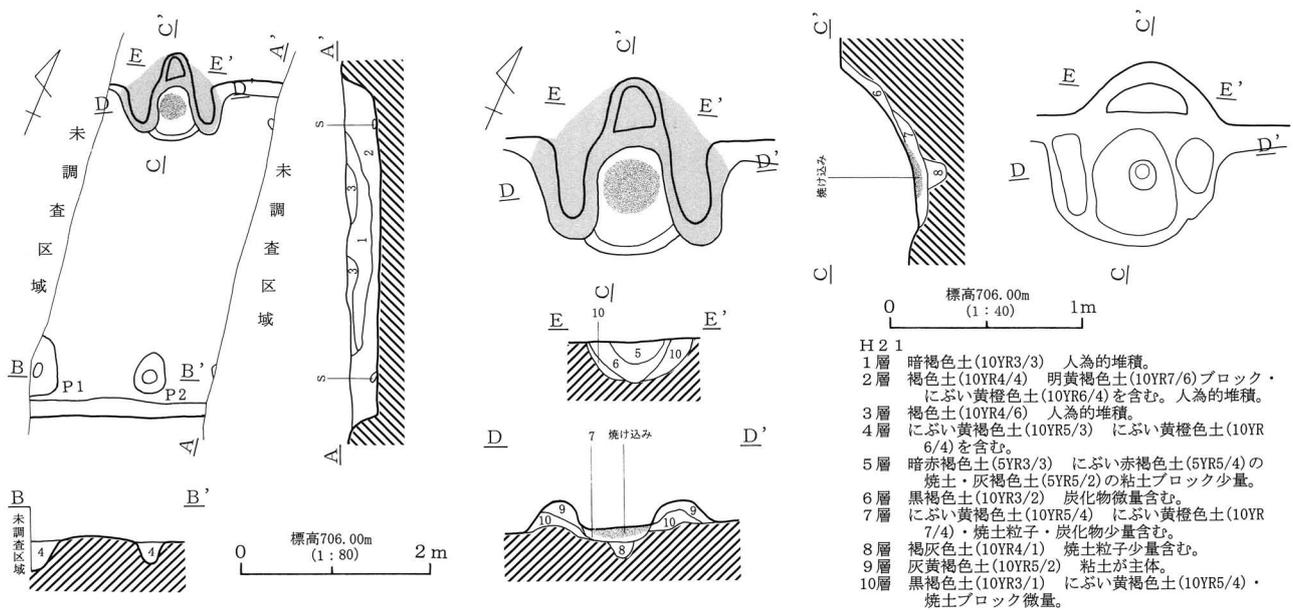
Ⅱ区す-13・14Grにある。H14・M1に切られ、OT3・P138を切る。西側半分は、西近津遺跡Ⅳ(平成20年度)H49号住居址として調査され、北壁にカマドがある。支柱穴等は確認されていない。堅く平坦な床である。遺物は土師器の坏・武蔵甕や須恵器坏・甕小片が少量ある。図示した縄文時代後期土器、石器は本址に伴わない。西近津遺跡Ⅳ(平成20年度)H49号住居址では、底部手持ちヘラケズリされる須恵器坏等が出土し、古墳時代後期のH50号住居址を切っている。このような状況から、本址は8世紀前半に位置づけられよう。



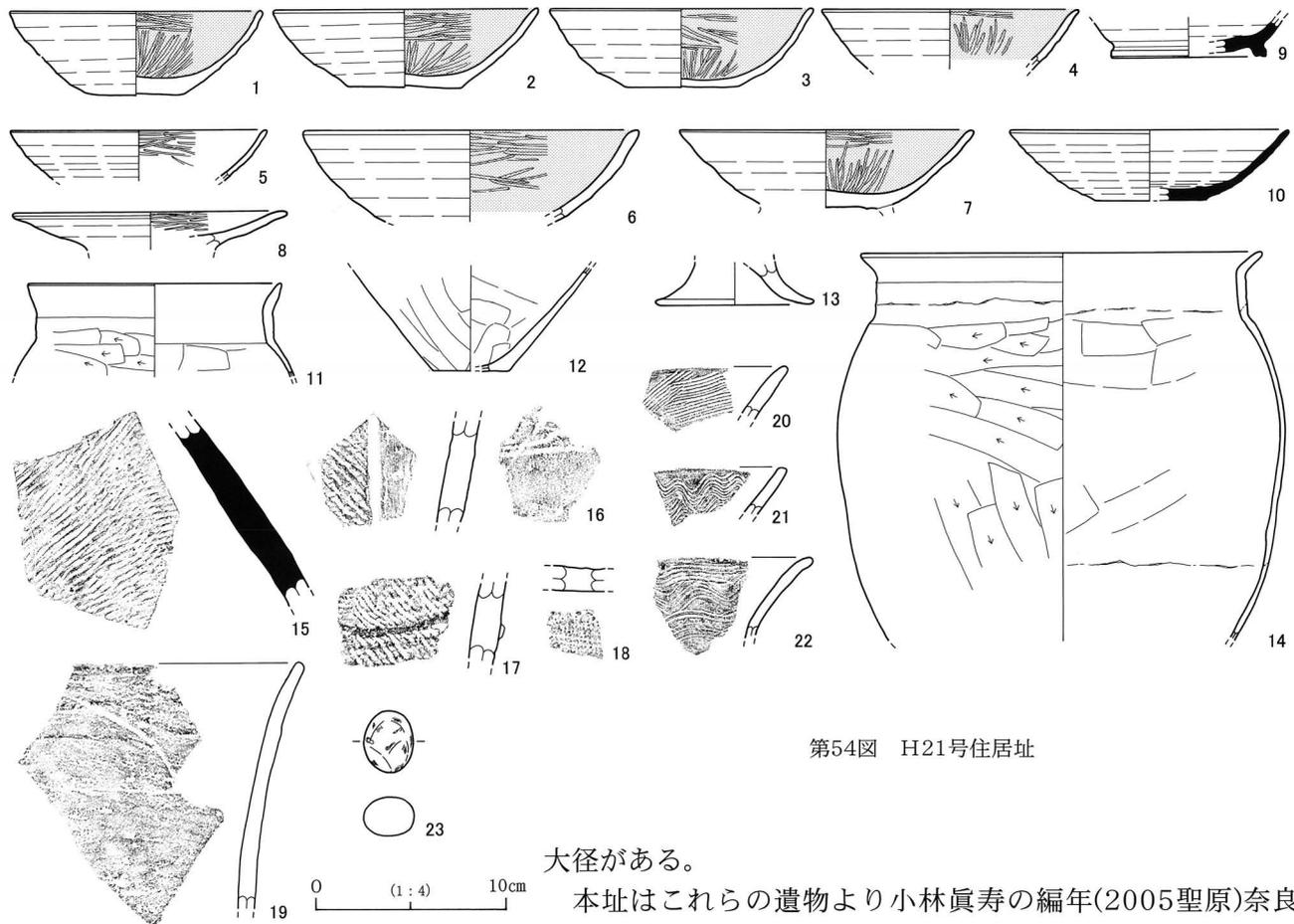
第53図 H20号住居址

(21)H21号住居址

Ⅱ区す・せ-9・10Grにある。H22を切る。西側と東側一部分が未調査区と調査区域外にある。カマドが北壁中央にある。ピットは南壁下から2個検出された。床は堅く平坦で、床下の掘方は認められなかった。覆土1～3層は人為的埋土。遺物は、土師器の坏1～3、4・5坏?、碗7、碗?6、皿8、甕11～14、須恵器の有台坏9、坏10、甕15、本址に伴わない縄文時代中期・後期出土した。1～3・7・10は回転糸切り、1～4・6・7は内面黒色処理される。「コ」字口縁の武蔵甕11・14は、胴部に最



- H21
 1層 暗褐色土(10YR3/3) 人為的堆積。
 2層 褐色土(10YR4/4) 明黄褐色土(10YR7/6)ブロック・
 にぶい黄褐色土(10YR6/4)を含む。人為的堆積。
 3層 褐色土(10YR4/6) 人為的堆積。
 4層 にぶい黄褐色土(10YR5/3) にぶい黄褐色土(10YR
 6/4)を含む。
 5層 暗赤褐色土(5YR3/3) にぶい赤褐色土(5YR5/4)の
 焼土・灰褐色土(5YR5/2)の粘土ブロック少量。
 6層 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物微量含む。
 7層 にぶい黄褐色土(10YR5/4) にぶい黄褐色土(10YR
 7/4)・焼土粒子・炭化物少量含む。
 8層 褐灰色土(10YR4/1) 焼土粒子少量含む。
 9層 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘土が主体。
 10層 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR5/4)・
 焼土ブロック微量。



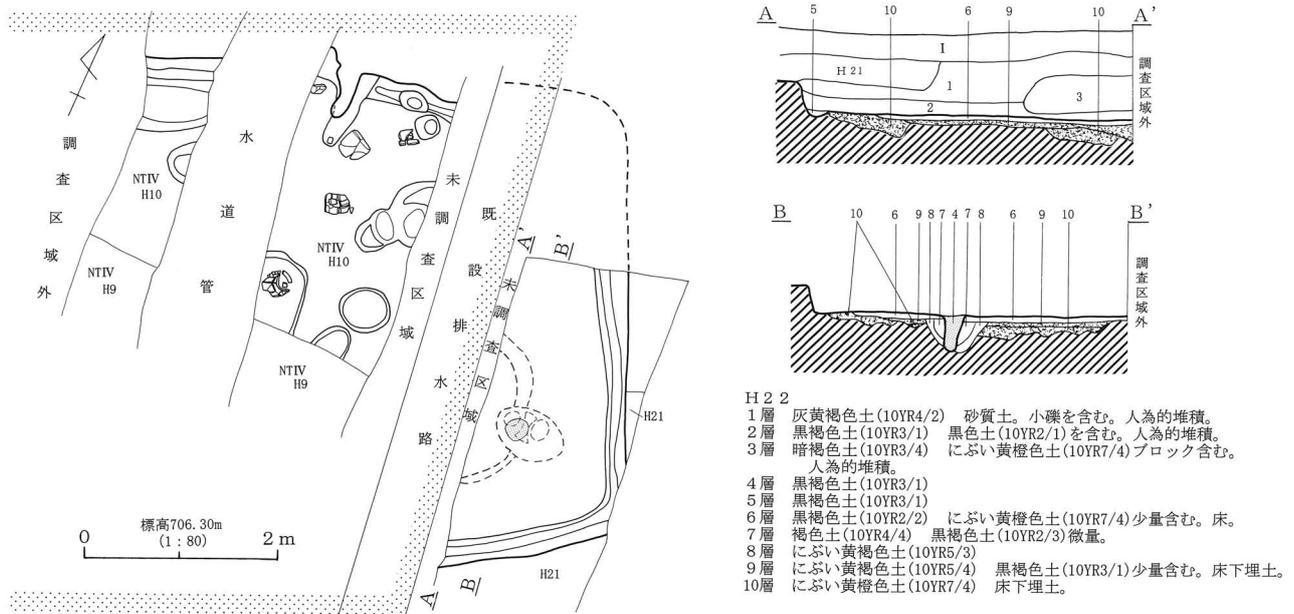
第54図 H21号住居址

大径がある。
 本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良
 ・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

(22)H22号住居址

II区す・せ・9・10Grにある。H21に切られる。西側大部分は、西近津遺跡IV(平成20年度)H10号住居址として調査され、北壁にカマドがある。本調査では柱痕が確認された主柱穴と見られるP1から柱痕が確認された。堅く平坦な床である。覆土1~3層は人為的埋土。遺物は土師器の須恵器灯蓋模倣

の坏や分厚い甕小片が少量ある。西近津遺跡IV(平成20年度)H10号住居址では、口縁部に最大径がある長胴の甕等、古墳時代後期の遺物が出土している。このような状況から、本址は小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。

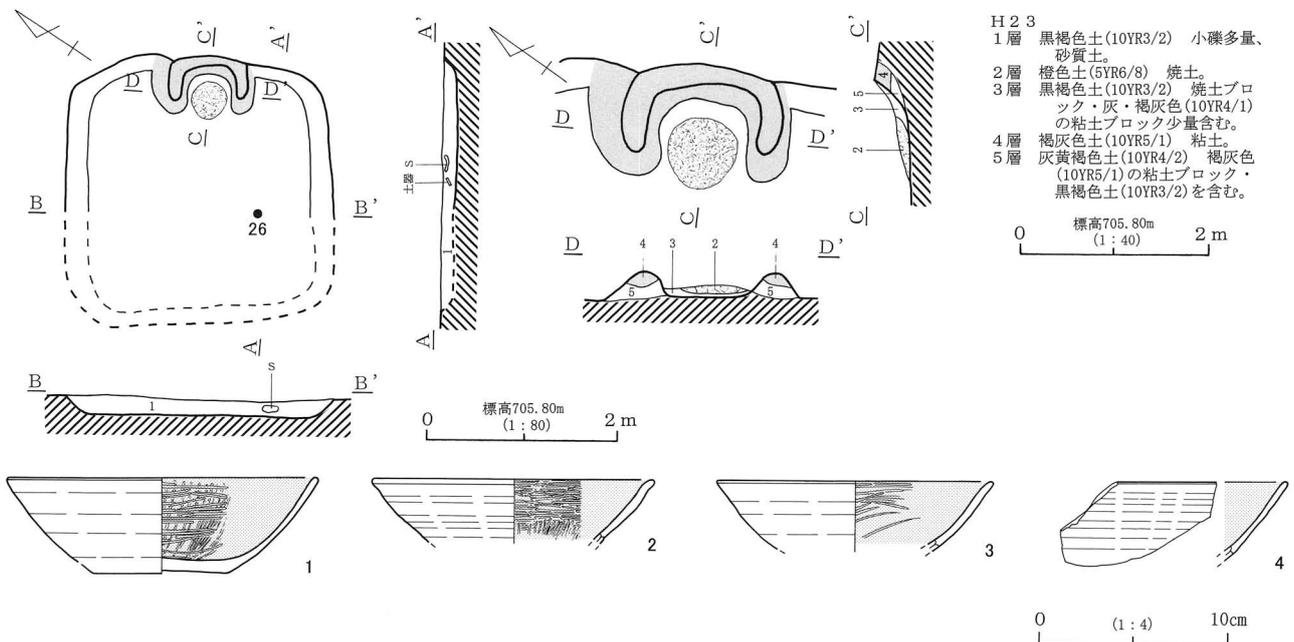


第55図 H22号住居址

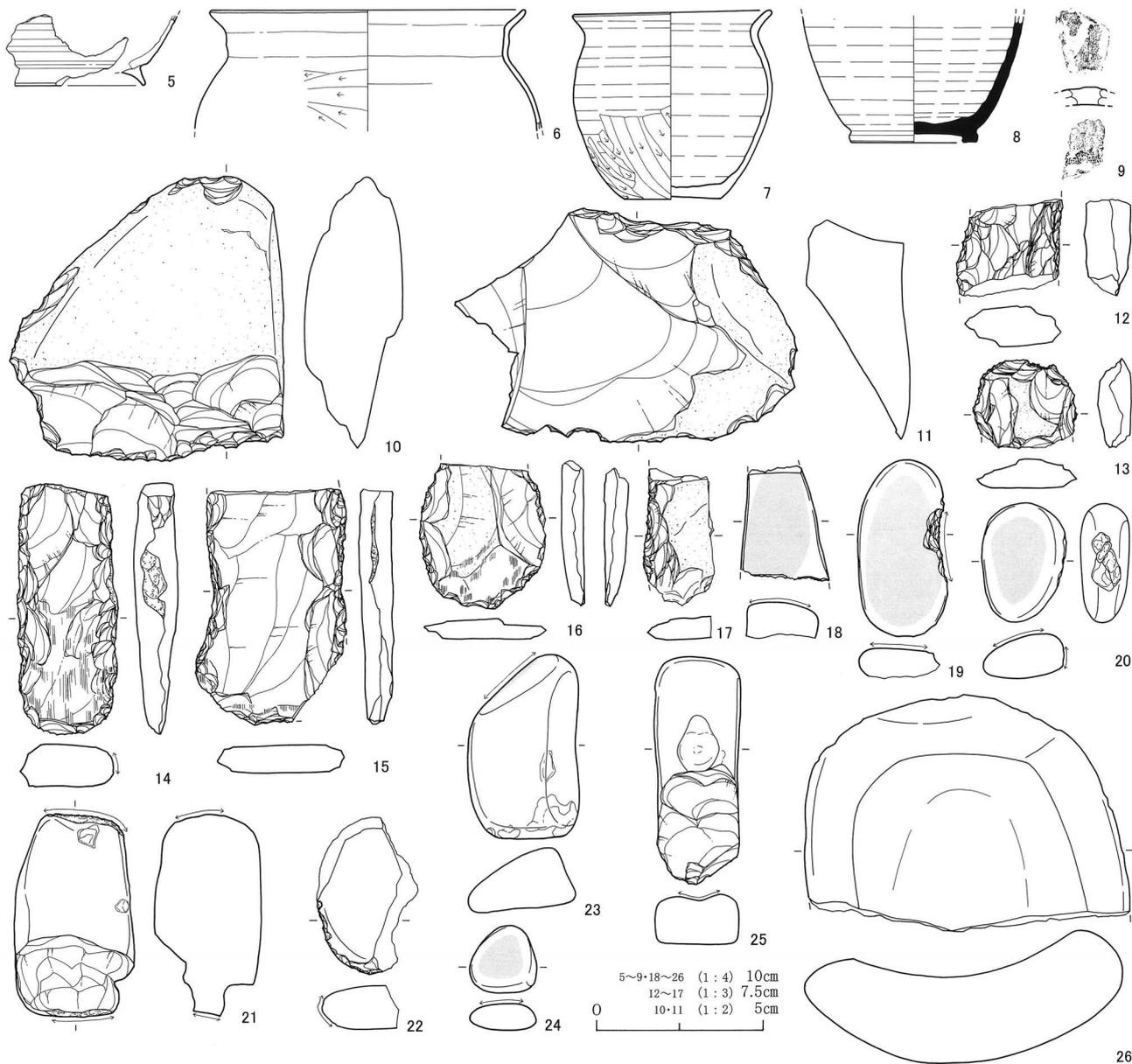
(23)H23号住居址

Ⅱ区け・こ-10・11Grにある。D13に切られ、H25を切る重複関係のため確認は困難を極めた。西壁および床下掘方は、不明瞭であった。北壁中央のカマドは、粘土と灰黄褐色土で構築された一部の袖部と火床が残る。床面は明確でない。物は、土師器の坏1、2~4坏・碗?、碗5、甕6・7、須恵器壺8、布目瓦、本址に伴わない縄文時代の石器、伴うか不明確な石器が多く出土した。1は回転糸切り、1・2・4・5は内面黒色処理される。6は「コ」字口縁の武蔵甕、7はロクロ甕である。

本址はこれらの遺物より、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。



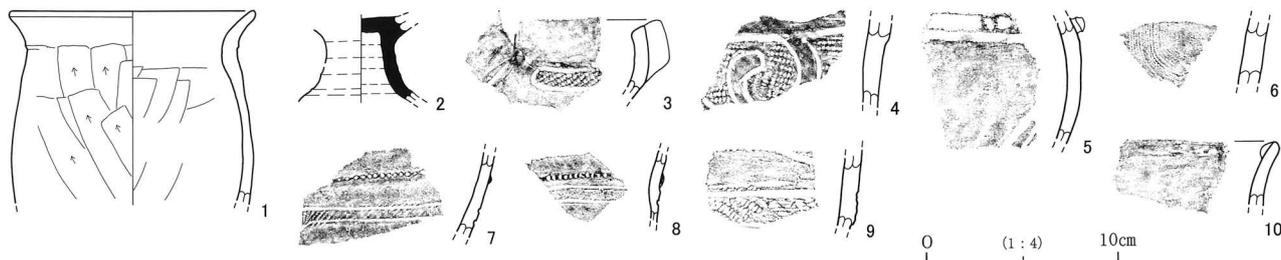
第56図 H23号住居址 (1)



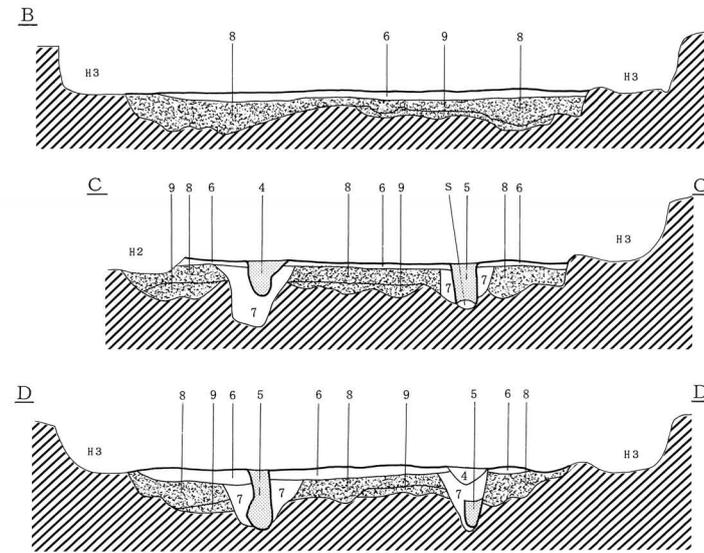
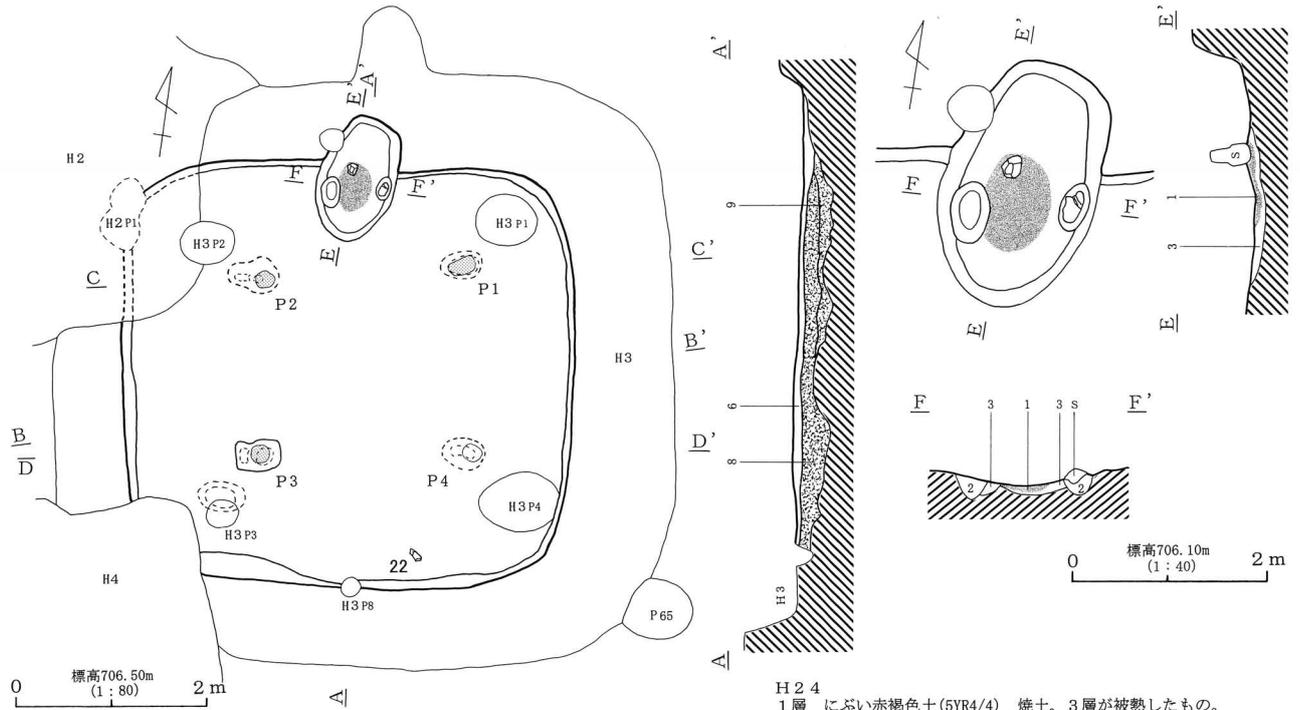
第57図 H23号住居址 (2)

(24)H24号住居址

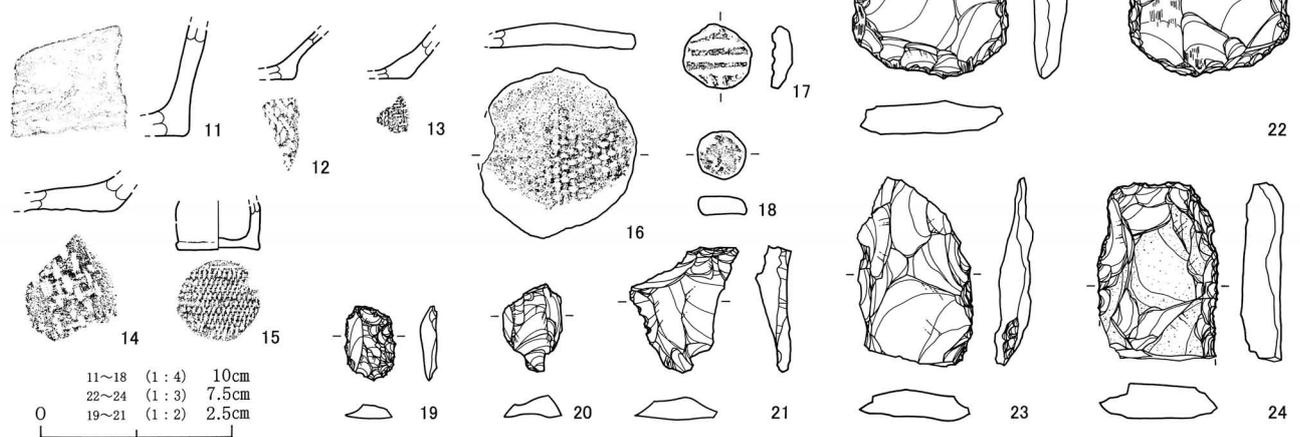
I 区え・お-3・4 Grにある。H2～H4に切られる。H3のカマド・主柱穴と本址のそれらと相似形にあり、本址がH3の規模に拡張されたとみられる。カマドは北壁中央で火床の支脚石、袖部芯材を埋め込んだピットがみられる。ピットは柱痕が確認されたP1～P4の主柱穴が検出された。堅く平坦な床である。遺物は1の土師器甕、2の須恵器高坏か高盤、本址に伴わない縄文時代後期土器・土製品・石器が出土した。本址は、H3の遺物より8世紀前半(第1四半期)以前に位置づけられる。



第58図 H24号住居址(1)



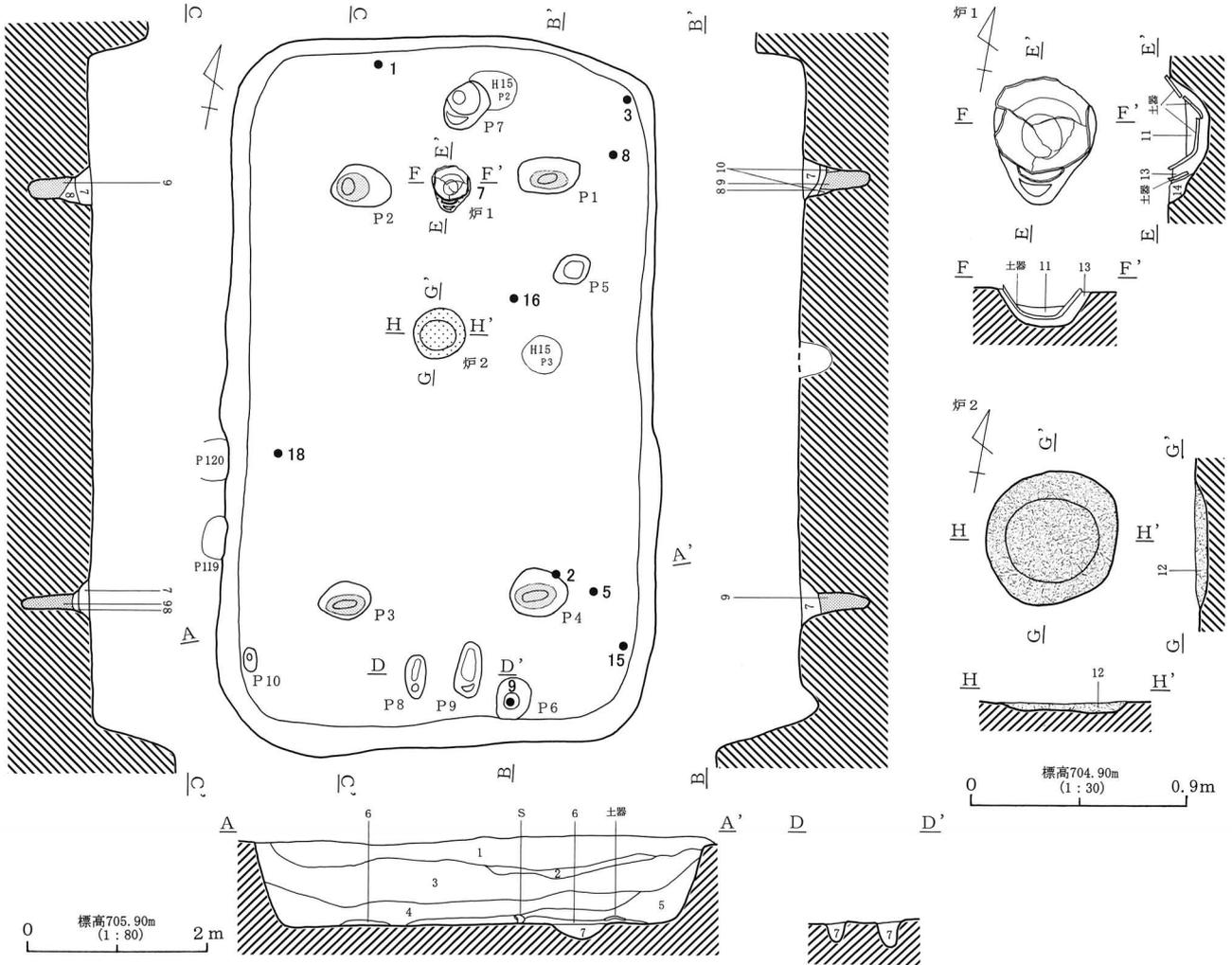
- H 2 4
- 1層 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 焼土。3層が被熱したもの。
 - 2層 暗赤褐色土(5YR3/2) 粘土・焼土ブロック多量。
 - 3層 黒褐色土(7.5YR2/2) 明黄褐色土(10YR7/6)の小ブロック多量。
 - 4層 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(10YR4/6)の小ブロック多量。
柱痕。
 - 5層 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(10YR4/6)の小ブロック多量。
柱痕。
 - 6層 褐色土(10YR4/4) 黒褐色土(10YR2/2)・にぶい褐色土(7.5YR5/4)の帯状ブロック含む。堅く締まる。床。
 - 7層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(10YR4/6)・黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。
 - 8層 黒褐色土(10YR2/3) 明褐色土(7.5YR5/6)・黒褐色土(10YR2/2)の大ブロック多量。
 - 9層 にぶい褐色土(7.5YR5/4) 黒褐色土(10YR2/2)・黒褐色土(10YR2/3)の小ブロック少量。



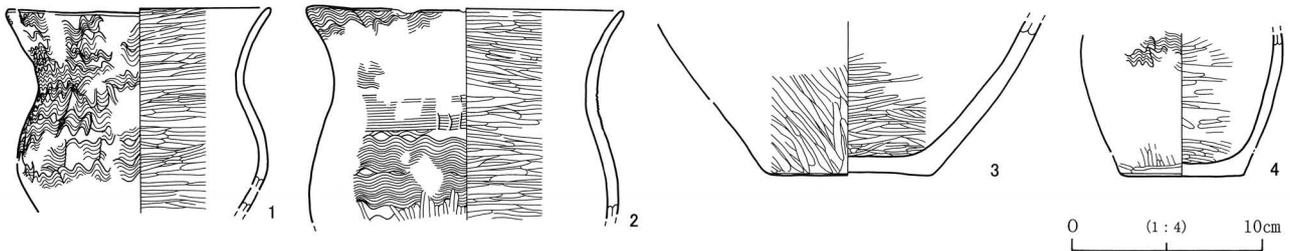
第59図 H24号住居址(2)

(25)H25号住居址

Ⅱ区け・こ-11~13Grにある。H15・H23・M1・D13・P40~P45・P51~56・P62・P119~123・P125に切られ、D29を切る。炉は支柱穴P1・P2間と住居址中央に、2基ある。炉1は7の壺底部を用いた土器埋設炉で、10cm程度掘りこまれている。壺底部内部に灰の堆積が認められた。炉2は地床炉で、3cmほどの焼土の堆積がある。ピットは9個検出され、P1~P4の支柱穴から五平状柱痕が確認された。P7は棟持柱、P8・P9は出入口施設、P6は貯蔵穴と考えられる。敲き床の床面は堅く平坦で、覆土1~5層は人為的埋土である。遺物は赤彩の壺・甕・赤彩の高坏・無彩の蓋等の弥生土器、柄

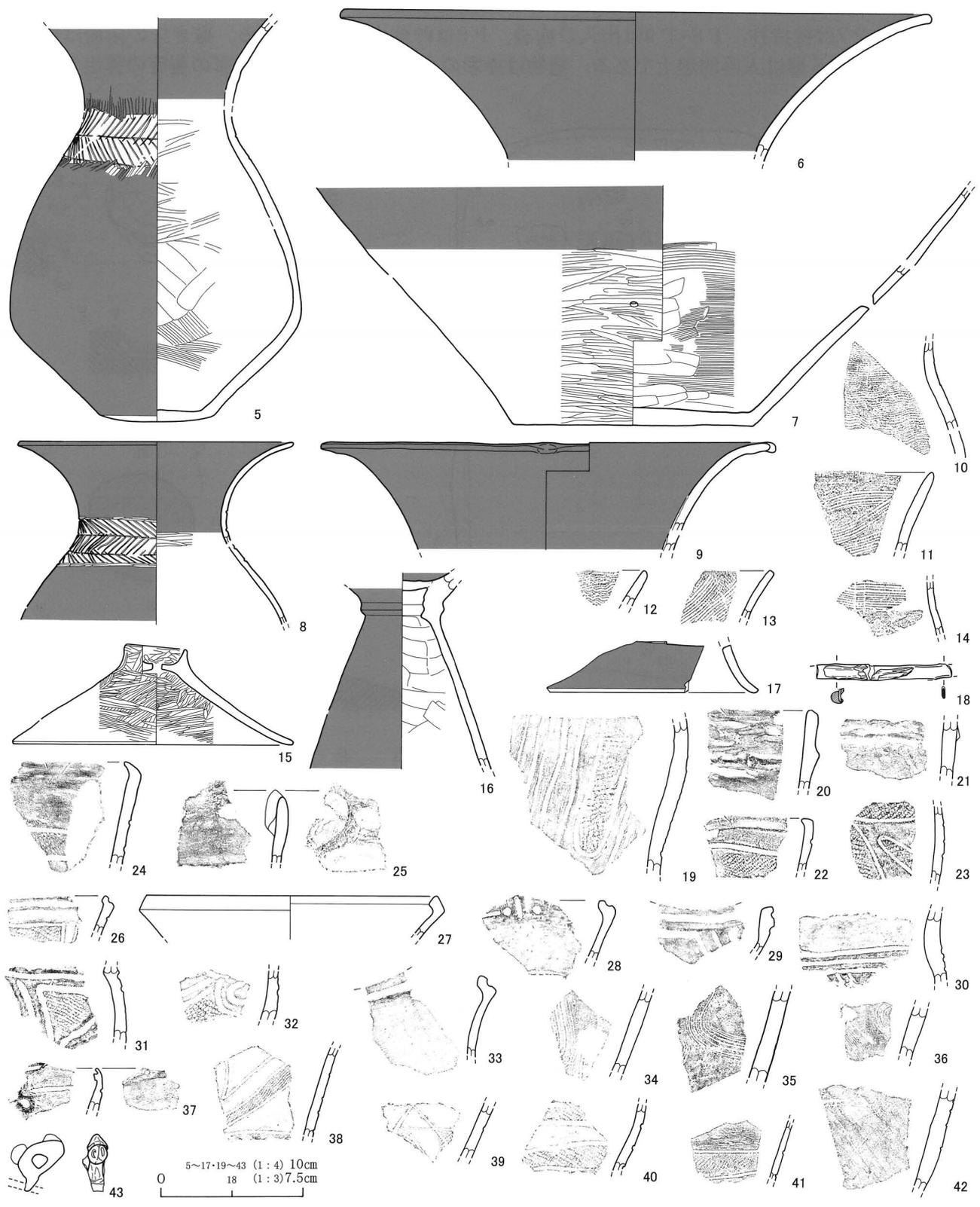


- 1層 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄橙色土(10YR6/4)を含む。人為的堆積。
- 2層 黒色土(10YR2/1)
- 3層 にぶい黄橙色土(10YR7/4) 黒褐色土(10YR3/1)ブロック含む。人為的堆積。
- 4層 褐灰色土(10YR4/1) にぶい黄橙色土(10YR7/4)ブロック・にぶい黄橙色土(10YR6/4)を多量に含む。人為的堆積。
- 5層 にぶい黄橙色土(10YR6/3) 人為的堆積。
- 6層 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒子・炭化粒子含む。
- 7層 黒褐色土(10YR2/3)
- 8層 暗赤褐色土(5YR3/3) 焼土粒子・焼土ブロック少量含む。
- 9層 にぶい黄橙色土(10YR6/4) 柱痕。柔らかい。
- 10層 黄橙色土(10YR7/4) 暗褐色土(10YR3/3)を少量含む。
- 11層 にぶい黄橙色土(10YR7/2) 灰が主。炭化物微量。
- 12層 明赤褐色土(5YR5/8) 焼土。
- 13層 浅黄橙色土(7.5YR6/3) 黄橙色土(7.5YR7/8)を多量に含み、少量の焼土を含む。
- 14層 にぶい橙色土(7.5YR6/4) 焼土微量含む。

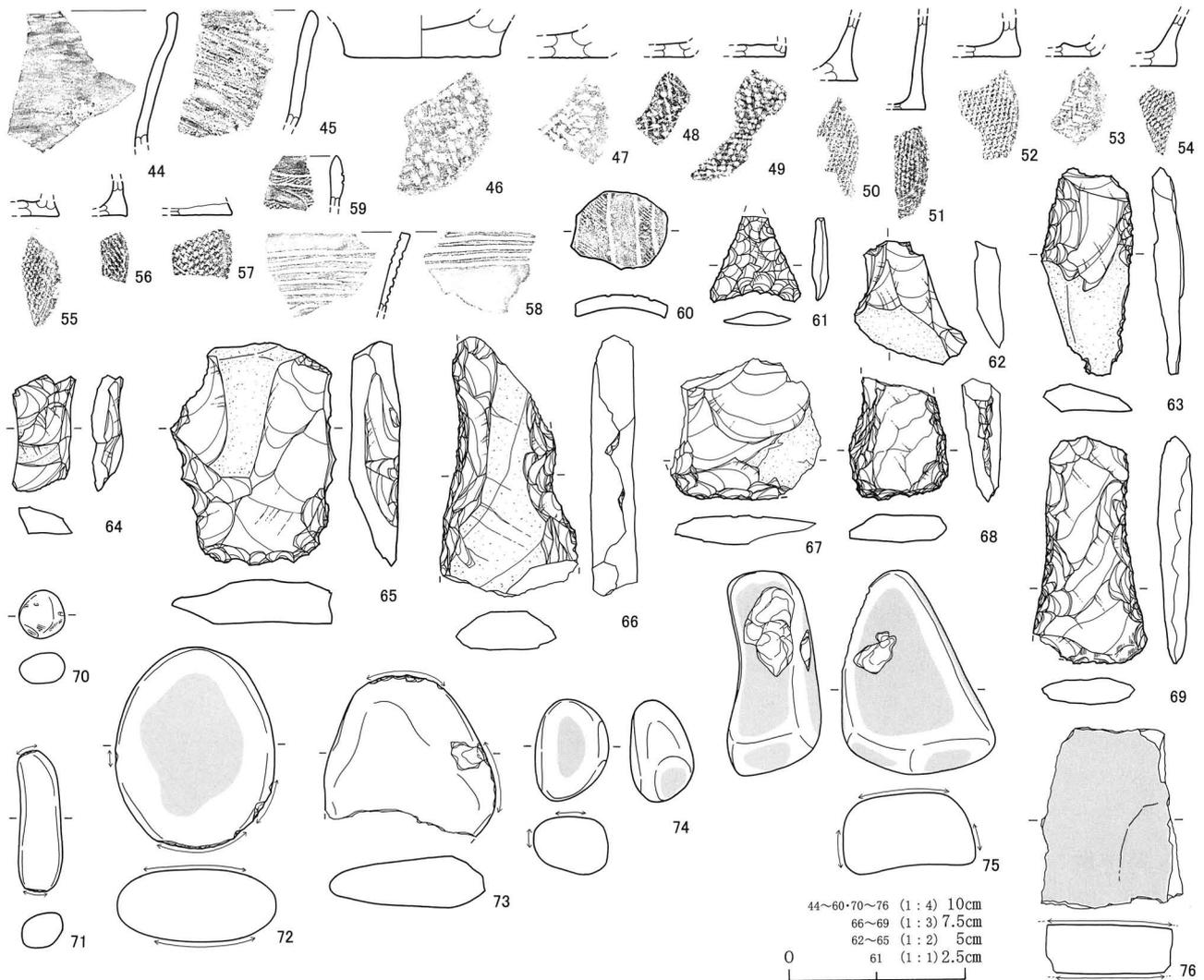


第60図 H25号住居址 (1)

部に木質残る刀子？、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・土製円板(深鉢等の転用)がある。P1・炉周辺の床から1・3・8・16が、P4周辺の床から2・5・7・15が多数出土した。石器の時期は明確でない。本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



第61図 H25号住居址(2)



第62図 H25号住居址実測図(3)

6. 土坑

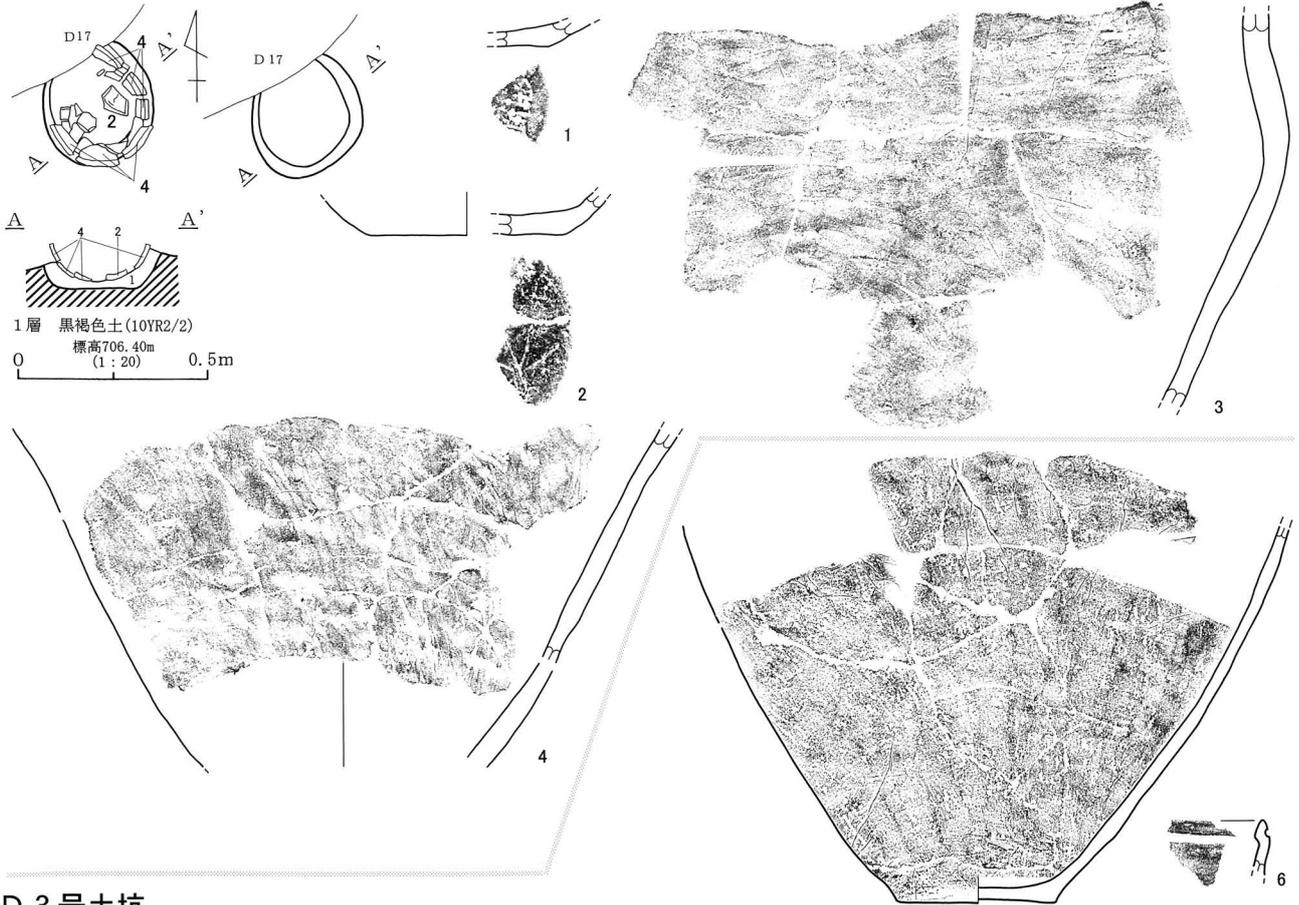
合計で37基の土坑が検出された。遺構掘り下げ時にピットの名称を付した中に土坑として扱うべき遺構もある(P97・P98)。D4・D5をのぞき35基から縄文・弥生・古墳時代の遺物が出土した。ほとんど縄文時代後期初頭から前葉の土器である。縄文時代後期前葉H12号住居址周辺に濃く分布している。

土坑底面にピット2個があり落とし穴とみられるD32号土坑。

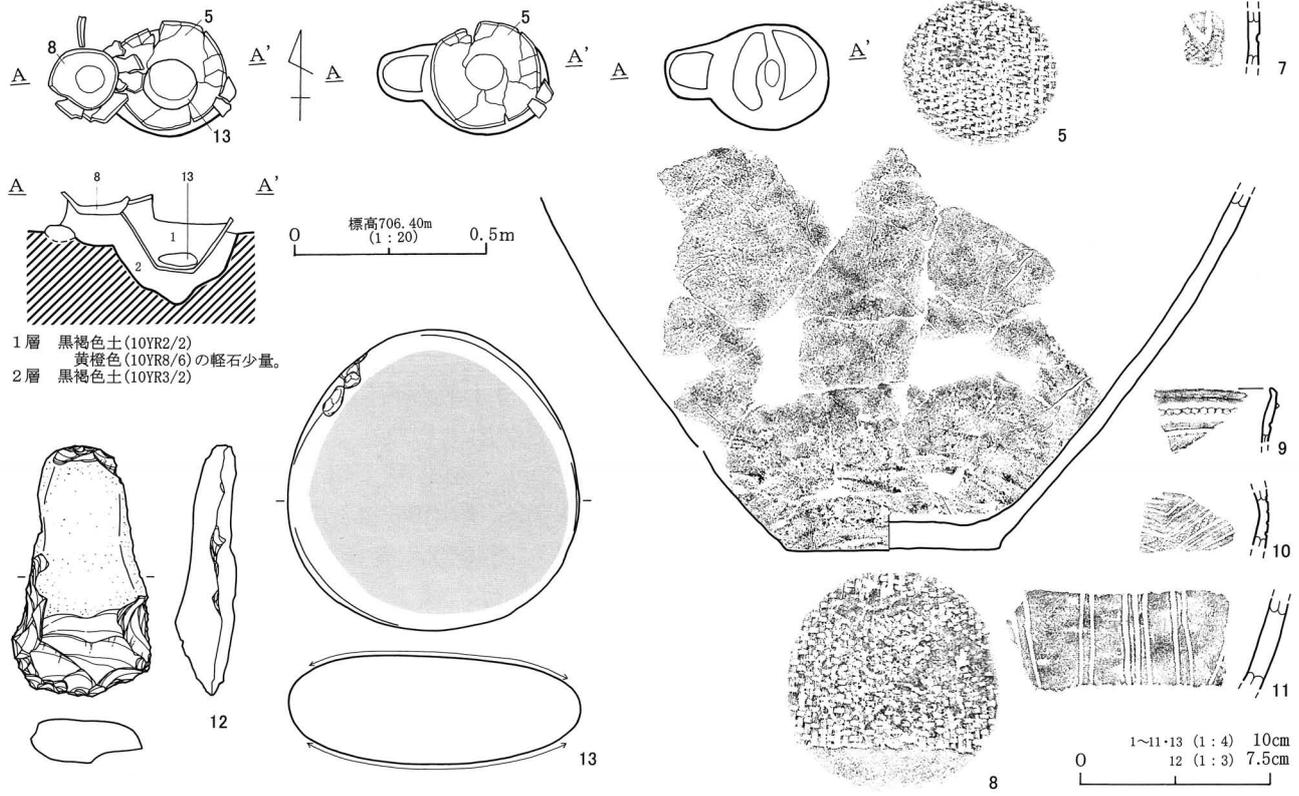
袋状の貯蔵穴とみられるD6・D21・D22・D29土坑。D22号土坑からは、堀之内1式の注口土器(第68図-138)・深鉢・石皿(第95図-164)・打製石斧・石錐・台石などが出土した。

土壌リン酸分析を実施していないため断定できないが、D1～D3号土坑・P97・P98は墓址とみられる。く4グリッドのD1号土坑は、後期前葉の粗製深鉢胴部(第63図-4)が正位に埋設されていた。胴部内面は黒色に変化し、薄い黒色の付着物が見える。他に深鉢の木葉痕を持つ底部と網代底の深鉢・粗製深鉢胴部が出土している。き-4グリッドのD2号土坑は、径35cm深さ25cmの掘り込みに後期前葉堀之内1式の深鉢(第64図-18)を正位に埋設し、底部から8cm上に熔結凝灰岩の丸み帯びた礫と鉄平石、その上部に有頭大型石棒を納めている。石棒は残存長29.5cm最大径11.2cmで、頭部一部と基部を欠く。基部は欠損か分割かは不明。いずれにしても深鉢にほどよく収まる長さである。深鉢から20cm離れて16の陽形土製品が出土した。周辺の深鉢小片が18と接合しており、本遺構との関連性をあながち否定はできない。き-4グリッドのD3号土坑は、後期前葉の粗製深鉢胴部から底部が正位に併置埋設されていた(第63図-5・8)。さらに、8の底部に接して13の円形の磨石が納められていた。

D 1号土坑

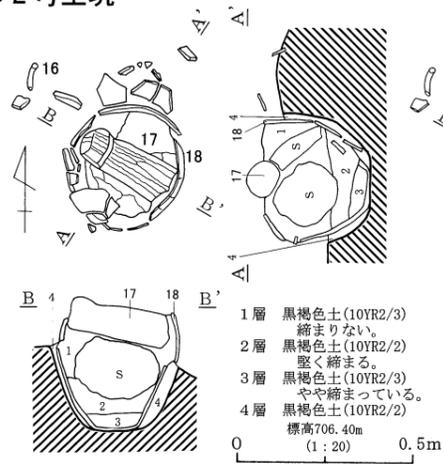


D 3号土坑

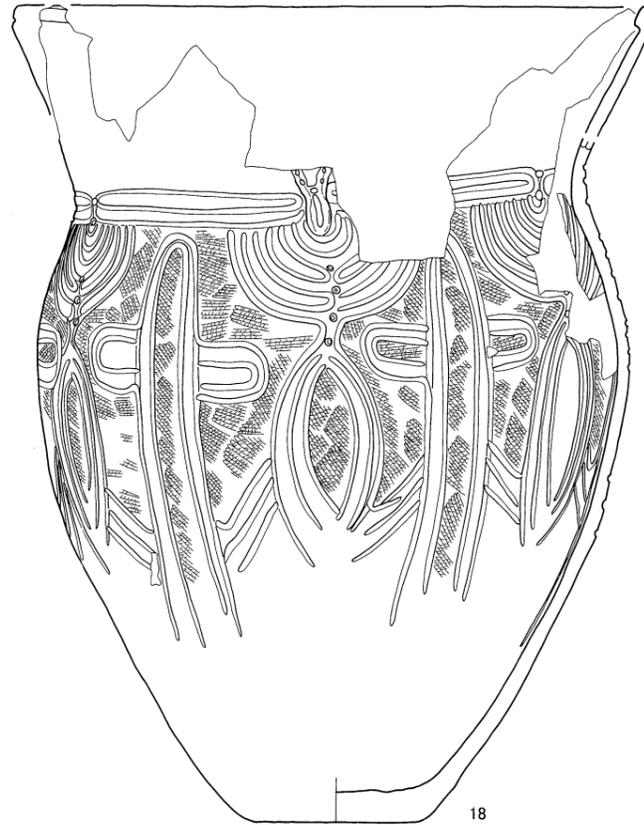
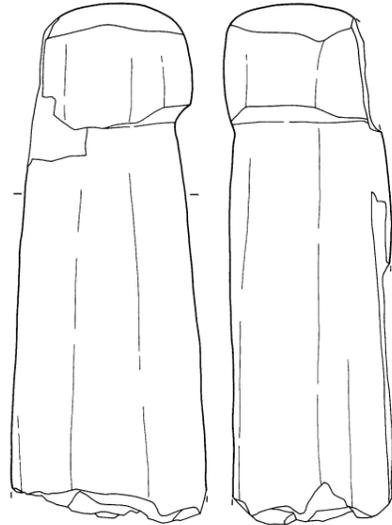
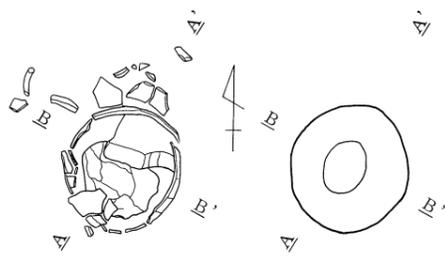
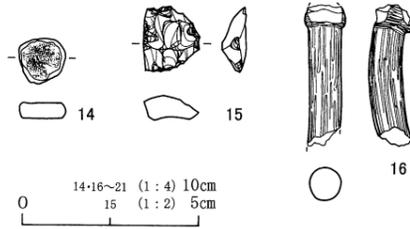


第63図 D1・D3号土坑

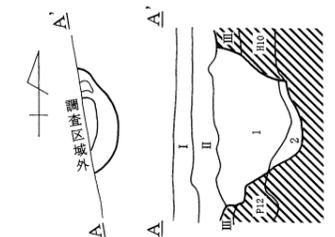
D2号土坑



- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 締まりない。
 - 2層 黒褐色土(10YR2/2) 堅く締まる。
 - 3層 黒褐色土(10YR2/3) やや締まっている。
 - 4層 黒褐色土(10YR2/2)
- 標高706.40m
(1:20) 0.5m

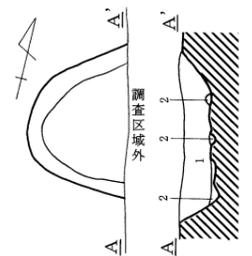


D4号土坑



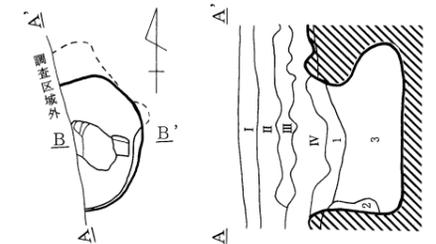
- 1層 黒褐色土(10YR2/3)
 - 2層 黒褐色土(10YR3/2) VI層(黄褐色土)のロームブロック多量。
- 標高706.90m
(1:60) 1.5m

D5号土坑

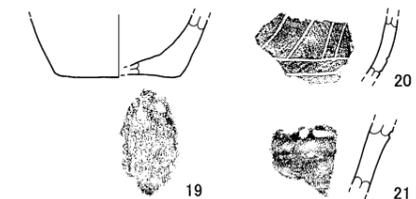


- 1層 黒褐色土(10YR2/2)
 - 2層 褐色土(10YR4/4)
- 標高705.90m
(1:60) 1.5m

D6号土坑

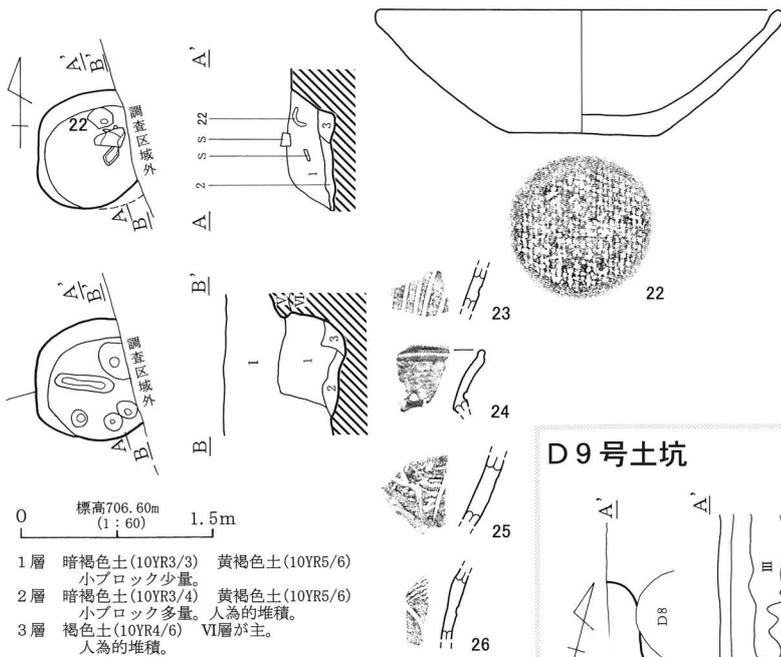


- 1層 黒褐色土(10YR2/3) IV層(黒色土)のブロック少量。
 - 2層 褐色土(10YR4/6) VI層が主。人為的堆積。
 - 3層 暗褐色土(10YR3/4) にぶい褐色土(7.5YR5/4)とにぶい橙色土(7.5YR6/4)のブロック多量。人為的堆積。
- 標高706.90m
(1:60) 1.5m



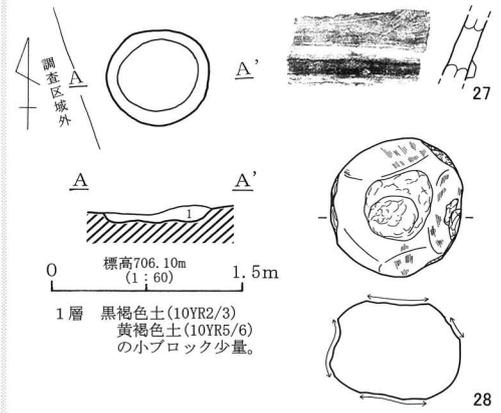
第64図 D2号・D4号・D5号・D6号土坑

D7号土坑



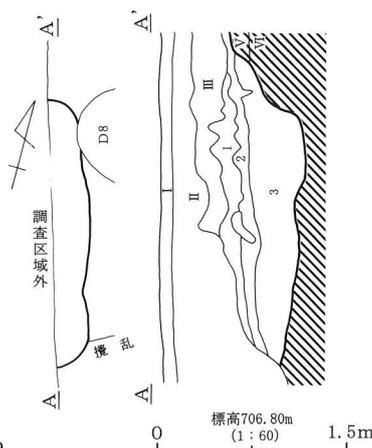
- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土(10YR5/6) 小ブロック少量。
- 2層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6) 小ブロック多量。人為的堆積。
- 3層 褐色土(10YR4/6) VI層が主。人為的堆積。

D8号土坑



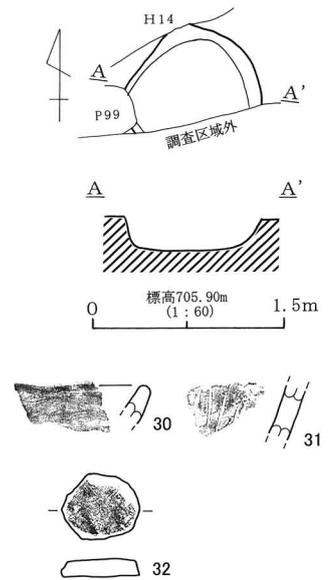
- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6) の小ブロック少量。

D9号土坑

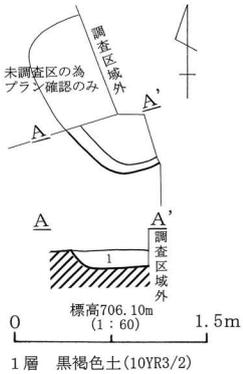


- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 砂質土。
- 2層 全体層序IV層。
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)と 黒褐色土(10YR2/3)の ブロック多量。人為的堆積。

D10号土坑

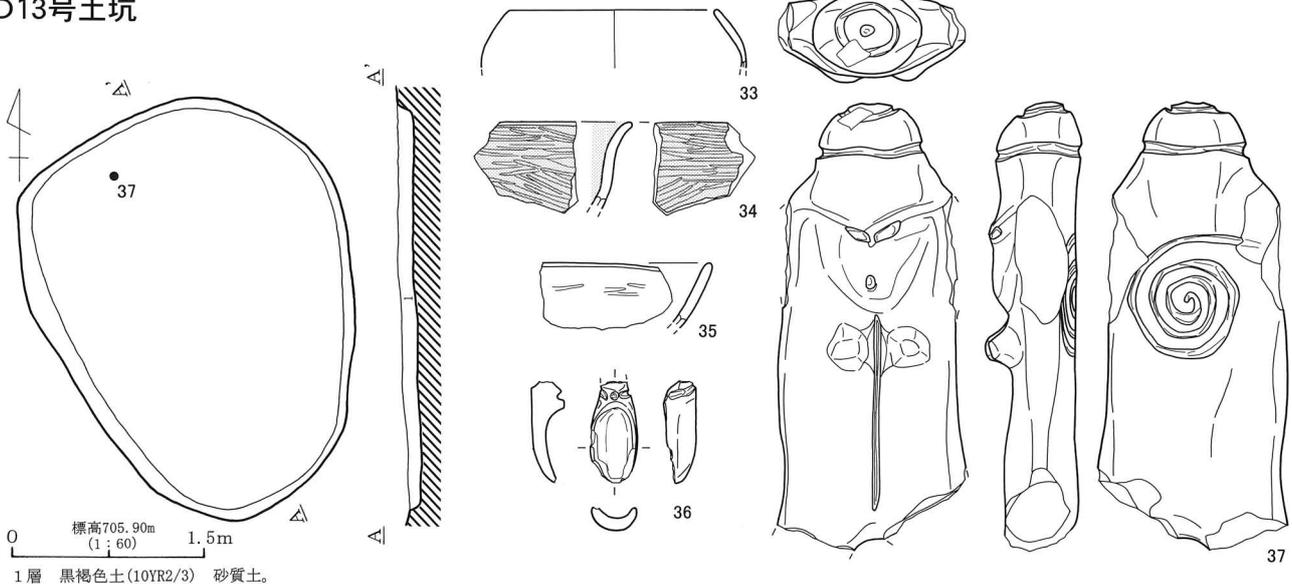


D11号土坑



- 1層 黒褐色土(10YR3/2)

D13号土坑



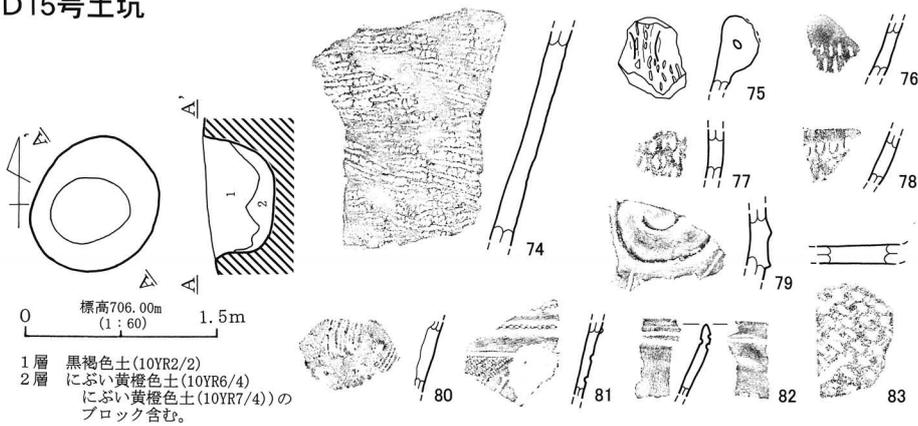
- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 砂質土。

第65図 D7号・D8号・D9号・D10号・D11号・D13号土坑

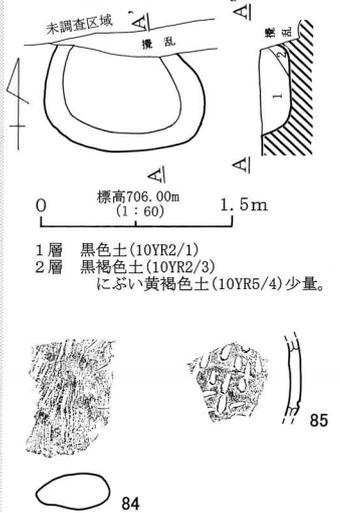
D14号土坑



D15号土坑

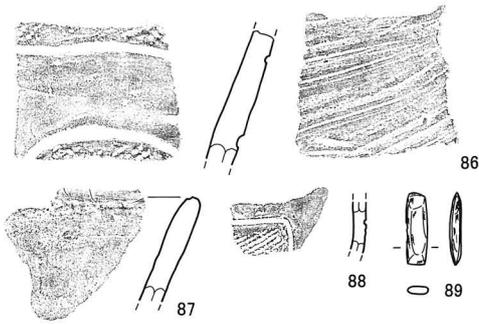


D16号土坑

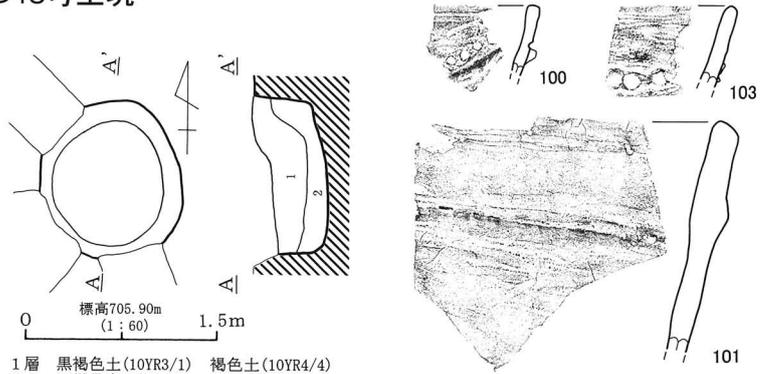


第66図 D14号・D15号・D16号土坑

D16号土坑

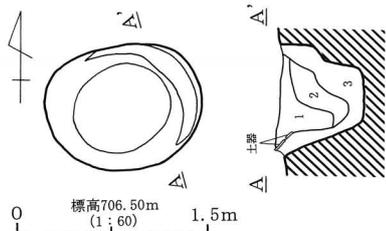


D18号土坑

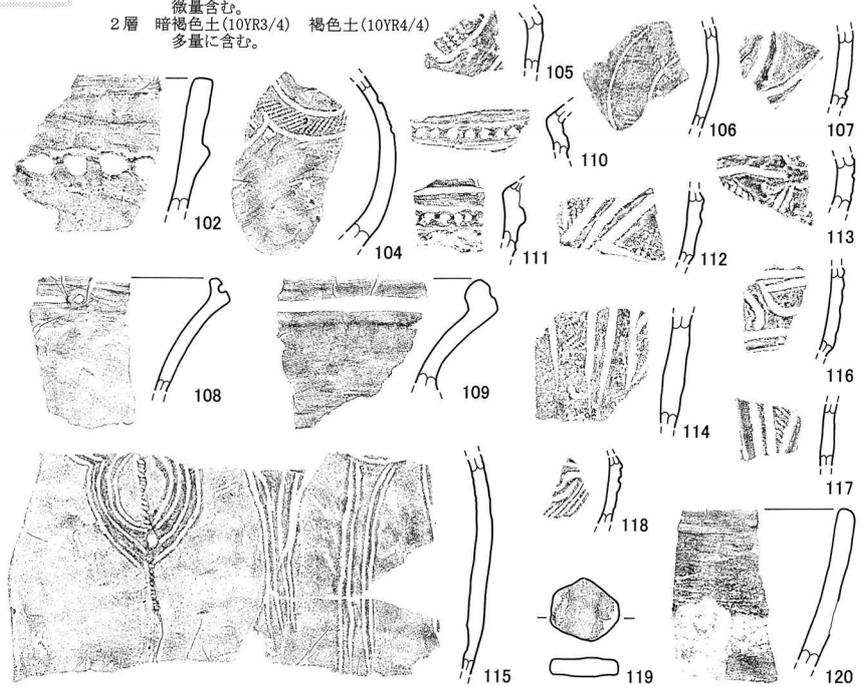
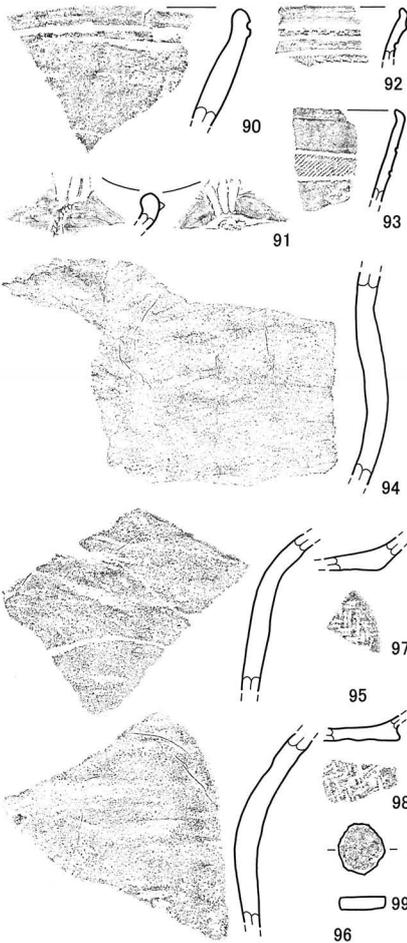


1層 黒褐色土(10YR3/1) 褐色土(10YR4/4)
微量含む。
2層 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土(10YR4/4)
多量に含む。

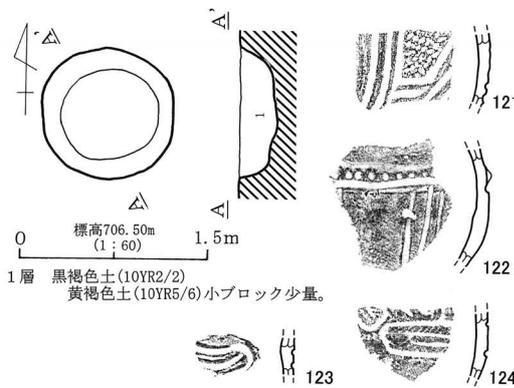
D17号土坑



1層 黒色土(10YR2/1) 黒褐色土(10YR2/3)
ブロック含む。
2層 黒褐色土(10YR2/3)
3層 黒褐色土(10YR2/3) 堅く締まる。
黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/2)
のブロック多量。人為的堆積。



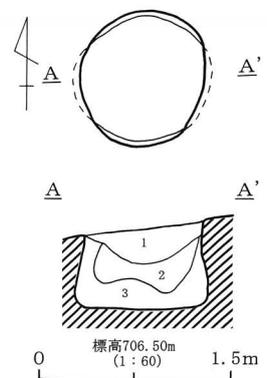
D19号土坑



1層 黒褐色土(10YR2/2)
黄褐色土(10YR5/6)小ブロック少量。



D21号土坑

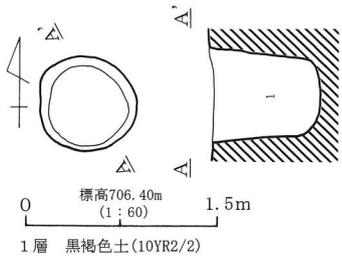


1層 黒褐色土(10YR2/2)
人為的堆積。
2層 褐色土(10YR4/6)
黄褐色ロームが主。
人為的堆積。
3層 黒褐色土(10YR2/3)
褐色土(10YR4/6)の小ブロック
多量。人為的堆積。

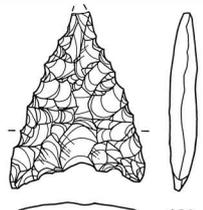
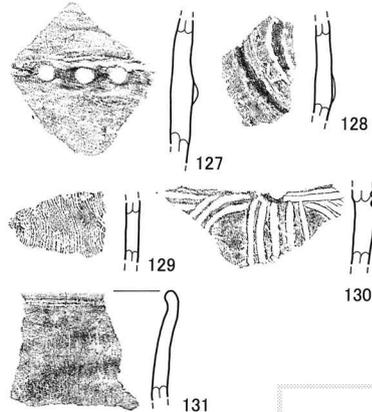
86~88-90~126 (1:4) 10cm
89 (1:3) 7.5cm

第67図 D16号・D17号・D18号・D19号・D21号土坑

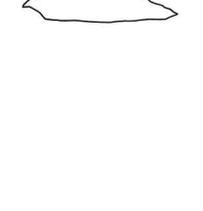
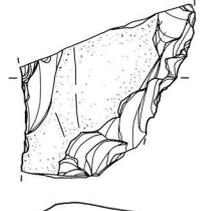
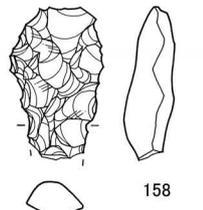
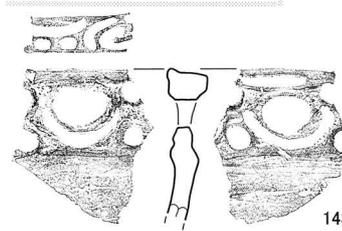
D20号土坑



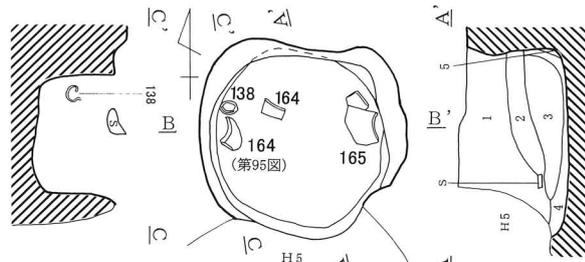
1層 黑褐色土(10YR2/2)



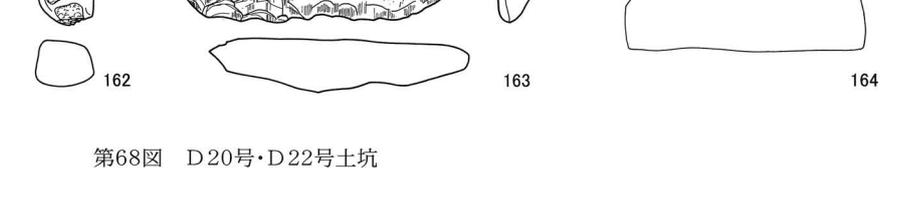
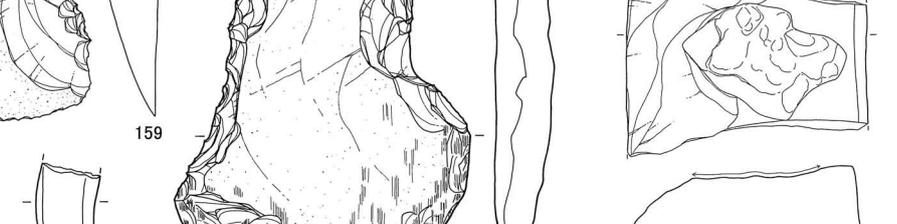
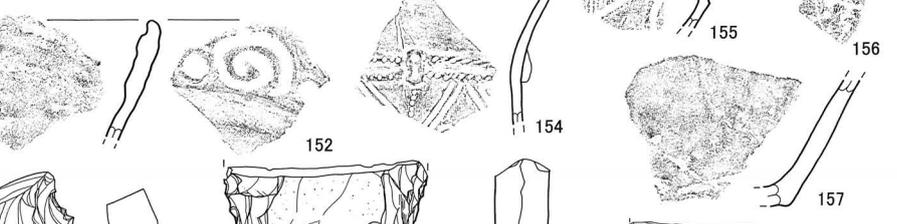
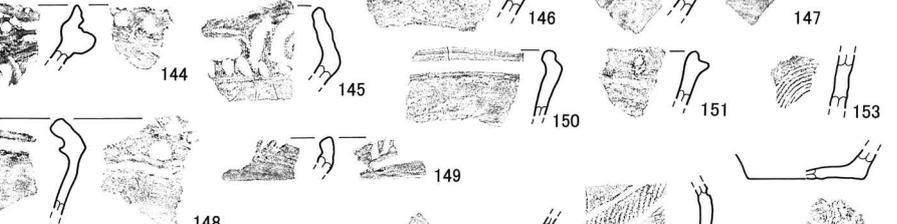
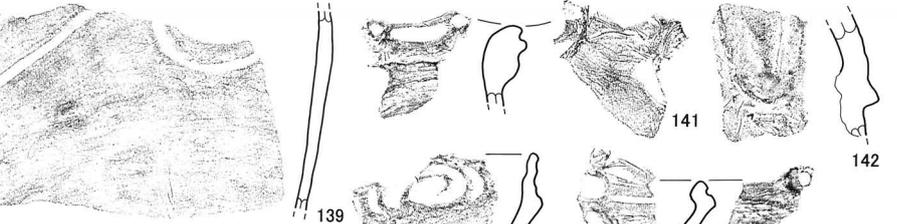
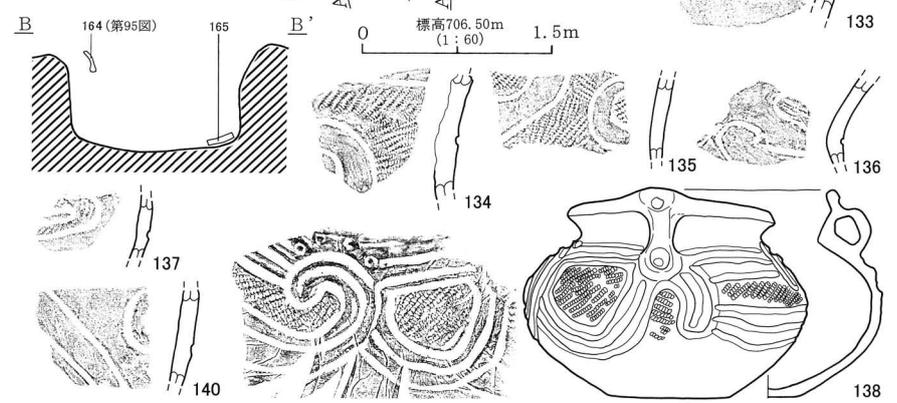
164 (1:6) 15cm
127~131·133~157 (1:4) 10cm
161·162 (1:3) 7.5cm
159·160·163 (1:3) 7.5cm
132·158 (1:1) 2.5cm



D22号土坑



1層 黑褐色土(10YR2/2) 人為的堆積。
2層 黑褐色土(10YR2/3) 人為的堆積。
3層 褐色土(10YR4/4) 人為的堆積。
4層 暗褐色土(7.5YR3/4) 人為的堆積。
5層 黃褐色土(7.5YR5/6) 人為的堆積。



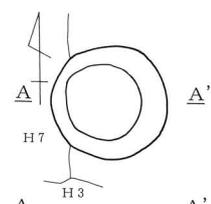
第68图 D20号·D22号土坑

D22号土坑

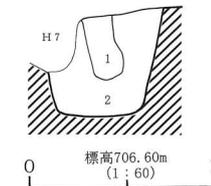
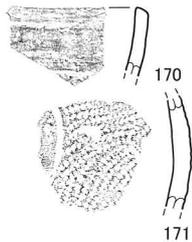


165

D26号土坑



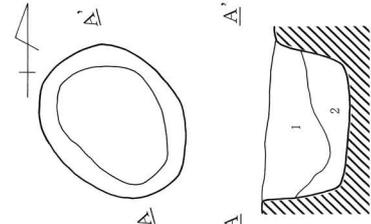
170



1層 黒褐色土(10YR2/3)
2層 暗褐色土(10YR3/3)
上部に黒褐色土(10YR2/2)に
ぶい褐色土(7.5YR5/4)の
ブロック多量に含み、下部
に黒褐色土にぶい黄褐色土
の帯状ブロックを含む。
人為的堆積。

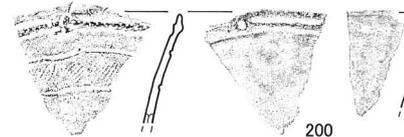
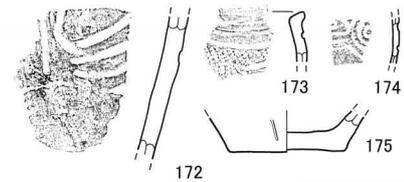
標高706.60m
(1:60)

D27号土坑

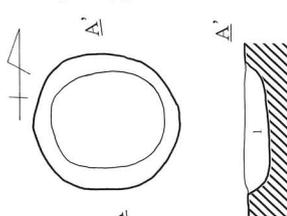


標高706.40m
(1:60)

1層 黒褐色土(10YR2/3)
黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。
人為的堆積。
2層 暗褐色土(10YR3/4)
褐色土(10YR4/4)のブロック多量。
人為的堆積。

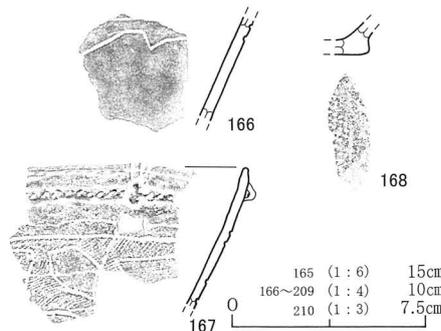


D23号土坑



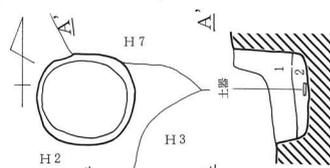
標高706.50m
(1:60)

1層 黒褐色土(10YR2/2)



165 (1:6) 15cm
166~209 (1:4) 10cm
210 (1:3) 7.5cm

D25号土坑

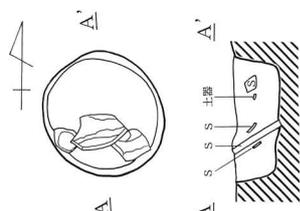


標高706.20m
(1:60)

1層 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土
(10YR4/6)・暗褐色土(10YR3/3)の
ブロック多量。
2層 暗褐色土(10YR3/3)

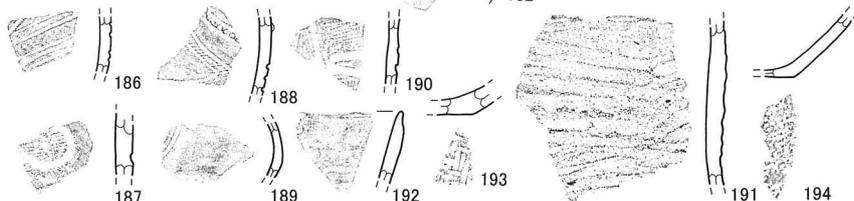


D28号土坑

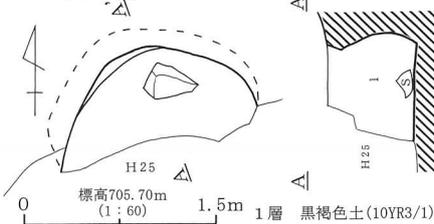


標高706.50m
(1:60)

1層 黒褐色土(10YR2/2)

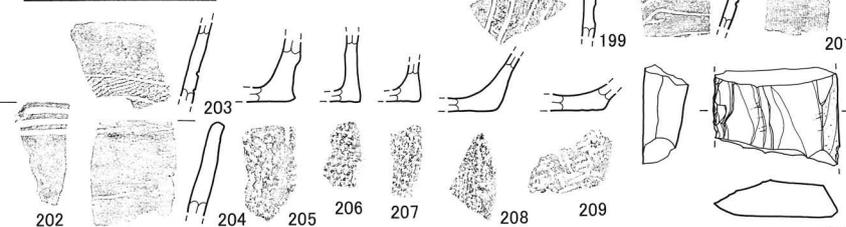


D29号土坑



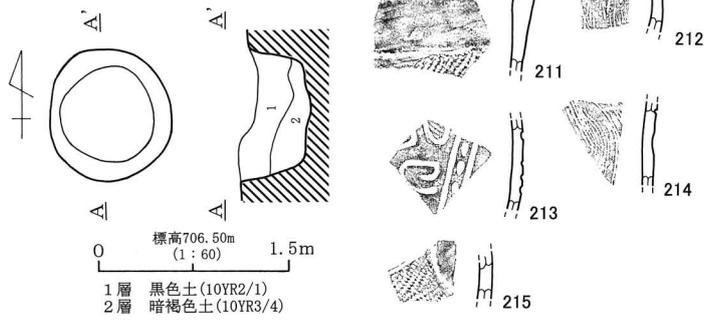
標高705.70m
(1:60)

1層 黒褐色土(10YR3/1)

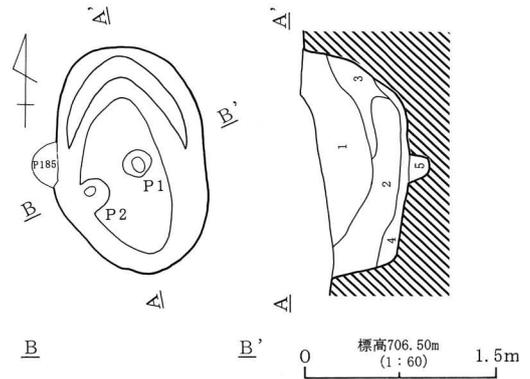


第69図 D22号・D23号・D25号・D26号・D27号・D28・D29号土坑

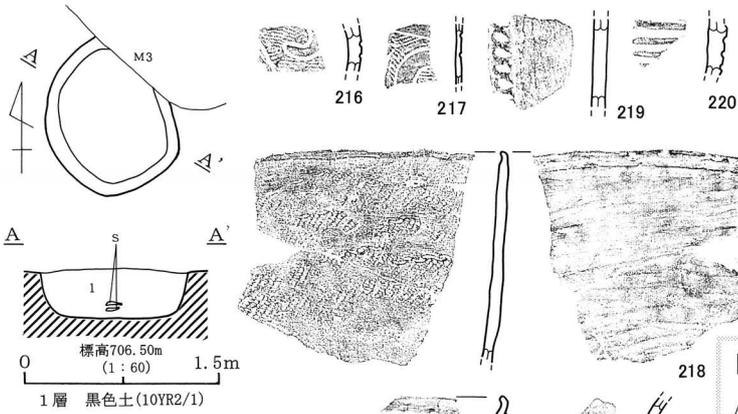
D30号土坑



D32号土坑

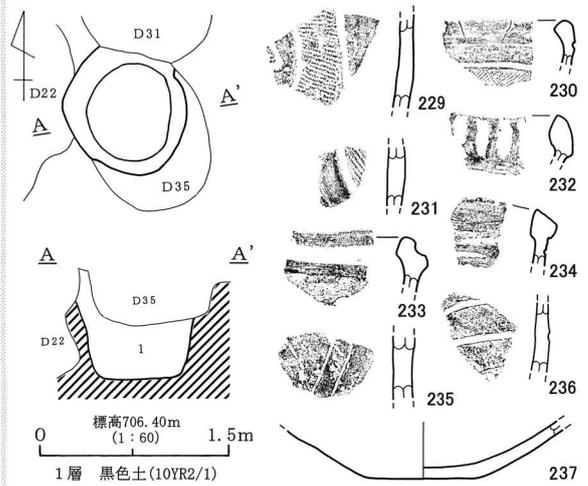


D31号土坑

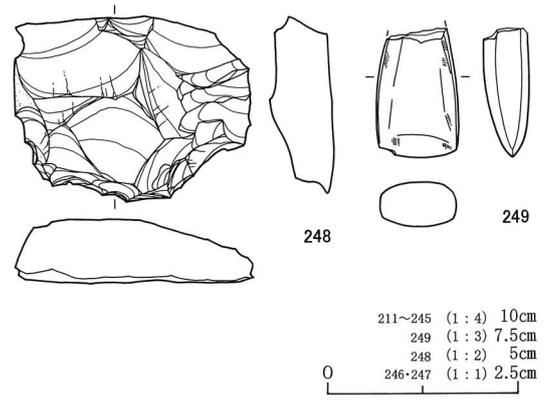
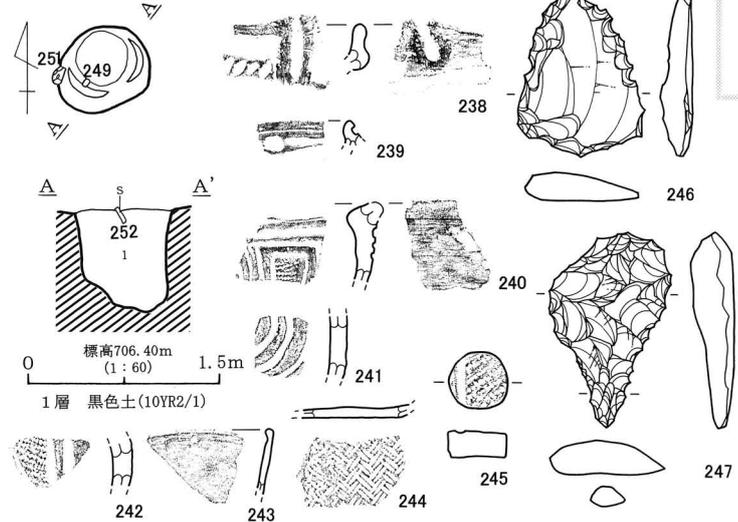


- 1層 にぶい黄褐色土(10YR5/3)
明黄褐色土(10YR7/6)ブロック・粒子含む。
人為的堆積。
- 2層 黒褐色土(10YR7/6)ブロック含む。人為的堆積。
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR7/4)人為的堆積。
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR5/4)
- 5層 浅黄褐色土(10YR8/4)を含む。人為的堆積。
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR6/3)

D33号土坑



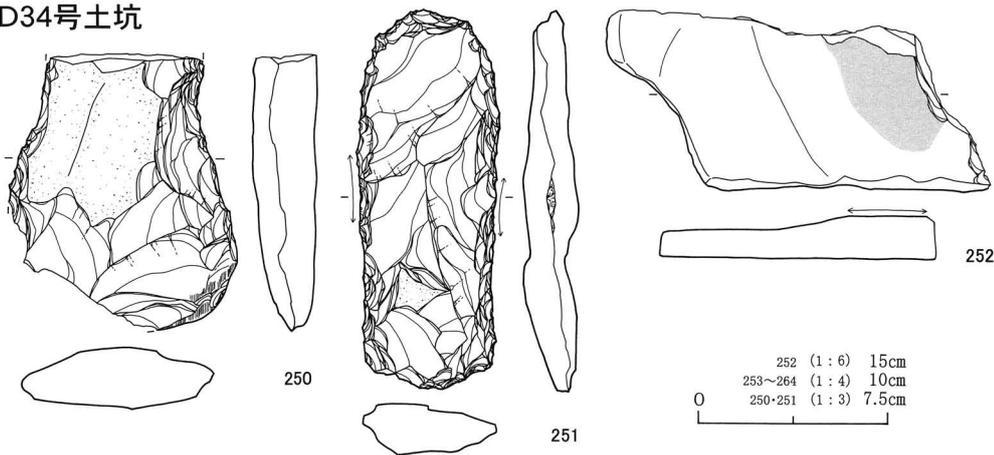
D34号土坑



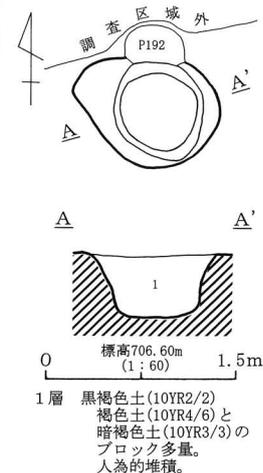
- 211~245 (1:4) 10cm
- 249 (1:3) 7.5cm
- 248 (1:2) 5cm
- 246~247 (1:1) 2.5cm

第70図 D30号・D31号・D32号・D33号・D34号土坑

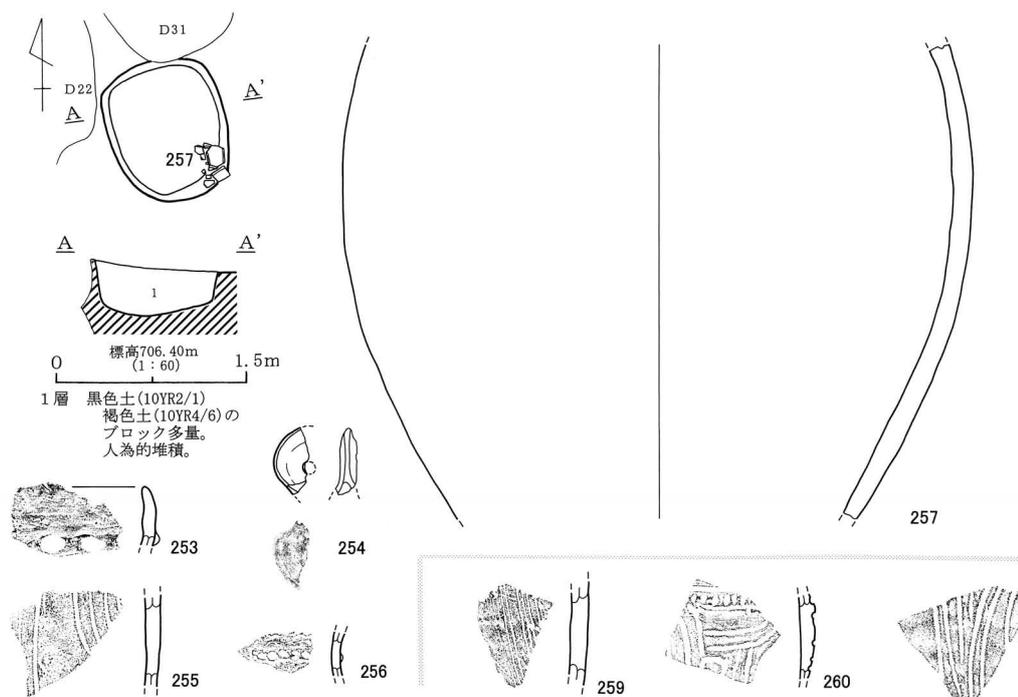
D34号土坑



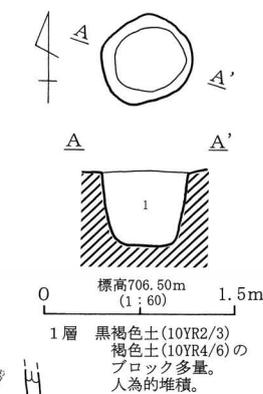
D36号土坑



D35号土坑



D37号土坑



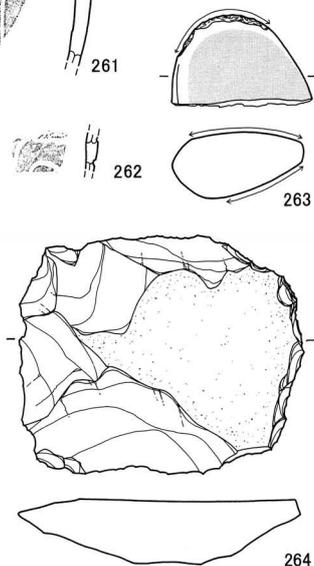
第71図 D34号・D35号・D36号・D37号土坑

8の胴部内面は黒色に変化し、薄い黒色の付着物が見える。

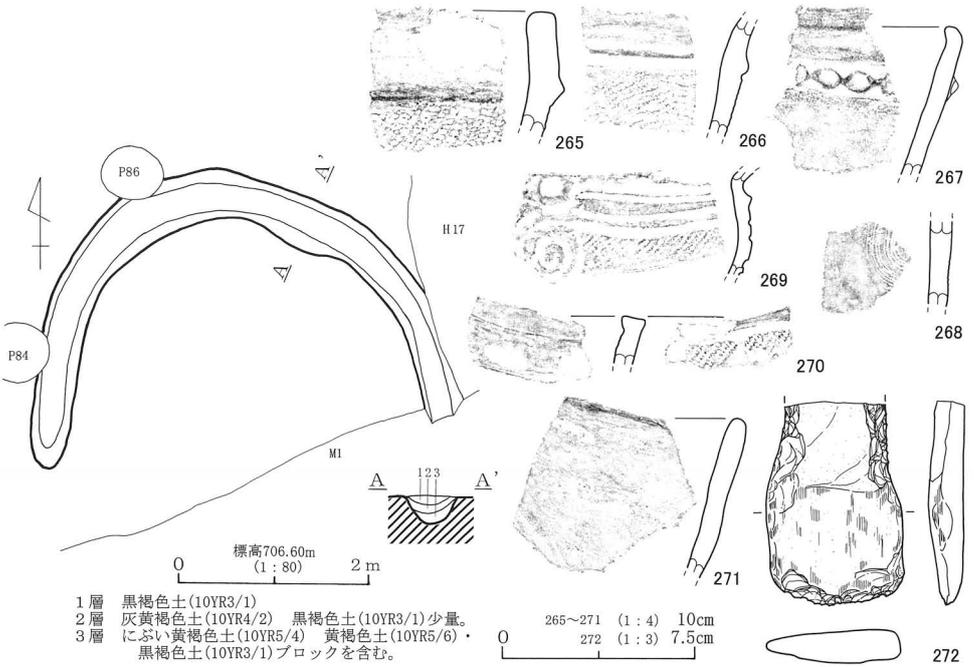
P97はす-11グリッドで縄文時代後期前葉のD14土坑、M1号溝状遺構に切られる。残存高61.5cmの口縁部を欠く大型粗製深鉢がほぼ正位に埋設されていた。

ある程度時期が想定できる土坑は、次のとおりである。

- ・ 縄文時代中期後半～後期前葉の土器が出土。D14・D30
- ・ 縄文時代後期初頭～前葉の土器が出土。D15・D18・D21～D23・D27・D33・D37
- ・ 縄文時代後期前葉の土器が出土。D1～D3・D6～D10・D15～D17・D19・D21・D25・D26・D28・D29・D31・D34・D35・P97
- ・ 弥生時代中期栗林式が出土。D36
- ・ 古墳時代後期と縄文時代後期前葉の土偶等が出土している。D13土坑は、け・こ-11・12グリッドで弥生後期・古墳時代後期・平安



時代のH15・H23・H25を切る。古墳時代後期の土師器と縄文時代後期前葉の土偶と土製匙が出土した。土偶は両腕と足を欠損する。中期の板状土偶の伝統を残し、体部側面形は扁平で頭部が肩の真上に付かず、体部上端の前面についている。前面には乳房を突起、正中線を沈線で、細長い刺穴でつり上がった目、隆帯で眉と鼻を表現している。頭部の一条の沈線はかぶり物の表現か？背面に渦巻き状沈線、頭頂部に垂直な盲孔と円形沈線を施す。



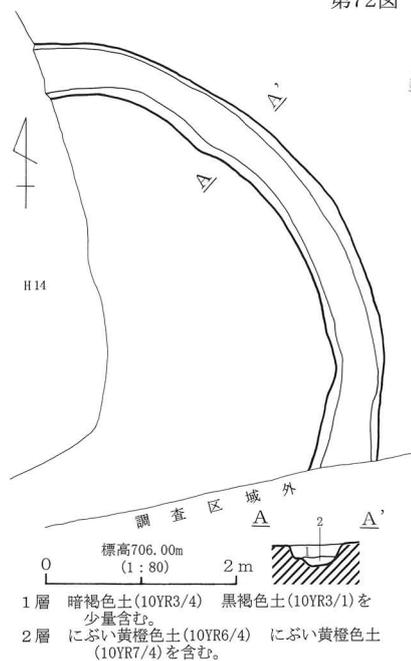
第72図 OT 1号円形周溝

7. 円形周溝墓

3基の円形・方形周溝が検出された。主体部が検出されないが、形状・遺構重複関係や80m東方長野県埋蔵文化財センターの西近津遺跡群の調査で弥生時代の周溝墓が17基調査されており周溝墓として大過ないであろう。

(1) OT 1号円形周溝

し・す11グリッドで、H17・M1・P84・P86に切られ、P98・P137・P143・P144を切る。径は溝外側で4.6m、幅0.40~0.56m深さ0.27m前後、南西で溝が切れる。



第73図 OT 2号円形周溝

遺物は縄文時代中期後・後期初頭・後期前葉の土器、打製石斧が出土した。

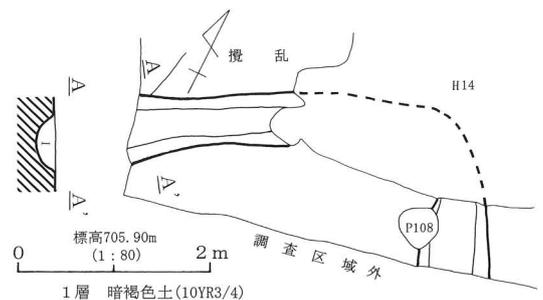
(2) OT 2号円形周溝

し13・14グリッドで、H14に切られ、P92・D18を切る。径は溝外側で推定7m、幅0.5~0.6m深さ0.21m前後。

遺物は弥生時代後期箱清水式の甕、縄文時代後期前葉・中葉の土器、敲石が出土した。

(3) OT 3号方形周溝墓

し14・す14グリッドで、H14・P108に切られる。1辺推定4m以上、幅0.5~0.7m深さ0.23m前後。出土遺物はない。

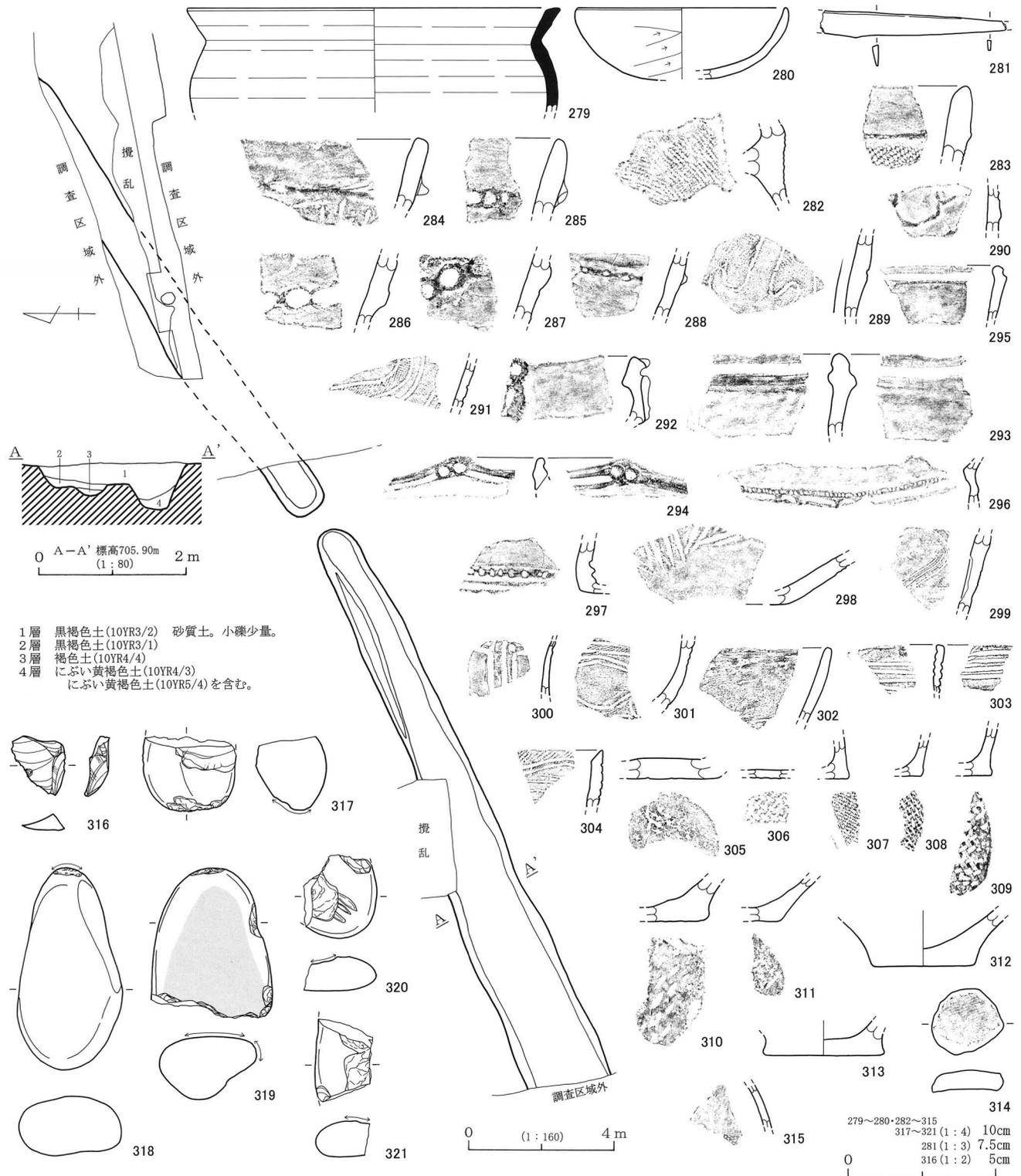


第74図 OT 3号方形周溝

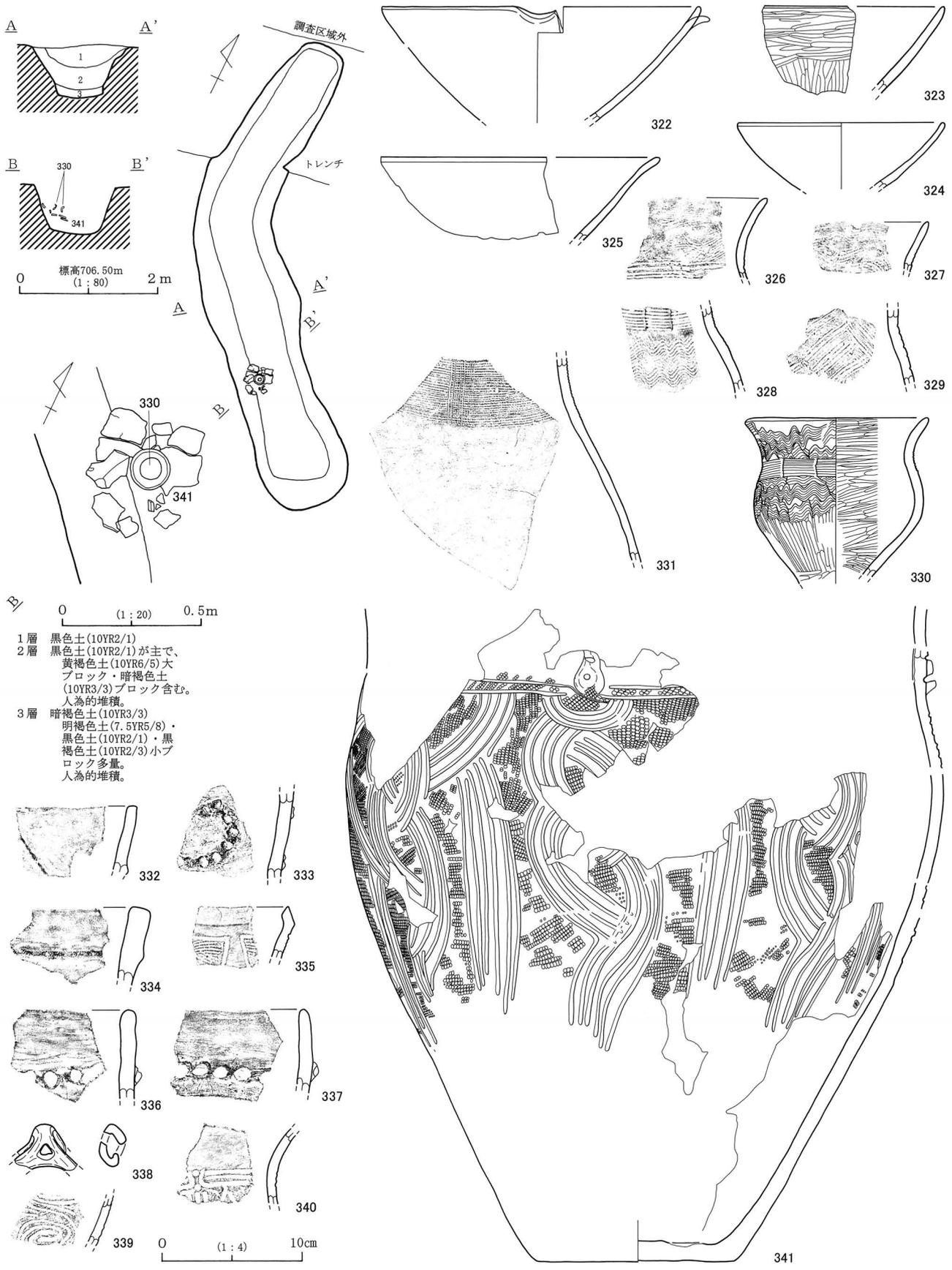
8. 溝状遺構

(1) M1号溝状遺構

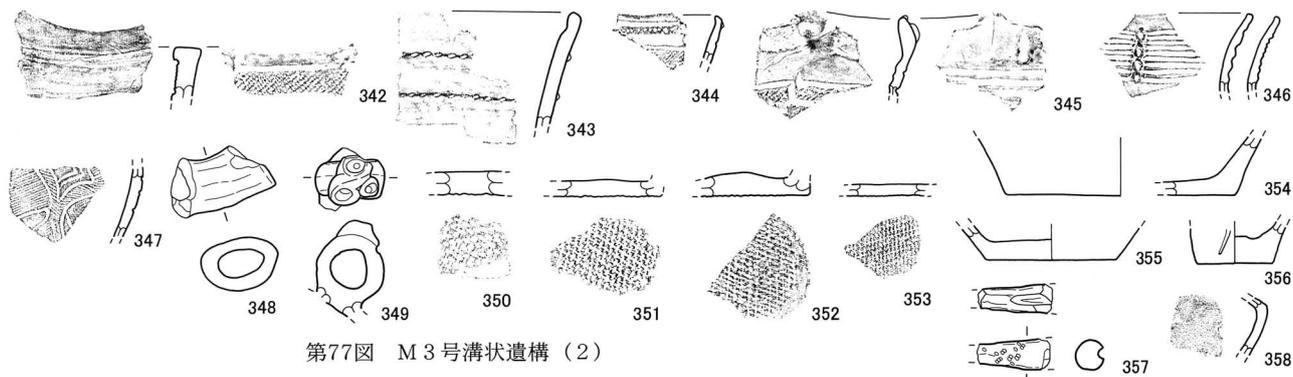
か～す-8～12グリッドで、H15・H17・H18・OT1・D29・P91・P105・P142を切る。H15号住居址カマド煙道部で途切れ、西側は西近津遺跡IVで検出された溝に続きさらに西に延び、東は未調査区域に延びる。H17・H18重複部分で溝底が把握できず、溝西側部分ではテラスを持つ断面形とU字状



第75図 M1号溝状遺構



第76図 M3号溝状遺構(1)



第77図 M3号溝状遺構(2)

の断面形で(掘下げ時のM2で欠番とする。)

東側はテラスを持つ。H15東側は断面U字形であり、同一の溝で新旧関係があったのかもしれない。東端と低い西端で20cmの高低差がある。溝底は堅くない。遺物は須恵器甕・土師器坏・刀子の他縄文時代中期後葉・後期初頭・後期前葉・後期中葉の土器、石器が出土した。

本址は、住居址との重複関係から古墳時代後期以降の所産であろう。

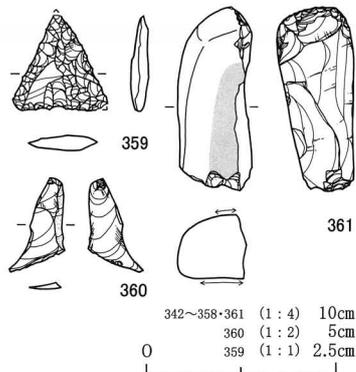
(2)M3号溝状遺構

き・く-3・4グリッドで、D31・P89・P188を切る。くの字形の平面形で南北長7.26m上端最大幅1.34m最深度0.95m、断面は逆梯子形。

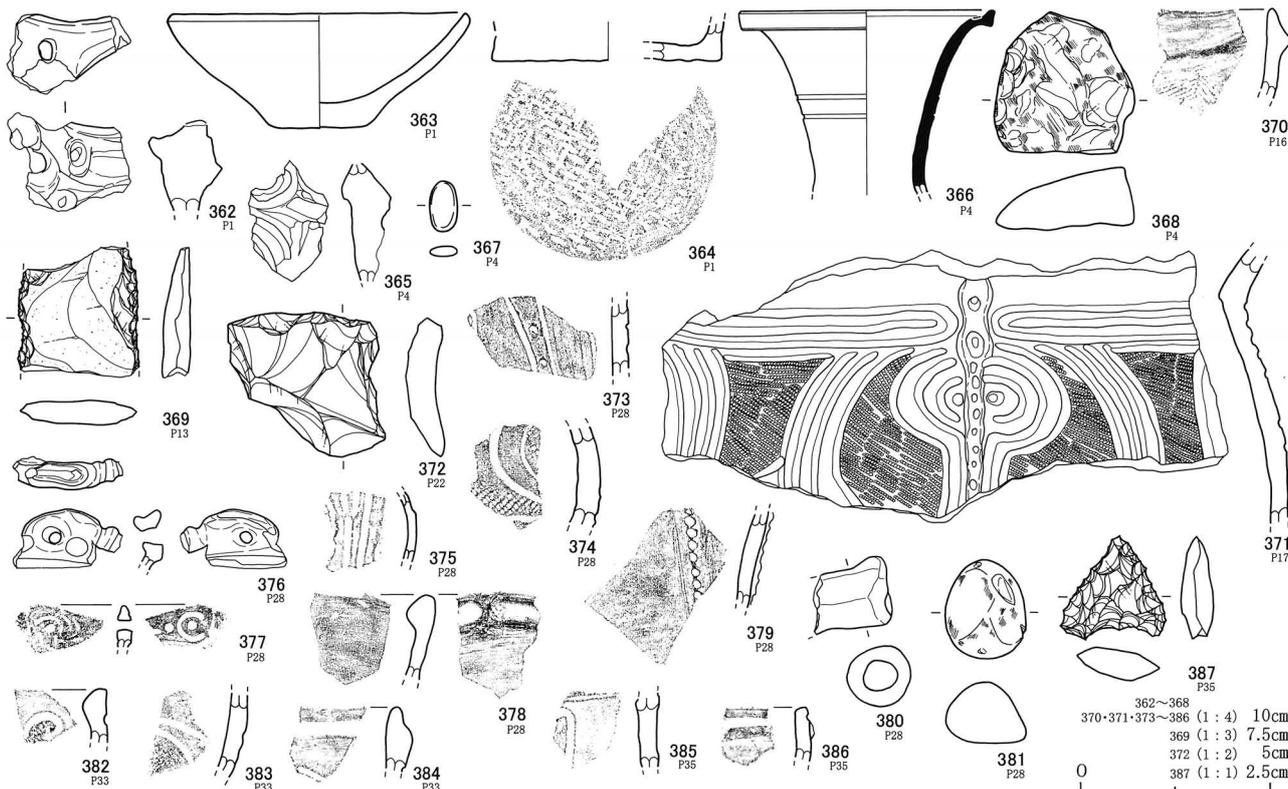
覆土は2・3層が人為的な埋土、3層上面から341の縄文土器片を敷き

330の弥生後期甕が置かれた状態が確認された。遺物は弥生時代後期箱清水式の壺・甕・台付甕・鉢・片口鉢・高坏、縄文時代後期初頭・後期前葉・後期中葉の土器・不明土製品、石器が出土した。

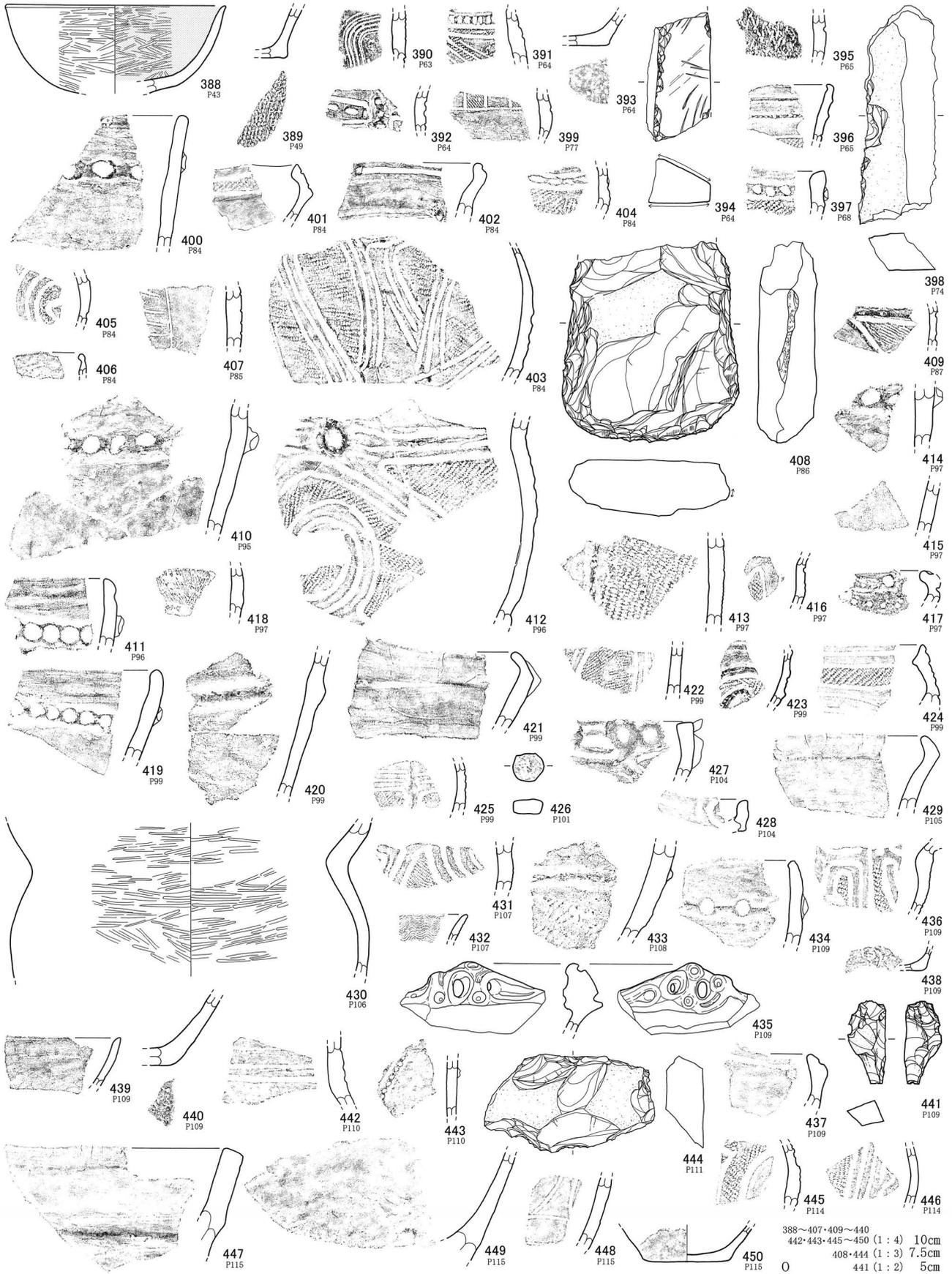
本址は、弥生時代後期箱清水式の所産である。



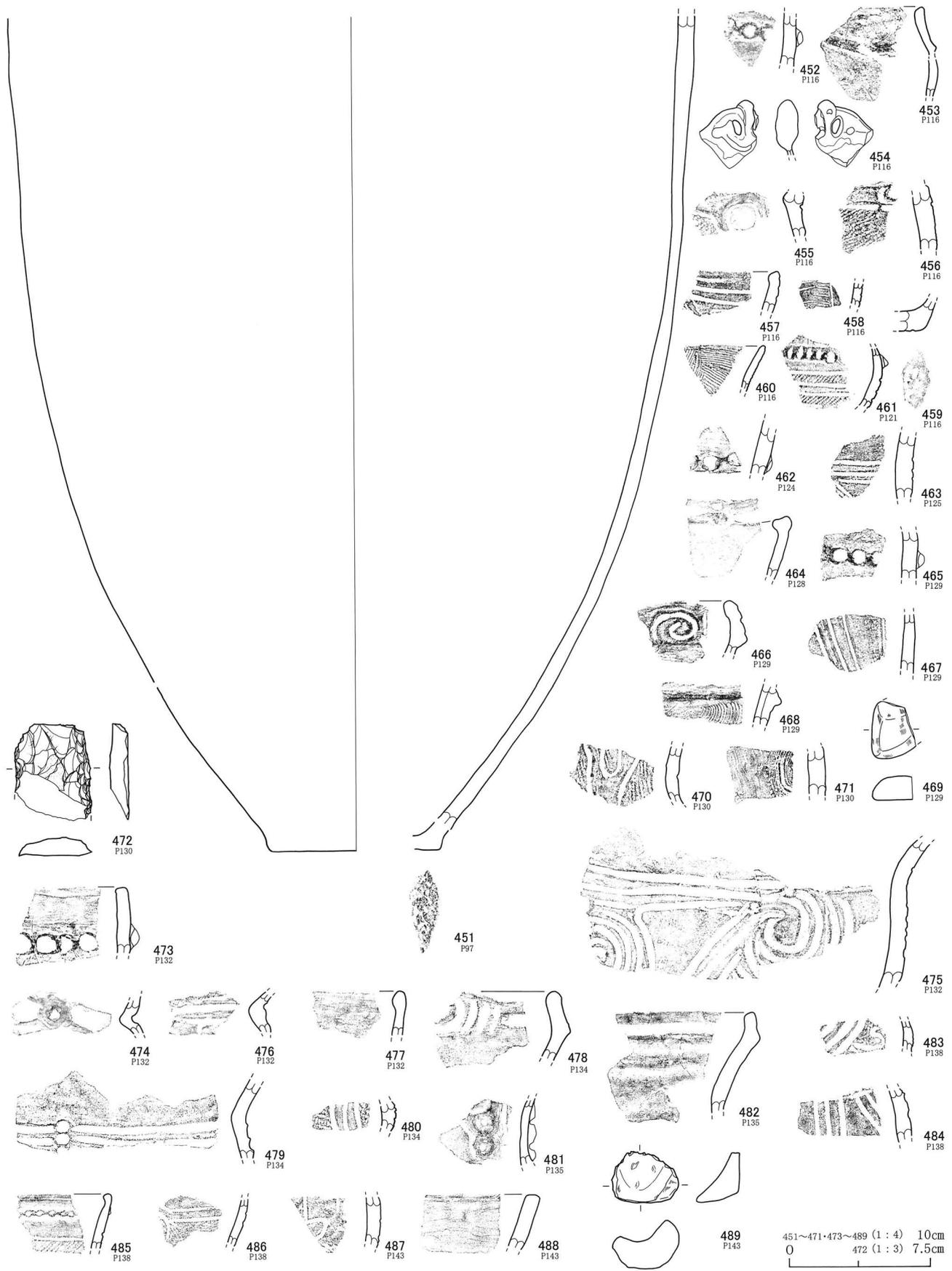
9. ピット



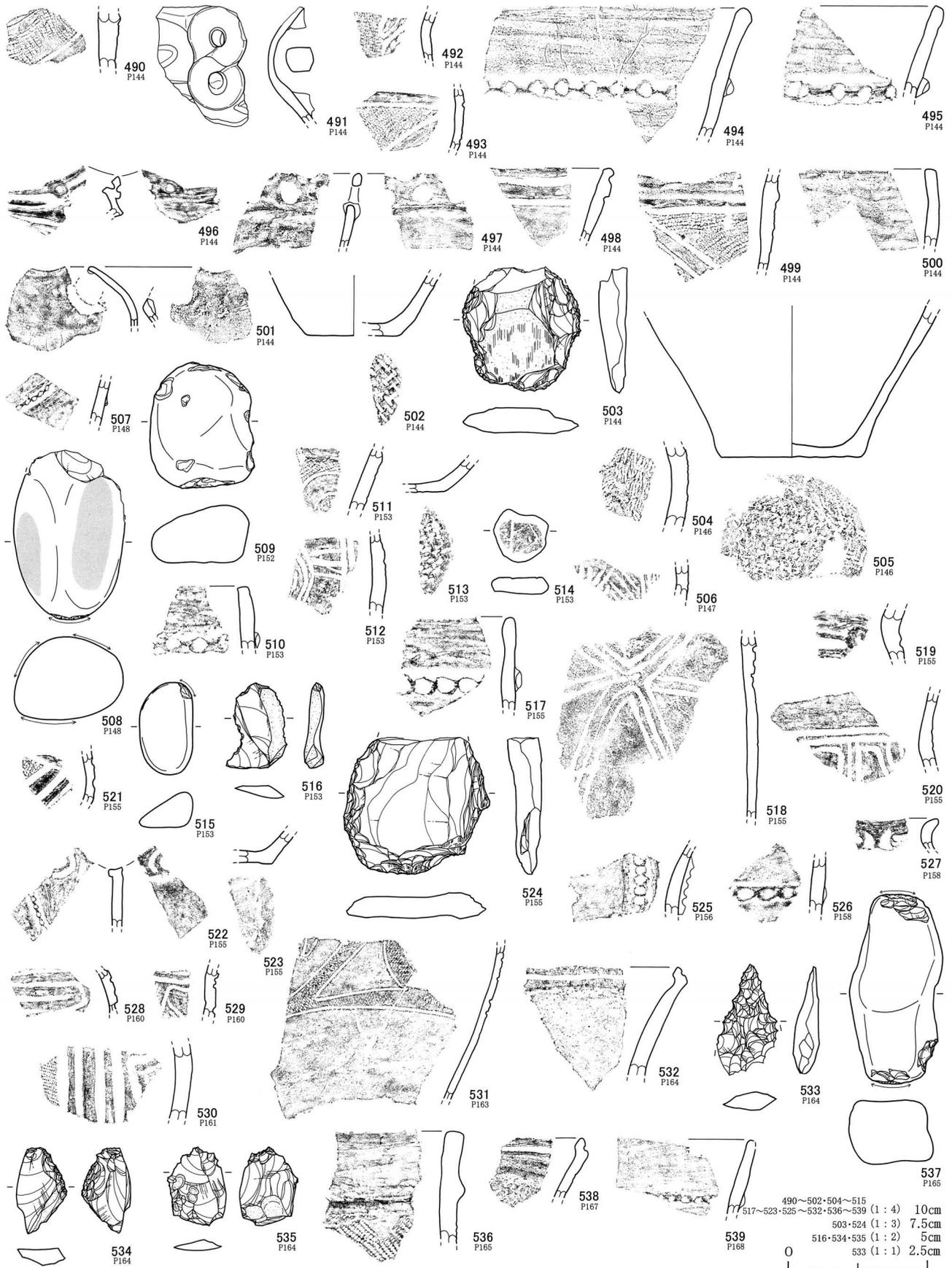
第78図 ピット出土遺物実測図(1)



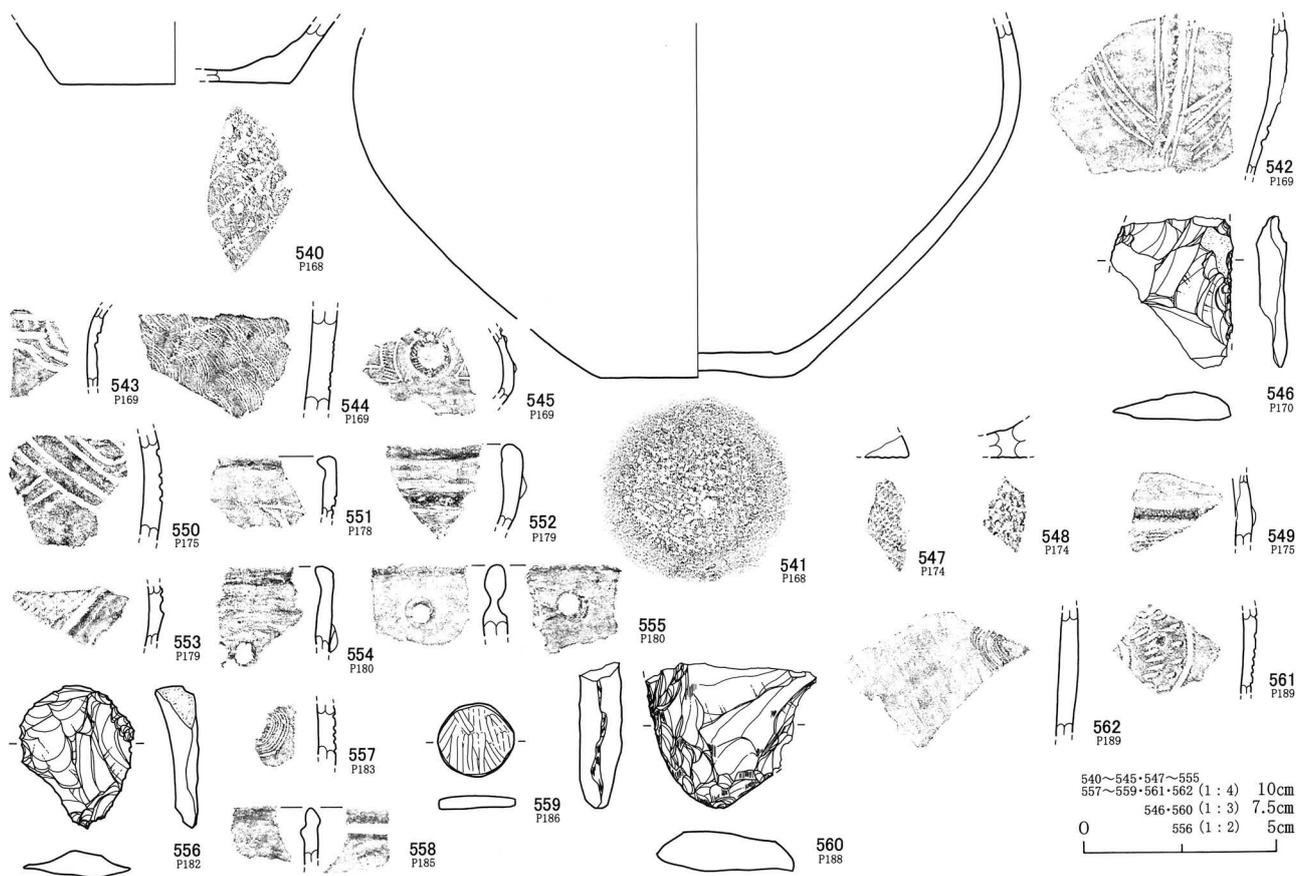
第79図 ピット出土遺物実測図(2)



第80図 ビット出土遺物実測図 (3)



第81図 ピット出土遺物実測図(4)



第82図 ピット出土遺物実測図(5)

ピットは201基が検出され、A地区2地点、B地区の3地点に集中している。

A調査区H3(8世紀前半)とH1(弥生時代後期)周辺では、H1と新旧の重複が多くH2~4との重複が少ない。この地点のピットの時期はH1以前の縄文時代後期初頭から前葉、H2~H4の8世紀代が考えられよう。H12・土坑群(縄文時代後期)の周辺では、H5(8世紀後半)・H12との重複がなく、土坑群(縄文時代後期)との新旧の重複が多い。

A地区のP1・P28・P33・P153・P155・P169からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器が多く出土している。P4からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器と平安時代の須恵器長頸壺が出土している。

B地区ほぼ全体で検出されたが、H23(9世紀前半)とD13より新しいものは確認されていない。H15・H17(古墳時代後期)との新旧重複、H25(弥生時代後期)より新しく、H14(8世紀前半)より古い傾向がある。

B地区のP49・P97・P99・P109・P115・P116・P129・P132・P138・P144・P164からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器が多く出土している。

P97は、人骨の出土は確認されていないが第80図451の粗製深鉢がほぼ正位の状態で置かれており土器棺墓の可能性はある。

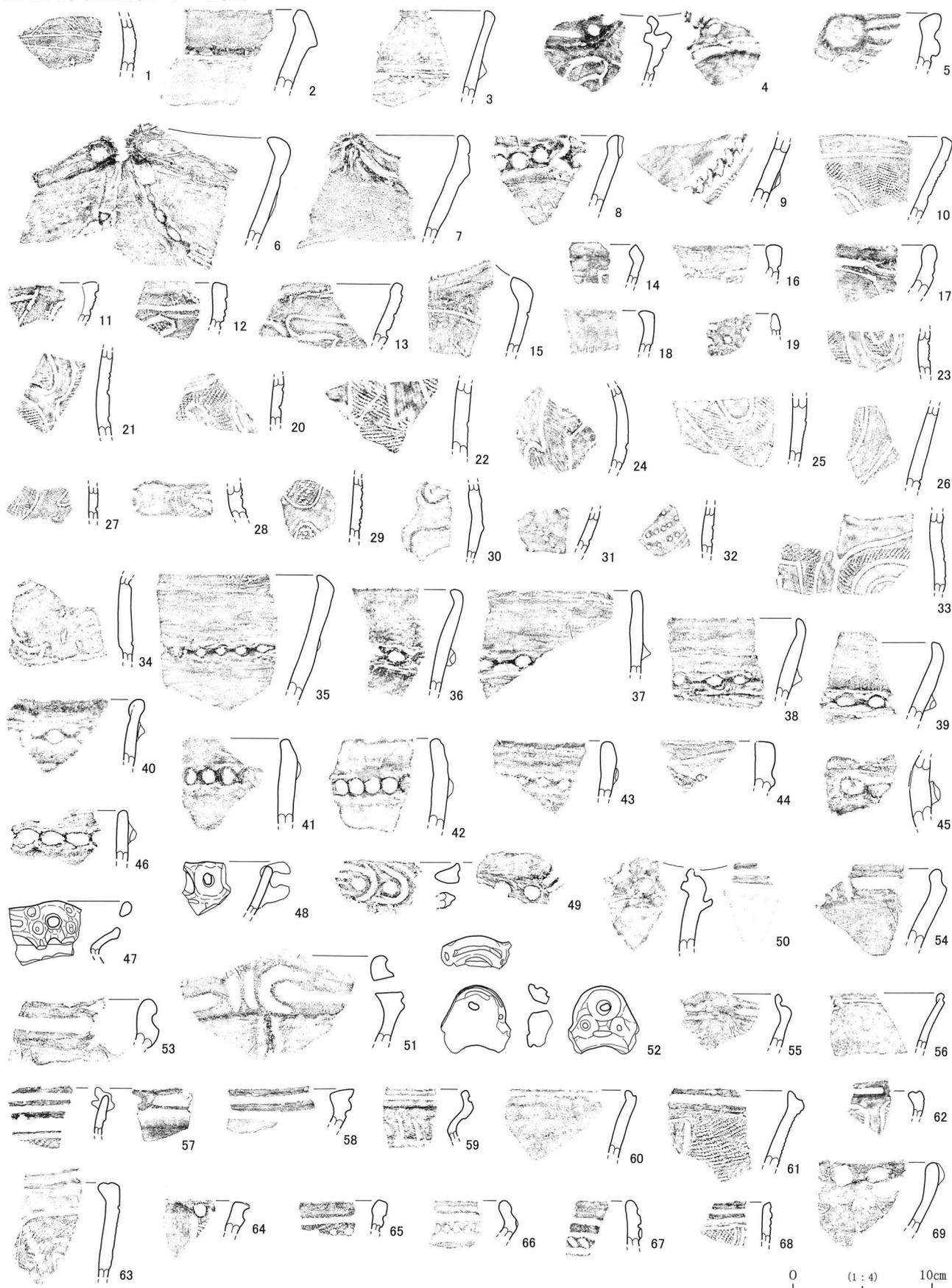
10.遺構外出土遺物

縄文時代早期・中期後半・後期初頭・前葉・中葉・後葉、弥生時代中期・後期、土師器・須恵器、石器、鉄器、縄文時代石製品、縄文時代土製品が出土した。

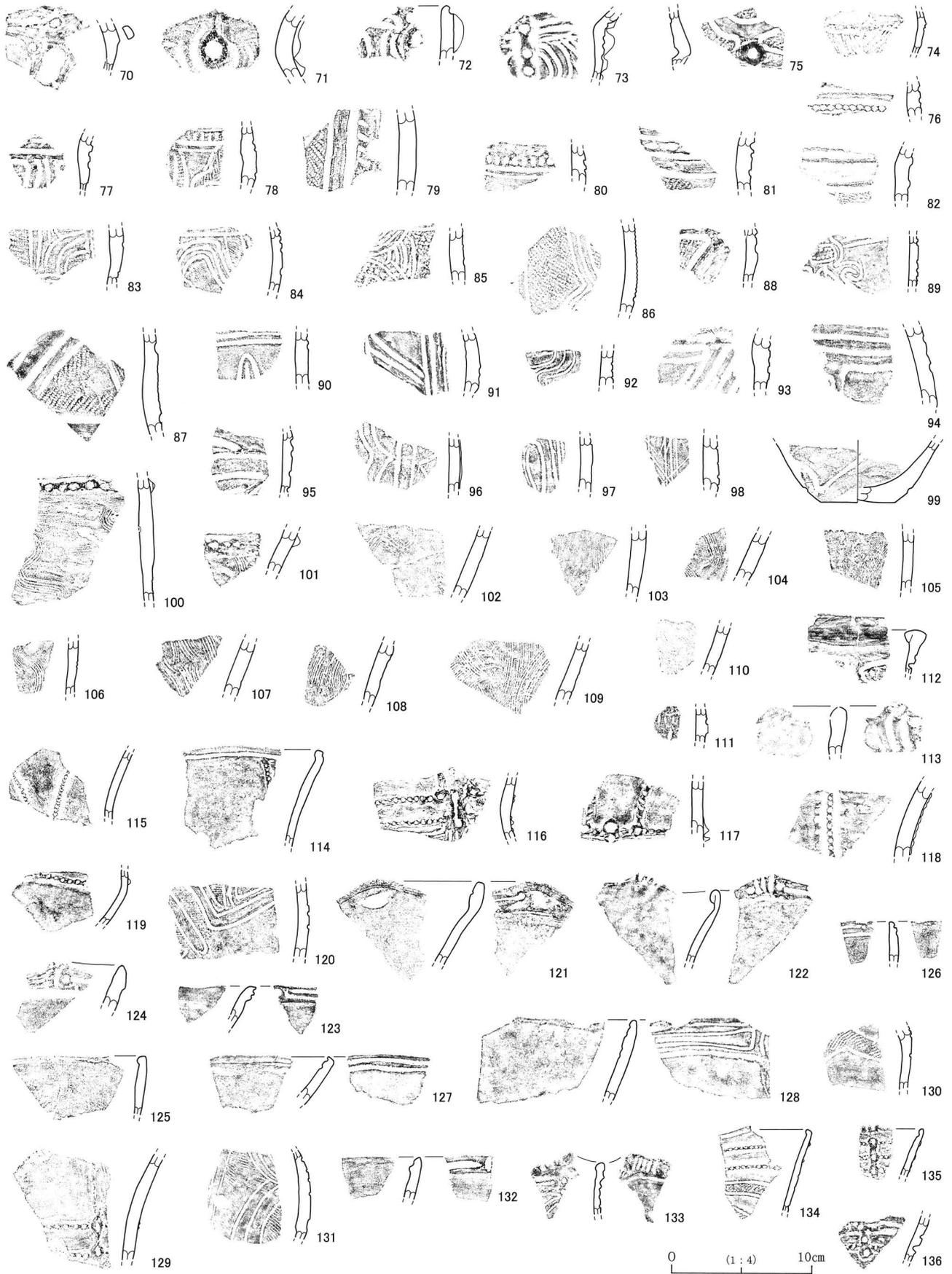
縄文時代早期田土下層式であろう深鉢片がA地区く4グリッドから出土した。

縄文時代後期初頭土器は、A地区のH12号住居址周辺に集中している。縄文時代後期前葉土器は、土坑群の周辺とD34周辺、東側に密集するピット群周辺に集中している。

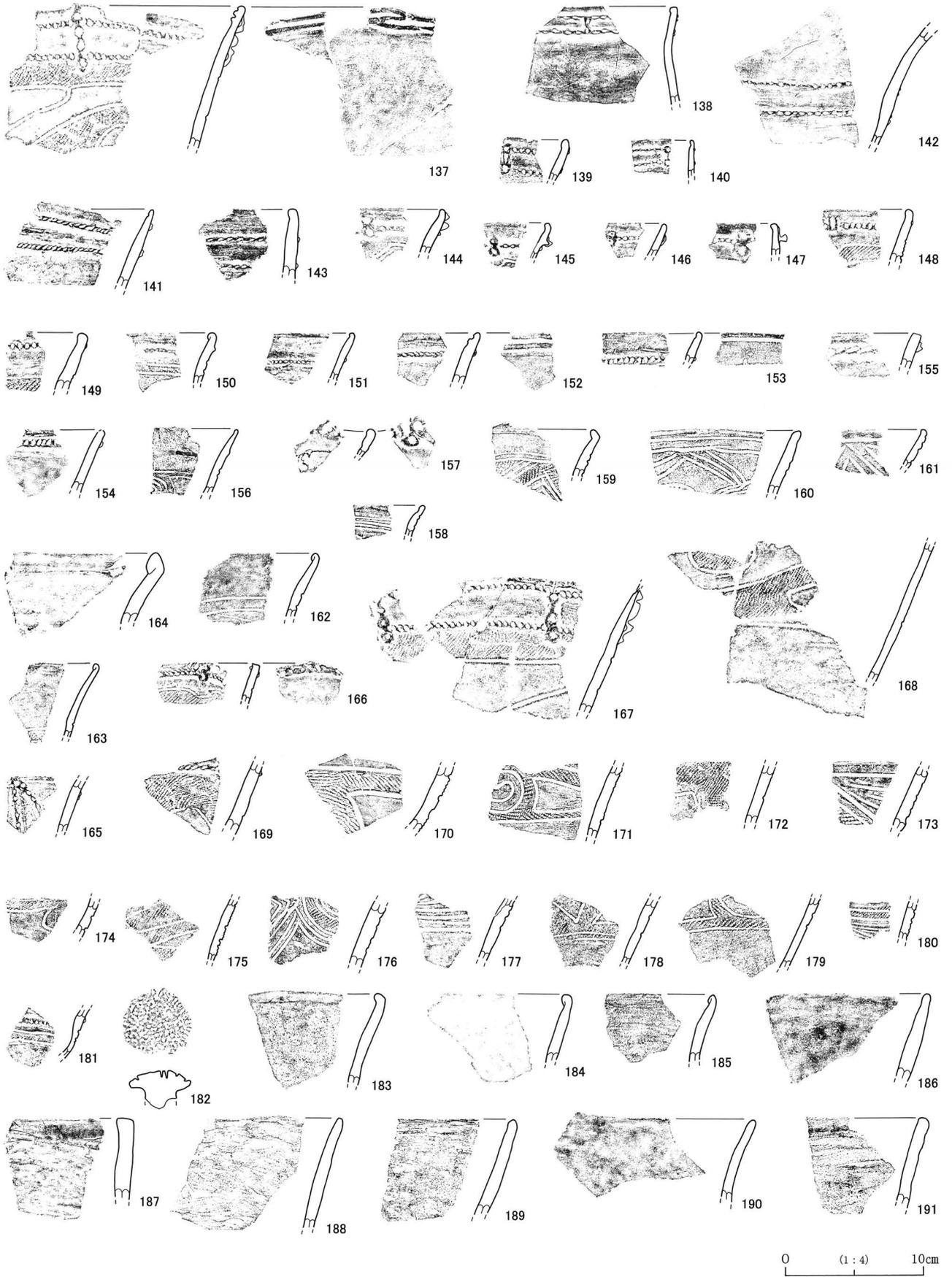
遺構外出土遺物 (A地区)



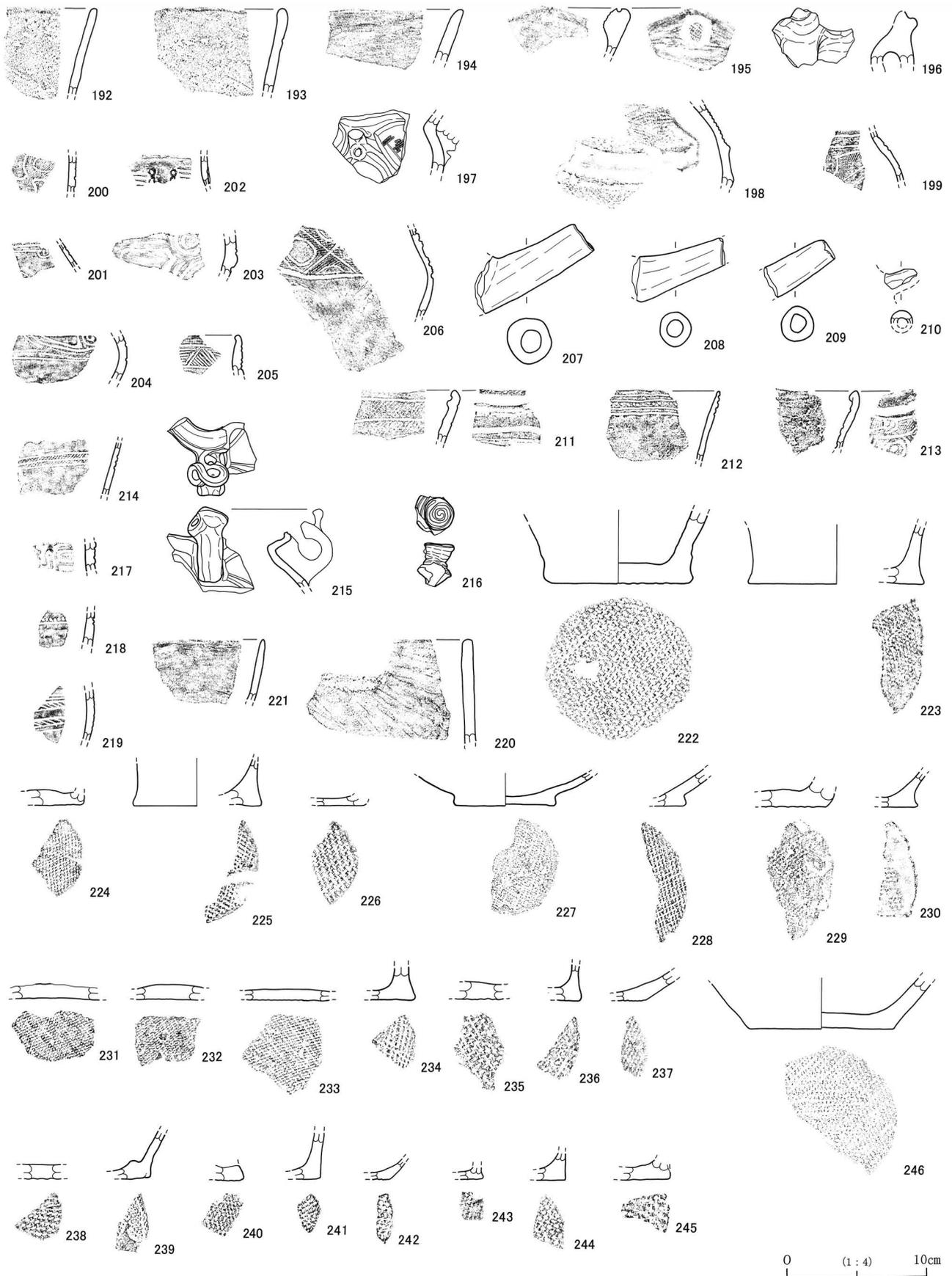
第83图 遺構外(A地区)出土遺物実測图 (1)



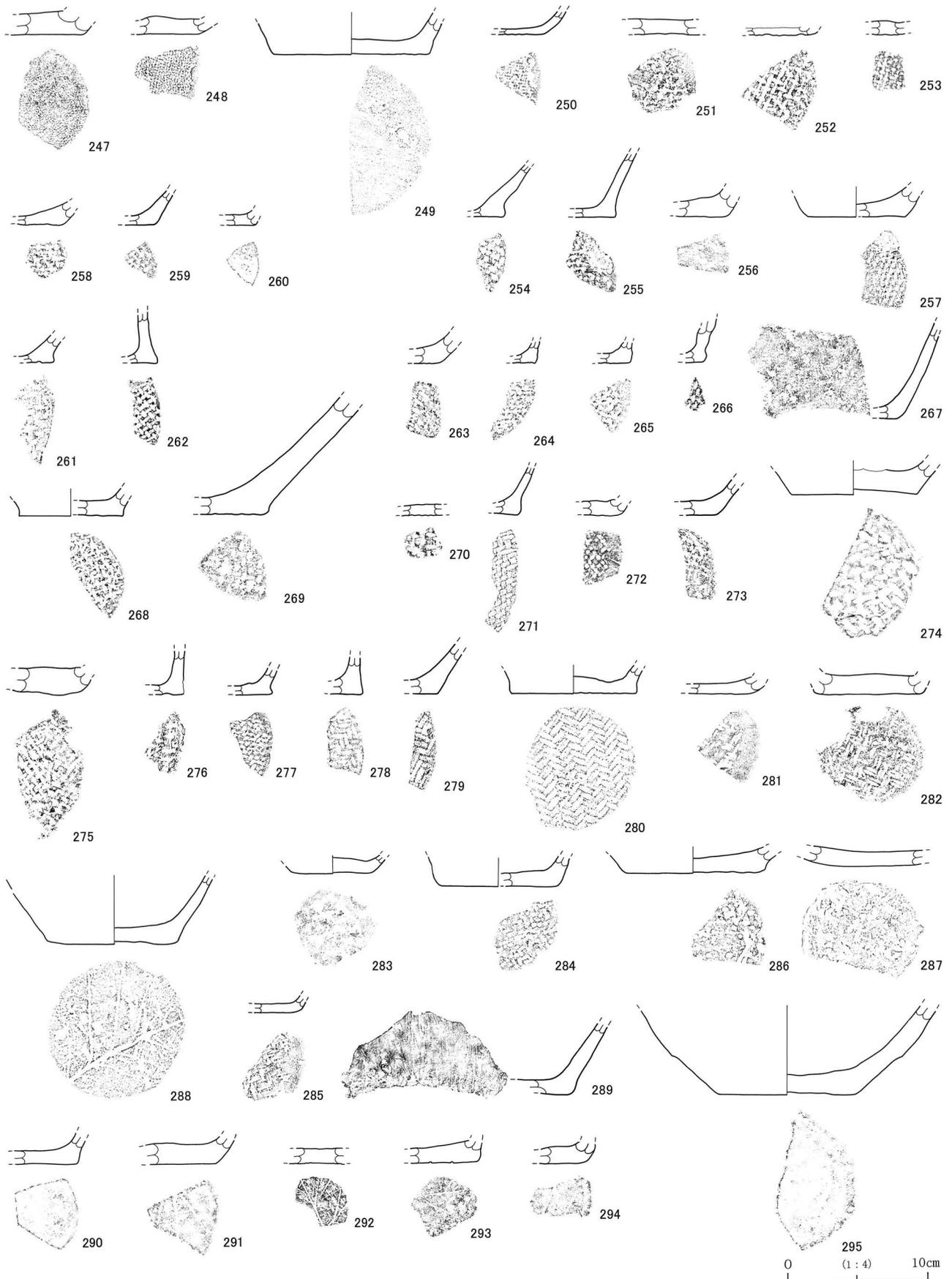
第84图 遺構外(A地区)出土遺物実測図(2)



第85图 遺構外(A地区)出土遺物実測図(3)



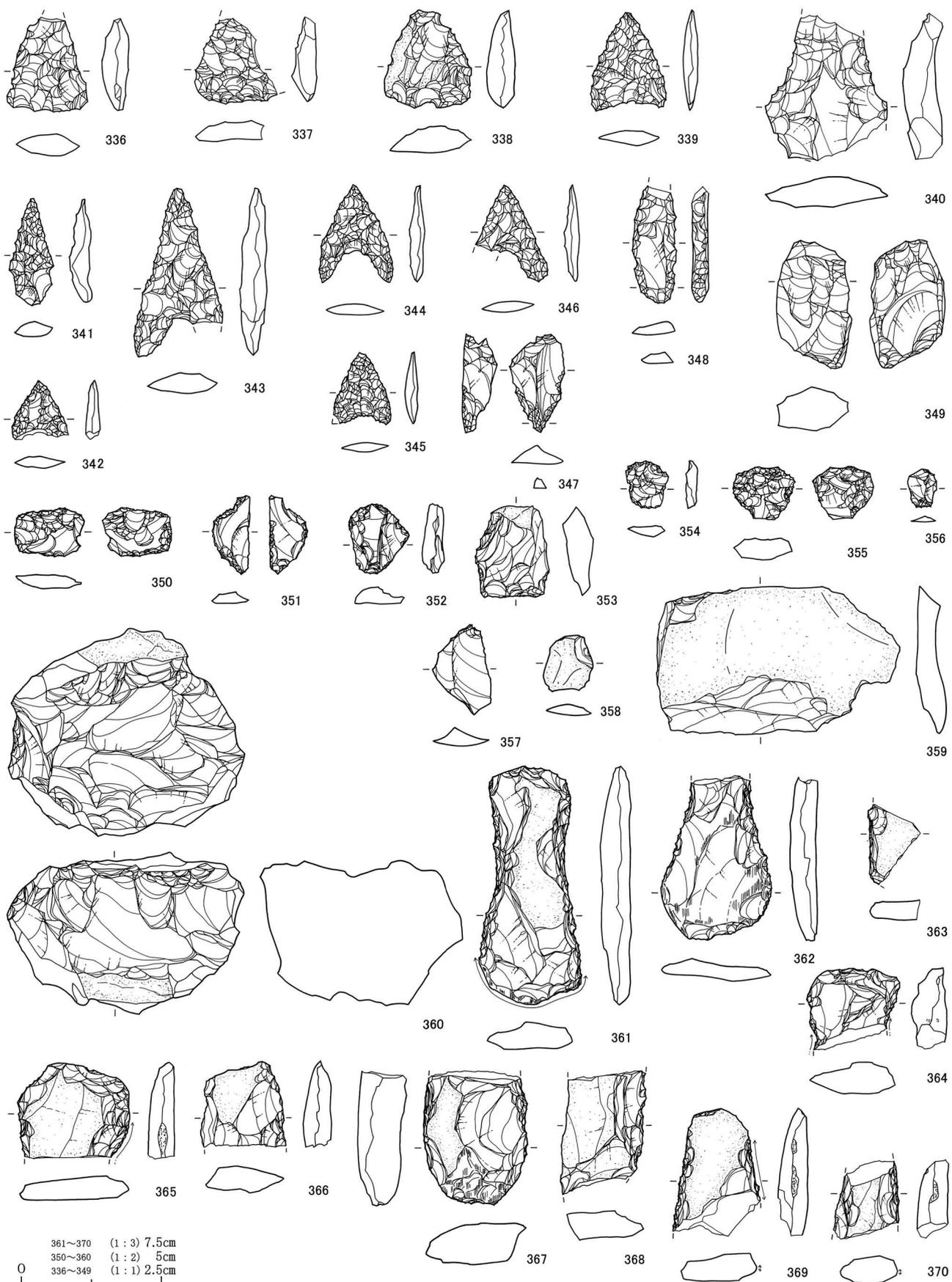
第86图 遺構外(A地区)出土遺物実測図(4)



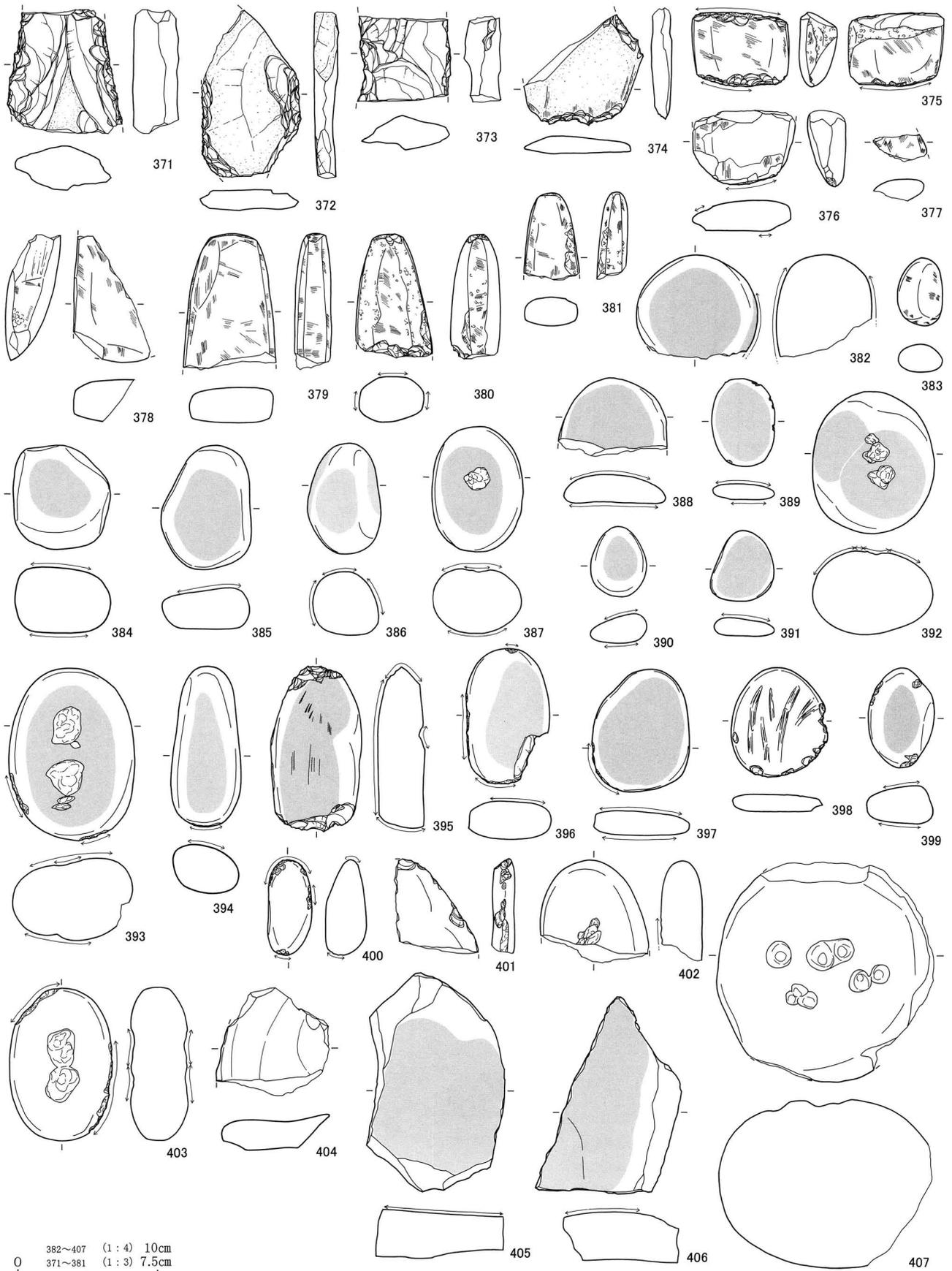
第87图 遺構外(A地区)出土遺物実測図 (5)



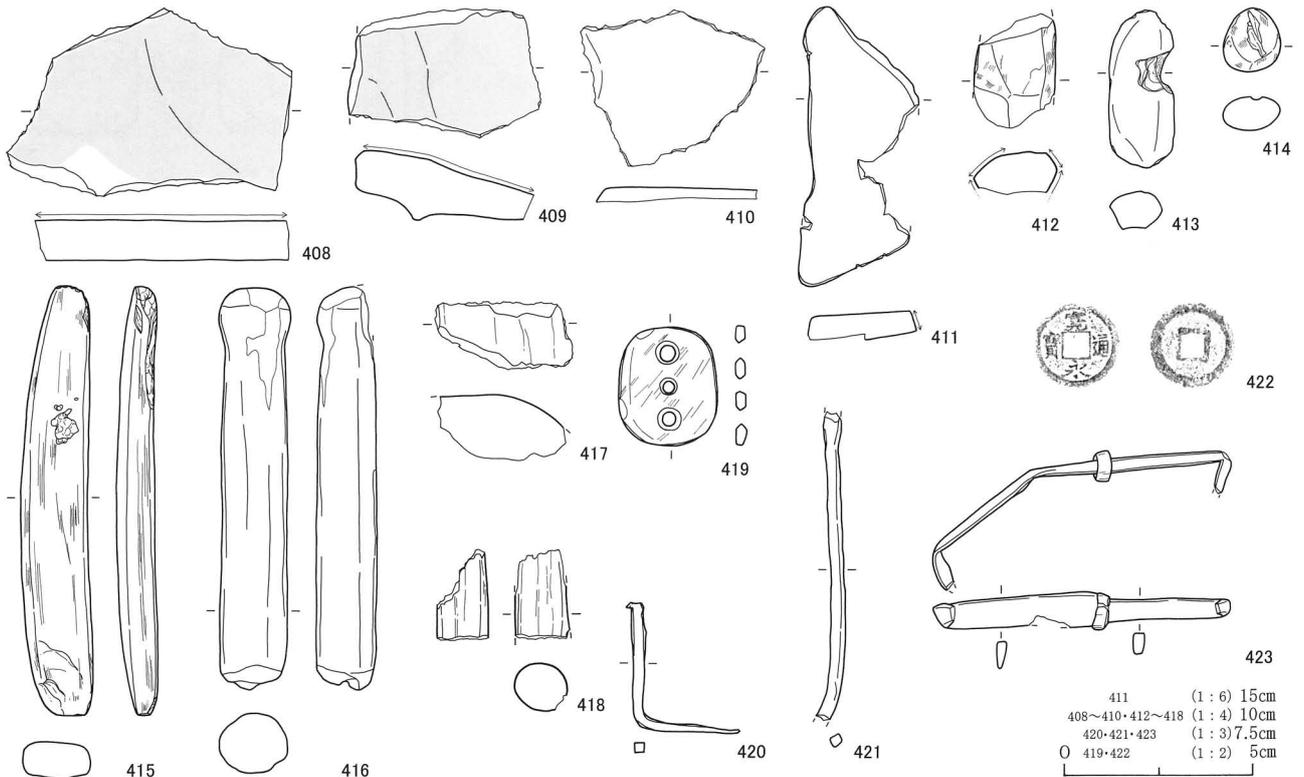
第88图 遺構外(A地区)出土遺物実測図(6)



第89図 遺構外(A地区)出土遺物実測図(7)

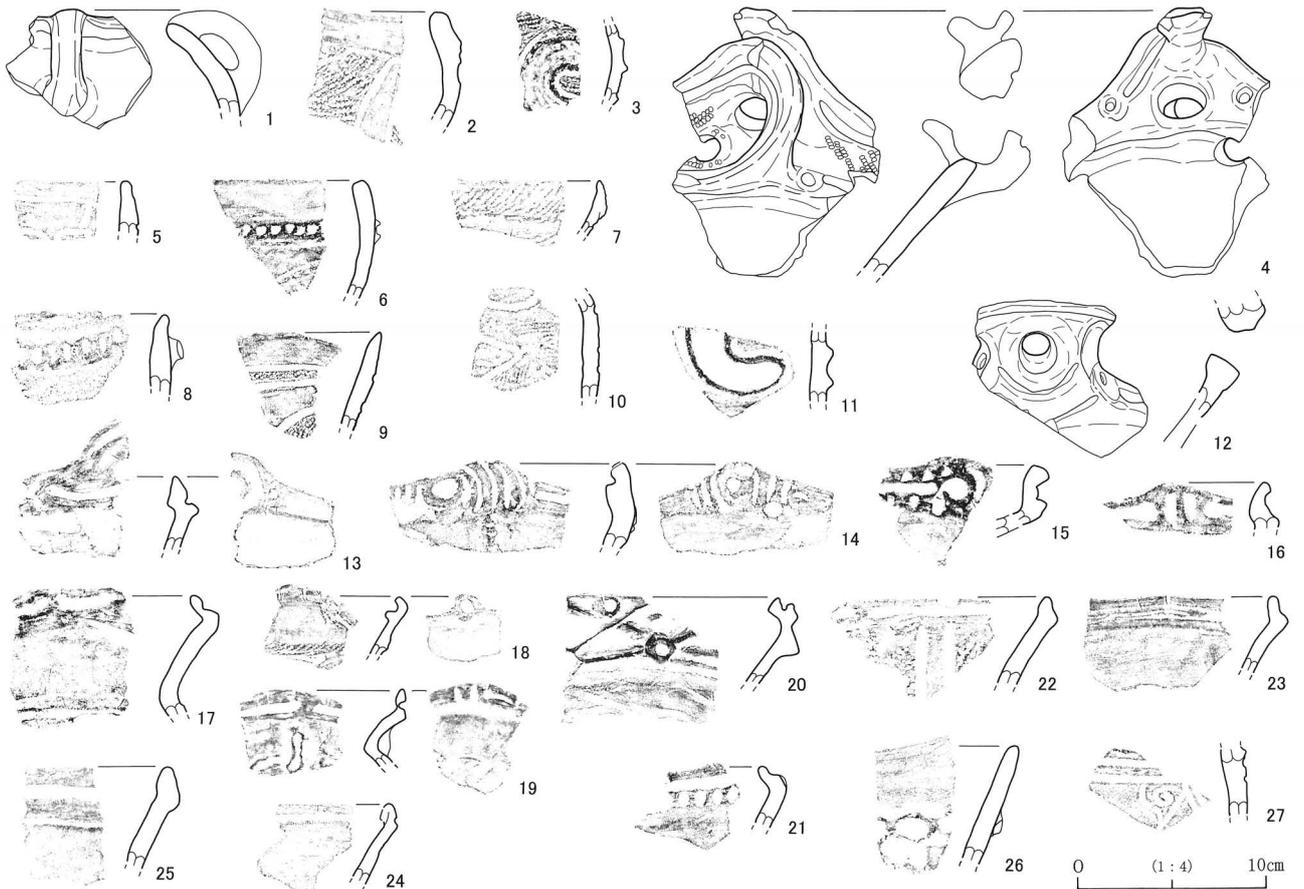


第90图 遺構外(A地区)出土遺物実測図(8)

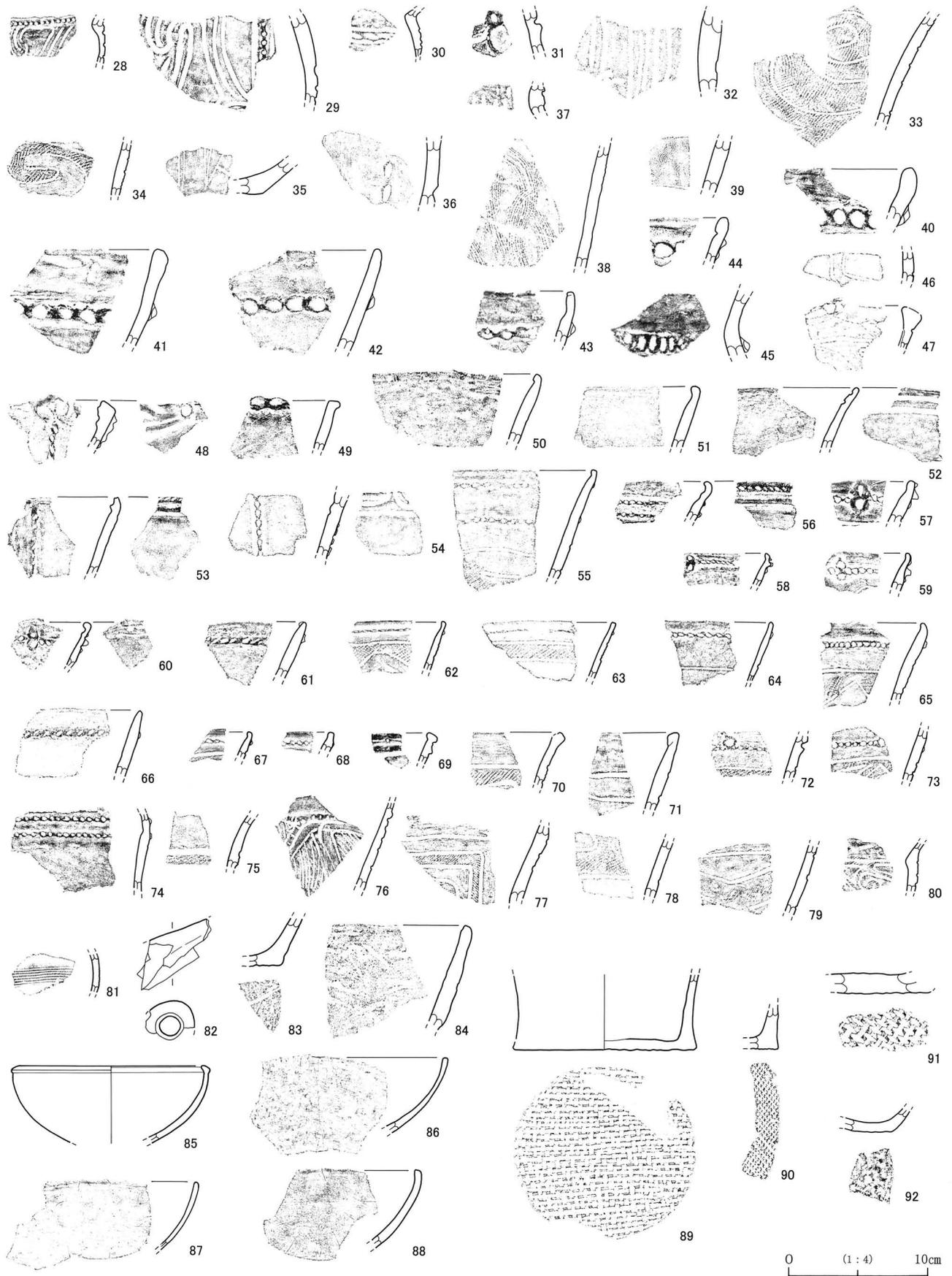


第91図 遺構外(A地区)出土遺物実測図(9)

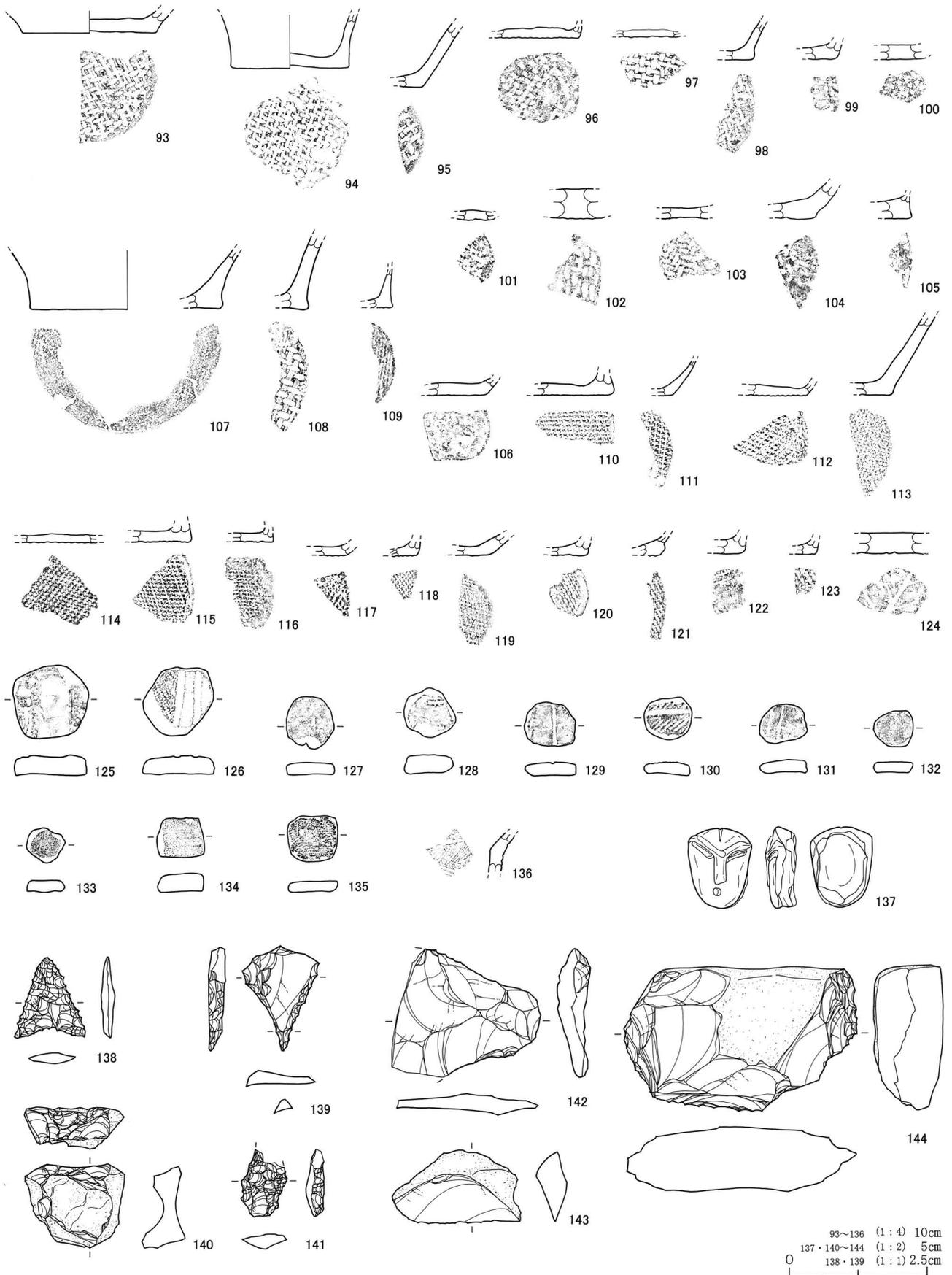
遺構外出土遺物 (B地区)



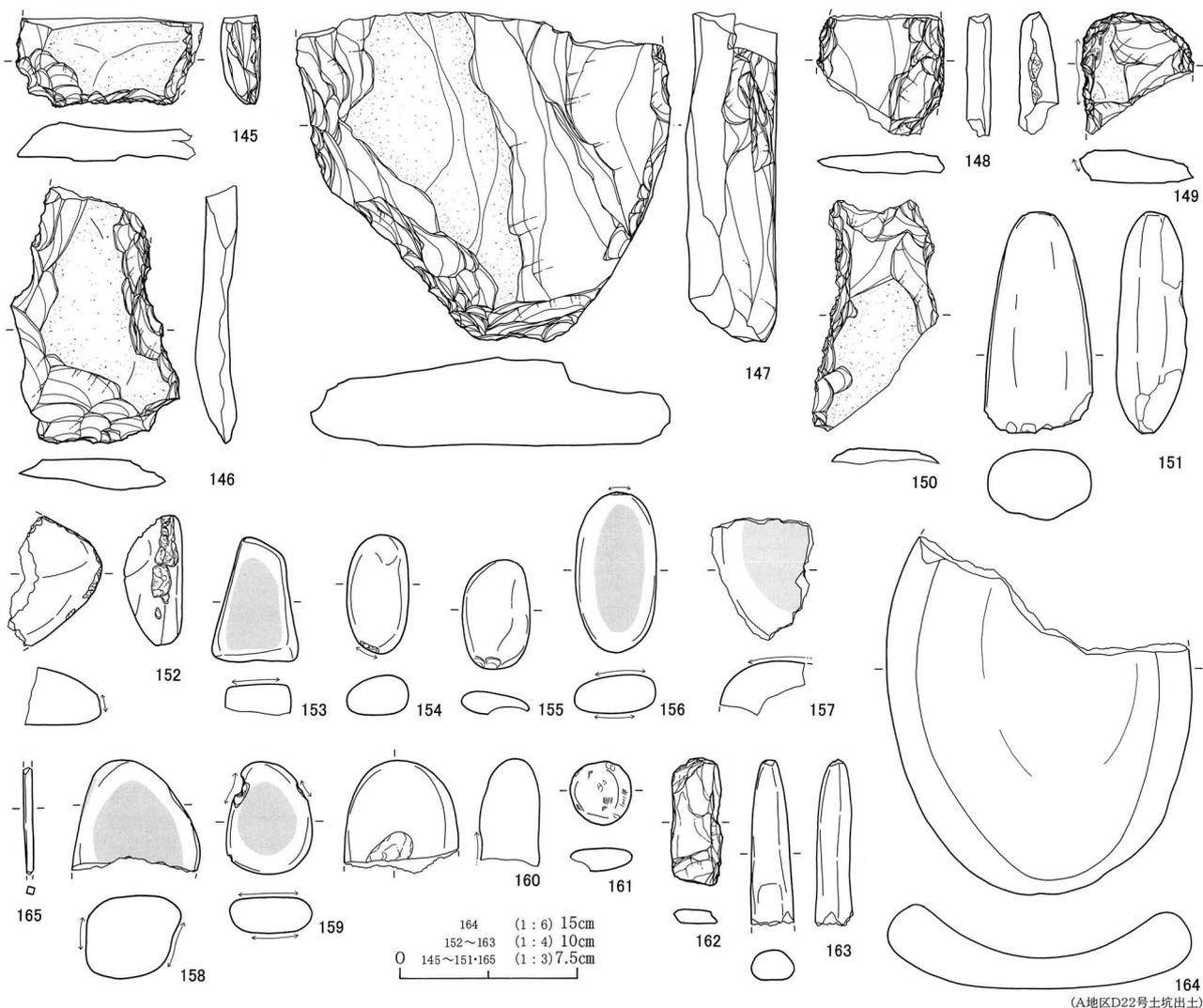
第92図 遺構外(B地区)出土遺物実測図(1)



第93图 遺構外(B地区)出土遺物実測図 (2)



第94图 遺構外(B地区)出土遺物実測図(3)



第95図 D22号土坑及び遺構外(B地区)出土遺物実測図(4)

B地区でも縄文時代中期後半・後期初頭・前葉・中葉・後葉、縄文時代石器、石製品が出土した。P49・D15・D16・P138周辺より比較的多く出土した。

416の小型石棒と391の丸い磨石が近接してえ-5グリッド遺構確認面より出土。329の土偶脚部片はえ-1グリッドD26近辺、328の土偶脚部片はBトレンチ、327の土偶顔面・頭部はD2土坑東、いずれも遺構確認面より出土した。327の土偶頭部は仮面のようにも見えるが、斜め上方に顔を突き出した形でY字流体で眉と鼻を、口は透かし孔で目は沈線で表現する。顔と頭部境の隆帯は帽子をかぶったような形である。突起状頭頂部から貫通孔、孔を起点の平行沈線内に小円形刺突のX字文が施される。後頭部に2条の沈線が巡る。堀之内1式の土偶の特徴を備えている。B地区し13グリッドから出土したの筒形土偶とみられる第94図137は、D13号土坑出土の板状の土偶の顔面表現と酷似する。

4. まとめ

遺構は、周辺で数多く検出されている弥生時代後期・古墳時代・奈良時代・平安時代の竪穴住居址・土坑・溝状遺構等であったが、西近津遺跡群内で初見の縄文時代後期前半の敷石住居址が1軒確認された。また、他の調査地点では数少ない縄文時代の遺構と遺物が多量に検出された。竪穴住居址は1軒であるが、墓坑とみられる土坑群が存在し、JR小海線中佐都駅の北方にある鷲林城跡から東方に展開する縄文時代集落の東端を確認できた。

第1表 堅穴住居址・土坑 一覧表

(残存) <検出部> [推定] (cm)

遺構名	検出位置	平面形				主軸方位 (長軸方位)	カマド (炉)	柱穴規模			備考 重複・時期等	
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長			壁高	長径	短径		深さ
H1	い3・4 う3・4・5	-	-	-	-	-	N	北の主柱穴間 副炉あり	P1 60×30×69柱痕有 P3(30)×24×66柱痕有 P6 40×20×70	P2 32×20 P2 46×30×67柱痕有 P4 44×(20)×75 P5 42×38×34 P7 52×(40)×62 P8 44×38×67	P3 32×30×63柱痕有	五平状柱痕 主炉・副炉P36~ 38、P63、P69~74、P77~ 83に切られP159を切る
H2	お・か3・4	340	340	360	384	62	N-70° -E	東 中央	P1 62×50×67柱痕有 P4 102×98×80柱痕有	P2 26×22×53柱痕有 P5 (66)×60×19	P3 46×34×45柱痕有	
H3	え・お3・4	(410)	(420)	540	(180)	49	N-8° -W	北 中央	P1 62×54×71柱痕有 P4 84×63×70柱痕有	P2 54×43×61柱痕有 P5 76×(42)×11	P3 32×30×63柱痕有	H2・H4に切られる
H4	お・か4・5	466	462	440	452	69	N-20° -W	北 中央	P1 56×50×70柱痕有 P4 98×70×68柱痕有 P7 24×20×60	P2 50×42×66柱痕有 P5 46×34×27柱痕有 P8 36×30×24	P3 56×46×75柱痕有 P6 33×30×26柱痕有	
H5	き・く5・6	(334)	(230)	400	-	65	N-32° -W	北 中央	P1 44×40×69柱痕有 P7 94×80×73 柱痕10~12cm	P2 60×(20)×50柱痕有 P5 90×74×72 P6 48×36×70	P3 54×34×70柱痕有	H6・D22・D27を切る
H6	き5・6	(180)	-	(200)	-	62	-	-	P1 60×56×55 柱痕38	-	-	H5・P169・P168に切られる
H7	え・お2・3	-	-	(360)	(240)	58	N-8° -W	北の主柱穴間	P1 40×34×54柱痕有 P3 42×36×68柱痕有	P2 (28)×(8)×31柱痕有 P4 34×32×53柱痕有	-	H2・H3に切られる D25・D26を切る
H8	あ・い8	-	-	-	(110)	69	-	-	P1 (62)×36×44	-	-	D11・P7に切られる
H9	お・か9	-	410	-	(20)	42	-	-	-	-	-	H13を切る
H10	こ4・5	-	-	(224)	-	10	-	-	-	-	-	D4に切られる
H11	こ3・4	-	(170)	(120)	-	40	-	-	P1 45×24×55柱痕有	-	-	H12・P21を切る P19・P202に切られる
H12	け3・4 こ4	-	直径	[320]	-	21	-	-	P1 74×60×76 P2 22×12×30 P3 16×16×19	-	-	H11に切られる
H13	お・か・き9	(660)	-	(116)	-	76	N-21° -W	北 中央	P1 60×(50)×46 P2 58×58×37	-	-	H9にカマドを少し切られる
H14	さ・し・す13 し・す12し14	476	446	444	490	62	N-8° -W	北 中央	P1 84×40×59柱痕有 P4 60×50×49柱痕有	P2 50×42×71柱痕有 P5 48×42×21	P3 66×48×63柱痕有	H18・H19・OT2・D10・ P92・104・146・147を切る
H15	け・こ10・11 ・12	(530)	(312)	-	524	48	N-31° -W	北 中央	P1 50×50×75柱痕有 P3 34×26×65柱痕有	P2 80×66×89柱痕有 P4 44×34×31柱痕有	P3 74×66×80柱痕有	H23・D13・M1・P53・ P52・P55に切られる H25・D29を切る
H16	け8	(186)	-	-	-	26?	N-17° -W	-	-	-	-	
H17	さ・し10・11	430	450	430	436	52	N-24° -W	北 中央	P1 50×40×65柱痕有 P4 46×40×63柱痕有	P2 44×34×81柱痕有 P5 64×54×31 P6 24×22×12	P3 40×40×63柱痕有	M1に切られOT1・P106・ P126を切る
H18	す12・13	(170)	(168)	(360)	-	56	N-23° -W	-	P1 38×28×48柱痕有	P2 44×40×32柱痕有	-	H14・M1に切られH19・ P85・P91・P97・P107に切 られる 西近津遺跡IVH52同 一住居
H19	す12・13	-	(126)	-	-	24	-	-	-	-	-	M14・H18に切られる
H20	す13・14	(46)	-	(230)	-	36	-	-	-	-	-	P138を切る 西近津遺跡IVの H49と同一住居
H21	す・せ9・10	(180)	(182)	-	-	26	N-25° -W	北 中央?	P1 (82)×24×33 P2 42×30×26	-	-	H22を切る
H22	す・せ9・10	-	(180)	(210)	-	63	-	-	P1 78×54×51柱痕有	-	-	H21に切られる 西近津遺跡 IVのH10と同一住居
H23	け・こ10・11	250	[252]	[222]	[244]	16	N-35° -W	北 中央	-	-	-	D13に切られH15を切る
H24	え・お3・4	416	(352)	386	(340)	4	N-13° -W	北 中央	P1 44×26×48柱痕有 P4 60×46×76柱痕有 P8 50×20×26	P2 50×40×67柱痕有 P5 46×36×21 P6 44×38×24 P9 64×26×31	P3 44×34×31柱痕有	H2・H3・H4に切られる
H25	け・こ11・12 ・13	432	422	736	720	90	N-11° -W	-	P1 70×40×61柱痕有 P4 60×46×76柱痕有 P5 46×36×21 P6 44×38×24 P7 54×40×44 P8 50×20×26 P9 64×26×31 P10 24×16×12	P2 60×46×72柱痕有 P5 46×36×21 P6 44×38×24 P7 54×40×44 P8 50×20×26 P9 64×26×31 P10 24×16×12	P3 60×44×78柱痕有 P6 44×38×24 P7 54×40×44 P8 50×20×26 P9 64×26×31 P10 24×16×12	H15・H23・M1・D13・P40 ~P45・P51~P56・P62・ P119~P123・P125に切ら れ、D29を切る

土坑

(検出部) <残存部>

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	備考 重複関係	遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	備考 重複関係
D1	く4	円形	30	<25>	11	D17に切られる 後期前半	D20	か4	円形	76	76	83	称名寺・堀之内1
D2	き4	円形	35	35	25	P180を切る	D21	き・く3	円形	104	102	73	P200を切る 断面フラスコ状 称名寺
D3	き4	不整形	43	28	19	堀之内1・堀之内2	D22	く4・5	不整形	146	140	80	H5、H33・P167に切られる 断面フ ラスコ状 称名寺1・堀之内1
D4	こ4・5	-	-	(25)	30	H10を切る	D23	き3	楕円形	110	106	20	堀之内2
D5	け6	-	(84)	128	20	断面フラスコ状	D24	欠番	-	-	-	-	
D6	け・こ6	-	(60)	110	68	堀之内1	D25	お3	円形	76	76	61	H2・H7に切られる 加曾利EIV
D7	け7	-	94	(74)	45	堀之内1	D26	え2・3	円形	90	90	87	H7に切られる 堀之内
D8	け6・7	円形	82	76	15	後期前半	D27	く4・5	楕円形	126	104	62	H5に切られる 称名寺・堀之内
D9	け7	-	202	(30)	24	D8に切られる 堀之内	D28	き3・4	円形	94	94	36	P180・P186を切る 堀之内1・堀之内2
D10	さ・し13・14	-	104	(64)	25	P99とH14に切られる 堀之内	D29	こ11	-	126	64	64	H25に切られている 断面フラスコ状 堀之内1・堀之内2
D11	あ8	-	(50)	(52)	12	H8を切る	D30	き4・5	楕円形	106	98	55	中期後半・堀之内1
D12	欠番	-	-	-	-	-	D31	き4	楕円形	118	<86>	40	M3に切られ、D33を切る 称名寺・堀之内
D13	け・こ11・12	楕円形	332	248	24	H15・H23・H25を切る 土偶 古墳後 期	D32	か5	楕円形	183	116	83	P185に切られる
D14	す11	楕円形	<128>	148	62	P97を切り、P84とP98に切られる 中期後半・称名寺・堀之内1	D33	き・く4	円形	102	96	75	D31に切られ、D22とD35を切る 称 名寺・堀之内1
D15	し10	楕円形	106	96	54	三十稲葉・称名寺・堀之内1・堀之内2	D34	え5	楕円形	76	64	81	堀之内1・堀之内2
D16	し10	楕円形	126	<74>	28	中期後半・称名寺・堀之内1・堀之内2	D35	き4・5	長方形	126	103	40	D33に切られる 堀之内
D17	く4	楕円形	122	100	69	D1を切る 堀之内1・堀之内2	D36	き2・3	不整形	110	84	48	P192に切られる 弥生栗林
D18	さ13	楕円形	124	110	39	OT2とP114に切られる 称名寺・堀 之内1・堀之内2	D37	き4	楕円形	70	64	60	P179を切る 称名寺・堀之内
D19	か4・5	円形	104	104	30	堀之内1							

第2表 ピット計測表

欠番61・76・150・171 (cm)

No.	検出位置	長径×深さ	備考	No.	検出位置	長径×深さ	備考	No.	検出位置	長径×深さ	備考
1	あ8	42×28	10YR3/3・10YR4/4 堀之内1、縄文前期前半	73	い4	72×50	テラスあり H1を切る 10YR2/3	136	さ11・12	50×34	10YR3/4
2	う8	54×50	10YR3/3・10YR3/1	74	い・う4・5	60×32	H1を切る 石器 10YR2/3	137	す11	83×97	柱痕φ20cm,OT1・P86に切られるP144を 切る、10YR6/4・10YR3/1・10YR4/3
3	う8・う9	47×59	10YR3/3・10YR3/1 テラスあり 柱痕φ20cm	75	え3	66×39	H3を切る 10YR2/3	138	す13	85×77	H20に切られる 堀之内、堀之内1・2、加曾利B
4	お9	53×43	テラスあり、堀之内1、平安(須恵器) 磨石 10YR3/4・10YR2/3	77	い・う4	60×19	H1・P78を切る、堀之内2 10YR2/3 10YR2/3	139	こ12	33×18	10YR2/1
5	う9	32×22		78	い・う4	85×42	テラスあり、P77に切られH1・P79を切る	140	こ11	30×16	10YR2/1
6	う9・え9	46×54		79	う4	64×38	P78に切られる H1を切る 10YR2/3	141	し11	<73×35>	M1の底の凹面
7	あ8	60×44	H8を切る 10YR2/3・10YR3/4	80	う4	65×48	H1・P81・P82を切る 10YR2/3	142	し・す12	95×10	M1・P105に切られる
8	か9	40×34		81	う4	75×61	テラスあり、P80・P82に切られH1を切る 10YR2/3	143	す11	65×53	10YR2/2、OT1に切られる 称名寺、縄文後期前半、凹石
9	き9	35×23	H13を切る	82	い・う4	76×22	テラスあり H1を切る	144	す11	110×58	10YR2/3・10YR3/4・10YR3/10、OT1、P8 P137に切られる、称名寺、堀之内1、 縄文中期後葉、縄文後期前半、縄文後期、 打製石斧
10	く9	40×47	10YR3/4	83	い4	71×29	テラスあり H1を切る	145	さ13	40×30	10YR2/1、P114に切られる 10YR5/3・10YR7/4、10YR6/4多含 H14・OT2に切られる
11	こ4	62×43	10YR2/3・10YR5/6のローム多量 テラスあり	84	す11	70×84	D14・P98・OT1を切る、柱痕φ28cm、称名寺 堀之内1、縄文後期(ミニチュア土器) 10YR3/3・10YR5/4(10YR7/4多含)	146	さ12	74×70	縄文後期
12	こ5	35×12	10YR2/2	85	す11・12	<70×56>	M1・H18に切られる、加曾利B2~B3 10YR3/3・10YR3/4・10YR5/3、10YR6/4多含	147	し12	<55×60>	H14に切られる、堀之内2
13	こ5	53×37	打製石斧 10YR3/2・10YR2/3、 10YR2/1と10YR5/6を多含	86	す10・11	61×50	P137・OT1を切る、打製石斧、10YR3/3・ 10YR3/4・10YR5/3、10YR6/4多含	148	か5	<93×48>	10YR2/2・10YR2/3、10YR5/6含む テラスあり、H4に切られる、 堀之内2、磨石
14	こ5	45×16	10YR2/3・10YR5/6を多含	87	す11	78×35	M1に切られる、称名寺、10YR3/3・ 10YR3/4・10YR5/3、10YR6/4多含	149	か5	39×36	10YR2/3、10YR5/6多含、テラス
15	け6	73×29	テラスあり 10YR2/3・10YR3/3	88	し・す10	78×49	テラスあり、10YR3/3・10YR3/4・ 10YR5/3、10YR6/4多含	150	さ12	39×36	
16	け5	63×39	テラスあり、縄文中期後葉 10YR2/3・10YR2/2、10YR5/6を多含	89	す11	62×22		151	さ12	39×36	
17	こ5	76×25	堀之内1 10YR2/1・10YR2/2・ 10YR5/6多含	90	し11	32×19		152	う2	65×21	10YR2/3、10YR5/6含む P29・P30に切られる、磨石
18	こ3	48×17	10YR2/3・10YR5/6多含	91	す12	68×17	M1に切られる、10YR4/3	153	う・え2	93×90	10YR2/3、10YR5/6含む P30に切られる、称名寺、堀之内1、 縄文後期(土板)、磨石、剥片
19	こ3	35×31	テラスあり H11を切る	92	さ・し12	84×35	H14に切られる、10YR3/3、10YR2/1・ 10YR5/4少含	154	う・え3	35×21	10YR2/3、テラスあり
20	こ3	50×27	10YR2/2・10YR2/3、10YR5/6多含	93	し・す11	63×22	M1に切られる、10YR3/3、10YR2/1・ 10YR5/4少含	155	う3	84×87	10YR2/3・10YR3/4、10YR5/6・10YR2/2多含 柱痕φ22cm、H1に切られる、称名寺、 堀之内1・2、縄文後期、打製石斧
21	こ4	65×30	テラスあり H11に切られる	94	す11	74×39	10YR3/3、10YR2/1・10YR5/4少含	156	う・え3・4	90×50	10YR2/3、D22を切る、堀之内1 テラスあり、堀之内
22	け6	70×44	10YR2/3、10YR5/6少含	95	す11	53×43	称名寺、10YR4/3、10YR3/1少含	157	え4	62×28	10YR2/3、10YR2/2多含、テラスあり
23	こ3	46×23	テラスあり、D8に切られる、剥片	96	す10・11	75×38	柱痕φ30cm、称名寺、堀之内1、10YR3/2・ 10YR5/3、10YR5/4・10YR3/1含む	158	う4	82×44	10YR2/3・10YR2/2、10YR5/6少含 テラスあり、P159を切る 称名寺、堀之内(注口土器)
24	け7	55×24	10YR2/3	97	す11	90×44	D14に切られる、縄文後期、中期後葉 称名寺、堀之内1・2、10YR2/1、10YR2/3・ 10YR4/2(10YR5/4・10YR2/1含む)	159	う4	56×52	10YR2/3、H1・P158に切られる
25	け5・こ5	60×47	10YR2/3、10YR5/6多含	98	す11	104×34	10YR3/2・10YR2/1(焼土少含)	160	え2	56×31	10YR2/3、テラスあり、堀之内1
26	こ4	44×32	P27を切る 10YR2/3	99	し14	58×39	P84・OT1に切られ、D14・P144を切る D10を切る、称名寺、堀之内、堀之内1、 加曾利B3、安行3a、10YR3/4	161	こ10	72×52	堀之内2
27	こ4	48×55	10YR3/4、10YR5/6・10YR2/3多含 P26に切られる	100	さ13	<48×52>	テラスあり、10YR2/3	162	さ10	63×77	10YR2/1
28	う2	85×122	10YR3/3、7.5YR・10YR2/2多含 柱痕φ30cm 称名寺、堀之内1・2、堀之内 縄文後期(注口土器)、磨石	101	さ13	48×48	縄文後期(円板)、10YR2/3	163	さ10	30×24	10YR3/4、堀之内2
29	う2	47×53	テラスあり、P152を切る 10YR2/3・ 10YR4/4、10YR5/6のローム少含 柱痕φ20cm	102	さ13	57×16	10YR2/3	164	こ10	60×46	10YR3/4、堀之内1、石楸、剥片
30	う2	65×23	P152・P153を切る 10YR2/2	103	し12	63×34	10YR2/1	165	え3	97×98	10YR2/3・10YR3/4、10YR5/6・10YR2/2多含 P35を切る、柱痕φ20cm 縄文中期後葉 磨石
31	う2	73×24	10YR2/2	104	し12	48×31	H14に切られる、堀之内1、10YR2/1	166	こ10	62×30	10YR2/3、テラスあり
32	え3	67×40	10YR2/3、10YR5/6多含	105	す12	70×41	10YR2/1	167	<4>	50×23	10YR2/3、D22を切る、堀之内1
33	う3・え3	42×29	10YR2/3、10YR5/6少含 テラスあり、称名寺、堀之内1、石楸	106	し10・11	90×23	M1に切られP142を切る、堀之内1 10YR2/1	168	き5	100×79	テラスあり、H6に切られP199を切る 称名寺、縄文後期
34	う3	58×50	10YR2/3・10YR4/4、10YR5/6少含 テラスあり、柱痕φ15cm	107	す12	65×42	テラスあり、OT3に切られる、 縄文中期後葉、10YR2/1	169	き5	55×45	テラスあり、H6を切る 堀之内1、堀之内2(注口土器)
35	え3	70×55	10YR2/3、砂・10YR2/2多含 P165を切る	108	し14	50×51	10YR2/3少含	170	き5	68×60	打製石斧
36	う3	67×24	テラスあり H1を切る 10YR2/3	109	さ12	100×53×34	称名寺、堀之内1、縄文後期前半、 縄文後期、剥片、10YR2/3・10YR5/4、	171	<4>	58×39	テラスあり、P174を切る
37	う4	61×41	テラスあり 10YR2/3	110	し12	70×77	堀之内、10YR2/3	172	<4>	66×44	P173に切られる、縄文後期
38	う3	65×38	H1を切る 10YR2/3	111	し12	52×43	石楸、10YR2/1	173	<4>	66×44	10YR2/1・10YR2/3
39	け8	40×28	10YR2/3	112	さ12	38×23	テラスあり、10YR2/3	174	<4>	75×47	縄文後期前半、堀之内
40	け12	48×12	H15を切る 10YR2/3、砂・小磯多含	113	し12	51×34	M1に切られる、10YR2/1	176	<4>	60×28	10YR2/3、テラスあり、P177を切る
41	け12	36×11	H15を切る 10YR2/3	114	さ13	84×35	D18・P115・P145を切る、 称名寺、堀之内、10YR2/1	177	<4>	46×38	テラスあり、P176に切られる
42	け12	36×30	H25を切る 10YR2/3	115	さ13	<48×61>	P114に切られる 称名寺、堀之内2、縄文後期	178	き3	64×38	10YR2/1、称名寺
43	け12・こ12	42×42	H25を切る 古墳後期(土師器)	116	し12	60×41	称名寺、堀之内、堀之内1、 加曾利B2~B3、縄文後期、弥生後期	179	き4	<40×26>	10YR2/3、D37に切られる、称名寺
44	こ12	27×11	H25を切る 10YR2/3	117	こ・さ12	50×20	テラスあり、10YR3/4	180	き4	95×44	10YR2/1、D2・D28に切られる、人為的 称名寺、縄文後期前半
45	こ12	38×10	H25を切る 10YR2/3	118	こ12	46×13	P129を切る、10YR2/3	181	<5>	42×30	10YR2/3、テラスあり
46	こ12	50×23	10YR2/3	119	こ12	41×19	H25を切る、10YR3/4	182	き5	62×22	10YR2/3、剥片
47	こ12	42×17	テラスあり 10YR2/3	120	こ12	78×44	H25を切る、10YR2/3	183	<5>	50×21	10YR2/1、堀之内1
48	こ13	56×20	10YR2/3	121	こ12	49×16	テラスあり、H25を切る 加曾利B2~B3、10YR2/3	184	き3	80×15	10YR2/1
49	こ13	58×26	テラスあり、堀之内 10YR2/3	122	こ12	60×19	テラスあり、H25を切る、10YR3/4	185	か・き5	41×24	10YR2/1、D32を切る、堀之内2
50	け12	38×31	テラスあり 10YR3/4	123	こ11	38×15	10YR2/3	186	き3	<55×16>	10YR2/1 D28に切られる、縄文後期(円板)
51	け12	45×45	テラスあり H25を切る 10YR3/4	124	さ12	40×20	称名寺、10YR2/3	187	き3	46×15	10YR2/1
52	け12	60×31	テラスあり H25を切る 10YR2/3	125	こ11	37×25	堀之内、10YR2/3	188	き4	<60×30>	10YR2/1、M3に切られる、打製石斧
53	け12	29×13	H25を切る 10YR3/4	126	し10	73×39	H17に切られる、10YR2/1	189	き・<3>	80×53	10YR2/1、M3に切られる、 称名寺、堀之内1
54	こ12	33×11	H25を切る 10YR3/4	127	さ11	40×28	テラスあり、10YR2/1	190	か3	42×35	10YR2/1、H2に切られる
55	け12	57×15	H25を切る 10YR2/3	128	こ・さ12	35×28	テラスあり、堀之内1、10YR2/1	191			欠番
56	こ13	40×11	H25を切る 10YR2/3	129	こ・さ12	80×75	P118に切られる、称名寺、堀之内 堀之内1、磨石、10YR3/4	192	き2	50×22	10YR2/3、D36を切る
57	さ12	44×56	P135を切る 10YR2/3	130	さ12	40×31	称名寺、堀之内1、打製石斧、10YR3/4	193	え5	63×53	10YR3/4、テラスあり
58	こ13	35×16	10YR2/3	131	さ12	37×36	10YR3/4、堀之内1、打製石斧	194	え4	75×40	10YR3/4、テラスあり
59	こ13	37×17	P60に切られる 10YR2/3	132	さ12	96×25	10YR2/1	195	か3・4	37×24	10YR2/1、Hに切られる
60	こ13	24×11	P59を切る 10YR2/3	133	さ12	35×31	10YR2/1	196	か3	35×21	10YR2/1
62	け12・こ12	37×7	H25を切る 10YR2/3	134	さ12	50×27	P135を切る、堀之内、堀之内1、10YR2/1	197	え5	50×33	10YR3/4
63	い・う3	60×45	H1・P69を切る 10YR2/3	135	さ12	118×73	称名寺、堀之内1、縄文後期前半 P57・P132・P134に切られる、柱痕φ34cm、 堀之内、堀之内1、10YR3/2・10YR6/4	198	え5	30×18	10YR2/1
64	う4・え4	75×59	縄文後期、磨石 10YR2/3・10YR2/2、 10YR5/6のローム少含	199	き5	<67×42>	テラスあり、P168に切られる	200	き3	43×21	D21に切られる
65	え4	66×42	10YR2/3、10YR5/6のローム少含 H3に切られる 堀之内、堀之内2	201	き4	30×25	10YR2/1	202	こ3	33×31	H11を切る
66	う2	35×22	10YR2/1								
67	う3	48×19	10YR2/1								
68	う2	50×27	称名寺 10YR2/3、10YR5/6少含								
69	う3	73×65	P63に切られ、H1・P70を切る 10YR2/3								
70	い3・う3	53×34	P69に切られH1を切る 10YR2/3								
71	う3	38×49	テラスあり H1を切る 10YR2/3								
72	い4・う4	70×41	H1を切る 10YR2/3								

第3表 H1・2号住居址出土遺物観察表

H1			法 量				成形・調整・文様						推定値() 残存値() 丸底●		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面			外 面			備 考		出土遺物	
1	弥生土器	甕	(16.6)	-	(12.1)	ミガキ	櫛波状文			回転実測 外面剥離		Ⅱ区	N区		
2	弥生土器	甕	-	6.2	(5.6)	ハケ目→ミガキ	脚部ハケ目→ミガキ 底部ナデ			完全実測		Ⅱ区			
3	弥生土器	甕	-	5.5	(1.8)	ミガキ	脚部ミガキ 底部ミガキ			回転実測		Ⅱ区			
4	弥生土器	鉢	(10.4)	(4.8)	3.9	ミガキ	ミガキ			回転実測		Ⅱ区	カ土		
5	弥生土器	蓋	つまみ(4.7)	-	4.9	ミガキ→赤色塗彩	焼成前穿孔(2孔)			完全実測		Ⅱ区			
No.			H2				No.								
種別	器種	文様・調整	備 考	種別	器種	文様・調整	備 考	種別	器種	文様・調整	備 考				
6	弥生土器	土器片	内面ナデ 外面ミガキ→赤色塗彩	弥生後期	42	縄文土器	鉢	沈線文	堀之内1	80	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位押圧隆帯	後期前半	
7	弥生土器	甕	櫛波状文	弥生後期	43	縄文土器	鉢	垂下する刻み隆帯	堀之内1	81	縄文土器	深鉢	口縁部外側に肥厚する 所謂粗製土器	後期前半	
8	弥生土器	甕	櫛波状文	弥生後期	44	縄文土器	鉢	沈線文	堀之内1	82	縄文土器	深鉢	口縁部内側にやや肥厚 所謂粗製土器	後期前半	
9	弥生土器	甕	櫛波状文 櫛波状文	弥生後期	45	縄文土器	深鉢	口縁部内折 頸部に刻み隆帯	堀之内1	83	縄文土器	深鉢	口縁部外側に肥厚する 所謂粗製土器	後期前半	
10	弥生土器	甕	櫛波状文 櫛波状文	弥生後期	46	縄文土器	深鉢	口唇部から口縁部内面に跨がる沈線	堀之内1	84	縄文土器	深鉢	口唇部内側に肥厚する 所謂粗製土器	後期前半	
11	弥生土器	甕	櫛波状文 櫛波状文	弥生後期	47	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁に沿って平行沈線間に刻み文	堀之内1	85	縄文土器	深鉢	口唇部 内外面肥厚する	後期	
12	弥生土器	甕	櫛波状文	弥生後期	48	縄文土器	深鉢	口縁部内折 内外面肥厚する	堀之内1	86	縄文土器	深鉢	口縁部外側にやや肥厚する	後期前半	
13	弥生土器	甕	櫛波状文	弥生後期	49	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位沈線	堀之内1	87	縄文土器	深鉢	口縁部外側にやや肥厚する	後期前半	
14	弥生土器	甕	櫛波状文	弥生後期	50	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位沈線	堀之内1	88	縄文土器	深鉢	口縁部外側に肥厚する 所謂粗製土器	後期前半	
15	弥生土器	甕	櫛波状文 櫛波状文	弥生後期	51	縄文土器	深鉢	口唇部指押痕	堀之内1	89	縄文土器	深鉢	口縁部外側に肥厚する 所謂粗製土器	後期前半	
16	弥生土器	壺	内面ミガキ→赤色塗彩 外面ミガキ→赤色塗彩 へろ横斜走文 沈線	弥生後期	52	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁部2条の刻み隆線	堀之内1	90	縄文土器	深鉢	内外面ミガキ 口唇部内折 所謂粗製土器	後期前半	
17	弥生土器	壺	内面ミガキ→赤色塗彩 ハケ目 外面ミガキ→赤色塗彩 へろ横斜走文 沈線	弥生後期	53	縄文土器	深鉢	体部2条の沈線区内に磨消純文LR 口唇部内折	堀之内2	91	縄文土器	注口土器	突起部分	後期	
18	弥生土器	壺	ミガキ→赤色塗彩 櫛波横走平行線文	弥生後期	54	縄文土器	深鉢	口縁部刻み隆線 体部隆線で区画 口唇部内折	堀之内2	92	縄文土器	鉢	木葉文	堀之内	
19	弥生土器	壺	櫛波横走平行線文 櫛波垂下文	弥生後期	55	縄文土器	深鉢	口縁部横位刻み隆線 体部沈線区内に 細純文LR充填	堀之内2	93	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り	後期	
20	縄文土器	深鉢	微隆起文内→純文LR充填	中期後半	56	縄文土器	深鉢	口縁部横位刻み隆線 口縁部内折	堀之内2	94	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	
21	縄文土器	深鉢	微隆起文 純文LR充填	中期後半	57	縄文土器	深鉢	体部沈線区内に 純文LR充填	堀之内2	95	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
22	縄文土器	深鉢	沈線文	中期後半	58	縄文土器	深鉢	口縁部横位刻み隆線 口唇部短く内折	堀之内2	96	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
23	縄文土器	深鉢	口縁部内傾する	後期前半	59	縄文土器	深鉢	刻み付す横位隆帯 隆帯に沿って沈線	堀之内2	97	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り ナデにより潰れる 素材細い	後期	
24	縄文土器	深鉢	櫛波把手 無文	中期後半	60	縄文土器	深鉢	口唇部平行沈線間に 細純文LR充填	堀之内2	98	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	
25	縄文土器	深鉢	櫛波把手 無文	中期後半	61	縄文土器	深鉢	口縁部刻み隆線 体部隆線で区画 口唇部内折	堀之内2	99	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
26	縄文土器	深鉢	J字状沈線区内 純文LR充填	称名寺	62	縄文土器	深鉢	口唇部内折 横位沈線	堀之内2	100	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り ナデにより潰れる 素材細い	後期	
27	縄文土器	深鉢	櫛波状工具による条線文	堀之内1	63	縄文土器	深鉢	小突起口縁 小突起2箇の刺突文と短沈線	堀之内2	101	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
28	縄文土器	深鉢	櫛波把手 隆帯に沿って沈線の交互に 刺突文 脇に連刺突文	称名寺	64	縄文土器	深鉢	口縁部刻み隆線 口縁部内折	堀之内2	102	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
29	縄文土器	深鉢	口縁部2条の横位沈線 体部沈線区内に純文LR充填	堀之内1	65	縄文土器	深鉢	口縁部刻み隆線 それを縦刻み隆線かつなくその下部に沈線	堀之内2	103	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
30	縄文土器	鉢	突起に円形刺突と沈線の 円形文 横位の沈線	堀之内1	66	縄文土器	深鉢	沈線区内に細純文LR充填	堀之内2	104	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
31	縄文土器	鉢	外面円形刺突と横位沈線 内面 円形刺突と沈線の内折し短く外折	堀之内1	67	縄文土器	深鉢	沈線区内に細純文LR充填	堀之内2	105	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
32	縄文土器	深鉢	小波状口縁 小突起から斜位刻み隆線 小突起短沈線 横位沈線	堀之内2	68	縄文土器	深鉢	沈線区内に細純文LR充填	堀之内2	106	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
33	縄文土器	深鉢	突起短沈線・横位沈線	堀之内1	69	縄文土器	深鉢	沈線区内に純文LR充填	堀之内2	107	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
34	縄文土器	深鉢	内面2条の横位沈線	堀之内2	70	縄文土器	深鉢	沈線区内に純文LR充填	堀之内2	108	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
35	縄文土器	深鉢	小波状口縁 突起に沈線で円形文・ 弧状文 刺突文	堀之内1	71	縄文土器	深鉢	沈線区内に純文LR充填	堀之内2	109	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
36	縄文土器	深鉢	小波状口縁 円形刺突文 横位沈線	堀之内1	72	縄文土器	鉢	横位刻み隆線	堀之内2	110	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
37	縄文土器	深鉢	波状口縁 隆帯の口唇部に円形刺突文	堀之内1	73	縄文土器	注口土器	注口部	堀之内2	111	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
38	縄文土器	深鉢	小波状口縁 小突起内外面に円形刺突文 外面口縁に沿って刻み細隆線	堀之内1	74	縄文土器	深鉢	V字状の隆帯	堀之内2	112	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
39	縄文土器	鉢	環状突起 沈線	堀之内1	75	縄文土器	鉢	小突起部に弧状の短沈線刺突 頂に深い沈線	堀之内1	113	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
40	縄文土器	深鉢	2条の横位刻み隆線を8字状貼付文が 跨ぐ体部沈線区内に 純文LR充填	堀之内2	76	縄文土器	異形 土製品	側面に円形貼付文 底面に突起?	堀之内1	114	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
41	縄文土器	鉢	くびれ部横位沈線 沈線間刺突文 純文LR充填	堀之内1	77	縄文土器	深鉢	口唇部下に横位押圧隆帯	後期前半	115	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	
					78	縄文土器	深鉢	口唇部端部平 口縁部下に横位押圧隆帯	後期前半	116	縄文土器	深鉢	網代底 3種類?の編物痕 素材細い	後期	
					79	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位押圧隆帯	後期前半	117	土製品	土器片 円板	2条の沈線	後期	
										118	土製品	土器片 円板	2条の沈線 沈線内純文	堀之内	
										119	土製品	土器片 円板	2条の沈線 沈線内純文	堀之内	
										120	縄文土器	ミニチュア	内面ナデ 外面ミガキ	後期	
										121	弥生土器	壺	口唇部に刻み	中期葉林	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見				所 見				
122	石 鏝	灰色チャート	(1.5)	(1.2)	(0.3)	(0.42)	左脚～基部欠損				Ⅱ区				
123	石 鏝未製品	チャート	2.2	1.9	0.8	2.82					Ⅱ区				
124	石 鏝未製品?	鉄石英	2.9	1.4	0.7	2.63					Ⅱ区				
125	石 核	黒色緻密安山岩	3.7	5.6	1.6	34.06	裏面に自然面残る				Ⅲ区				
126	二次加工のある剥片	硬質砂岩	14.4	6.3	1.7	184.94	正面自然面 右側に二次加工痕				Ⅲ区1層				
127	打製石斧	輝石安山岩	11.2	6.4	1.4	120.43	正面に自然面残る 刀部付近磨減 両側潰し状				Ⅲ区				
128	打製石斧	硬質砂岩	<6.4>	<4.4>	<1.8>	<60.92>	下部欠損 正面に自然面残る 両側に潰し状の着柄痕				Ⅲ区				
129	打製石斧	硬質砂岩	10.5	4.9	1.7	99.75	正面に自然面残る				Ⅲ区上層				
130	打製石斧	輝石安山岩	<10.5>	<6.5>	<0.9>	<73.30>	上下欠損				S区				
131	磨・敲石	砂岩	<5.8>	<4.1>	<3.9>	<119.76>	被熱あり(表面赤化) 右側～下部欠損 正裏にすり面 敲打あり				Ⅱ区床				
132	敲石	硬質安山岩	10.3	5.8	1.9	158.17	両側に敲打痕				Ⅲ区1層				
133	敲石	花崗岩	10.2	3.9	2.3	141.03	上下端部と右側に敲打痕				Ⅱ区上層				
134	敲石	花崗岩	10.3	9.2	3.0	370.35	両側に敲打痕				Ⅲ区				
135	敲石	花崗岩	4.3	4.1	3.5	72.83	被熱あり(部分的に赤化) 下端部に敲打痕				S区				
136	敲石	花崗岩	8.2	5.1	3.7	260.57	上下端部・左側に敲打痕				カ土				
137	敲石	輝石安山岩	10.5	6.6	3.3	375.29	上下端部に敲打痕				Ⅲ区1層				
138	敲石	安山岩	13.5	11.0	9.2	1737.16	上下端部と正面に敲打痕				Ⅲ区				
139	磨石	砂岩	5.8	3.8	1.1	29.00	正面にすり面				Ⅱ区1層				
140	磨石	砂岩	<6.0>	<5.1>	<1.5>	<49.87>	上部欠損 正面にすり面				Ⅱ区斜方				
141	凹石	輝石安山岩	4.5	6.8	4.4	182.28	下部欠損 正面と周囲に敲打痕				Ⅱ区1層				
142	凹石	安山岩	27.0	37.1	12.1	8070.00	被熱あり(表面に赤化部分あり) 凹径 9.5×5 凹深 8.5				No.1				
143	編物石	花崗岩	13.3	6.9	5.0	681.92					Ⅲ区1層				
144	台石	輝石安山岩	<15.1>	<20.0>	<4.2>	<1567.58>	下部欠損 正面使用面				カ土				
145	台石	輝石安山岩	<6.6>	<3.9>	<2.1>	<90.86>	上部～右側欠損 正面滑らか				Ⅲ区				
146	軽石製品	軽石	7.0	5.4	4.1	64.43	面取り状と条痕の加工あり 全体にすり				Ⅲ区1層				
No.			H2				No.								
種別	器種	法 量	備 考	種別	器種	法 量	備 考	種別	器種	法 量	備 考				
1	土師器	蓋	-	(3.2)	(1.9)	ミガキ→黒色処理	脚部ナデ	坏部ミガキ	回転実測	土師器高坏の転用	Ⅱ区				
2	須恵器	坏	13.2	9.7	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	内外面火だすき有	Ⅲ区	検出票 No.1	Ⅰ区床			
3	須恵器	坏	13.0	8.1	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	完全実測		Ⅰ区	Ⅰ区床	Ⅰ区 Ⅱ区	Ⅰ区床		
4	須恵器	坏	(13.2)	(8.2)	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ→ヘラケズリ	回転実測	内外面に自然粘付層 内外面に火だすき有	Ⅰ区					
5	須恵器	坏	(13.5)	7.3	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測		Ⅲ・Ⅳ区					
6	須恵器	坏	-	6.0	(2.5)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ後ナデ	回転実測		Ⅰ区					
7	須恵器	皿	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測		Ⅲ区	斜方				
8	須恵器	坏	(13.8)	-	(3.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	内外面火だすき有	Ⅰ区					
9	須恵器	有台坏	-	(9.8)	(1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ後高台貼付	回転実測		Ⅰ区					
10	須恵器	有台坏	17.4	10.8	7.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラケズリ後高台貼付	完全実測	口唇部に自然粘付層	Ⅰ・Ⅱ区	斜方	No.4-5			
11	土師器	甕	-	(6.0)	(4.6)	ヘラナデ	脚部ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転実測		Ⅰ区					

第4表 H2・3号住居址出土遺物観察表

H2					法 量					成形・調整・文様					推定値()残存値<>丸底●	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面		備 考		出 土 遺 物				
12	土師器	甕	-	(5.0)	<3.1>	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ	底部ヘラケズリ	回転実測		Ⅲ区	か7d				
13	土師器	甕	-	(5.4)	<2.5>	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ	底部ヘラケズリ	回転実測		I・Ⅲ区					
14	土師器	甕	(20.8)	-	<21.5>	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		回転実測		Ⅱ区	か7d				
15	須恵器	壺	(9.7)	-	<1.6>	ロクロナデ			回転実測		Ⅳ区					
16	土師器	甕	21.2	4.1	29.4	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	底部ヘラケズリ	完全実測		Ⅱ・Ⅳ区	か7d				
17	須恵器	横瓶	-	-	-	横ナデ	タタキ目→横ナデ		断面実測		I・Ⅲ区	H3Ⅱ区				
21	須恵器	甕	(23.8)	-	<14.5>	口縁部横ナデ→胴部当て具痕→横ナデ	口縁部横ナデ→胴部タタキ目→横ナデ		回転実測	肩部に自然剥附着	Ⅲ区	Ⅳ区床 No.2	1・2d			
22	須恵器	甕	-	(17.5)	<15.7>	当て具痕→ナデ・横ナデ	胴部タタキ目 底部ナデ		回転実測		Ⅰ区	か7d	H3検出面			
23	土師器	甕	(18.8)	-	<11.4>	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ(紐目)	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		回転実測							
24	土師器	甕	-	-	-	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		破片実測		I・Ⅱ・Ⅳ区					
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整	備 考	No.	種別	器種	文様・調整	備 考	
25	弥生土器	甕	縹緋波状文		弥生後期	43	縄文土器	鉢	2条の横位沈線		59	縄文土器	深鉢	内外面横ナデ 所謂粗製土器	後期前半	
26	弥生土器	甕	縹緋斜走文		弥生後期	44	縄文土器	鉢	3条の沈線 縄文LR充填		60	縄文土器	深鉢	縦い沈線 1-隣帯 所謂粗製土器 所謂粗製土器	後期前半	
27	縄文土器	深鉢	地文 縄文RL沈線		中期後半～後期初頭	45	縄文土器	鉢	縦位の刻み隆帯 兩脇に2条沈線 縦線内に縄文LR充填		61	縄文土器	深鉢	口唇部外ナデ内面横ナデ 所謂粗製土器	後期前半	
28	縄文土器	深鉢	沈線区内に縄文LR充填		中期後半～後期初頭	46	縄文土器	鉢	対の円形刺突間に2条の沈線 縄文LR充填		62	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚する 外面ナデ	後期前半	
29	縄文土器	深鉢	波状口縁 隆起帯下に縄文RL		中期後半	47	縄文土器	鉢	渦巻状沈線区内に縄文LR充填		63	縄文土器	深鉢	櫛歯に具による曲線	堀之内1	
30	縄文土器	深鉢	波状口縁 隆起帯下に縄文LR		中期後半	48	縄文土器	深鉢	口唇部内折 縄文LR		64	縄文土器	深鉢	横位の集合沈線 沈線下に小円形刺突文	堀之内2	
31	縄文土器	深鉢	沈線区内に縄文LR充填		称名寺	49	縄文土器	深鉢	口唇部内折 口縁部横位刻み隆帯		65	縄文土器	注口土器	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり	堀之内	
32	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位押圧隆帯		称名寺	50	縄文土器	深鉢	2条の沈線区内 内面2条の沈線		66	縄文土器	鉢	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	
33	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位押圧隆帯		称名寺	51	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯に8字貼付文		67	縄文土器	鉢	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	
34	縄文土器	鉢	小突起に盲孔に沈線が巡る その脇に盲孔をこころ横引き沈線		堀之内1	52	縄文土器	深鉢	沈線区内に縄文LR充填		68	縄文土器	深鉢	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	
35	縄文土器	鉢	小突起に内外面盲孔		堀之内1	53	縄文土器	深鉢	横位の2条の刻み隆帯 内面1条の横位沈線		69	縄文土器	深鉢	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり 別の編物痕を切っている 素材細い	後期	
36	縄文土器	鉢	小突起に外面沈線 内面盲孔		堀之内1	54	縄文土器	深鉢	横位の集合沈線 口唇部内折		70	縄文土器	深鉢	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり 素材細い 縦条が起えていない箇所あり	後期	
37	縄文土器	鉢	小突起に内外面円形刺突 脇に縦位沈線一方は横位沈線		堀之内1	55	縄文土器	深鉢	矩形沈線内に横位沈線		71	縄文土器	鉢	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	
38	縄文土器	鉢	小突起に内外面縦位沈線		堀之内1	56	縄文土器	深鉢	無文 内外面横ナデ		72	縄文土器	鉢	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	
39	縄文土器	鉢	口縁部縦位弧状沈線 短い沈線		堀之内1	57	縄文土器	深鉢	内面2条の横位沈線		73	縄文土器	鉢	網代底 2本起1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	
40	縄文土器	鉢	口縁部隆帯沈線		堀之内1	58	縄文土器	深鉢	横状把手 口縁部下沈線区内に縄文LR充填		74	縄文土器	鉢	網代底 編み方不明	後期	
41	縄文土器	深鉢	口唇部盲孔 胴部沈線 内面口縁部押圧		堀之内1	59	縄文土器	深鉢	斜行する隆帯 内外面ミガキ		75	縄文土器	深鉢	底部外側に張り出す	後期前半	
42	縄文土器	深鉢	口縁部沈線		堀之内1	76	縄文土器	鉢	内外面ミガキ 所謂粗製土器		76	縄文土器	鉢	底部外側に張り出す	後期	
No. 器 種					素 材	最大長	最大厚	重量	所 見			所 見				
18	刀子?		<1.3>	<0.9>	<0.2>	<0.67>		両端欠損					Ⅱ区床			
19	刀子		<7.4>	1.1	<0.35>	<8.08>		両端欠損					Ⅲ区2層			
20	鉄鏃		<12.5>	<2.4>	0.5	<25.32>		基部先端欠損					Ⅲ区1層			
77	二次加工のある剥片	黒曜石	2.3	1.4	0.5	1.55		両側に二次加工痕					Ⅰ区			
78	剥片	チャート	2.9	1.7	0.4	1.78		裏が21面の剥片					Ⅱ区床			
79	磨石	輝石安山岩	8.2	7.0	4.9	325.20		正面にすり面					Ⅰ区切方			
80	磨石	輝石安山岩	7.0	5.8	2.5	144.95		正面にすり面					Ⅰ区切方			
81	軽石製品	軽石	<4.8>	<3.3>	<2.0>	<15.16>		右側欠損 全体に孔					7a土			
82	台石	輝石安山岩	18.7	15.3	4.3	1847.53		正裏とも使用面 正面と周囲に敲打痕					No.3			
H3					法 量					成形・調整・文様					推定値()残存値<>丸底●	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面		備 考		出 土 遺 物				
1	土師器	杯	14.6	5.7	5.6	暗文→黒色処理	口縁部→底部ミガキ		完全実測		Ⅰ区	Ⅱ区床				
2	土師器	杯	15.5	-	5.3	口縁部横ナデ・みこみ部ナデ→暗文	磨滅著しく判別できない		完全実測		Ⅲ区	H41区 1区0方 Ⅳ区 3・4d				
3	土師器	杯	11.6	-	3.6	ナデ→口縁部横ナデ	口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ		回転実測		Ⅰ区	Ⅰ区床 Ⅰ区切方				
4	土師器	杯	(13.2)	-	(3.0)	ミガキ→黒色処理	口縁部横ナデ→体部ヘラナデ		回転実測		Ⅱ区	Ⅱ区切方				
5	土師器	杯	13.1	-	4.6	ミガキ	口縁部横ナデ→体部ヘラナデ		完全実測		Ⅱ・Ⅲ区	Ⅱ区床				
6	土師器	杯	-	-	-	ミガキ→黒色処理	口縁部横ナデ→体部ヘラケズリ		破片実測		Ⅰ区	Ⅰ区床				
7	土師器	杯	12.9	-	4.5	ミガキ→黒色処理	口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	黒色処理	完全実測		Ⅰ・Ⅳ区					
8	須恵器	杯	(15.8)	-	(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ		回転実測							
9	土師器	高杯	(15.6)	-	(11.9)	杯部ミガキ→黒色処理	杯部ヘラナデ		回転実測		I・Ⅱ・Ⅳ区					
10	土師器	高杯	12.1	8.0	6.4	杯部ミガキ→黒色処理	杯部ヘラケズリ→杯部横ナデ	横ナデ→ヘラケズリ→ミガキ 脚部ナデ→ヘラケズリ	完全実測		内外面に煤附着	No.3(Ⅰ区)				
11	土師器	鉢	-	-	(9.0)	ヘラナデ	ヘラケズリ		完全実測		Ⅳ区	Ⅳ区床 Ⅳ区切方 3・4d				
12	須恵器	杯	-	6.9	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切後ナデ→ヘラ記号		完全実測		No.6(Ⅲ区)					
13	須恵器	杯	12.0	6.8	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切後ナデ		完全実測		Ⅰ区	Ⅳ区床 No.2(Ⅰ区)				
14	須恵器	蓋	-	-	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ		回転実測		Ⅳ区	Ⅳ区1層				
15	須恵器	蓋	-	3.1	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付		完全実測		Ⅱ区					
16	須恵器	蓋	14.4	(3.4)	3.1	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付		完全実測		内外面自然剥附着	Ⅳ区				
17	須恵器	蓋	14.9	3.0	3.1	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付		完全実測		外面自然剥附着	No.6(Ⅲ区)				
18	土師器	壺	(22.8)	-	(32.6)	口縁部横ナデ後ハケ目 胴→底部ヘラナデ・ナデ	口縁部横ナデ→胴→底部ハケ目		完全実測		Ⅰ区	Ⅰ区床 Ⅱ区 P75				
19	土師器	甕	23.5	-	(31.9)	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ後ナデ		完全実測		No.3(Ⅰ区) Ⅰ区床 Ⅲ区					
20	土師器	壺	-	-	-	ミガキ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		破片実測		I・Ⅱ区					
21	土師器	甕	17.4	-	(19.1)	口縁→胴中央部横ナデ→一部ミガキ・胴下半部ナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ→口縁→胴上半部ミガキ		完全実測		Ⅰ区	Ⅰ区床 Ⅱ区 H2				
22	土師器	壺	(23.3)	-	(16.5)	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		回転実測		Ⅰ区	Ⅰ区床 Ⅱ区 1・2d				
23	土師器	壺	21.6	-	(7.5)	口縁部横ナデ後一部ミガキ→胴部ナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ→ミガキ		完全実測		Ⅰ区	Ⅰ区切方				
24	土師器	甕	14.0	-	(4.7)	口縁部横ナデ→ミガキ→胴部ヘラナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		完全実測		No.4(Ⅰ区) Ⅰ区 Ⅰ区床					
25	土師器	甕	21.8	-	(18.3)	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		完全実測		Ⅰ区 Ⅰ区床 Ⅱ区 Ⅱ区床 P75	検出面				
31	土師器	甕	-	-	-	ミガキ	口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ→ミガキ		破片実測		Ⅳ区					
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整	備 考	No.	種別	器種	文様・調整	備 考	
26	須恵器	甕				49	縄文土器	深鉢	口縁部に横位押圧隆帯		61	縄文土器	鉢	突起部に透し孔と同心円状の弧状沈線 さらに反対方向の弧状沈線 ミガキ	堀之内1	
27	須恵器	甕				50	縄文土器	深鉢	口縁部に横位押圧隆帯		51	縄文土器	深鉢	刺突	三十稲場	
28	須恵器	甕				51	縄文土器	深鉢	刺突		52	縄文土器	深鉢	爪形刺突	三十稲場	
29	須恵器	甕				52	縄文土器	深鉢	爪形刺突		53	縄文土器	鉢	貼付文 円形刺突	堀之内1	
30	須恵器	甕				53	縄文土器	鉢	貼付文 円形刺突		54	縄文土器	鉢	突起部円文面輪の円形刺突から沈線 円文の上部に両端持つ沈線 内外面ミガキ 円形刺突	堀之内1	
33	縄文土器	深鉢	山形押型文		早期	55	縄文土器	鉢	有孔突起C字状沈線両端に円形刺突文 短く縦位沈線と円形刺突 前部に透し孔		63	縄文土器	鉢	突起より垂下する刻み隆線 内面円形刺突より横位沈線	堀之内1	
34	縄文土器	深鉢	縄文LR		中期後半	56	縄文土器	鉢	有孔突起 2条の弧状沈線 縦位刻み隆帯		64	縄文土器	鉢	小波状口縁 口縁に沿う1条の沈線 斜位の刻み隆線 横ミガキ	堀之内1	
35	縄文土器	深鉢	短沈線		後期前半	57	縄文土器	鉢	短く縦位沈線と円形刺突 前部に透し孔		65	縄文土器	鉢	波状口縁 円形貼付文から横位沈線 に伴う隆帯 斜位の微隆帯 ミガキ	堀之内1	
36	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による縦位条線		中期後半～後期初頭	58	縄文土器	鉢	口縁部横位沈線 内面丸部に円形刺突 同心円状の3条の弧状沈線 横位沈線		66	縄文土器	鉢	内外面両面に円形刺突付 横位沈線	堀之内1	
37	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による縦位条線		中期後半～後期初頭	59	縄文土器	鉢	環状突起 透し孔 沈線		67	縄文土器	鉢	口唇部円形刺突が並ぶ横ミガキ	堀之内1	
38	縄文土器	深鉢	把手 沈線区内に縄文LR充填		称名寺	60	縄文土器	鉢	内面口縁に胎い沈線 円形貼付文		68	縄文土器	鉢	口唇部円形刺突 沈線	堀之内1	
39	縄文土器	深鉢	小波状口縁 沈線区内に磨消縄文 ミガキ		称名寺	61	縄文土器	鉢	突起部に弧状沈線 内面丸部に円形刺突		69	縄文土器	鉢	口縁部に横位沈線 縄文LR 横ナデ	堀之内1	
40	縄文土器	深鉢	J字文内に縄文LR充填		称名寺	62	縄文土器	鉢	突起部に弧状沈線 円形刺突から横位沈線 内面円形刺突から横位沈線 口唇部内折 ミガキ		70	縄文土器	鉢	口縁部沿いに横位隆帯と沈線 横ミガキ	堀之内1	

第5表 H3・4号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考
72	縄文土器	鉢	頸部8字貼付文が際く 2条の横位刻み隆線 横ミガキ 口縁部8字貼付文から斜位刻み隆線	堀之内1	98	縄文土器	鉢	口縁部欠損するがさらに 薄くのびる 沈線	堀之内2	130	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本湛り 細い素材 黒色付着物 横条間隔あり	堀之内
73	縄文土器	鉢	頸部両端・胎に円形刺突持つ横状 把手2条沈線横ナデ 間連続刺突3条の集合沈線 縄文LR	堀之内1	99	縄文土器	注口土器	ミガキ	堀之内	131	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本湛り 細い素材 黒色付着物 横条間隔あり	堀之内
74	縄文土器	鉢	対の両端に円形刺突もつC字状 沈線がC字の円形刺突を囲む その下縄文LR	堀之内1	100	縄文土器	注口土器	ミガキ	堀之内	132	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り 横条間隔あり 細い素材	後期
75	縄文土器	鉢	両脇に円形刺突持つ8字貼付文から 垂下沈線 3条の弧状沈線	堀之内1	101	縄文土器	注口土器	満巻状の沈線	堀之内2	133	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り 横条間隔あり 縦線が1本越えぬ箇所2か所あり 細い素材	後期
76	縄文土器	鉢	満巻状沈線 短形沈線区内縄文LR	堀之内1	102	縄文土器	注口土器	沈線区内面に小円形刺突	堀之内	134	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り 網代底 2本越1本湛り? 網代底 2本越1本湛り?	後期
77	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯	堀之内1	103	縄文土器	注口土器	微隆線	堀之内2	135	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り	後期
78	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯	堀之内1	104	縄文土器	注口土器	微隆線	堀之内	136	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り 横条間隔あり	後期
79	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 沈線区内に 縄文LR充填	堀之内2	105	縄文土器	鉢	垂下する刻み隆線	堀之内	137	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り	後期
80	縄文土器	深鉢	口縁部内折 外面肥厚する 沈線区内に縄文LR充填	堀之内2	106	縄文土器	鉢	内面ナデ 外面粗いミガキ	堀之内	138	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り 別の 2本越1本湛り重なる 素材細い	後期
81	縄文土器	深鉢	口唇部肥厚し1条の横位沈線 小波状口縁	堀之内2	107	縄文土器	深鉢	口唇部内側にやや肥厚 所謂粗製土器	後期前半	139	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り 横条間隔あり	後期
82	縄文土器	深鉢	内面2条の横位沈線	堀之内2	108	縄文土器	深鉢	口唇部内側にやや肥厚 内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半	140	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本湛り	後期
83	縄文土器	深鉢	口唇部内面肥厚する 口唇部刺突列	堀之内2	109	縄文土器	深鉢	口唇部尖る 外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半	141	縄文土器	深鉢	2本越1本湛り? 横条間隔あり さらに横条2本越1本湛り重なる	後期
84	縄文土器	深鉢	口唇部肥厚する 口唇部に刺突列 焼成後の1孔あり	堀之内2	110	縄文土器	深鉢	口唇部平 内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半	142	縄文土器	鉢	3本越3本湛り密 横条が1本越え ない箇所1ヶ所あり 底部張出す	後期
85	縄文土器	深鉢	2条の横位沈線内に小円形刺突文	堀之内2	111	縄文土器	深鉢	口唇部平 内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半	143	縄文土器	鉢	3本越3本湛り密	後期
86	縄文土器	深鉢	口唇部に縦み列 2条の横位刻み隆線を 跨ぐ両端に円形貼付文を持つ縦位の 刻み隆線 内面横位の2条沈線	堀之内2	112	縄文土器	深鉢	内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半	144	縄文土器	深鉢	1本越1本湛り本越	後期
87	縄文土器	深鉢	横位隆線 平行沈線で三角形に区画 された帯内に縄文LR充填	堀之内2	113	縄文土器	深鉢	口唇部平 内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半	145	土製品	鉢	多条沈線 径4cm 厚さ1cm	堀之内
88	縄文土器	深鉢	2条の横位刻み隆線 斜位の沈線	堀之内2	114	縄文土器	深鉢	縦位の微隆線 内面ミガキ	堀之内	146	土製品	土器片 円板	歯部加工による弧状沈線 径4cm 厚さ1cm	堀之内
89	縄文土器	鉢	横位の刻み隆線	堀之内2	115	縄文土器	深鉢	3条の沈線 内外面ミガキ	堀之内	147	土製品	土器片 円板	多条沈線 鉢胴部 径4.5cm 厚さ0.8cm	堀之内
90	縄文土器	深鉢	横位の刻み隆線	堀之内2	116	縄文土器	深鉢	沈線区内面に縄文LR充填 器厚は厚い 内面ミガキ	後期前半	148	土製品	土器片 円板	沈線縄文LR 鉢胴部 径3.5cm 厚さ0.8cm	後期前半
91	縄文土器	深鉢	横位沈線 縄文LR充填	堀之内2	117	縄文土器	深鉢	縦位の微隆線	後期	149	土製品	土器片 円板	鉢胴部 径2.6cm 厚さ0.8cm	後期前半
92	縄文土器	深鉢	沈線区内面に縄文LR充填	堀之内2	118	縄文土器	深鉢	縦位の微隆線	後期	150	土製品	土器片 円板	無文 深鉢胴部 径5cm 厚さ1cm	後期前半
93	縄文土器	深鉢	沈線区内面に縄文LR充填	堀之内2	119	縄文土器	深鉢	歯部状工具による縦位の 弧状きみの短い糸線	堀之内	151	土製品	筒状土器片	無文 焼成後内外面より穿孔	後期箱清水
94	縄文土器	深鉢	幾何学的沈線	堀之内2	120	縄文土器	深鉢	歯部状工具による縦位の蛇行糸線	堀之内	152	弥生土器	鉢	赤色塗彩	後期箱清水
95	縄文土器	深鉢	3条の幾何学的沈線の菱形内に 縄文LR充填	堀之内2	121	縄文土器	深鉢	歯部状工具による縦位の蛇行糸線 内面 ミガキ	堀之内	153	弥生土器	壺	描線横線 赤色塗彩	後期箱清水
96	縄文土器	深鉢	重畳形の沈線	堀之内2	122	縄文土器	深鉢	内面ミガキ	後期	154	弥生土器	壺	へら描	後期箱清水
97	縄文土器	深鉢	幾何学的沈線 2条の横位刻み隆線を 跨ぐ両端に円形貼付文を持つ縦位の 刻み隆線 内面横位の2条沈線	堀之内2	123	縄文土器	深鉢	内面ナデ	後期	155	弥生土器	壺	描線縦文・波状文	後期箱清水
98	縄文土器	深鉢	幾何学的沈線 ミガキ	堀之内2	124	縄文土器	深鉢	内面ナデ	後期	156	弥生土器	壺	描線斜文	後期箱清水

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	所見
32	紡錘車		<30.9>	5.3	軸0.5 円板0.3	<60.14>	円板径 約 5.2 上下先端欠損	Ⅱ区
157	石鏝	黒曜石	<1.7>	<1.0>	0.2	<0.33>	左下部欠損	Ⅱ区
158	石鏝未製品?	黒曜石	1.8	1.1	0.5	0.75		Ⅰ区
159	スクレーパー	硬質砂岩	5.8	6.8	1.7	66.17	自然面に残る剥片を素材とするスクレーパー下辺が刃部と思われる	Ⅲ区斜方
160	スクレーパー?	硬質砂岩	6.1	6.7	1.1	48.28	下辺を刃部とするスクレーパーか 正面に自然面残る	Ⅲ区斜方
161	使用痕のある剥片	黒曜石	1.6	1.9	0.6	1.01	裏ボジ1面の剥片 下辺の微細な剥離面は使用痕か	Ⅱ区
162	使用痕のある剥片	黒曜石	2.3	1.7	0.6	2.62	裏ボジ1面の剥片 両側の微細な剥離面は使用痕か	Ⅱ区
163	二次加工のある剥片	褐色チャート	1.8	2.3	0.6	1.96	正面に自然面残る	Ⅲ区
164	二次加工のある剥片	鉄石英	<2.0>	<1.7>	<0.5>	<2.02>	上部欠損	Ⅳ区
165	二次加工のある剥片	褐色チャート	1.6	2.1	0.3	1.65		
166	二次加工のある剥片	黒曜石	1.9	2.2	0.5	2.15	下端部を中心に二次加工痕	
167	使用痕のある剥片	硬質砂岩	7.1	2.9	1.0	17.81	自然面を残す剥片 右側は使用痕か	
168	剥片	黒曜石	2.5	3.0	0.7	5.57	正面は自然面か 裏はボジ1面	
169	打製石斧	安山岩	<6.0>	<4.1>	<1.8>	<63.41>	下部欠損 正面に自然面残る	坑I' 斜方
170	敲石	硬質砂岩	7.9	3.6	2.6	101.96	上下端部に敲打痕	Ⅲ区斜方
171	敲石	花崗岩	9.4	5.9	3.3	260.44	上端部に敲打痕	Ⅲ区床
172	磨・敲石	ホルンフェルス	10.4	7.0	4.0	381.49	下部は敲打による折れ 上側・右側・裏にすり面	Ⅱ区
173	磨石	安山岩	7.2	5.3	4.9	132.99	正面にすり面 正面と側面に条痕あり	Ⅱ区
174	磨石	花崗岩	8.0	4.5	2.6	118.31	正面にすり面	Ⅳ区斜方
175	敲石	花崗岩	6.7	5.2	3.0	115.73	正面と右側に敲打痕	Ⅲ区
176	磨石	砂岩	6.4	3.0	1.4	41.86	正面にすり面	Ⅰ区1層
177	磨石	輝石安山岩	7.2	4.9	2.8	145.49	正面にすり面	坑I' 斜方
178	磨石	輝石安山岩	9.7	4.7	2.5	167.08	正面と両側にすり面	Ⅶ土
179	敲石	輝石安山岩	9.9	5.9	5.0	429.20	上下端部に敲打痕	Ⅲ区斜方
180	磨石	砂岩	6.6	5.0	1.3	59.79	被熱あり(一部赤化) 上側～右側欠損 正面にすり面	Ⅲ区斜方
181	編物石	輝石安山岩	12.4	6.5	3.8	367.03		Ⅳ区
182	編物石	輝石安山岩	11.8	4.4	3.8	320.91	上下端部に敲打痕	No.9
183	編物石	輝石安山岩	15.6	5.7	4.7	521.78		Ⅳ区
184	編物石	輝石安山岩	14.0	7.3	3.8	423.04	右側折り状の剝離あり	No.10
185	編物石	輝石安山岩	11.3	6.2	2.6	256.93		Ⅳ区
186	編物石	輝石安山岩	10.8	5.5	4.0	348.93		Ⅳ区
187	編物石	角閃石安山岩	12.6	6.0	4.2	346.52	上端部に敲打痕	Ⅳ区
188	編物石	輝石安山岩	13.8	6.2	3.0	284.93		Ⅳ区
189	台石	輝石安山岩	<14.9>	<15.0>	<3.6>	<1361.86>	被熱あり?(右側黒化) 正裏に使用面	No.8
190	台石	輝石安山岩	<22.4>	<19.3>	<10.8>	<4920>	被熱あり?(裏面黒化) 上側～右側欠損 正面に使用面残る	No.11
191	台石	輝石安山岩	27.3	14.8	11.2	5250.00	被熱あり?(左側～裏面赤褐色) 正面稜上に磨面と敲打痕	No.12
192	台石	輝石安山岩	14.1	13.8	3.9	1236.14	正面が使用面	Ⅰ区
193	軽石製品	軽石	2.6	3.9	1.2	5.26	孔径 0.8 中央に穿孔	Ⅱ区
194	ガラス小玉	ガラス	0.35	0.3	0.25	0.01	孔径 0.1×0.15の楕円	Ⅰ区1層
195	石棒の原材	千枚岩	5.3	3.3	0.8	26.95		Ⅱ区床
196	石棒の原材	千枚岩	6.4	2.8	0.7	16.59	54と同一 接合して実測	Ⅲ区斜方

H4 法 量									推定値()残存値()丸底●				
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面			外 面			備 考	出土遺物
1	土師器	杯	(12.3)	(4.6)	-	5.1	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	坑I'	
2	土師器	杯	(16.1)	-	(4.6)	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	I・Ⅳ区	
3	須恵器	杯	13.0	8.0	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	底部手持ちヘラケズリ	完全実測	No.1(Ⅰ区)	
4	須恵器	杯	(14.3)	(8.2)	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区 坑I'	
5	須恵器	杯	13.6	8.5	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転系切り後底部周辺手持ちヘラケズリ	完全実測	坑I' Ⅰ区 P4斜方	
6	須恵器	杯	-	7.7	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	底部手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区	
7	須恵器	杯	(14.1)	7.0	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	火だすき有 底部回転系切り	回転実測	H4坑I' H2Ⅰ・Ⅱ区	
8	須恵器	杯	(14.0)	-	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	Ⅰ区3層 Ⅳ区	
9	土師器	鉢	(17.9)	-	(7.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	Ⅳ区	
10	土師器	甕	-	(6.1)	(2.3)	磨耗		ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転系切り	回転実測	I・Ⅲ区	
11	土師器	甕	(21.3)	-	<19.8>	口縁部横ナデ・胴部ヘラナデ→頸部ヘラケズリ	頸部ヘラケズリ	頸部ヘラケズリ	頸部ヘラケズリ	口縁部横ナデ	回転実測	I・Ⅱ区 Ⅰ区3層 H4斜方 H2Ⅳ区	

第6表 H4・5住居址出土遺物観察表

H4				法 量				成 形・調 整・文 様				推定値()残存値()丸底			
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面		備 考		出 土 遺 物			
12	土師器	甕	(21.4)	-	(14.7)	口縁部横ナデ 胴部ヘラナデ		口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ		回転実測		I区	I区初方	I区3層	
13	土師器	甕	-	5.0	(20.6)	ヘラナデ		胴部ヘラケズリ		回転実測		IV区	初方		
15	土師器	甕	12.6	5.7	11.0	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ		胴部ヘラケズリ 口縁部横ナデ		完全実測		I区	初方		
19	須恵器	甕	(25.5)	(16.9)	-	ナデ		タタキ目→ヘラ描沈線				III・IV区	P3		
No.	種別	器種	文 様・調 整			備 考	No.	種別	器種	文 様・調 整			備 考		
14	須恵器	甕				8C後半	43	縄文土器	鉢	横位沈線 多条沈線内 縄文LR充填			堀之内1		
16	須恵器	甕	タタキ目 同心円文 当具痕			8C後半	44	縄文土器	鉢	多条沈線			堀之内1		
17	須恵器	甕	横位沈線 波状文			8C後半	45	縄文土器	鉢	多条沈線			堀之内1		
18	須恵器	甕	タタキ目			8C後半	46	縄文土器	鉢	横位多条沈線の下 縦位多条沈線を重畳状沈線間隙に磨消縄文LR			堀之内1		
20	縄文土器	深鉢	沈線 木葉痕			中期後半									
21	縄文土器	深鉢	沈線 縄文LR			中期後半	47	縄文土器	深鉢	口唇部内折 2条の横位刻み縁線に沿って沈線			堀之内2		
22	縄文土器	深鉢	微隆起帯 その後縄文LR			中期末-後期初期									
23	縄文土器	深鉢	微隆起帯内折 磨消縄文LR			中期末-後期初期	48	縄文土器	深鉢	2条の横位刻み縁線 内面横位沈線			堀之内2		
24	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯			後期前半	49	縄文土器	深鉢	小波状口縁 横位刻み縁線 内面波状部に円形貼付文			堀之内2		
25	縄文土器	深鉢	横位沈線下内凹形貼付文			後期前半	50	縄文土器	深鉢	横位刻み縁線 口唇部平で短く内折			堀之内2		
26	縄文土器	深鉢	連続する縄文LR			称名寺	51	縄文土器	深鉢	小波状口縁 3条の横位刻み縁線を8字状貼付文跨ぐ			堀之内2		
27	縄文土器	深鉢	J字状の沈線区画内に磨消縄文LR			称名寺	52	縄文土器	深鉢	小波状口縁 横位刻み縁線 8字状貼付文			堀之内2		
28	縄文土器	深鉢	J字状の沈線			称名寺									
29	縄文土器	深鉢	沈線区画内に連続刻文			称名寺	53	縄文土器	深鉢	口唇部平で内折 横位沈線区画内に縄文LR充填			堀之内2		
30	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による条線文			中期末-後期初期									
31	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による条線文			中期末-後期初期	54	縄文土器	深鉢	横位沈線区画内に縄文LR充填			堀之内2		
32	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による条線文			称名寺	55	縄文土器	深鉢	沈線区画内 縄文LR充填 内面横位沈線			堀之内2		
33	縄文土器	鉢	環状突起 沈線 円形刻文			堀之内1	56	縄文土器	鉢	V字状刻み縁線 8字状貼付文 2条の横位刻み縁線 多条沈線			堀之内2		
34	縄文土器	鉢	小突起の盲孔から横位沈線 その下横位隆帯からV字隆帯 内面盲孔から横位沈線			堀之内1	57	縄文土器	鉢	V字状刻み縁線 8字状貼付文 42条の横位刻み縁線を跨ぐ 多条沈線			堀之内2		
35	縄文土器	鉢	斜位の刻み隆帯			堀之内1	58	縄文土器	鉢	V字状刻み縁線 8字状貼付文 42条の横位刻み縁線を跨ぐ 多条沈線			堀之内2		
36	縄文土器	鉢	口唇部内折 外側肥厚する			堀之内1									
37	縄文土器	鉢	口唇部内折 横位沈線			堀之内1	59	縄文土器	深鉢	沈線文期間に縄文LR			堀之内2		
38	縄文土器	深鉢	口縁部横位沈線 縦位沈線磨消縄文LR			堀之内1	60	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填			堀之内2		
39	縄文土器	深鉢	口唇部内折 口唇部平 沈線			称名寺?	61	縄文土器	鉢	沈線区画内に縄文LR充填			堀之内2		
40	縄文土器	深鉢	頭部下横位沈線 沈線縄文LR			堀之内1	62	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填			堀之内2		
41	縄文土器	鉢	横位沈線 盲孔 多条沈線 磨消縄文LR			堀之内1	63	縄文土器	深鉢	菱形三角形の区画内に多重沈線充填 内面ミガキ			堀之内2		
42	縄文土器	鉢	横位沈線 沈線区画内縄文LR充填			堀之内1									
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見								
92	匙	灰色チャート	(3.3)	(3.3)	(0.7)	(8.50)	右側欠損						III区初方		
93	二次加工のある割片	硬質砂岩	4.3	6.0	0.9	24.03	正面に使用痕のある自然面残る 裏面は欠損か不明						I区		
94	二次加工のある割片	黒曜石	2.5	0.9	0.8	1.39	下部の両側が磨滅 折れ面の形状から「ドリル」の可能性あり						III区		
95	二次加工のある割片	黒曜石	1.8	0.8	0.3	0.43	上下端部と正面稜上に二次加工痕						床		
96	二次加工のある割片	灰色チャート	2.1	2.4	0.9	4.51							III区		
97	二次加工のある割片	黒曜石	1.5	1.3	0.4	0.69	上下端部に二次加工痕						I区		
98	割片	褐色チャート	4.2	2.6	0.7	0.43	裏ボジ1面 正面の剝離は二次加工?						I区		
99	割片	黒曜石	3.7	1.2	1.3	4.86	両側は上方からの折れ面 右側は使用による剝離か?						III区		
100	割片	褐色チャート	3.5	5.2	0.8	13.72	自然面残る割片						III区		
101	割片	酸化木	3.3	2.0	0.7	3.86	裏ボジ1面 右側は折れ面						I区		
102	割片	緑色チャート	2.6	1.8	0.8	2.83	裏ボジ1面の割片 下端部は使用痕?						II区		
103	打製石斧	安山岩	12.8	5.4	2.0	167.37	正裏とも節理状の大きな面残る						I区3層		
104	打製石斧	輝石安山岩	(5.3)	(6.2)	(1.0)	(39.57)	被熱あり(裏面黒化) 上下欠損						II区		
105	打製石斧	安山岩	(7.4)	(5.5)	(1.8)	(117.89)	正面～上側に自然面残る 下部欠損						I区		
106	打製石斧	硬質砂岩	4.6	4.7	1.3	27.30	打斧片の二次利用?						I区		
107	磨製石斧	輝石安山岩	(4.1)	6.6	(2.3)	(98.56)	上部欠損 欠損後最石として使用か 刃部壊れている						III区初方		
108	磨石	花崗岩	7.0	3.8	2.3	79.60	正面に2つのすり面						III区初方		
109	磨石	硬質砂岩	(6.3)	(4.4)	(2.6)	(91.21)	右側欠損 正面にすり面						III区初方		
110	磨石	輝石安山岩	6.9	4.8	2.1	95.96	正裏にすり面						III区床		
111	磨石	硬質砂岩	(4.8)	(2.6)	(2.0)	(39.55)	下部～裏面欠損 正面にすり面						II区初方		
112	磨石	灰色チャート	(2.2)	1.8	0.5	(2.66)	裏面一部欠損 全体に滑らか						II区		
113	磨石	安山岩	7.4	4.1	3.5	133.15	正面と右側にすり面						I区		
No.	種別	器種	法 量			成 形・調 整・文 様				推定値()残存値()丸底					
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面		備 考		出 土 遺 物			
1	土師器	環	(19.2)	(11.7)	(3.0)	ミガキ		ロクロナデ 底部ヘラケズリ		回転実測		P5			
2	土師器	環	(15.7)	(8.9)	5.6	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ 底部ヘラケズリ		回転実測		初方'内			
3	土師器	環	(19.4)	-	(5.8)	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ		回転実測		II区			
4	土師器	環	-	(7.2)	(2.1)	ロクロナデ		ロクロナデ 火だすき有 底部回転ヘラケズリ		回転実測		初方'			
5	須恵器	環	(16.4)	(7.0)	(5.0)	ロクロナデ		ロクロナデ 底部手持ちヘラケズリ		回転実測		III区			
6	須恵器	環	(14.3)	(6.8)	(4.1)	ロクロナデ 火だすき有		ロクロナデ 火だすき有 底部剝離		回転実測		III区			
7	須恵器	環	-	(9.3)	(2.0)	ロクロナデ 火だすき有		ロクロナデ 火だすき有 底部ケズリ		ヘラ記号 回転実測		IV区			
8	須恵器	環	(13.1)	-	(3.8)	ロクロナデ		ロクロナデ 火だすき有		回転実測		I区			
9	須恵器	環	(14.2)	-	(4.1)	ロクロナデ 火だすき有		ロクロナデ 火だすき有		回転実測		I・IV区			
10	須恵器	環	(14.5)	-	(3.5)	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測		IV区 IV区初方			
11	須恵器	環	(13.5)	-	(3.8)	ロクロナデ 火だすき有		ロクロナデ		回転実測		I区			
12	須恵器	環	(14.2)	-	(3.6)	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測		II区			
13	須恵器	有台環	(12.2)	(8.0)	(3.3)	ロクロナデ		ロクロナデ→底部切離し後高台貼付 火だすき有		回転実測		II区			
14	須恵器	有台環	-	(10.4)	(1.4)	ロクロナデ		ロクロナデ→底部切離し後高台貼付		回転実測		I区			
15	須恵器	蓋	-	(15.0)	(2.0)	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測		I区			
16	須恵器	蓋	2.9	14.7	3.2	ロクロナデ		ロクロナデ		完全実測		初方'内			
17	須恵器	蓋	3.8	13.9	2.3	ロクロナデ		ロクロナデ		完全実測		I区 I区属NSが'			
18	土師器	甕	-	(3.7)	(6.7)	ヘラナデ		ヘラケズリ 底部ヘラケズリ		回転実測		II区 P7			
19	土師器	甕	-	-	-	口縁部横ナデ→胴部ナデ		胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ		回転実測		初方'			
20	土師器	甕	21.2	(4.0)	28.4	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ		口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		回転実測		初方' IV区 H6P1 SX H2 II区 IV区			
21	土師器	甕	(13.4)	-	(11.0)	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ		口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ		回転実測		初方'			
22	土師器	甕	-	(8.8)	(6.0)	ミガキ→胴下部ヘラケズリ		ヘラケズリ		回転実測		IV区 き5<5 H4 III区初方			
23	須恵器	甕	(19.4)	-	(2.7)	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測		IV区			
No.	種別	器種	文 様・調 整			備 考	No.	種別	器種	文 様・調 整			備 考		
24	須恵器	甕	タタキ目 同心円文の当具痕			8C前半									
29	縄文土器	深鉢	波状口縁刻文 沈線縄文LR			称名寺	35	縄文土器	鉢	口唇部突起部からC字状・2条の沈線 大きめの盲孔 弧状沈線 小さいの盲孔 2条の沈線 口縁部内外面上対する盲孔			堀之内1		
30	縄文土器	深鉢	横位隆帯			称名寺									
31	縄文土器	深鉢	沈線区画内に磨消縄文LR 連続円形刻文			称名寺									
32	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR			称名寺	36	縄文土器	鉢	透し孔に沿ってC字状沈線 内面ミガキ 突起の盲孔が横位沈線 口唇部内外面に跨る縦位沈線 内面盲孔から横位沈線			堀之内1		
33	縄文土器	深鉢	2条の弧状沈線間に隆帯			称名寺									
34	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による条線文			中期末-後期初期	37	縄文土器	鉢	ひねり状の環状突起部に透し孔盲孔 内面突起部に盲孔			堀之内1		

第7表 H5・6・7住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考
44	縄文土器	鉢	口縁部横位沈線	堀之内1	56	縄文土器	深鉢	口縁部内折 透し孔の小突起その下に2条の横位刻み筋線を跨ぐ3字状貼付文 内面1条の横位沈線 内外面ミガキ	堀之内2	67	縄文土器	深鉢	口唇部に沿った沈線 沈線内磨消縄文LR	堀之内
45	縄文土器	鉢	頸部2条の横位沈線 縄文LR 内外面ミガキ	堀之内1	57	縄文土器	深鉢	口縁部内折 透し孔の小突起その下に2条の横位刻み筋線を跨ぐ3字状貼付文 内面1条の横位沈線 内外面ミガキ	堀之内2	68	縄文土器	深鉢	口唇部内側に肥厚する 口唇部に刺突 外面ナデ 内面ミガキ	後期前半
46	縄文土器	鉢	頸部集合沈線は渦巻状を描く? 内外面ミガキ 磨消縄文LR	堀之内1 H4 41と同一個体	58	縄文土器	深鉢	口縁部横位刻み筋帯 沈線区画内 縄文LR斜位充墳	堀之内2	69	縄文土器	深鉢	口唇部内 内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半
47	縄文土器	鉢	横位沈線下渦巻状の沈線 磨消縄文LR 内外面ミガキ	堀之内1	59	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部横位刻み筋帯に刻み筋帯 沈線区画内に縄文LR	堀之内2	70	縄文土器	深鉢	口唇部内斜で平 横位筋線帯 内外面ナデ	後期前半
48	縄文土器	鉢	穿孔 集合沈線 縄文LR充墳 内外面ミガキ	堀之内1	60	縄文土器	深鉢	口唇部肥厚 沈線 波状口縁 口唇部外側に肥厚 沈線区画内に磨消縄文LR 外面ミガキ 横位帯状	堀之内2	71	縄文土器	深鉢	口唇部内斜で平 横位筋線帯 内外面ナデ	後期
49	縄文土器	鉢	渦巻状の集合沈線 縄文LR充墳 内外面ミガキ	堀之内1 18と同一個体	61	縄文土器	深鉢	横位沈線 内面筋線区画内に 円形刺突文	加曾利B1	72	縄文土器	深鉢	底径小さくすばまる 内外面ナデ	後期
50	縄文土器	鉢	平行沈線が垂下・弧状を描く	堀之内1	62	縄文土器	深鉢	口唇部斜めに平 口唇部刻み 内面筋線帯 沈線内に連続刺突	加曾利B1	73	縄文土器	深鉢	内面 ミガキ	後期
51	縄文土器	鉢	細い縄文LR充墳	堀之内1	63	縄文土器	深鉢	縦位・弧状沈線 縄文LR充墳	堀之内1	74	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期
52	縄文土器	深鉢	垂下する刻み筋帯 2条の沈線	堀之内1	64	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充墳	堀之内2	75	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期
53	縄文土器	深鉢	垂下する刻み筋帯 2条の沈線	堀之内1	65	縄文土器	深鉢	沈線による幾何学文内に 縄文LR充墳	堀之内2	76	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期
54	縄文土器	深鉢	多条沈線	堀之内1	66	縄文土器	鉢?	口唇部内折 内外面ミガキ	堀之内	77	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期
55	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による波状乗船	堀之内1						78	土製品	不明	表裏側面ナデ 円形とみられる 中央より少し外側隆起あり 径8cm	後期?
										79	土製品	土器片円板	無文 胴部片 径2.8cm 厚さ0.7cm	後期
										80	土製品	土器片円板	無文 胴部片 径2.6cm 厚さ0.6cm	後期
										81	土製品	土器片円板	無文 胴部片 径2.0cm 厚さ0.9cm	後期
										82	土製品	土器片円板	無文 胴部片 径1.7cm 厚さ0.9cm	後期
										83	弥生土器	甕	櫛歯状走文	後期箱清水
										84	弥生土器	甕	櫛歯状走文	後期箱清水
所 見														
25	滑石	白玉	0.8	0.8	0.6	0.65	孔径 0.25							No.1
26	滑石	白玉	0.8	0.8	0.45	0.37	孔径 0.3 一部欠損							No.2
27	滑石	白玉	0.8	0.7	0.4	0.26	孔径 0.25 一部欠損							No.6刺方
28	砥石		<11.7>	<4.3>	<3.8>	<246.53>	土部欠損 砥面数4 正面と右側に幅のある条痕							Ⅲ区
85	石礫	黒曜石	1.7	1.7	0.35	0.93								I区
86	石礫	灰岩チャート	1.7	1.2	0.25	0.45								
87	石礫	黒曜石	<1.4>	<1.2>	0.2	<0.29>	左脚部欠損 有茎と思われる							Ⅱ区
88	楔	黒曜石	2.6	1.5	0.8	2.85	上下端部から刺突あり 模様で使用か							
89	打製石斧	安山岩	12.5	6.0	2.0	184.64								Ⅲ区刺方
90	打製石斧	輝石安山岩	<4.2>	<5.1>	<1.3>	<40.12>	下部欠損 正面に自然面残る 両側に潰れ							P7
91	台石片	輝石安山岩	<15.2>	<10.4>	<2.2>	<339.71>	裏面欠損 正面が使用面							Ⅳ区刺方
92	台石片	輝石安山岩	<9.3>	<8.5>	<1.6>	<142.23>	全周～裏面欠損 残存部全体が使用面							Ⅳ区刺方
93	軽石製品	軽石	6.5	4.9	3.1	52.70	正裏とも磨面と条痕あり							
94	磨石	輝石安山岩	<13.3>	<7.8>	<2.8>	<312.17>	被熱あり(正面黒化 裏面赤化) 下部欠損 正面にすり面							
95	磨石	角閃石安山岩	9.9	8.1	4.8	476.30	正裏にすり面							No.4
96	磨石	砂岩	7.0	6.0	1.8	94.75	正面にすり面							Ⅲ区
97	磨・蔽石	ばんれい岩	16.3	5.6	3.8	523.64	右側にすり面 正裏に蔽打痕							Ⅳ区刺方
98	磨石	輝石安山岩	14.5	4.9	2.0	223.19	右側に蔽打痕							Ⅲ区刺方
99	磨石	砂岩	11.0	5.4	4.4	358.28	左側と正面にすり面							Ⅲ区刺方
100	磨石	砂岩	13.4	6.3	2.8	317.02	下端部に蔽打痕 右側にすり面							Ⅲ区
101	磨石	安山岩	<9.8>	<6.7>	<2.8>	<173.89>	被熱あり(正面黒化) 右側～下部欠損 正面にすり面							
102	磨石	灰色チャート	1.6	1.2	0.9	2.54	全体にすり面							Ⅲ区
103	磨石	灰色チャート	<3.4>	<2.4>	<1.6>	<12.29>	右上部欠損 全体にすり面							I区
104	磨・蔽石	輝石安山岩	12.6	8.0	3.7	535.78	正裏にすり面 上～右側に蔽打痕							No.3
105	磨石	輝石安山岩	15.3	14.7	5.0	1474.77	被熱あり(正面右上黒化) 下端部に蔽打痕							No.7
H6 法 量 成形・調整・文様														
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	推定値()残存値()丸底●	出土遺物				
1	須恵器	坏	(14.6)	(7.3)	4.2	ロクロナデ 火だすき面	ロクロナデ 底部ヘラケズリ							
No.	種別	器種	文様・調整	備 考	No.	種別	器種	文様・調整	備 考	No.	種別	器種	文様・調整	備 考
2	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	9	縄文土器	深鉢	透し孔下に3条の横位刻み筋帯を 跨ぐ縦位刻み筋帯	堀之内2	15	縄文土器	深鉢	口縁部内折 内外面ミガキ 所謂粗製土器	後期前半
3	縄文土器	鉢	口縁部内湾 穿孔 横位沈線	堀之内1						16	縄文土器	深鉢	口縁部内折 内外面ミガキ 所謂粗製土器	後期前半
4	縄文土器	鉢	横位沈線間に隆帯 磨消縄文LR 内面ミガキ	堀之内1						17	縄文土器	深鉢	内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半
5	縄文土器	深鉢	波状口縁 口唇部縦位沈線 沈線区画内に磨消縄文LR	堀之内1	10	縄文土器	深鉢	横位の多条沈線 縄文LR 内外面ミガキ 口縁部内折	堀之内2	18	縄文土器	鉢	横位筋線の上端沈線でなぞる 隆帯下沈線 内外面ミガキ	堀之内
6	縄文土器	鉢	集合沈線	堀之内1	11	縄文土器	深鉢	口唇部平 横位刻み筋線 沈線	堀之内2	19	縄文土器	鉢	内面ミガキ	後期
7	縄文土器	鉢	弧状と縦位の沈線	堀之内1	12	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR	堀之内2	20	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期
8	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による条線	堀之内1	13	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR	堀之内2	21	縄文土器	深鉢	網代底 2つの編物 前 2本越1本潜り(?) 後 2本越1本潜り 素材細い	後期
					14	縄文土器	注口土器	平行の沈線	堀之内2	22	縄文土器	鉢	網代底 2つの編物 前 1本越1本潜り 後 2本越1本潜り(?)	後期
所 見														
23	石礫	黒曜石	2.1	1.5	0.2	0.43	ほぼ完形							
24	使用痕のある?剥片	黒曜石	1.4	2.0	0.4	1.07	裏面下部は使用痕か?							
25	剥片	黒曜石	2.1	1.2	0.4	1.04								
26	剥片	砂岩	4.7	3.2	0.8	9.94	自然面残る剥片							
27	磨石	輝石安山岩	7.3	6.3	2.3	156.00	正面にすり面							
28	磨・蔽石	砂岩	<11.5>	6.8	<3.7>	<438.93>	被熱あり(側～裏面赤化) 赤化より被熱割れか 正裏にすり面と浅い蔽打痕							
29	磨石	輝石安山岩	13.8	6.6	3.2	475.30	正裏にすり面							I区
30	蔽石	輝石安山岩	12.5	7.4	5.6	637.06	被熱あり(正面赤化 右側黒化) 上下・両側・正裏に蔽打痕							I区
31	磨石	輝石安山岩	9.9	7.1	4.0	412.73	正裏にすり面 上下端部に蔽打痕							
32	磨・蔽石	輝石安山岩	<7.6>	<5.7>	<2.3>	<150.34>	上～右側欠損 正裏にすり面 正面中央に蔽打痕							
33	磨・蔽石	砂岩	<7.7>	<4.2>	<2.3>	<77.34>	右側欠損 正面に蔽打痕 裏面にすり面							
H7 法 量 成形・調整・文様														
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	推定値()残存値()丸底●	出土遺物				
2	弥生土器	壺	-	8.6	<14.2>	ハケ目 赤色塗料付着	ヘラミガキ→赤色塗彩			完全実測	H7炉			
7	弥生土器	甕	19.0	6.4	23.3	ハケ目→ヘラミガキ	櫛歯状走文→櫛歯状走文→ヘラミガキ			完全実測	H7No1(E) WK E区 B区床			
8	弥生土器	鉢	-	5.4	<4.0>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩 木炭痕			完全実測	H7床			
9	弥生土器	高坏	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩			破片実測	H7床			
10	弥生土器	鉢か高坏	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩			破片実測	H7W区			
No.	種別	器種	文様・調整	備 考	No.	種別	器種	文様・調整	備 考	No.	種別	器種	文様・調整	備 考
1	弥生土器	壺	横位筋線のへら櫛歯状走文 へら櫛歯状走文に刺突が充墳される	後期箱清水	14	縄文土器	深鉢	弧状沈線区画内に縄文LR充墳 頂部に穿孔 内側に穿孔もつ	称名寺	21	縄文土器	鉢	小突起から垂下する刻み筋帯と 弧状の刻み筋帯が接する内面穿孔と円心文 その間に弧状の沈線 口唇部に短い沈線	堀之内1
3	弥生土器	甕	櫛歯状走文	後期箱清水	15	縄文土器	鉢か深鉢	内湾貼付される環状突起 突起下に円孔(注口)	称名寺	22	縄文土器	鉢	環状突起から2条の沈線 その下に 穿孔から垂下する刻み筋帯 内面に円形刺突	堀之内1
4	弥生土器	甕	櫛歯状走文・環状文	後期箱清水	16	縄文土器	鉢	小突起部表面に弧状沈線線に 栴形状の沈線 穿孔(円形刺突?)	堀之内1	23	縄文土器	深鉢	両脇を沈線がなぞる 横位筋帯下斜行沈線	堀之内1
5	弥生土器	甕	櫛歯状走文・環状文	後期箱清水	17	縄文土器	鉢	小突起から幅広い横位沈線 内面沈線(?) 口唇部肥厚	堀之内1	24	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に沿った沈線下 斜行沈線	堀之内1
6	弥生土器	甕	細かな刺突充墳した円形貼付文	後期箱清水	18	縄文土器	鉢	小突起の縦位沈線と穿孔から 2条の横位沈線	堀之内1	25	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に沿った沈線下 斜行沈線	堀之内1
11	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 穿孔もつ円板 円状突起内に 縄文LR充墳	称名寺	19	じよう	鉢	小突起の縦位沈線から横位沈線	堀之内1	26	縄文土器	鉢	口縁部内折 横位刻み筋帯	堀之内1
12	縄文土器	深鉢	環状突起に沿った字状沈線 穿孔 内面穿孔から沈線	称名寺	20	縄文土器	鉢	突起から2条の横位沈線	堀之内1					
13	縄文土器	深鉢	櫛歯状把手周囲に円形刺突ある C字状の刻み筋線 隆線中央が 栴形形状に広がりに沈線	称名寺										

第8表 H7・8・9・10・11住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考
27	縄文土器	鉢	斜行微隆縁 内面小突起に溝巻沈線から片方に楕円状沈線内に横位沈線 口縁部内折	堀之内1	48	縄文土器	深鉢	口縁部内折 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	77	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本溝り 他に2つの縄物重なる計3種類の編物いすれも素材細い	後期素材
28	縄文土器	鉢	口縁部内側に肥厚 口縁部に横位沈線	堀之内1	49	縄文土器	深鉢	口縁部内折 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	78	縄文土器	深鉢	網代底 2本越2本溝り密	後期素材
29	縄文土器	鉢	隆帯の上端をなぞる沈線	堀之内1	50	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	79	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
30	縄文土器	鉢	口縁部内折 口縁部に横位沈線	堀之内1	51	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	80	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
31	縄文土器	鉢	口縁部に横位沈線	堀之内1	52	縄文土器	深鉢	口縁部内折 弧状の沈線	堀之内2	81	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
32	縄文土器	鉢	口縁部内側に肥厚する 口唇部平ら 2条の横位隆帯 下位の隆帯下溝を沈線にぞる	堀之内1	53	縄文土器	深鉢	内面C字状沈線唇孔から横位沈線	堀之内2	82	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり 素材細い	後期
33	縄文土器	鉢	口縁部内湾 横位沈線	堀之内1	54	縄文土器	深鉢	三角形の沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	83	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり 素材細い	後期
34	縄文土器	深鉢	横位押し隆帯	後期前半	55	縄文土器	深鉢	重三角形の沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	84	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり 素材細い	後期
35	縄文土器	深鉢	横位押し隆帯	後期前半	56	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位沈線	堀之内2	85	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり 素材細い	後期
36	縄文土器	深鉢	横位押し隆帯	後期前半	57	縄文土器	深鉢	内面横位沈線	堀之内2	86	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり 素材細い	後期
37	縄文土器	鉢	口唇部に沈線 2条の沈線もつ環状突起	堀之内1	58	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚 口唇部刻み	堀之内2	87	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり 素材細い	後期
38	縄文土器	鉢	首孔に沿って面状沈線と円形刺突される円孔もつ楕円形の突起 この突起沿いに沈線 突起両側の円形刺突から横位 3条の沈線 その下に磨消縄文LR	堀之内1	59	縄文土器	深鉢	内面横位沈線	堀之内2	88	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
39	縄文土器	鉢	2状の刻み隆帯下3条の集合沈線 縄文LR	堀之内1	60	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯の上の8字状貼付文に連続する垂下する刻み隆帯	堀之内2	89	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
40	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線	堀之内1	61	縄文土器	鉢	楕円の把手に円形刺突もつ円板貼付 それに沿って細かな連続刺突	堀之内1	90	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
41	縄文土器	深鉢	小突起頂部に円形 内面突起下に 両面に小円孔もつ横位沈線	堀之内2	62	縄文土器	注口土器	注口部	堀之内1	91	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
42	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯下沈線による三角形 菱形 内面横位沈線	堀之内2	63	縄文土器	注口土器	注口部	堀之内1	92	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
43	縄文土器	深鉢	口唇部刻み 横位刻み隆帯下沈線 内面横位沈線	堀之内2	64	縄文土器	注口土器	注口部	堀之内1	93	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本溝り	後期
44	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯に8字状貼付文 その下弧状の沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	65	縄文土器	注口土器	注口部	堀之内1	94	縄文土器	注口土器	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
45	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯に8字状貼付文 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	66	縄文土器	深鉢	口縁部内折 所謂粗製土器	堀之内	95	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
46	縄文土器	深鉢	口縁部内折 沈線内に縄文LR充填	堀之内2	67	縄文土器	深鉢	小波状口縁 所謂粗製土器	堀之内	96	縄文土器	注口土器	網代底 素材細い 編み方不明	後期
47	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	68	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚 所謂粗製土器	堀之内	97	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本溝り 横条間隔あり	後期
47	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	69	縄文土器	深鉢	内面内ナデ 所謂粗製土器	堀之内	98	縄文土器	深鉢	網代底 編み方不明	後期
47	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	70	縄文土器	ニツパフ	外面粘土接合部がゆるがる	堀之内	99	縄文土器	深鉢	木炭痕	堀之内1
108	石鏝	黒曜石	<1.1>	<0.8>	<0.25>	<0.22>	先端・左側部先端欠損			100	土製品	土器片	沈線 縄文LR充填 胴部片 研磨痕 欠損	堀之内1
109	石鏝	黒曜石	<1.5>	<1.3>	<0.3>	<0.52>	先端・右側欠損			101	土製品	土器片	胴部片 敷打・研磨痕 径2.9cm 厚5.10cm	後期
110	石鏝	灰色チャート	<2.8>	<2.0>	0.5	<1.86>	両側先端欠損			102	土製品	土器片	胴部片 敷打・研磨痕 径3.4cm 厚5.10cm	後期
111	石鏝	褐色チャート	<3.0>	1.7	0.3	<1.09>	先端欠損			103	土製品	土器片	胴部片 敷打・研磨痕 径2.5cm 厚5.10cm	後期
112	石鏝 未製品	灰色チャート	2.4	1.7	0.6	2.36	未製品と思われる			104	土製品	土器片	縄文LR 胴部片 剥離・研磨痕 径4.1cm 厚5.08cm	後期
113	石鏝	黒曜石	<1.9>	<1.4>	0.4	<0.71>	右側部先端欠損			105	土製品	有孔土器片	中央に円孔の方形 剥離・研磨痕 長さ3.0cm 厚5.07cm 未製品	後期
114	石鏝	黒曜石	2.4	1.3	0.6	1.26	右側部先端欠損			106	土製品	有孔土器片	三角形 中央に裏裏から穿孔	後期
115	二次加工のある剥片	黒曜石	2.2	1.9	0.8	4.09	正面と下側面に二次加工痕 上側・両側・正面に自然面残る			107	縄文土製品	不明	土偶の手?	後期
116	二次加工のある剥片	黒曜石	2.8	2.2	1.1	3.94				所見	所見			
117	二次加工のある剥片	黒曜石	1.7	1.3	0.7	1.31	上部に二次加工痕							
118	剥片	黒色緻密安山岩	2.9	1.6	0.6	2.62	自然面を残す剥片							
119	石核	黒色緻密安山岩	5.8	7.0	3.2	139.16								
120	打製石斧	硬質砂岩	<5.3>	<3.5>	<1.5>	<39.54>	下部欠損 正面に自然面残る							
121	磨製石斧	蛇紋岩	<2.8>	<3.9>	<1.3>	<19.43>	表面の一部のみ残存							
122	磨・敲石	輝石安山岩	7.7	7.0	4.2	268.00	正裏にすり面 正面に敲打痕							
123	磨・敲石	角閃石安山岩	12.0	9.4	5.8	856.32	正面にすり面 正面に敲打痕							
124	磨・敲石	硬質砂岩	3.9	5.3	3.6	96.25	正面と上側に磨面 右側に敲打痕							
125	磨石	砂岩	<6.8>	<4.2>	<0.8>	<29.08>	下部欠損 正裏にすり面							
126	磨石	砂岩	6.8	3.6	2.8	102.52	全体に滑らか 正面にすり面							
127	磨石	輝石安山岩	7.5	5.6	2.2	151.41	正裏にすり面							
128	磨石	硬質砂岩	7.6	3.9	2.2	95.75	正面にすり面							
129	磨石	安山岩(その他の安山岩)	<7.0>	<5.6>	<3.1>	<165.13>	下部欠損 正裏にすり面							
130	凹石	安山岩(その他の安山岩)	<14.2>	<10.0>	<7.0>	<1063.29>	凹径推定(8.0) 凹深 2.6 右側欠損							
131	台石	輝石安山岩	<23.9>	<15.6>	<16.5>	<8150>	右側欠損 正面に敲打痕 正裏とも中央が滑らか							

第9表 H12・13・14号住居址出土遺物観察表

H12					法 量					成形・調整・文様					推定値()残存値()丸底●		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面					外 面					備 考	出土遺物
1	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	<21.5>						底部 木葉痕					回転実測	P11 H1初方 AH/フ 縄文後期
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考
2	縄文土器	深鉢	横位隆帯		加曾利EIV	6	縄文土器	深鉢	横位隆帯		後期前半	11	縄文土器		口縁部尖る 所謂粗製土器		後期前半
3	縄文土器	深鉢	横位隆帯起帯文下に縄文LR		加曾利EIV	7	縄文土器	深鉢	横位隆帯		後期前半	12	縄文土器		外面ミガキ 所謂粗製土器		後期
4	縄文土器	深鉢	垂下する刺突文		称名寺?	8	縄文土器	鉢	集合沈線 縄文LR		称名寺?	13	土製品	土器片 円板	胴部片 刺離・研磨痕 径3.7cm 厚さ1.3cm		後期
5	縄文土器	深鉢	横位の2条の沈線下に連続刺突 縄文LR充填		称名寺	9	縄文土器	鉢	沈線区画内 磨消縄文LR		称名寺?	14	土製品	土器片 円板	胴部片 刺離・敲打痕		後期
10	縄文土器	深鉢				10	縄文土器	深鉢	内外面ナデ 所謂粗製土器		後期前半						
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見					所 見					
15	磨石	砂岩	6.3	4.5	2.5	97.77	正面にすり面										
16	台石	輝石安山岩	<19.7>	<15.7>	<6.8>	<2650>	正面と右側が使用面 中央に敲打痕					No.1					
17	台石	輝石安山岩	<30.7>	<13.9>	<9.6>	<5490>	下部欠損 正裏に使用面										
H13					法 量					成形・調整・文様					推定値()残存値()丸底●		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面					外 面					備 考	出土遺物
1	土師器	環	(15.6)	-	<3.5>	ハラミガキ					ロクロナデ					回転実測	
2	土師器	甕	-	-	-	横ナデ					横ナデ ヘラケズリ					破片実測	
3	土師器	甕	-	-	-	横ナデ 黒色処理					横ナデ					破片実測	B11ナフ 切リ
4	土師器	甕	(16.0)	-	<5.1>	横ナデ					横ナデ					回転実測	
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考
5	縄文土器	鉢	消突起中央に溝き沈線を囲む 下端を結んだ沈線 端を結んだ2条の横位沈線と平行する沈線 内面円形刺突文を中心に同心円状の沈線と底位沈線		堀之内1	6	縄文土器	鉢	口縁部内折 横位沈線 内面横位沈線 内外面ミガキ		堀之内1	8	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期
						7	縄文土器	深鉢	縦位刻み隆帯と底位刻み隆帯が8字状の貼付に収束する		堀之内2						
H14					法 量					成形・調整・文様					推定値()残存値()丸底●		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面					外 面					備 考	出土遺物
1	土師器	環	13.9	9.7	4.3	暗文					ヘラケズリ					完全実測	No.7(I区)
2	土師器	環	(15.0)	-	6.0	横ナデ→ナデ					ナデ→ヘラケズリ					回転実測	I区
3	土師器	環	(16.8)	-	<3.8>	横ナデ					口縁部横ナデ 底部ヘラケズリ					回転実測	IV区
4	土師器	鉢	-	-	<3.4>	ハラミガキ→黒色処理					ハラミガキ					回転実測	IV区
5	土師器	高環	-	-	<2.9>	環部ヘラミガキ→黒色処理 脚部ナデ					ハラミガキ					完全実測	IV区
6	土師器	高環	-	(8.8)	(6.1)	環部ヘラミガキ→黒色処理 脚部ヘタ目					ハラミガキ					完全実測	IV区
7	須恵器	環	(16.0)	-	<2.6>	ロクロナデ					ロクロナデ					回転実測	II・IV区
8	須恵器	環	12.2	6.2	4.3	ロクロナデ					ロクロナデ 底部ヘラケズリ					完全実測	No.14(I区)
9	須恵器	環	-	5.7	<3.6>	ロクロナデ					ロクロナデ 底部ヘラケズリ					完全実測	No.15(I区) II区床
10	須恵器	環	(12.6)	(7.0)	3.6	ロクロナデ					ロクロナデ					回転実測	I区
11	須恵器	有台杯	(17.2)	(12.4)	4.0	ロクロナデ					ロクロナデ 切離し後高台貼付					回転実測	I・IV区
12	須恵器	環	(18.8)	-	<4.1>	ロクロナデ					ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ					回転実測 内外面に自然動着?	I区 II区床
13	須恵器	有台杯	(18.0)	(13.8)	4.2	ロクロナデ					ロクロナデ→回転ヘラ切り→高台貼付					回転実測	I・II区 II区床
14	須恵器	有台杯	(17.2)	-	<3.4>	ロクロナデ					ロクロナデ 高台欠損					回転実測	II区
15	須恵器	有台杯	-	(6.4)	<1.8>	ロクロナデ					ロクロナデ 切離し後高台貼付					回転実測	I区
16	須恵器	皿	(21.0)	-	<2.0>	ロクロナデ					ロクロナデ→回転ヘラケズリ					回転実測	IV区 す13切方
17	須恵器	蓋	-	つまみ径(3.2)	(1.5)	ロクロナデ					ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付					回転実測	IV区
18	須恵器	蓋	-	つまみ径3.0	<1.7>	ロクロナデ					ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付					完全実測	II区
19	須恵器	環	(8.8)	-	<2.8>	ロクロナデ					ロクロナデ					回転実測	P2
20	土師器	甕	(21.0)	-	<4.7>	横ナデ					口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ					回転実測	II区 II区床
21	土師器	甕	(14.6)	-	<6.0>	口縁部横ナデ					口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ					回転実測	I区 Ⅲ区床 IV区初方 す13Ⅲ区切方
22	土師器	甕	(21.0)	-	<2.1>	横ナデ					ナデ					回転実測	I区
23	土師器	甕	(21.8)	-	<3.2>	横ナデ					口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ					回転実測	I区 II区検出面
24	土師器	甕	(13.2)	(5.2)	19.7	口縁部横ナデ 胴部ヘラナデ					口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ					回転実測	I・II区 III区初方 す13Ⅲ区切方
25	土師器	甕	(22.0)	-	<19.3>	口縁部横ナデ 胴部ヘラナデ					口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ					回転実測	No.11(I区) No.12(I区)
26	土師器	甕	(23.0)	-	<9.2>	口縁部横ナデ 胴部ナデ					口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ					回転実測	I区 す13検出面
27	土師器	甕	23.6	4.5	32.2	口縁部横ナデ 胴部ヘラナデ					口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ					完全実測	No.6(I区)
28	須恵器	長頸壺	-	-	<10.7>	ロクロナデ					ロクロナデ					完全実測	No.16(I区)
29	須恵器	甕	(33.6)	-	<11.0>	指頭圧痕					タタキ目					回転実測	No.8(Ⅲ区)
30	須恵器	甕	-	-	<2.0>	ヘラ描沈線?					ヘラ描沈線?					破片実測	I区
31	須恵器	横瓶	-	-	-	ナデ					タタキ目					断面実測	No.17
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考
32	土製品	土器片 円板	内面黒色処理の土師器 杯を加工		奈良	43	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 内面口縁部に沿って横位沈線		堀之内2	56	縄文土器		2本越2本潜り 横条間隔あり 素材細い		後期
33	縄文土器	深鉢	横位・垂下微隆起帯文 縄文LR		中継〜後期調 加曾利EIV	44	縄文土器	深鉢	内面口縁部に沿って2条の横位沈線		堀之内2	57	縄文土器		2つの編み方不明の編物重複		後期
34	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁部内折 沈線区画内縄文LR充填		称名寺	45	縄文土器	深鉢	口縁部に沿って横位沈線と隆帯(刻み?) 斜行する沈線と横位沈線		堀之内2	58	土製品	土器片 円板	沈線 胴部片 敲打・刺離痕 径2.8cm 厚さ0.7cm		後期
35	縄文土器	深鉢	J字状沈線区画 縄文LR充填		称名寺	46	縄文土器	深鉢	三角形の沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2	59	土製品	土器片 円板	胴部片 敲打・刺離痕 径4.0cm 厚さ0.6cm		後期
36	縄文土器	深鉢	環状沈線		称名寺	47	縄文土器	鉢	くびれ部の2条の横位沈線 直線と弧状の集合沈線		堀之内2	60	土製品	土器片 円板	胴部片 敲打・刺離痕 径3.1cm 厚さ0.8cm		後期
37	縄文土器	深鉢	環状突起沈線		堀之内1	48	縄文土器	深鉢	縄文LR充填した沈線区画内に線状に沈線を充填		堀之内2	61	土製品	土器片 円板	胴部片 敲打・刺離痕 径3.1cm 厚さ0.8cm		後期
38	縄文土器	鉢	口縁部内折 口縁部横位沈線		堀之内1	49	縄文土器	深鉢	縄文LR充填した沈線区画内に重三角状に沈線を充填		堀之内2	62	土製品	土器片 円板	胴部片 磨耗 径2.8cm 厚さ0.8cm		後期
39	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線 そこから対弧状の集合沈線垂下		堀之内2	50	縄文土器	注口土器			堀之内	63	土製品	土器片 円板	胴部片 磨耗 径2.6cm 厚さ0.8cm		後期
40	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部に沿って横位刻み隆帯に8字状貼付文がのる沈線区画内に磨消縄文LR		堀之内2	51	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期	64	弥生土器	甕	櫛描波状文		後期箱清水
41	縄文土器	深鉢				52	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期	65	弥生土器	甕	櫛描波状文		後期箱清水
42	縄文土器	深鉢				53	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期	66	弥生土器	甕	櫛描波状文		後期箱清水
						54	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期						
						55	縄文土器		2本越2本潜り 横条間隔あり		後期						
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見					所 見					
67	石 鏝	黒曜石	1.25	1.2	0.2	0.18						No.3					
68	スクレーパー	チャート	2.9	2.5	0.7	4.67	下端部に二次加工痕					I区					
69	ドリル		2.4	1.3	0.5	1.38						IV区					
70	榧	黒曜石	2.7	1.7	0.9	4.13	両端からの刺離あり					IV区					
71	榧?	黒曜石	2.2	1.4	0.7	2.10	上下両端から刺離あり 横的な使用痕か?					II区					
72	打製石斧	硬質砂岩	16.7	6.7	1.7	216.78	正裏の刃部付近に節理面残る					I区					
73	打製石斧	粘土岩	<12.3>	6.0	1.3	<119.24>	刃部先端欠損 正裏とも素材の面が残る					II区					
74	磨石	砂岩	(6.4)	(4.4)	(1.9)	(87.97)	下部欠損 正裏にすり面					I区					
75	磨石	砂岩	4.7	4.0	2.0	25.56	被熱あり(赤褐色化と裏面の被熱による刺離) 正面にすり面					初'1 削方					
76	磨石	砂岩	2.2	1.7	0.4	(2.33)	一部欠損 全体に滑らか					I区					
77	磨石	砂岩	(7.0)	(4.7)	(1.5)	(64.12)	上側を残し欠損 正面にすり面					I区					
78	敲石	花崗岩	15.6	13.5	4.6	1452.41	上部〜左側に敲打痕					No.10					
79	磨・敲石	安山岩(その他の安山岩)	<11.0>	(7.9)	(4.6)	(605.41)	被熱あり(正面→上側黒化) 下部欠損 正裏・両側がすり面 正裏に敲打痕					No.9					
80	敲石	輝石安山岩	14.4	6.2	5.0	637.99	被熱あり(右側赤化 刺離は被熱割れか?)					No.2					
81	磨・敲石	安山岩(その他の安山岩)	12.5	5.2	4.5	488.74	上下両端部に敲打痕 正面と右側にすり面					No.4					
82	磨・敲石	輝石安山岩	9.7	8.4	6.0	665.12	正裏にすり面 正面と右側に敲打痕					No.5					
83	磨・敲石	輝石安山岩	(8.7)	(9.0)	(3.1)	(330.39)	下部欠損 正面に敲打痕 裏面にすり面					Ⅲ区					
84	敲石	砂岩	(5.5)	(5.8)	(2.2)	(92.03)	下部欠損 上部部に敲打痕					I区					
85	敲石	花崗岩	(12.9)	(8.4)	(5.5)	(796.72)	下部欠損 上部部敲打痕					IV区					

第10表 H14・15・16・17号住居址出土遺物観察表

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	所見			
86	軽石製品	軽石	6.3	5.0	2.3	29.53	正面に条痕 全体にすり	Ⅱ区			
87	軽石製品	軽石	<3.5>	<3.5>	<2.2>	<14.39>	下部欠損 全体にすり	Ⅲ区			
88	軽石製品	軽石	6.4	6.3	3.7	68.78	全体にすり 正面に条痕	No.1			
89	原材	千枚岩	5.8	2.4	1.2	22.02		Ⅱ区			
90	原石	千枚岩	6.5	2.4	1.3	25.45		Ⅱ区			
91	原石	千枚岩	3.3	1.9	0.6	3.65		Ⅳ区			
H15			法 量				成形・調整・文様		推定値()残存値()丸底●		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面	備 考	出土遺物	
1	土師器	杯	(11.6)	-	3.6	みこみ部ナデ→口縁部横ナデ		口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	Ⅳ・Ⅲ区 検出面	
2	土師器	杯	(10.8)	-	2.6	ミガキ		口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測 外面剥離著しい		
3	土師器	杯	(10.5)	-	<2.8>	横ナデ		底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	回転実測	ｶﾞﾄ	
4	土師器	杯	-	-	-	ミガキ		口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	破片実測	Ⅰ・Ⅳ区	
5	土師器	杯	-	-	-	ミガキ→黒色処理		口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	Ⅲ区	
6	土師器	杯	(11.2)	-	3.8	ナデ→口縁部横ナデ		口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区 検出面	
7	土師器	杯	-	-	-	ミガキ→黒色処理		口縁部横ナデ後ミガキ→底部ヘラケズリ・ヘラナデ	破片実測	Ⅲ区	
8	土師器	杯	(12.8)	-	<3.4>	横ナデ(ハケ状工具使用)		口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	け12	
9	土師器	杯	(13.2)	-	<3.5>	ミガキ→黒色処理		底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ→一部ミガキ	回転実測	Ⅰ区	
10	土師器	高杯	16.0	(10.5)	11.2	坏部ミガキ→黒色処理 胴部脚部ヘラケズリ→一部ミガキ		ミガキ	完全実測	No.5(Ⅰ区)	
11	土師器	高杯	17.5	-	<7.1>	ミガキ→黒色処理		口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No.4(Ⅱ区) Ⅰ区	
12	土師器	鉢	-	-	-	ミガキ		ミガキ	破片実測	Ⅰ区	
13	土師器	鉢	22.0	-	<11.7>	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ		口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.3(Ⅰ区)	
14	土師器	甕	(21.1)	-	<4.9>	ミガキ		横ナデ	回転実測	Ⅰ区	
15	土師器	壺	(21.6)	8.0	(35.4)	口縁部横ナデ→胴→底部ヘラナデ(一部ハケ状工具使用)		口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ後ミガキ 底部ヘラケズリ	回転実測 完全実測(図上で復元した)	Ⅲ・Ⅳ区	
16	土師器	甕	21.0	-	<31.5>	口縁部横ナデ→胴部ナデ		口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ後一部ミガキ	完全実測	Ⅰ・Ⅲ区 ｶﾞﾄ No.2 ｶﾞﾄ ｷ1	
17	土師器	鉢	(13.2)	-	<6.8>	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ		口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ後ミガキ	回転実測	Ⅰ区	
18	土師器	甕	-	-	-	ヘラナデ		ヘラケズリ	破片実測	Ⅳ区	
19	土師器	甕	-	(5.0)	<26.9>	ヘラナデ		ヘラケズリ	回転実測 付着物多い	Ⅰ・Ⅲ区 ｶﾞﾄ 検出面 H12・D13Ⅲ区	
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考
21	縄文土器	深鉢	横位條帯		中期後半	33	縄文土器	深鉢	波状口縁頂部の首孔下に8字状貼付文がのり刻み隆線		堀之内2
22	縄文土器	深鉢	横位押圧條帯		後期前半	44	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細い		堀之内
23	縄文土器	鉢	環状突起 C字状沈線端部に円形刺突 透し孔頂に沈線 内面透し孔両脇に首孔		堀之内1	34	縄文土器	深鉢	口縁部折 8字状貼付文下の横位條帯の両端なる沈線 その下に横位沈線 内面2条の横位沈線		加曾利B1
			突起部に4個の円孔 円孔2つから横位沈線 突起から垂下する刻み條帯 内面円孔 横位沈線						堀之内1		
24	縄文土器	鉢	環状突起 横位沈線 口唇部沈線		堀之内1	35	縄文土器	深鉢	2条の横位刻み隆線 その下に横位沈線		堀之内2
25	縄文土器	鉢	環状突起 横位沈線 口唇部沈線		堀之内1	36	縄文土器	深鉢	8字状貼付文の横位刻み隆線		堀之内2
26	縄文土器	鉢	波状口縁 陰帯をなぞった沈線		堀之内1	37	縄文土器	深鉢	幾何学沈線		堀之内2
27	縄文土器	鉢	横位沈線		堀之内1	38	縄文土器	深鉢	斜行沈線間に縄文LR充填 沈線間に縄文LR充填		堀之内2
28	縄文土器	鉢	刻み條帯なる沈線 2条の平行沈線 磨消縄文LR		堀之内1	39	縄文土器	深鉢	口縁部横位沈線 4条の沈線で山形文1～1.5cmの粘土帯 内面横位沈線 外面ミガキ		堀之内2
			刻み條帯なる沈線 2条の平行沈線 磨消縄文LR						堀之内1		
29	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による蛇行条線		堀之内1	40	縄文土器	注口土器	山形文1～1.5cmの粘土帯 内面横位沈線 外面ミガキ		堀之内2
30	縄文土器	鉢	環状・垂下する集合沈線		堀之内2	41	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚する所謂粗製土器		後期前半
31	縄文土器	鉢	斜行集合沈線 縄文LR充填		堀之内2	42	縄文土器	深鉢	外面ミガキ 所謂粗製土器		後期前半
32	縄文土器	深鉢	斜行集合沈線		堀之内2	43	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細い		後期
44	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細い		堀之内	45	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細い		後期
46	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細い		堀之内	47	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細い		後期
48	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細い		堀之内	49	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り ナデで網代底 一部平滑化		後期
50	縄文土器	深鉢	網代底 網み方不明 2種類以上の編物文		堀之内	51	縄文土器	深鉢	網代底 不明 素材細い		後期
52	土製品	土器片甲板	網代底 胴部片 敲打・割痕 径6.0cm 厚2.0cm		堀之内	53	土製品	土器片甲板	網代底 胴部片 敲打・割痕 径3.7cm 厚2.0cm		後期
54	土製品	土器片甲板	網代底 胴部片 敲打・割痕・研磨痕 径3.6cm 厚2.1cm		堀之内	54	土製品	土器片甲板	網代底 胴部片 敲打・割痕・研磨痕 径2.5cm 厚2.0cm		後期
55	土製品	土器片甲板	網代底 胴部片 敲打・割痕・研磨痕 径2.5cm 厚2.0cm		堀之内	56	弥生土器	甕	櫛歯波状文		弥生後期
57	弥生土器	甕	櫛歯波状文		堀之内	57	弥生土器	甕	櫛歯波状文		弥生後期

第11表 H17・18・19号住居址出土遺物観察表

H17				法 量				成形・調整・文様				推定値()残存値()丸底●					
No.	種別	器種	口徑(長) (17.4)	底徑(幅) 7.4	器高(厚) 36.5	内 面	外 面	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考				
18	土師器	長胴甕	19.3	5.0	35.2	口縁部横ナデ 胴へ底部ハケ目	胴部ハラケズリ→口縁部横ナデ・底部木葉痕	完全実測		I・II区	取組面 跡 跡付 110						
19	土師器	長胴甕	19.3	5.0	35.2	口縁部横ナデ→胴へ底部ハラナデ	口縁部横ナデ→胴部ナデ・底部木葉痕	完全実測		No.1(I区)							
20	土師器	長胴甕	(20.8)	-	<19.2>	胴部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部横ナデ→胴部ハラケズリ	回転実測		I・II・III区							
21	土師器	甌	(19.3)	7.6	11.7	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	外面磨耗 1穴	No.8(II区)							
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考
24	縄文土器	深鉢	微隆起文 縄文LR		中期後半	36	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線		堀之内2	54	縄文土器	深鉢	網代底 編み方不明		後期
25	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文L		中期末葉~後期 加須上層和ED?	37	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線		堀之内2	55	縄文土器	深鉢	網代底 編み方不明		後期
26	縄文土器	深鉢	横位押し窪帯		後期前半	38	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2	56	縄文土器	深鉢	底部に木葉痕		後期
27	縄文土器	鉢	環状把手に円形刺突から渦巻状沈線 内面途中で途切れる渦巻状沈線の両側に円形刺突		堀之内1	39	縄文土器	深鉢	横位の連続刺突		堀之内2	57	縄文土器	深鉢	底部に木葉痕		後期
28	縄文土器	鉢	口縁部内折 円形刺突		堀之内1	40	縄文土器	鉢	沈線の沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2	58	土製品	土器片 円板	底部片 剥離・研磨痕 網代底 2本越1本潜り 径3.2cm 厚さ1.0cm		後期
29	縄文土器	深鉢	口唇部刻み 口唇部の円形貼付文から8字状貼付文が横位刻み隆線につながる隆線 下弧状・斜行沈線 沈線区画		堀之内1	41	縄文土器	注口土器?	環状の横状把手 頂部くぼむ		後期	59	土製品	土器片 円板	底部片 剥離・敲打痕 網代底 2本越1本潜り 径3.8cm 厚さ0.6cm		後期
30	縄文土器	深鉢	口縁部内折 小突起横位隆線		堀之内1	42	縄文土器	深鉢	内外面ナデ 内面横位沈線		後期前半	60	縄文土器	ニミフア?	無文 底径 3.7cm		後期
31	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯 沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2	43	縄文土器	深鉢	内外面ナデ 所謂粗製土器		後期前半	61	弥生土器	鉢	内外面赤色塗彩 底径 4.5cm		後期箱清水
32	縄文土器	深鉢	口縁部内折 3条の横位刻み隆線 内外面ミガキ		堀之内2	44	縄文土器	深鉢	格子状の沈線後横位沈線		加曾利B2	62	弥生土器	鉢+高坏	内外面赤色塗彩 焼成後に穿孔(?) 穴の周囲削って整形		後期箱清水
33	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線 内外面ミガキ		堀之内2	45	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい		後期	63	弥生土器	甌	柳描波状文		後期箱清水
34	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線上に8字状貼付文		堀之内2	46	縄文土器	注口土器?	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい		後期	64	弥生土器	壺	ヘラ描横走沈線文後に斜走文		後期箱清水
35	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の縄文LRを付す隆線上に円形貼付文 沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2	47	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい		後期	65	弥生土器	壺	ヘラ描横走沈線文後に斜走文 外面赤色塗彩		後期箱清水
48	縄文土器	深鉢	網代底 2本越2本潜り 横条間隔あり 素材細かい		後期	66	弥生土器	甌	口縁部・胴部・柳描波状文施文後に横状文		後期箱清水	67	弥生土器	甌	柳描波状文施文後に横状文		後期箱清水
49	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期	68	弥生土器	甌	柳描波状文施文後に横状文		後期箱清水	69	弥生土器	甌	柳描波状文		後期箱清水
50	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期	70	弥生土器	甌	柳描波状文		後期箱清水	71	弥生土器	甌	柳描斜状文		後期箱清水
51	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期	71	弥生土器	甌	柳描斜状文		後期箱清水	72	弥生土器	高坏	内外面赤色塗彩		後期箱清水
52	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		堀之内	72	弥生土器	高坏	内外面赤色塗彩		後期箱清水	73	弥生土器	甌	内外面ミガキ		後期箱清水
53	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細かい		後期	73	弥生土器	甌	内外面ミガキ		後期箱清水						
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見										
22	砥石片?	砂岩	<3.6>	<2.4>	<2.8>	<38.31>	周囲→裏面欠損 砥面2面残る										IV区
23	白玉	滑石	1.0	0.95	0.5	0.74	孔径 0.3 擦痕あり										No.6
74	剥片	黒曜石	3.4	3.4	1.7	13.86	右側は使用痕か 正面以外全て古い面か自然面										
75	剥片	黒曜石	<2.2>	<1.8>	0.4	<1.56>	下部欠損 打面と正面に節理面										
76	磨製石斧	緑色凝灰岩	<4.6>	<3.3>	<1.9>	<51.16>	下部欠損										Ⅲ区刺方
77	磨製石斧	緑色凝灰岩	<8.3>	<4.4>	2.7	<149.58>	刃部先端欠損 敲打痕残る										Ⅱ区1層
78	磨・敲石	輝石安山岩	<5.0>	<5.6>	<2.4>	<102.01>	上側→右側欠損 正面にすり面 右側に敲打痕										I区
79	凹石	輝石安山岩	10.5	7.1	3.5	384.21	正裏中央と縁辺に敲打痕										Ⅲ区
80	磨石	軽石	9.1	7.0	5.4	164.70	正裏に条痕 全体にすり										Ⅱ区
81	磨石	軽石	7.9	6.8	3.7	90.81	正面に条痕 全体にすり										Ⅲ区
82	台石片?	輝石安山岩	<5.6>	<7.5>	<2.3>	<128.74>	被熱あり?(正面黒化) 周囲欠損 正面が使用面か										IV区
83	台石片	輝石安山岩	<6.3>	<9.8>	<2.5>	<242.05>	周囲欠損 正面が使用面か										IV区
84	台石	輝石安山岩	15.4	13.1	3.2	795.30	右側を残し周囲→裏面欠損か 正面が使用面										No.13
H18				法 量				成形・調整・文様				推定値()残存値()丸底●					
No.	種別	器種	口徑(長)	底徑(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考				
1	土師器	坏	(12.6)	(11.2)	(3.8)	ナデ	口縁部横ナデ→ハラケズリ	回転実測		N区							
2	土師器	坏	(14.4)	(14.4)	(3.7)	ナデ	ハラケズリ 口縁部横ナデ	回転実測		M1す12							
3	土師器	坏	(14.4)	-	4.2	ハラミガキ 黒色処理	口縁部横ナデ→ハラケズリ	回転実測									
4	土師器	坏	(13.6)	-	4.7	ナデ	ハラケズリ	回転実測		S区							
5	土師器	坏	(11.8)	-	<2.5>	暗文	口縁部横ナデ・ナデ→ハラミガキ	回転実測		M1							
6	土師器	鉢	12.5	-	7.9	ハラミガキ 黒色処理	口縁部横ナデ→ハラケズリ	完全実測		No.5(S区)							
7	土師器	鉢	8.3	-	6.5	ハラミガキ 黒色処理	ハラナデ ハラミガキ→口縁部横ナデ	完全実測		No.4(S区)							
8	土師器	甕	-	(5.6)	(11.0)	ハラナデ	ハラケズリ	回転実測									
9	土師器	甕	(21.0)	-	<8.0>	ハラナデ	ハラケズリ	回転実測		N・S区							
10	土師器	壺	-	10.9	<1.7>	剥落	ハラケ目→ハラミガキ	完全実測									
11	土師器	甌?	(21.6)	-	<6.8>	ハラナデ	ハラケズリ	回転実測									
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考
15	土製品	土器片 円板	無文 胴部片 敲打剥離痕 径7.8cm 厚さ0.7cm		後期前半	24	縄文土器	深鉢	口縁部内折 円文内外面にかけて 絞り状沈線 横位の連続刺突		堀之内1	31	縄文土器	鉢	斜行する3条の集合沈線		堀之内2
16	縄文土器	深鉢	斜行沈線の下端に横位沈線		中期中葉	25	縄文土器	浅鉢	口縁部内折 小突起部に内面円形刺突		堀之内1	32	縄文土器	深鉢	小波状口縁		後期前半
17	縄文土器	深鉢	横状把手		称名寺	26	縄文土器	深鉢	小波状口縁 沈線区画内に縄文LR充填 内面凹状の沈線陥凹の円形刺突から横位沈線そして円形刺突		堀之内2	33	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい		堀之内
18	縄文土器	深鉢	環状把手 沈線間に縄文LR充填		称名寺	27	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯に乗る刻み持つ8字状貼付文 その中心とした半円状の集合沈線 斜行する集合沈線		堀之内2	34	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい		後期
19	縄文土器	深鉢	微隆起線文		称名寺	28	縄文土器	鉢	斜行する集合沈線 磨消縄文LR		堀之内2	35	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい		後期
20	縄文土器	深鉢	微隆起線文		称名寺	29	縄文土器	深鉢	8字状貼付文が横位刻み隆帯に乗る 内面2条の横位沈線		堀之内2	36	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り		後期
21	縄文土器	深鉢	横位押し窪帯		後期前半	30	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯 沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2	37	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り		後期
22	縄文土器	深鉢	円孔に沿った沈線 凹孔に円形刺突に沿った沈線 内面凹孔に沿った沈線		堀之内1												
23	縄文土器	深鉢	口縁部内折 円形貼付文の突起から横位沈線 垂下する2条の隆帯に沿って沈線		堀之内1												
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見										
12	紡錘車	滑石	(4.5)	(3.0)	<1.3>	<19.20>	孔径 0.75 約1/2残存 削り状の整形痕残る										No.2
13	白玉	滑石	0.8	0.8	0.6	0.53	孔径 0.25 擦痕残る										No.11
14	鉄燄	黒曜石	<12.0>	0.9	0.4	9.79	基部欠損 長頭燄(鑿)片刃縁状閃										No.3
42	石錐	灰色チャート	2.7	0.7	0.5	0.69											S区
43	剥片	灰色チャート	3.8	3.2	0.7	8.82	上下端部の剥離は人為的なものか不明										S区
44	剥片	硬質砂岩	2.5	2.3	0.35	2.91	自然面の残る剥片										S区
45	剥片	砂岩	6.2	5.5	0.6	17.99	自然面を残す剥片										B
46	磨製石斧	花崗岩	<10.4>	<5.8>	<2.9>	<273.27>	刃部欠損										
47	敲石	安山岩	12.5	9.3	5.3	886.72	上下端部に敲打痕										No.7
48	磨石	砂岩	8.3	6.0	1.9	134.78	正裏にすり面										
49	磨石	輝石安山岩	<15.5>	<4.3>	<4.0>	<414.25>	右側欠損 正裏にすり面										No.8
50	敲石	輝石安山岩	6.8	6.3	4.6	251.21	正面と周囲に敲打痕										No.9
51	磨・敲石	砂岩	14.0	8.6	4.3	836.32	被熱あり?(正裏少し黒化) 正面にすり面 縁辺に敲打痕										No.6
52	台石片		<7.1>	<8.6>	<2.2>	<248.30>	右側以外周囲欠損 正面が使用面か										
H19				法 量				成形・調整・文様				推定値()残存値()丸底●					
No.	種別	器種	口徑(長)	底徑(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考				
1	土師器	甕	13.8	-	<16.3>	ハラケナデ	ハラケズリ→口縁部横ナデ	完全実測		No.1							
3	須臾器	甕	-	-	-	同心円文当て具痕	平行タタキ目	破片実測		床							
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考
4	縄文土器	深鉢	縄文LR		中期	6	縄文土器	深鉢	波状口縁 円形の沈線内に円孔		堀之内1	7	縄文土器	鉢	小波状口縁 2條の円形刺突から横位沈線		堀之内1
5	縄文土器	深鉢	縄文LR施文後沈線区画		後期												

第12表 H19・20・21・23・24・25号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考		
8	縄文土器	鉢	小波状口縁 縦位刻み隆線 内面渦巻沈線	堀之内1	10	縄文土器	深鉢	内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半	13	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期		
9	縄文土器	深鉢	柳歯状工具による弧状・直線の条線	堀之内1	11	縄文土器	深鉢	内外面ナデ 所謂粗製土器	後期前半	14	縄文土器	鉢	内外面ナデ	後期		
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見							所見		
2	紡錘車	滑石	4.3	2.0	2.3	53.70	孔径 0.75	削り状の整形痕	裏面に擦痕あり					No.1		
15	磨製石斧	緑色凝灰岩	<4.1>	<3.6>	<1.6>	<42.56>	基部欠損	下部は折れた後砥石として使用か?								
16	磨石	軽石	<5.8>	<3.9>	<1.8>	<21.26>	下部欠損	全体にすり								
17	打製石斧	輝石安山岩	<5.8>	<6.1>	<1.4>	<74.71>	上部欠損	刃部付近磨減								
H20																
No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考		
1	縄文土器	深鉢	微隆起帯	中期後半	5	縄文土器	深鉢	口縁部外側肥厚する 所謂粗製土器	後期前半	8	縄文土器	注口土器	橋状把手 ミガキ	後期		
2	縄文土器	深鉢	沈線LR施文後沈線	中期後半	6	縄文土器	深鉢	口縁部内側 所謂粗製土器	後期前半	9	縄文土器	注口土器	菱形・三角形の沈線区画 縄文LR充填	堀之内		
3	縄文土器	深鉢	沈線区画 縄文LR充填	称名寺	7	縄文土器	深鉢	口縁部内側に粘土貼付して肥厚する 所謂粗製土器	後期前半	10	縄文土器	深鉢	網代底 ナデにより編み方不明	後期		
4	縄文土器	鉢	斜行する刻み隆線	堀之内1												
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見							所見		
11	剥片	黒曜石	3.2	1.3	0.5	1.77	右側は使用痕か不明									
H21																
No.	種別	器種	法量			内面			外面			推定値()残存値()丸底●		出土遺物		
1	土師器	坏	(13.4)	5.3	4.5	ヘラミガキ	黒色処理	ロクロナデ	底部右回転糸切り	完全実測	37.7'		出土遺物			
2	土師器	坏	14.0	6.0	4.2	ヘラミガキ	黒色処理	ロクロナデ	底部右回転糸切り	完全実測	37.7'					
3	土師器	坏	(14.0)	(6.2)	4.2	ヘラミガキ	黒色処理?	ロクロナデ	底部回転糸切り	回転実測	37.7'					
4	土師器	坏?	(13.4)	-	<3.2>	ヘラミガキ	黒色処理?	ロクロナデ	回転実測	37.7'						
5	土師器	坏?	(13.6)	-	<2.7>	ヘラミガキ		ロクロナデ	回転実測							
6	土師器	碗?	(17.6)	-	<4.9>	ヘラミガキ	黒色処理	ロクロナデ	回転実測	37.7'						
7	土師器	碗	(15.6)	-	<4.2>	ヘラミガキ	黒色処理	ロクロナデ	底部回転糸切り	回転実測	37.7'					
8	土師器	皿	(14.4)	-	<2.0>	ヘラミガキ		ロクロナデ	回転実測							
9	須恵器	有台坏	-	(8.2)	<2.1>	ロクロナデ		ロクロナデ	底部ヘラケズリ	高台貼付						
10	須恵器	坏	(14.8)	6.0	(3.8)	ロクロナデ		ロクロナデ	底部回転糸切り	回転実測	37.7'					
11	土師器	甕	(13.4)	-	<5.0>	ヘラナデ		ナデ→ヘラケズリ	回転実測	37.7'						
12	土師器	甕	-	(4.0)	<5.6>	ヘラナデ		ヘラケズリ	回転実測							
13	土師器	台付甕	-	(8.4)	<2.3>	ナデ		ナデ	回転実測							
14	土師器	甕	(21.2)	-	<20.7>	ヘラナデ		ヘラケズリ	回転実測	37.7'						
No.	種別	器種	文様・調整			備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考	No.	種別	器種	文様・調整	備考
15	須恵器	甕	外面タタキ目	内面ナデ	9C前半	17	縄文土器	深鉢	微隆起帯 縄文LR施文	中期後半	20	弥生土器	甕	柳描斜走文	後期箱清水	
16	縄文土器	深鉢	縄文LR施文後沈線	縄文磨消 内面沈線	後期前半	18	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	21	弥生土器	甕	柳描波状文	後期箱清水	
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見							所見		
23	磨石		3.3	2.6	2.1	14.94	全体にすり									
H23																
No.	種別	器種	法量			内面			外面			推定値()残存値()丸底●		出土遺物		
1	土師器	坏	(16.4)	7.1	5.1	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ	→底部回転糸切り	完全実測			II区			
2	土師器	坏	(14.8)	-	<3.4>	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ		回転実測			I区			
3	土師器	坏	(14.4)	-	<3.7>	ヘラミガキ	黒色処理	ロクロナデ		回転実測						
4	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ		破片実測			検出面			
5	土師器	碗	-	-	-	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ	→高台貼付	破片実測			I区			
6	土師器	壺	(18.8)	-	<7.4>	口縁部横ナデ	胴部ヘラナデ	口縁部横ナデ	→胴部ヘラケズリ	回転実測			I・IV区			
7	土師器	小形の壺	11.9	5.8	11.5	ロクロナデ		ロクロナデ	→底部回転糸切り	→胴下半ヘラケズリ	完全実測		IV区			
8	須恵器	壺	-	(7.6)	<7.7>	ロクロナデ		ロクロナデ	→底部回転糸切り	→高台貼付	回転実測		II区			
9	瓦	布目瓦	<3.9>	<3.3>	1.2					破片実測			II区			
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見							所見		
10	スクレイパー	硬質砂岩	8.7	8.2	2.8	240.16	下辺を刃部して使用か									
11	スクレイパー	輝石安山岩	7.1	10.2	3.3	179.80	正面に自然面の残る剥片 下辺は使用痕か							II区検出面		
12	打製石斧	安山岩	<4.4>	<4.7>	<2.1>	<51.86>	上下欠損							II区検出面		
13	打製石斧	硬質砂岩	<4.0>	<4.6>	<1.4>	<32.42>	下部欠損 正面に自然面							II区検出面		
14	打製石斧	安山岩	11.3	4.5	1.9	142.84	刃部に使用痕 両側に着柄痕 上部にも潰れ状の痕あり							II区検出面		
15	打製石斧	安山岩	<10.7>	<6.7>	<1.4>	<156.21>	上部欠損 刃部に使用痕							II区検出面		
16	打製石斧	輝石安山岩	<6.5>	<5.6>	<1.0>	<49.14>	上部欠損 刃部に使用痕							II区検出面		
17	打製石斧	粘土	<6.2>	<3.2>	<1.1>	<28.29>	縦に欠損 正面に自然面 磨減した剥離面あり							II区検出面		
18	磨石	砂岩	<7.0>	<5.1>	<2.2>	<117.20>	被熱あり(赤褐色化) 裏面にすり面 正面にすり面							II区検出面		
19	縄文・磨石	輝石安山岩	<10.7>	<5.4>	<1.9>	<167.99>	正面にすり面 右側に掛り状の剥離 裏面欠損							II区検出面		
20	磨・敲石	輝石安山岩	7.2	5.1	2.8	153.78	正面にすり面 右側に敲打痕							II区検出面		
21	敲石	輝石安山岩	12.3	7.2	6.4	589.10	上下端部に敲打痕							II区検出面		
22	敲石	輝石安山岩	<9.5>	<6.0>	<2.6>	<205.33>	右側欠損 縁辺に敲打痕							II区検出面		
23	磨石	安山岩	11.1	6.7	3.7	395.29	被熱あり(全体に赤褐色化) 全体に滑らか 上側にすり面 下端部は剥離							II区検出面		
24	磨石	安山岩	4.1	4.0	1.8	41.28	全体に滑らか 正面にすり面							II区検出面		
25	敲石	砂岩	<13.8>	<5.2>	<3.1>	<310.01>	凹径約2.5 凹深0.5 正面中央に凹み 剥離は下端からの敲打によるものか?							II区		
26	石皿	輝石安山岩	<14.4>	<19.5>	<8.0>	<2330>	凹深<2.1> 下部欠損							No.1		
H24																
No.	種別	器種	法量			内面			外面			推定値()残存値()丸底●		出土遺物		
1	土師器	甕	(13.0)	-	<10.2>	ヘラナデ		ヘラケズリ		回転実測			I区			
2	須恵器	高坏	-	-	<4.6>	ロクロナデ		ロクロナデ		完全実測			IV区斜方			
No.	種別	器種	文様・調整			備考	No.	種別 <th>器種<th>文様・調整</th><th>備考</th><th>No.</th><th>種別<th>器種<th>文様・調整</th><th>備考</th></th></th></th>	器種 <th>文様・調整</th> <th>備考</th> <th>No.</th> <th>種別<th>器種<th>文様・調整</th><th>備考</th></th></th>	文様・調整	備考	No.	種別 <th>器種<th>文様・調整</th><th>備考</th></th>	器種 <th>文様・調整</th> <th>備考</th>	文様・調整	備考
3	縄文土器	深鉢	波状口縁	縄文LR施文後沈線	称名寺	9	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	15	縄文土器	ニフツ	底部せり出し 体部内湾気味に立上る 網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い 底径4.2cm 器高2.6cm	後期	
4	縄文土器	深鉢	J字沈線区画外に縄文LR	称名寺	10	縄文土器	深鉢	口縁部内側肥厚 所謂粗製土器	堀之内2	後期後半						
5	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯に沿った沈線 斜行する集合沈線	堀之内1	11	縄文土器	深鉢	内外面ナデ	後期後半	16	土製品	土器片 円板	底部片 敲打・剥離・研磨痕 網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 径9cm 厚±1.2cm	後期		
6	縄文土器	深鉢	柳歯状工具による弧状の条線	堀之内1	12	縄文土器	鉢	網代底 2種類の編物重なり編み方不明	後期							
7	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	13	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細い	後期	17	土製品	土器片 円板	胴部片 剥離痕 集合沈線 径3.3cm 厚±1cm	堀之内1		
8	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	14	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期							
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見							所見		
19	二次加工のある剥片	黒曜石	2.0	1.3	0.35	0.91	右側に二次加工痕							III区		
20	剥片	黒曜石	2.3	1.6	0.7	1.71	上部の折れた剥片							III区		
21	剥片	灰色チャート	3.3	2.8	0.7	4.82	上部の折れた剥片							III区		
22	打製石斧	硬質砂岩	13.6	6.0	2.2	182.69	角度をもつ形態 正裏の刃部に磨減痕残る 左側に節理面							No.1		
23	打製石斧	黒色緻密安山岩	7.4	4.5	1.2	42.56								4区		
24	打製石斧	黒色緻密安山岩	<7.0>	<4.5>	<1.4>	<61.80>	下部欠損 正裏に節理の終り面あり							II区		
H25																
No.	種別	器種	法量			内面			外面			推定値()残存値()丸底●		出土遺物		
1	弥生土器	甕	14.0	-	<10.8>	ヘラミガキ		柳描波状文		完全実測			No.2			
2	弥生土器	甕	16.5	-	<11.5>	ヘラミガキ		柳描波状文→柳描斜走文→ヘラミガキ		完全実測			No.6 N区			
3	弥生土器	甕	-	8.6	<8.2>	ヘラミガキ		ヘラミガキ		完全実測			No.4			
4	弥生土器	甕	-	6.5	<7.6>	ヘラミガキ		柳描波状文→ヘラミガキ		完全実測			N区			
5	弥生土器	壺	-	7.8	<28.6>	ハケ目→ヘラナデ→ヘラミガキ→赤色塗彩		ヘラ横線文→ヘラ描線文→ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測			No.7			
6	弥生土器	壺	(41.0)	-	<10.5>	ヘラミガキ→赤色塗彩		ヘラミガキ→赤色塗彩		回転実測			S区			

第13表 H25号住居址・土坑出土遺物観察表

H25			法 量			成形・調整・文様						推定値()残存値()丸底●					
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面			外 面			備 考	出土遺物				
7	弥生土器	壺	-	16.8	<17.0>	ハケ目→ヘラナデ			ヘラミガキ→赤色塗彩			完全実測 外面から焼成後1穴	No.10 炉				
8	弥生土器	壺	19.2	-	<13.9>	ハケ目→ヘラミガキ→赤色塗彩			ヘラ描横線文→ヘラ描斜線文→ヘラミガキ→赤色塗彩			完全実測	No.3				
9	弥生土器	壺	(31.2)	-	<7.4>	ヘラミガキ→赤色塗彩			ヘラミガキ→赤色塗彩			回転実測	No.1				
15	弥生土器	蓋	(19.6)	4.4	7.1	ヘラミガキ			ヘラミガキ			完全実測	No.8				
16	弥生土器	高坏	-	-	<13.8>	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩 脚部ヘラナデ			ヘラミガキ→赤色塗彩			完全実測	No.5 け11-13				
17	弥生土器	高坏	-	-	-	ハケ目→横ナデ			ヘラミガキ→赤色塗彩			破片実測					
No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考	No.	種別	器種	文様・調整		備 考
10	弥生土器	甕	柳描波状文・縹状文		後期箱清水	30	縄文土器	鉢	横位集合沈線 弧状の集合沈線		堀之内1	47	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期
11	弥生土器	甕	柳描斜走文		後期箱清水	31	縄文土器	鉢	集合沈線区画内に縄文LR充填		堀之内1				底部縁際に別の2種類の編物痕あり		
12	弥生土器	甕	柳描波状文		後期箱清水	32	縄文土器	鉢	集合沈線区画内に縄文LR充填		堀之内1	48	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		後期
13	弥生土器	甕	柳描斜状文		後期箱清水	33	縄文土器	鉢	口縁部内折 波状口縁		堀之内1				別の編物痕あり		
14	弥生土器	甕	柳描波状文・縹状文		後期箱清水	34	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具により弧状沈線		堀之内1	49	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条・縦条		後期
19	縄文土器	深鉢	垂下する沈線 沈線区画内に縄文LR充填		中期後半	35	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具により弧状沈線		堀之内1				間隔あり 別の編物痕あり		
20	縄文土器	深鉢	横位微隆起帯		中期末～後期初頭	36	縄文	深鉢	櫛歯状工具により弧状沈線		堀之内1	50	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		堀之内
21	縄文土器	深鉢	横位微隆起帯		中期末～後期初頭				小波状口縁 横位沈線に乗る								
22	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填		称名寺	37	縄文	深鉢	8字状貼付文 口唇部横位沈線		堀之内2	51	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		堀之内
23	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填		称名寺				内面円形刺突文								
24	縄文土器	深鉢	口縁部内折 沈線区画内に縄文LR充填		称名寺	38	縄文	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2	52	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		堀之内
25	縄文土器	鉢	環状突起 内面環状突起から隆帯		堀之内1	40	縄文	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2				素材細かい		
26	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁横位沈線		堀之内1	41	縄文	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填		堀之内2	55	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細かい		後期
			沈線区画内に縄文LR充填			42	縄文	深鉢	焼成後刻線 一部刻線区画内に斜行刻線								
27	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部断面菱形		堀之内1	43	縄文	注口土器	環状把手にC字状沈線もつ貼付文		堀之内2	57	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 素材細かい		後期
			内面ミガキ														
28	縄文土器	鉢	口縁部内折 小突起中央の		堀之内1	44	縄文	深鉢	口縁部やや内折 内面ミガキ		後期前半	58	縄文土器	深鉢	口唇部平坦 横位沈線 弧状沈線		加曾利B1
			縦位沈線両脇に円形刺突						所謂粗製土器		内面横位沈線						
29	縄文土器	鉢	波状口縁 口縁部に沿って沈線		堀之内1	45	縄文	深鉢	内外面ナデ 所謂粗製土器		後期前半	59	縄文土器	注口土器	沈線区画内に縄文LR充填		加曾利B1
			斜行沈線						網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり		底部縁際に別の編物痕あり						
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見						所 見				
18	刀子?	金属製品	<7.0>	<0.8>	<0.7>	<3.87>	木質付着(裏面の欠損部分にも木質あり)						No.9				
61	石鏃	灰色チャート	<1.2>	1.3	0.3	<0.31>	先端欠損						7ヶ土				
62	剥片	褐色チャート	3.5	3.2	0.8	7.51	自然面の残る剥片						N区				
63	二次加工のある剥片	硬質砂岩	5.9	2.7	0.8	11.63	両側に二次加工痕(横置きにすると石匙未製品?)										
64	剥片	灰色チャート	3.3	1.8	0.8	5.70	両側折れ面の剥片						N区				
65	スクレイパー	硬質砂岩	6.4	4.7	1.4	51.11	正面に自然面残る 下辺が刃部と思われる						N区				
66	打製石斧	安山岩 (その他の安山岩)	<11.1>	<5.7>	<2.0>	<157.40>	欠損 基部・刃部欠損 正裏とも素材の面が残る						N区				
67	打製石斧	硬質砂岩	<6.0>	<6.4>	<1.3>	<49.92>	刃部の一部を残し欠損										
68	打製石斧	輝石安山岩	<5.2>	<4.2>	<1.5>	<39.62>	上部欠損										
69	打製石斧	硬質砂岩	<9.7>	<4.8>	<1.3>	<70.63>	完 刃部一部欠損 刃部に使用痕残る						N区				
70	磨石	軽石	2.8	2.6	1.8	4.23	全体にすり						N区				
71	敲石	凝灰岩	8.1	2.5	2.2	61.29	上下端部に敲打痕						N区				
72	磨・敲石	輝石安山岩	11.5	9.0	4.2	636.50	正裏にすり面 下部に敲打痕						N区				
73	敲石	安山岩 (その他の安山岩)	<9.2>	<9.7>	<3.0>	<296.86>	欠損 被熱あり(全体に黒褐色化) 下部欠損 上端・右側に敲打痕						N区				
74	磨石	輝石安山岩	5.9	4.1	3.5	112.47	正面・左側・右下部にすり面										
75	磨・敲石	輝石安山岩	11.6	8.5	4.5	670.10	被熱あり?(被熱割れ?) 正面・両側・下部にすり面 正面と右側に敲打痕						N区				
76	台石	輝石安山岩	<10.4>	<8.0>	<3.0>	<439.28>	被熱あり?(正面黒化) 正裏とも使用面と思われる 周囲は欠損?										

第14表 土坑出土遺物観察表

残存〈〉 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置												
1	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期前半	D1	45	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚する波状口縁 沈線区画内に縄文LR	称名寺	D14												
2	縄文土器	鉢	木葉痕	後期前半	D1	46	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	D14												
3	縄文土器	深鉢	内面横ナデ	後期前半	D1	47	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	D14												
4	縄文土器	深鉢	内面横ナデ 黒色に変化	後期前半	D1	48	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯	後期前半	D14												
5	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期前半	D3	49	縄文土器	深鉢	斜行刻み隆帯	称名寺	D14												
6	縄文土器	鉢	口縁部横位沈線	堀之内1	D3	50	縄文土器	鉢	横位沈線	堀之内1	D14												
7	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	堀之内1	D3	51	縄文土器	深鉢	口縁部突起にC字状沈線。両脇円形 刺突文から横位沈線。くびれ部円形 貼付文から横位沈線。J字状沈線 区画外に縄文LR	堀之内1	D14												
8	縄文土器	深鉢	内面黒色に変化 網代底 2本越 1本潜り 横条間隔あり 別の2つの 編物2本越1本潜りが重なる	後期前半	D3																		
9	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 沈線区画内に 縄文LR充填	堀之内2	D3																		
10	縄文土器	鉢	沈線区画 磨消縄文LR	堀之内2	D3	52	縄文土器	深鉢	集合沈線で縦位に区画する。 さらに円形刺突を起点に斜行 集合沈線で三角形に区画する。 区画内に縄文LR充填	堀之内1	D14												
11	縄文土器	鉢	縦位集合沈線	堀之内1	D3																		
12	縄文石器	打斧	硬質砂岩 自然面残る 9.9 5.4 2.2 105.76		D3																		
13	縄文石器	磨石	輝石安山岩 正面すり面 15.9 15.1 5.7 2080		D3	53	縄文土器	深鉢	口縁部横位沈線 2対の円形刺す突から 縄文LR充填するU字状沈線で縦位に 4区画する 区画に平行沈線で 三角形を描く 三角形内縄文LR充填 口径(17.6) 器高(11.1)	堀之内1	D14												
14	土製品	土器片円板		後期前半	D2																		
15	縄文石器	二次加工のある剥片	黒曜石 1.8 1.6 0.7 1.85	後期前半	D2																		
16	縄文土製品	陽形 土製品	有頭 基部欠損 <8.0> <2.4> <2.1> <35.02>	後期前半	D2	54	縄文土器	深鉢	波状口縁。口唇頂部に円形刺突。 その下から口縁に沿う沈線。さらに 円形刺突から横位と垂下する刻み隆帯 内面に円形刺突。	堀之内1	D14												
17	縄文土製品	大型石棒	赤鉄片岩 有頭 <29.5> <11.2> <9.2> <4860>	後期前半	D2																		
18	縄文土器	深鉢	くびれ部8字状貼付文を起点とする 重弧状・紡錘形の集合沈線で 縦位に大きく3区画する。 さらに縦1対の円形刺突文を起点 とする重弧状・紡錘形の集合沈線 を配する。それらの間に十字状 集合沈線が描かれ斜行する 集合沈線で結ばれる。 8字状貼付文からV字状に刻み 隆線が口縁にのびる。 口縁部横位沈線	堀之内1	D2							55	縄文土器	鉢	環状突起。口唇頂部の円形刺突 から弧状沈線。	堀之内1	D14						
																		56	縄文土器	鉢	突起部円形貼付文間に沈線。 内面円形貼付文	堀之内1	D14
																		57	縄文土器	深鉢	弧状の沈線区画。縄文LR	堀之内1	D14
						58	縄文土器	深鉢	横位沈線間細長い刺突 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内1	D14												
19	縄文土器	深鉢?	粗製土器	後期	D6	59	縄文土器	深鉢	口縁部内折	堀之内1	D14												
20	縄文土器	鉢	横位・斜行沈線 区画内磨消縄文LR	堀之内1	D6	60	縄文土器	深鉢	弧状沈線	堀之内1	D14												
21	縄文土器	深鉢?	押圧文両脇から沈線もった隆帯 口縁部内側に肥厚する 網代底	堀之内	D6	61	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位・垂下・弧状沈線	堀之内1	D14												
						62	縄文土器	深鉢	口縁部微隆帯 所謂粗製土器	後期前半	D14												
22	縄文土器	浅鉢	2本越1本潜り 横条間隔あり 底径より1cmほど小さい編物	堀之内	D7	63	縄文土器	深鉢	内外面横ナデ 所謂粗製土器	後期前半	D14												
						64	縄文土器	深鉢	底径(11.0) 器高<11.5>	後期前半	D14												
23	縄文土器	鉢	縦位の集合沈線	堀之内1	D7	65	縄文土器	注口?	口縁部内側に突き出る	後期前半	D14												
24	縄文土器	鉢	口縁部横位沈線 くびれ部に8字状貼付文	堀之内1	D7	66	縄文土器	ニッチア	底径(4.4) 器高<3.3>	後期前半	D14												
						67	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 縦位沈線	堀之内1	D14												
25	縄文土器	鉢	沈線区画内に縄文LR充填	堀之内1	D7	68	土製品	土器片 円板	突起部片 剥離・研磨痕 径4.6 厚さ0.9	後期前半	D14												
26	縄文土器	鉢	弧状・斜行沈線	堀之内1	D7																		
27	縄文土器	深鉢	横位隆帯	後期前半	D8	69	土製品	土器片 円板	胴部片 敲打・剥離痕 径3.2 厚さ0.7	後期	D14												
28	石器	凹石	輝石安山岩 正裏と周囲に敲打痕・すり 7.4 6.9 5.7 330.17		D8																		
29	縄文土器	鉢	縦位沈線 区画内に縄文LR充填	堀之内	D9	71	縄文土器	深鉢	二次加工のある剥片 灰色チャート 3.3 1.4 0.7 3.37	後期前半	D14												
30	縄文土器	深鉢	小波状口縁か?	後期前半	D10	72	縄文土器	打斧	安山岩 刃部磨減 <4.4> <4.9> <1.1> <32.64>	後期前半	D14												
31	縄文土器	鉢	縦位沈線	堀之内1	D10	73	縄文石器	磨石	花崗岩 全体にすり 4.4 4.0 3.1 77.10	後期前半	D14												
32	土製品	土器片円板	深鉢?を加工	後期	D10	74	縄文土器	深鉢	縄文LR	中期後半	D15												
33	土師器	鉢	内外面ミガキ 黒色処理	古墳後期	D13	75	縄文土器	深鉢	橋状把手 刺突状の短沈線文	三十稲場	D15												
34	土師器	鉢	内外面ミガキ 黒色処理	古墳後期	D13	76	縄文土器	深鉢	爪状の連続刺突文	三十稲場	D15												
35	土師器	坏	内面ミガキ	古墳後期	D13	77	縄文土器	深鉢	爪状の連続刺突文	三十稲場	D15												
36	縄文土製品	匙	柄部欠損 柄基部首孔より1条の沈線が 1周する <5.4> <2.5> <1.7>	堀之内	D13	78	縄文土器	深鉢	連続刺突文	称名寺	D15												
						79	縄文土器	深鉢	渦巻状の微隆起線文 垂下する沈線	堀之内1	D15												
						80	縄文土器	深鉢	弧状の櫛描条線	堀之内1	D15												
						81	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 沈線区画内に 縄文LR充填	堀之内2	D15												
						82	縄文土器	深鉢	横位沈線 内面2条の横位沈線	堀之内2	D15												
						83	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	D15												
						84	縄文土器	深鉢	橋状把手 条線	中期後半	D16												
85	縄文土器	深鉢	縦位・横位の刺突状沈線	称名寺	D16																		
86	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR	後期前半	D16																		
87	縄文土器	深鉢	口唇部平坦	後期前半	D16																		
88	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	D16																		
38	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	中期後半	D14	89	縄文石器	磨製石斧	蛇紋岩 両端に刃部 2.8 0.8 0.4 1.96		D16												
39	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	中期後半	D14	90	縄文土器	深鉢	口縁部緩く内折。口縁部横位沈線	堀之内1	D17												
40	縄文土器	深鉢	沈線区画内に鱗状短沈線文	中期後半	D14	91	縄文土器	深鉢	波状口縁 頂部の縦位沈線から 弧状にさがる刻み隆帯	堀之内1	D17												
41	縄文土器	深鉢	波状口縁 隆帯に沿う沈線 区画内に縄文LR充填	中期後半	D14																		
42	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁に沿って沈線隆帯 微隆起線と沈線区画内に縄文LR充填	中期後半	D14	92	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	D17												
43	縄文土器	ニッチア	縦位沈線 底径(4.2) 器高<2.5>	中期後半	D14	93	縄文土器	深鉢	口縁部内折 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	D17												
44	縄文土器	深鉢	弧状隆帯	称名寺	D14																		

第15表 土坑出土遺物観察表

残存() 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
94	縄文土器	深鉢	くびれ部下はやや丸味をおびる 所謂粗製土器	後期前半	D17	147	縄文土器	鉢	小突起部上下対の円形貼付文から横位沈線	堀之内1	D22
95	縄文土器	深鉢	くびれて外反 所謂粗製土器	後期前半	D17						
96	縄文土器	深鉢	くびれて外反 所謂粗製土器	後期前半	D17	148	縄文土器	鉢	小突起部頂部に円形押圧。直下の円形透し孔から横位沈線。	堀之内1	D22
97	縄文土器	鉢	網代底 2本1組で2組越え2組潜り 素材細い 98と同一個体	後期	D17	149	縄文土器	鉢	小突起部口唇部から内面に縦位沈線 内面円形刺突から横位沈線	堀之内1	D22
98	縄文土器	鉢	97と同一個体	後期	D17	150	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部沿って横位沈線 口縁部外側に肥厚する	堀之内1	D22
99	土製品	土器片 円板	胴部片 剥離・研磨痕 径2.5 厚さ0.6	後期	D17	151	縄文土器	深鉢	口唇部に円形刺突	堀之内1	D22
100	縄文土器	深鉢	波状口縁 斜行隆帯脇に連続する 円形刺突文	後期前半	D18	152	縄文土器	深鉢	小突起部内面渦巻文両脇に円形刺突	堀之内1	D22
101	縄文土器	深鉢	横位隆帯	後期前半	D18	153	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状の条線	堀之内1	D22
102	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	D18	154	縄文土器	鉢	2条の横位刻み隆線を跨ぐ8字状 貼付文から垂下する連続円形の刺突 2条の斜行沈線	堀之内1	D22
103	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	D18	155	縄文土器	鉢	弧状沈線 斜行沈線間に縄文LR充填	堀之内	D22
104	縄文土器	鉢	弧状沈線区画内に縄文LR充填	堀之内1	D18	156	縄文土器	鉢	木葉痕	後期	D22
105	縄文土器	深鉢	弧状沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	D18	157	縄文土器	深鉢		後期	D22
106	縄文土器	深鉢	弧状沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	D18	158	縄文石器	石錐	黒曜石 先端部欠損 <2.0> <1.2> <0.5> <1.31>		D22
107	縄文土器	深鉢	微隆起線に沿う沈線	称名寺	D18	159	縄文石器	削器	硬質砂岩 下辺が刃部 7.1 9.0 1.8 90.49		D22
108	縄文土器	深鉢	口縁部円文から横引沈線 口縁部内折	堀之内1	D18	160	縄文石器	打製石斧	硬質砂岩 上下欠損 <6.9> <6.8> <1.6> <67.31>		D22
109	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部沿って横位沈線	堀之内1	D18	161	縄文石器	磨石	軽石 正面に条痕 全体にすり 4.0 3.3 3.1		D22
110	縄文土器	鉢	くびれ部に横位刻み隆帯	堀之内1	D18	162	縄文石器	敲石	安山岩 下端部に敲打痕 <4.8> <3.3> <2.5> <61.21>		D22
111	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯 横位沈線	堀之内1	D18	163	縄文石器	打製石斧	安山岩 上部欠損 刃部磨滅 <12.7> 11.5 <2.3> <394.14>		D22
112	縄文土器	鉢	斜行集合沈線 縄文LR	堀之内1	D18	164	縄文石器	台石	輝石安山岩 正面に使用痕 13.2 18.7 9.1 39.70		D22
113	縄文土器	鉢	集合沈線	堀之内1	D18	165	縄文石器	台石	輝石安山岩 正裏に滑らかな面 27.1 29.5 6.0 6050		D22
114	縄文土器	深鉢	縦位の集合沈線 縄文LR	堀之内1	D18	166	縄文土器	深鉢	沈線区画	堀之内2	D23
115	縄文土器	鉢	縦位区画線の刻み隆線を起点に 対弧状・重弧状の集合沈線。重弧状 沈線から垂下する2条対の沈線。	堀之内1	D18	167	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線の上に貼付文 幾何学的 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	D23
116	縄文土器	鉢	横位沈線 矩形の沈線	堀之内2	D18	168	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り?	後期	D23
117	縄文土器	深鉢	縦位・斜行沈線 区画内縄文LR充填	堀之内2	D18	169	縄文土器	深鉢	微隆帯下縦位の縄文LR施文 中期末~後期初頭 加曾利EV	D25	
118	縄文土器	注口 土器?	同心円状の沈線。その脇に 沈線充填	堀之内2	D18	170	縄文土器	深鉢	口唇部平	後期前半	D26
119	土製品	土器片 円板	胴部片 剥離・研磨痕 径3.5 厚さ1.0	後期前半	D18	171	縄文土器	鉢	2条の弧状沈線 縄文LR	堀之内	D26
120	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期前半	D18	172	縄文土器	深鉢	縦位・弧状集合沈線	堀之内	D27
121	縄文土器	鉢	集合沈線 縄文LR	堀之内1	D19	173	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁部外側に突き出る 縄文RL施文後沈線で区画	称名寺	D27
122	縄文土器	鉢	横位刻み隆線から斜行集合沈線	堀之内1	D19	174	縄文土器	注口土器	沈線による同心円文	堀之内2	D27
123	縄文土器	鉢	渦巻状の沈線	堀之内1	D19	175	縄文土器	深鉢	縦位の沈線	称名寺?	D27
124	縄文土器	鉢	矩形の沈線内に沈線	堀之内1	D19	176	縄文土器	深鉢	斜行刻み隆帯	称名寺?	D28
125	縄文土器	深鉢	環状突起 上位の沈線区画内に 縄文LR充填	称名寺	D21	177	縄文土器	深鉢	縦位・弧状沈線	堀之内1	D28
126	土製品	土器片 円板	胴部片 剥離・研磨痕 径2.1 厚さ1.0	後期	D21	178	縄文土器	深鉢	縦位・弧状集合沈線	堀之内1	D28
127	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	D20	179	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線	堀之内1	D28
128	縄文土器	深鉢	弧状沈線	称名寺	D20	180	縄文土器	深鉢	口縁部横位沈線	堀之内1	D28
129	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具 弧状条線	堀之内1	D20	181	縄文土器	深鉢	波状口縁 内面円形刺突	堀之内	D28
130	縄文土器	鉢	横位2条の沈線上8字状貼付文から 垂下・対弧状の集合沈線	堀之内1	D20	182	縄文土器	深鉢	口縁部内折 波状口縁 上下2個の 8字状貼付文から口縁部に沿った 5条の刻み隆線 幾何学的沈線 区画内に縄文LR充填	堀之内2	D28
131	縄文土器	深鉢	口縁部内折 所謂粗製土器	後期前半	D20	183	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線	堀之内2	D28
132	縄文石器	石錐	黒曜石 <2.4> 1.7 0.3 <0.95>		D20	184	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線	堀之内2	D28
133	縄文土器	深鉢	横位の押圧隆帯	後期前半	D22	185	縄文土器	深鉢	口縁部内折 対弧状沈線下に横位沈線	堀之内2	D28
134	縄文土器	深鉢	横位沈線 弧状沈線 沈線区画後に縄文LR	称名寺	D22	186	縄文土器	深鉢	幾何学的沈線	堀之内2	D28
135	縄文土器	深鉢	弧状沈線後に縄文LR	称名寺	D22	187	縄文土器	深鉢	弧状沈線区画内に縄文LR充填	堀之内	D28
136	縄文土器	深鉢	J字文を取り入れた沈線区画	称名寺	D22	188	縄文土器	注口 土器?	刻み隆線 幾何学的沈線区画内に 縄文LR充填	堀之内2	D28
137	縄文土器	深鉢	楕円状の沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	D22	189	縄文土器	注口土器	弧状沈線区画内に列点文	堀之内2	D28
138	縄文土器	注口土器?	沈線3条単位で文様を描き、上下端に 円形刺突ある櫛歯状手を有す。 渦巻文を中心に副渦巻文との間に 三角形の縄文(LR)部を配する。 渦巻文の開放部にも縄文を配する。	堀之内1	D22	190	縄文土器	注口土器?	斜行沈線・楕円形状沈線外に縄文LR	堀之内2	D28
139	縄文土器	深鉢	弧状沈線 斜行沈線	堀之内1	D22	191	縄文土器	深鉢	口唇部に横位の沈線 所謂粗製土器	後期前半	D28
140	縄文土器	深鉢	弧状沈線 斜行沈線	堀之内1	D22	192	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期前半	D28
141	縄文土器	鉢	口縁部突起に縦の透し孔 内面円形刺突を結ぶ沈線	堀之内1	D22	193	縄文土器	鉢	網代底 2本1組 1組越1組潜り	後期	D28
142	縄文土器	深鉢	橋状把手 微隆起帯	中期末~後期初頭	D22	194	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 他に2種類の編物痕	後期	D28
143	縄文土器	鉢	口縁部内外面円形の透し孔に沿う C字状沈線の両脇に對の円形刺突 口唇部弧状沈線円形刺突	堀之内1	D22	195	縄文土器	深鉢	弧状沈線 縄文LR充填	称名寺?	D29
144	縄文土器	鉢	円形刺突から横位沈線 小突起部に 円孔 内面円形刺突	堀之内1	D22	196	縄文土器	深鉢	斜行押圧隆帯	堀之内1	D29
145	縄文土器	鉢	小突起部の弧状沈線から横位沈線 直下に連続刺突	堀之内1	D22	197	縄文土器	深鉢	口縁部内折 外側に肥厚 口縁に沿って横位沈線	堀之内1	D29
146	縄文土器	鉢	小突起部の渦巻文脇に弧状の沈線	堀之内1	D22	198	縄文土器	深鉢	弧状集合沈線	堀之内1	D29
						199	縄文土器	深鉢	縄文LR施文後縦位沈線	堀之内	D29
						200	縄文土器	深鉢	小波状口縁頂部8字状貼付文から 横位刻み隆線 横位沈線区画内に 縄文LR充填	堀之内2	D29

第16表 土坑・円形周溝墓・溝状遺構出土遺物観察表

残存() 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	
201	縄文土器	深鉢	8字状貼付文から横位刻み隆線	堀之内2	D29	248	縄文石器	削器	輝石安山岩 下部刃部? 4.9 6.1 1.6 57.32		D34	
			8字状貼付文避ける横位沈線区画			249	縄文石器	磨製石斧	蛇紋岩 上部欠損 <5.1> <3.2> <1.8> <49.20>		D34	
			内面口縁内折部に沈線			250	縄文石器	打製石斧	輝石安山岩 上部・刃部欠損 <11.0> <88> <2.5> <266.43>		D34	
202	縄文土器	深鉢	口唇部押圧のへこみ 内面3条の横位沈線	堀之内2	D29	251	縄文石器	打製石斧	輝石安山岩 両端に着柄痕 15.0 5.5 2.0 195.01		D34	
203	縄文土器	深鉢	横位沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	D29	252	縄文石器	台石	輝石安山岩 使用面・裏面黒色化 <30.3> <14.6> <3.5> <2020>		D34	
204	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期前半	D29	253	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯		後期前半 D35	
205	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り	後期	D29	254	縄文土器	鉢	環状突起		堀之内1? D35	
206	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	堀之内	D29	255	縄文土器	鉢	縦位・弧状集合沈線		堀之内 D35	
			256			縄文土器	鉢	2条の横位刻み隆線		堀之内 D35		
207	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	堀之内	D29	257	縄文土器	深鉢	横位沈線下縄文RL		D36	
			258			弥生土器	壺	へラ描横走文・連弧文? 縄文RLを施文	中期栗林	D36		
208	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	D29	259	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による縦位条線		称名寺 D37	
			260			縄文土器	鉢	横位刻み隆帯なぞる沈線 縦位の弧状沈線・斜行集合沈線		堀之内1 D37		
209	縄文土器	鉢	網代底 2本1組で1組越1組潜り 横条間隔あり	後期	D29	261	縄文土器	深鉢	弧状・斜行集合沈線		堀之内1 D37	
			262			縄文土器	注口土器	弧状・斜行沈線		堀之内2 D37		
210	縄文石器	打製石斧	砂岩 上下欠損 <3.9> <4.8> <1.7> <39.63>			263	縄文石器	磨・敲石	下部欠損 正裏にすり面 上部部に敲打痕 <4.9> <7.3> <3.6> <152.46>		D37	
211	縄文土器	深鉢	微隆起帯文 縄文LR	中期後半	D30	264	縄文石器	加工のある石	輝石安山岩 正面自然面 周囲加工痕 12.6 14.7 3.3 763.40		D37	
212	縄文土器	深鉢	細い沈線区画内に刺突状の細い 短沈線充填	称名寺?	D30	265	縄文土器	深鉢	隆帯後縄文RL施文		中期後半 OT1	
213	縄文土器	深鉢	刺突列もつ垂下する2条の沈線脇に	堀之内1	D30	266	縄文土器	深鉢	微隆帯の下をなぞる沈線 縄文LR施文		中期後半 OT1	
			渦巻状の沈線 沈線区画内に 縄文LR充填			267	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯		後期前半 OT1	
			櫛歯状工具による縦位弧状条線			268	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線		堀之内1 OT1	
214	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による縦位弧状条線	堀之内1	D30	269	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文から横位2条の 沈線。貼付文下に渦巻沈線。その脇に 細長い三角形の縄文LR		堀之内1 OT1	
215	縄文土器	鉢	弧状・斜行沈線後縄文LR充填	堀之内	D30							
216	縄文土器	鉢	渦巻状沈線 磨消縄文燃紋L	堀之内1	D31							
217	縄文土器	深鉢	渦巻状(?)沈線 磨消縄文LR	堀之内1	D31	270	縄文土器	深鉢	波状口縁 内面沈線区画内に 縄文LR充填		加曾利B1? OT1	
218	縄文土器	深鉢	縄文LR横位に施文。燃紐の末端が うかがえる。内面浅い横位沈線	堀之内	D31							
219	縄文土器	深鉢	垂下する刻み隆帯	堀之内	D31	271	縄文土器	深鉢	波状口縁 所謂粗製土器		後期 OT1	
220	縄文土器	鉢	横位集合沈線	堀之内	D31							
221	縄文土器	深鉢	口縁下とくびれ部を巡る縄文LR充填 する2条の沈線に4単位の文様。 8字状の円孔もつ4単位の突起部下 から縄文LR充填のペン先状沈線区画 が三角形沈線を貫く主文が描かれ その間に2条の弧状沈線間に縄文 LRが充填される副文が配される。	堀之内2	D31	272	縄文石器	打製石斧	安山岩 上部欠損 刃部の磨滅顕著 <8.0> <5.4> <1.4> <92.77>			OT1
			273			弥生土器	甕	櫛描波状文		後期箱清水 OT2		
			274			縄文土器	深鉢	2本1組の縦位・斜行微隆起帯下文を 沈線でなぞる。縄文LR磨消		堀之内1 OT2		
			275			縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線		堀之内1 OT2		
			276			縄文土器	深鉢	縄文LR施文後4条の横位沈線で 区画。クランク状の区切り沈線。 内面三角形の突帯と横位沈線。		加曾利B1 OT2		
222	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線 横位沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	D31	277	縄文土器	深鉢	網代底 2本越2本潜り 編み方密 底径(9.4) 器高<4.1>		後期 OT2	
223	縄文土器	深鉢	2条の横位刻み隆線	堀之内2	D31							
224	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	D31	278	石器	敲石	輝石安山岩 下部欠損 縁辺に敲打痕 <6.5> <5.9> <4.3> <198.98>		縄文 OT2	
225	縄文土器	注口土器?	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	D31							
226	縄文土器	深鉢	網代底 編み方不明	後期	D31	279	須恵器	甕	内径(25.0) 器高(8.2)		奈良 M1	
227	縄文土器	鉢	縦位沈線	堀之内	D31	280	土師器	坏	口径(14.0) 器高<4.9> <9.4> 1.3 <0.3> <12.71>		奈良 M1	
228	縄文土製品	円板	胴部片 S字状貼付文 敲打痕 径4.0 厚さ1.5	称名寺	D31	281	鉄器	刀子	両端欠損		古墳~平安 M1	
						282	縄文土器	深鉢	橋状把手 縄文LR		中期後半 M1	
229	縄文土器	深鉢	弧状沈線 縄文LR充填	称名寺	D33	283	縄文土器	深鉢	横位微隆起帯 縄文LR充填		中期末~後期初頭 M1	
230	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位沈線 縄文LR充填	称名寺	D33	284	縄文土器	深鉢	横位隆帯下 縦位沈線		称名寺 M1	
						285	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯		後期前半 M1	
231	縄文土器	深鉢	弧状微隆帯下なぞる沈線 区画内縄文LR	称名寺	D33	286	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯		後期前半 M1	
						287	縄文土器	深鉢	斜行押圧隆帯		後期前半 M1	
232	縄文土器	鉢	波状口縁 口縁部幅広の縦位短沈線	堀之内1	D33	288	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯		後期前半 M1	
233	縄文土器	鉢	口縁部外側に肥厚する 横位沈線	堀之内1	D33	289	縄文土器	深鉢	火の字状沈線 区画外縄文LR 弧状から垂下する隆線 斜行隆線		称名寺 M1	
234	縄文土器	鉢	口縁部外側に肥厚する	堀之内	D33							
235	縄文土器	深鉢	斜行する平行な2条の沈線	堀之内	D33	291	縄文土器	深鉢	2条1組の弧状沈線 区画内に 縄文LR充填		称名寺 M1	
236	縄文土器	深鉢	斜行沈線	堀之内	D33							
237	縄文土器	鉢	底径6.5cm	後期	D33	292	縄文土器	深鉢	口縁部内折 8字?状貼付文		堀之内1 M1	
						293	縄文土器	深鉢	内外面隆帯をなぞる沈線		堀之内1 M1	
						294	縄文土器	深鉢	突起部対の円形刺突から横位沈線 内面対の円形刺突から片側横位沈線		堀之内1 M1	
238	縄文土器	鉢	突起部の円形刺突から横位沈線	堀之内1	D34	295	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位沈線		堀之内1 M1	
239	縄文土器	鉢	突起部の円形刺突から横位沈線	堀之内1	D34							
240	縄文土器	鉢	横位沈線下弧状沈線 三角形の沈線区画内に縄文LR	堀之内1	D34	296	縄文土器	鉢	横位刻み隆線一部なぞる沈線 弧状沈線		堀之内1 M1	
241	縄文土器	鉢	紡錘状の集合沈線	堀之内1	D34	297	縄文土器	深鉢	くびれ部横位刻み隆帯上なぞる沈線 横位沈線から斜行沈線		堀之内1 M1	
242	縄文土器	鉢	2条の沈線で区画 縄文LR充填	堀之内1	D34							
243	縄文土器	深鉢	口縁部内折	堀之内2	D34	298	縄文土器	深鉢	紡錘状の集合沈線		堀之内1 M1	
244	縄文土器	深鉢	網代底 2本1組で2組越2組潜り密	後期	D34							
245	土製品	土器片 円板	胴部片 縄文LR施文後沈線 刻離・研磨痕 径3.0 厚さ1.5	後期	D34	300	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状沈線 縦位の沈線脇に円形刺突 両脇に矩形の沈線		堀之内1 M1	
												246
247	縄文石器	石鏃	灰色チャート 2.6 1.6 0.5 2.11		D34							

第17表 溝状遺構・ピット出土遺物観察表

残存く) 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
301	縄文土器	鉢	横位細い縄文部 縄文LR 一部磨消 菱形上に2条1組の沈線	堀之内2	M1	350	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	M3
302	縄文土器	深鉢	内外面横ナデ 所謂粗製土器	後期前半	M1	351	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	M3
303	縄文土器	深鉢	口縁部小突起 内外面4条の横位沈線	加曾利B1	M1	352	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	M3
304	縄文土器	深鉢	2条の沈線で縄文LR磨消 斜位条線	安行3a式	M1	353	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	M3
305	縄文土器	鉢	網代痕 2本越1本潜り	後期	M1	354	縄文土器	深鉢	底径(12.0) 器高<3.1>	後期	M3
306	縄文土器	鉢	網代痕 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	M1	355	縄文土器	深鉢	内面赤色の付着物 底径(6.8) 器高<1.9>	後期	M3
307	縄文土器	深鉢	網代痕 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	堀之内	M1	356	縄文土器	深鉢	縦位の沈線 底径 11.0 器高<2.2>	堀之内	M3
308	縄文土器	深鉢	網代痕 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	M1	357	縄文土製品	土偶?	土偶の手か? 正面と上面に 縄文LR施文。下面に	後期?	M3
309	縄文土器	深鉢	網代痕 2本越1本潜り もう一つ別の 編物痕あり 横条間隔あり	後期	M1	358	縄文土製品	不明	下面丸味を帯びる	後期?	M3
310	縄文土器	深鉢	網代痕 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	M1	359	縄文石器	石鏃	黒曜石<1.3><1.2> 0.2<0.28>		M3
311	縄文土器	鉢	網代痕 編み方不明	後期	M1	360	石器	剥片	黒曜石 2.4 1.4 0.2 0.38 裏ボジ1面の剥片		M3
312	縄文土器	鉢	やや開きながら立上る	後期	M1	361	石器	磨・敲石	砂岩 表裏にすり面。上下端部に敲打痕 9.7 3.9 3.7 197.85		M3
313	縄文土器	深鉢	直立する	後期	M1	362	縄文土器	鉢	貼付文 水平の張り出し部に垂直の円孔	堀之内1	P1
314	土製品	土器片 円板	胴部片 敲打・剥離痕 径4.5 厚さ1.6	後期	M1	363	縄文土器	浅鉢	内湾気味に外反し立上る	後期前半	P1
315	弥生土器	壺	赤色塗彩 ヘラ描鋸歯文内に刺突充填	後期	M1	364	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり -12.0<2.5>	後期前半	P1
316	石器	剥片	黒曜石 2.0 1.8 0.65 1.76 上側と右側が折れ面		M1	365	縄文土器	深鉢	円孔を巡る沈線を持つ突起 その下弧状の沈線	堀之内1	P4
317	石器	敲石	輝石安山岩 13.8 7.1 5.3 621.75 上端部に敲打痕		M1	366	須臾器	長頸壺	内外面自然釉付着 内外面自然釉付着 -(13.2)<9.7>	平安	P4
318	石器	敲石	輝石安山岩 敲打痕 13.8 7.1 5.3 621.75		M1	367	石器	磨石	砂岩 全体にすり 2.7 1.4 0.6 4.09		P4
319	石器	磨・敲石	輝石安山岩 すり面・敲打<10.3><8.2><4.5><480.91>		M1	368	石器	磨石	輝石安山岩 正裏とも凸部分が磨滅 7.5 7.3 3.7 243.13		P4
320	石器	凹石	砂岩 敲打・条痕<5.7><4.9><2.3><81.71>		M1	369	石器	打製石斧	輝石安山岩 上下欠損 正裏ともに節理面残る <5.2><4.7><1.0><36.63>		P13
321	石器	凹石	砂岩 欠損 敲打痕<5.7><3.8><2.4><68.13>		M1	370	縄文土器	深鉢	味の隆帯 縦羽状の結束 縄文LR	中期末～ 後期初頭	P16
322	弥生土器	鉢	片口鉢 内外面赤色塗彩 口径(22.6) 器高<8.4>	後期 箱清水	M3	371	縄文土器	深鉢	8字状貼付文から垂下する刺突 隆帯を紡錘形に囲む集合沈線 その内側の隆帯両脇に重弧状から 垂下する集合沈線 間に縄文LR	堀之内1	P17
323	弥生土器	鉢	内外面ヘラミガキ	後期箱清水	M3	372	縄文土器	剥片	輝石安山岩 裏ボジ1面の剥離 3.8 4.1	1.0 15.94	P22
324	弥生土器	鉢	内外面赤色塗彩 口径 14.9 器高<4.9>	後期箱清水	M3	373	縄文土器	深鉢	沈線間に刺突 弧状沈線	称名寺	P28
325	弥生土器	高坏	内外面赤色塗彩	後期箱清水	M3	374	縄文土器	深鉢	弧状・横位沈線で区画 区画外に縄文LR充填	称名寺	P28
326	弥生土器	甕	乱れた櫛描波状文後簾状文施文	後期箱清水	M3	375	縄文土器	鉢	縦位・弧状沈線	堀之内	P28
327	弥生土器	甕	乱れた櫛描波状文	後期箱清水	M3	376	縄文土器	鉢	口縁部内折 内孔円形刺突をもつ突起 突起頂部の両端に円形刺突の沈線	堀之内1	P28
328	弥生土器	甕	櫛描波状文・波状文	後期箱清水	M3	377	縄文土器	鉢	2個の円孔 円孔周囲にC字状と 弧状沈線描く突起 円孔から垂下する 隆線 内面円孔周囲にC字文 円形刺突から横位沈線	堀之内1	P28
329	弥生土器	甕	櫛描斜走文を縦羽状に施文	後期箱清水	M3	378	縄文土器	鉢	内面小突起から横位沈線	堀之内1	P28
330	弥生土器	台付甕	底部成形から台付甕と思われる。 口縁部と胴部の櫛描波状文後 簾状文施文	後期 箱清水	M3	379	縄文土器	深鉢	垂下する刻み隆帯	堀之内2	P28
331	弥生土器	壺	外面赤色塗彩 櫛描T字文	後期箱清水	M3	380	縄文土器	注口土器	無文 注口部	後期	P28
332	縄文土器	深鉢	斜行後隆帯	称名寺	M3	381	石器	磨石	軽石 全体にすり 正面に 条痕2ヶ所 5.2 4.1 3.3 29.38		P28
333	縄文土器	深鉢	弧状(環状)押圧隆帯	称名寺	M3	382	縄文土器	深鉢	口縁部内側に肥厚 J字状沈線区画内に縄文LR	称名寺	P33
334	縄文土器	深鉢	横位後隆帯	中期末～後期初頭	M3	383	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR	称名寺	P33
335	縄文土器	深鉢	口縁部直線的に内折 窓枠状(?)沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	M3	384	縄文土器	深鉢	横位沈線 弧状沈線	堀之内1	P33
336	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	中期前半	M3	385	縄文土器	深鉢	横位沈線 沈線	称名寺?	P33
337	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	中期前半	M3	386	縄文土器	深鉢	横位沈線	堀之内1	P33
338	縄文土器	深鉢	環状突起	称名寺	M3	387	縄文石器	石鏃	灰色チャート 1.4 1.3 0.35 0.63		P35
339	縄文土器	深鉢	渦巻状沈線後に一部縄文LR施文	堀之内1	M3	388	土師器	鉢	内外面ヘラミガキ 内面黒色処理 15.5 - <6.3>	古墳後期	P43
340	縄文土器	鉢	8字状の円形刺突から横位3条の 沈線と縦位の集合沈線	堀之内1	M3	389	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり もう1種類の編物痕あり	後期	P49
341	縄文土器	深鉢	横位2条沈線上の8字状貼付文から 半円形さらに縦位の互い違いの 対弧状文を集合沈線で描く。 そこへ横位沈線からの斜行集合沈線が 伸びる。斜行沈線からは縦位の集合 沈線。この1単位を8単位描く。 底径(14.0) 器高<47.6>	堀之内1	M3	390	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧上条線	堀之内1	P49
342	縄文土器	深鉢	波状口縁 口内面沈線区画内に 縄文LR充填	堀之内2	M3	391	縄文土器	鉢	横位連続竹管縦き 横位2条の 沈線上と斜行集合沈線上に縄文LR	堀之内	P49
343	縄文土器	深鉢	2条の横位刻み隆線 横位沈線 内面横位沈線	堀之内2	M3	392	縄文土器	鉢	垂下する刻み隆帯脇の沈線区画内に 楕円形刺突	堀之内	P49
344	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線 横位沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	M3	393	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜りであるが よくナゲられていて不明瞭	後期	P64
345	縄文土器	深鉢	口縁部突起 縄文LR施文後横位沈線 クランク状の区切り線 内面4条の横位沈線	加曾利B1	M3						
346	縄文土器	深鉢	口縁部内折 8条の横位沈線上に 8字状貼付文2個	加曾利B1	M3						
347	縄文土器	深鉢	弧状沈線で区画 細密条線充填	加曾利B1	M3						
348	縄文土器	注口土器	大型	後期	M3						
349	縄文土器	注口土器	環状の把手 3個の円形貼付文	後期	M3						

第18表 ピット出土遺物観察表

残存() 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
394	石器	砥石	輝石安山岩 上下・左側欠損 正裏に条痕 砥石として使用か?		P64	438	縄文土器	ミユフ?	渦巻状の沈線		堀之内1 P109
						439	縄文土器	深鉢	口縁部ごく内湾 所謂粗製土器		後期前半 P109
395	縄文土器	深鉢	2本の条(縄文LR)を用いた 単軸絡状体回転文		P65	440	縄文土器	鉢	網代底 編み方不明		後期 P109
						441	石器	剥片	黒曜石 3.0 1.3 0.9 2.71		P109
396	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の刻み隆線 縄文LR施工後沈線区画		P65	442	縄文土器	鉢	横位・斜行集合沈線		堀之内1 P110
						443	縄文土器	鉢	口縁部内折 斜行刻み隆線		堀之内 P110
397	縄文土器	深鉢	波状口縁 円形の連続刺突 以下縄文LR		P68	444	石器	石核	輝石安山岩 正面に自然面残る 裏はボシ1面		P111
						445	縄文土器	深鉢	2条の弧状沈線 区画外に縄文RL充填		後期 P114
398	石器	不明	砂岩 正裏に自然面残る 左側に剥離痕		P74	446	縄文土器	鉢	垂下の斜行集合沈線		堀之内1 P114
399	縄文土器	鉢	縄文LR後矩形沈線区画		P77	447	縄文土器	深鉢	口縁部下に隆帯	中期末～後期初頭	P115
400	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯		P84	448	縄文土器	深鉢	弧状・横位沈線		堀之内2 P115
401	縄文土器	深鉢	波状口縁 2条の沈線区画内に 縄文LR充填		P84	449	縄文土器	鉢	底部肥厚		後期 P115
						450	縄文土器	浅鉢?	内外面丁寧なナデ 底径(6.8)器高(2.6)		後期 P115
402	縄文土器	深鉢	口縁部内折 円形刺突文から横位沈線		P84	451	縄文土器	深鉢	底径 12.4 器高(61.0)所謂粗製土器 網代底 編み方不明		後期 P97
						452	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯		後期前半 P116
403	縄文土器	鉢	垂下集合沈線を紡錘形に 集合沈線が囲む		P84	453	縄文土器	深鉢	わずかに弧状気味の隆帯		称名寺? P116
						454	縄文土器	鉢	口縁部内外面に跨る隆帯両側に 円孔もつ突起 内面円形刺突		堀之内1 P116
404	縄文土器	鉢	2条の横位沈線間に楕円形の 連続刺突		P84	455	縄文土器	鉢	円形・横位の隆帯下に沈線がなぞる 縄文LR充填		堀之内1 P116
405	縄文土器	鉢	弧状の集合沈線		P84	456	縄文土器	鉢	2条の横位沈線間に円形刺突 その下に縄文LR		堀之内1 P116
406	縄文土器	ミユフ?	手捏状の調整・成形	後期	P84						
407	縄文土器	深鉢	縦位の沈線区画内に短い横位沈線 鱗状短沈線文	中期後半	P85	457	縄文土器	鉢	口縁に沿う2条の沈線から斜行沈線		堀之内 P116
408	石器	打製石斧	輝石安山岩 上部欠損 刃部に磨減 右側に潰れ状痕 (10.8)〈9.4〉〈3.0〉〈466.12〉		P86						
409	縄文土器	深鉢	縄文LR施工後三角形の沈線区画 沈線脇が微隆起帯状に盛り上がる		P87	458	縄文土器	深鉢	縦位の細い沈線区画内に短い 刻み状の沈線 鱗状短沈線文		中期後半 P116
						459	縄文土器	鉢	網代底 編み方不明		後期 P116
410	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	P95	460	弥生土器	甕	磨削斜走文		後期箱清水 P116
411	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	P96	461	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯 横位沈線 縄文LR充填		堀之内1 P121
412	縄文土器	深鉢	円形貼付文から横位沈線 胴部に 渦巻文を3条の集合沈線で描く 区画外へ縄文LR充填		P96	462	縄文土器	深鉢	2条の弧上沈線 区画外に縄文RL充填		後期前半 P114
						463	縄文土器	深鉢	横位・斜行集合沈線		堀之内 P125
413	縄文土器	深鉢	微隆起帯区画内に縄文RL	中期後半	P97	464	縄文土器	鉢	口唇部に円形の小さな突起		堀之内1 P128
414	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	P97	465	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯		後期前半 P129
415	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による縦位条線	称名寺	P97	466	縄文土器	鉢	突起部に渦巻状沈線 その脇に弧状沈線		堀之内1 P129
416	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	称名寺?	P97						
417	縄文土器	深鉢	突起部に円孔 円形刺突 口縁部に沿って連続円形刺突		P97	467	縄文土器	鉢	斜行集合沈線		堀之内1 P129
						468	縄文土器	深鉢	横位隆帯下に櫛歯状工具による 弧状条線		堀之内1 P129
418	縄文土器	深鉢	沈線と条線の区画内に条線充填	堀之内2?	P97	469	石器	磨石	花崗岩 上部～右側欠損 全体に滑らか 〈4.2〉〈3.0〉〈1.8〉〈39.78〉		P129
419	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	P99						
420	縄文土器	深鉢	横位隆帯	後期前半	P99	470	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR		称名寺 P130
421	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁部内折	堀之内1	P99	471	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線		堀之内1 P130
422	縄文土器	鉢	弧状の集合沈線区画内に縄文RL充填	堀之内	P99	472	石器	打製石斧	輝石安山岩 下部欠損 自然面残る (6.8)〈6.3〉〈1.5〉〈83.98〉		P130
423	縄文土器	鉢	口縁部沈線 微隆起帯区画内に 縄文LR充填	堀之内1	P99						
424	縄文土器	深鉢	2条の横位沈線区画内に縄文LR充填	加曾利B3	P99	473	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯		後期前半 P132
425	縄文土器	深鉢	貼付微隆帯が垂下 2条の横位沈線 下に縄文LR施工後 楕円状に沈線区画 内外面に赤色物の付着がみられる		P99	474	縄文土器	鉢	円形貼付文から横位沈線		堀之内1 P132
						475	縄文土器	鉢	くびれ部に2条の横位沈線 その下 大きめの円文から渦巻文 隣に 小さめの円文から渦巻文 間に三角状の 区画と斜行する沈線		堀之内1 P132
426	縄文土製品	土器片(円板)	径2.2cm 厚さ1.0cm 胴部片 剥離・敲打痕	後期?	P111	476	縄文土器	鉢	くびれ部に2条の沈線 その下に沈線		堀之内1 P132
427	縄文土器	鉢	2個の円形貼付文から貼付文へ沈線 円形貼付文から横位の隆帯がのびる		P104	477	縄文土器	鉢	口縁部内側に肥厚する 所謂粗製土器		後期前半 P132
428	縄文土器	鉢	突起部の円文と弧状沈線から横位沈線	堀之内1	P104	478	縄文土器	鉢	円文の脇に弧状沈線配す小突起 円形刺突から横位沈線		堀之内1 P134
429	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁部内折	堀之内1	P105						
430	土師器	壺	内外面へラミガキ 器高 11.2cm	古墳後期	P106	479	縄文土器	鉢	くびれ部8字状刺突から横位沈線 さらに垂下する沈線(?)		堀之内 P134
431	縄文土器	鉢	弧状と斜行集合沈線 区画外に縄文LR充填		P107	480	縄文土器	鉢	弧状の集合沈線 縄文LR		堀之内 P134
432	弥生土器	甕	櫛歯状工具による波状文	後期箱清水	P107	481	縄文土器	鉢	くびれ部の8字状貼付文から上方に 2条の隆帯のびる		堀之内 P135
433	縄文土器	深鉢	微隆起帯文下に縄文LR	中期後半	P108						
434	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯 突起内外面に2個の円孔と4個の円形		P109	482	縄文土器	鉢	口縁部内折 口縁に沿った沈線		堀之内1 P135
						483	縄文土器	深鉢	蛇行沈線を弧状集合沈線 磨消縄文LR		堀之内1 P138
435	縄文土器	鉢	刺突をもつ 内面弧状沈線が 円形刺突を結ぶ		P109	484	縄文土器	鉢	縦位と斜行する集合沈線		堀之内 P138
						485	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下に横位刻み隆線 横位の沈線区画に縄文LR充填		堀之内2 P138
436	縄文土器	鉢	垂下する沈線から円形刺突と弧状? 沈線 矩形と弧状を2条の沈線で描く 磨消縄文LR		P109	486	縄文土器	深鉢	横位沈線クランク状の区切り 沈線脇に弧状の沈線 縄文充填		加曾利B P138
						437	縄文土器	鉢	口縁部に沿って沈線 波状口縁が突起?		堀之内1 P109

第19表 ピット出土遺物観察表

残存く 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
487	縄文土器	深鉢	J字文を取り入れた沈線	称名寺	P143	525	縄文土器	鉢	刻み隆帯が横位隆帯へ垂下する	堀之内	P156
488	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期前半	P143	526	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	P158
489	石器	凹石?	軽石製品		P143						
490	縄文土器	深鉢	弧状沈線区画内磨消縄文LR	称名寺	P144	527	縄文土器	注口土器	口縁小波状口縁か? 口縁部短く 外反する 短い縦位・弧状沈線から 横位沈線	堀之内	P158
491	縄文土器	深鉢	S字状橋状把手 把手下端から横位・ 斜行沈線 口縁下に楕円状沈線	称名寺	P144	528	縄文土器	鉢	楕円形状の沈線区画内に1条の沈線	堀之内1	P160
492	縄文土器	深鉢	沈線の弧状区画外へ縄文LR充填 三角形の平行沈線区画内	称名寺	P144	529	縄文土器	鉢	横位・斜行集合沈線	堀之内1	P160
493	縄文土器	深鉢	縄文LR充填	称名寺	P144	530	縄文土器	鉢	横位・斜行集合沈線 磨消縄文LR	堀之内2	P161
494	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	P144	531	縄文土器	深鉢	2条の沈線と充填縄文LRによる 帯縄文で三角形文を描き文様の 下端も帯縄文で連結しているらしい	堀之内2	P163
495	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	P144	532	縄文土器	鉢	被熱(全体に黒化) 上部部に敲打痕	堀之内1	P153
496	縄文土器	鉢	突起部円形貼付文・沈線 口唇部 外側張り出し部分に垂直な円孔と 円形貼付文	堀之内1	P144	533	石器	石鏃	黒曜石 下部欠損 <2.0> 1.0 0.4 <0.67>		P164
497	縄文土器	深鉢	3個の円孔もつ突起 口唇部押圧	堀之内1	P144	534	石器	剥片	黒曜石 右側に二次加工か? 3.1 1.8 0.7 2.97		P164
498	縄文土器	鉢	口縁部2条の横位沈線	堀之内1	P144	535	石器	剥片	黒曜石 2.8 2.1 0.6 3.29		P164
499	縄文土器	鉢	横位隆帯下辺をなぞる沈線と2条の 斜行沈線区画内に縄文LR充填	堀之内1	P144	536	縄文土器	深鉢	横位隆帯下に縄文RL ねじの末端がみえる	中期末～ 後期初頭	P165
500	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期前半	P144	537	石器	敲石	ホルンフェルス 上下端部に敲打痕 13.7 6.7 4.8 708.55		P165
501	縄文土器	注口	内湾し内傾する 平行口縁下に 注口をもつ	後期前半	P144	538	縄文土器	鉢	口縁部内折 口縁に沿って1条の沈線	堀之内1	P167
502	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り	後期	P144	539	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯	後期前半	P168
503	石器	打製石斧	輝石安山岩 上部欠損 刃部付近磨減 <6.8> <6.3> <1.5> <83.98>		P144	540	縄文土器	深鉢	底部木葉痕 底径(11.9) 器高 3.3	後期	P168
504	縄文土器	深鉢	縄文RL	後期?	P146	541	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り? 底径 9.9 器高 <18.9>	後期	P168
505	縄文土器	深鉢	編代底 2本越1本潜り 他にもう一つの 編み方不明の編物痕あり 底径 10.0cm 器高 <11.0cm>	後期	P146	542	縄文土器	鉢	垂下する刻み隆帯 紡錘形の集合沈線	堀之内1	P169
506	縄文土器	深鉢	縦位の平行沈線間に 綾杉状沈線充填	堀之内2	P147	543	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯の下辺を沈線がなぞる その下弧状の集合沈線	堀之内1	P169
507	縄文土器	深鉢	弧状の刻み隆線	堀之内2	P148	544	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による短い弧状の条線	堀之内1	P169
508	石器	磨・敲石	輝石安山岩 被熱あり(一部黒褐色化) 正裏にすり面 <6.8> <6.3> <7.9> <6.0> <757.70>		P148	545	縄文土器	注口土器	縄文RLを付した円形刺突をもつ円形の 隆帯 その脇の方形沈線区画内に 縄文RL充填	堀之内2	P169
509	石器	敲石	輝石安山岩 縁部に敲打痕 9.2 7.5 4.2 329.74		P152	546	石器	打製石斧	硬質砂岩 上下欠損 自然面残る <6.0> <4.6> <1.2> <27.15>		P170
510	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	P153	547	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	P174
511	縄文土器	深鉢	微隆起帯下 弧状沈線区画外 磨消縄文LR	称名寺	P153	548	縄文土器	鉢	網代底 編み方不明 2種類の編物痕あり	後期	P174
512	縄文土器	深鉢	弧状・縦位集合沈線を横位の 集合沈線で結ぶ	堀之内1	P153	549	縄文土器	深鉢	縄文LR	中期末～後期初頭	P175
513	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	P153	550	縄文土器	鉢	斜行する集合沈線	堀之内	P175
514	縄文土製品	土器片 円板	木葉痕ある底器片を加工 径 4cm 厚み 1.2cm	後期	P153	551	縄文土器	深鉢	口縁部内折 沈線	称名寺	P178
515	石器	敲石	砂岩 被熱あり(全体に黒化) 上部部に敲打痕		P153	552	縄文土器	深鉢	口縁下に横位隆帯	称名寺?	P179
516	石器	剥片	灰色チャート 自然面の残る剥片 3.1 2.2 0.6 2.94		P153	553	縄文土器	深鉢	微隆起帯をなぞる沈線 縄文LR施文後 沈線で区画 沈線脇が微隆帯状に 盛り上がる	称名寺	P179
517	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯	後期前半	P155	554	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位押圧隆帯	後期前半	P180
518	縄文土器	深鉢	X字状集合沈線の中心に2個の円形 刺突 そこから左右に2条の横位沈線	堀之内1	P155	555	縄文土器	深鉢	内外面より貫通を試みたのだろうか? 未貫通の円形盲孔あり	後期前半	P180
519	縄文土器	鉢	くびれ部の円形貼付文から横位 隆帯をなぞる沈線	堀之内1	P155	556	石器	剥片	灰色チャート 二次加工か不明 3.8 2.9 0.8 7.32		P182
520	縄文土器	鉢	くびれ部2条の横位沈線 その下縦位・弧状沈線	堀之内1	P155	557	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線	堀之内1	P183
521	縄文土器	鉢	横位・斜行沈線区画内に 縄文LR充填	堀之内1	P155	558	縄文土器	鉢	内面口縁部に沿って横位沈線	堀之内2	P185
522	縄文土器	鉢	環状突起 円孔を巡る沈線 脇に短い 弧状沈線 斜行刻み隆線 内面円孔を巡る沈線	堀之内2	P155	559	縄文土製品	土器片円板	胴部片 研磨痕 径4.0 厚さ0.7	後期	P186
523	縄文土器	鉢	底部木葉痕	後期	P155	560	石器	打製石斧	輝石安山岩 上部～右側欠損 刃部付近磨減 <5.7> <6.6> <1.6> <73.54>		P188
524	石器	打製石斧	輝石安山岩 上部欠損 刃部に磨減 <7.4> <7.7> <1.4> <109.50>		P155	561	縄文土器	深鉢	弧状沈線区画内に細長い刺突	称名寺	P189
						562	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線	堀之内1	P189

第20表 A地区遺構外出土遺物観察表

A地区

残存く 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	斜位の2条の平行沈線間に貝殻腹縁の圧痕 下方の2条の沈線に斜位の貝殻圧痕	早期田戸下層式?	く4?リット	48	縄文土器	鉢	橋状突起 円孔下の刺突から横位沈線	堀之内1	6トナ	79	縄文土器	鉢	横位刻み隆帯なぞる沈線 沈線区画内磨消縄文LR	堀之内1	Bトナ
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部外側肥厚し 下端が隆帯状になる	中期末～後期初頭	1トナ	49	縄文土器	鉢	2個の円孔もつ突起 円孔周囲の沈線が一部内面にのびる	堀之内1	Bトナ	80	縄文土器	鉢	横位沈線間に連続刻み 横位沈線と弧状沈線	堀之内1	3トナ
3	縄文土器	深鉢	横位隆帯	中期末～後期初頭	く5?リット	50	縄文土器	鉢	環状突起 円孔周りに円形貼付文と沈線 内面横位沈線	堀之内1	Aトナ	81	縄文土器	鉢	横位沈線間に連続刺突 横位沈線 磨消縄文LR	堀之内1	お5
4	縄文土器	深鉢	波状口縁頂部に環状突起 突起側面に円孔 突起下端の盲孔から沈線 内面盲孔	称名寺	3トナ	51	縄文土器	鉢	環状突起 円孔から横位沈線 その逆側にC字状と弧状の沈線 さらに横位沈線 突起部から隆帯が垂下する	堀之内	お5	82	縄文土器	鉢	2条の横位隆帯なぞる沈線	堀之内1	Aトナ
5	縄文土器	深鉢	波状口縁頂部の円形貼付文から沈線 貼付文下に沈線 縄文LR充填	称名寺	1・2?リット	52	縄文土器	鉢	環状突起 円孔上位に弧状沈線 内面円孔下位に両端に円形貼付文もつ沈線 口唇部に両端に盲孔もつ沈線	堀之内1	表塚	83	縄文土器	鉢	横位・縦位・弧状集合沈線 区画内縄文LR充填	堀之内1	2トナ
6	縄文土器	深鉢	波頂部に盲孔ある1対の小突起 突起から弧状の押圧隆帯が左右に垂下する	堀之内1	く4?リット	53	縄文土器	鉢	突起部の円形刺突から横位沈線	堀之内1	3トナ	84	縄文土器	鉢	弧状集合沈線 縄文LR充填	堀之内1	きく5?リット
7	縄文土器	深鉢	波頂部の小突起から口縁に沿って左右に隆帯がのびる	称名寺	Bトナ	54	縄文土器	鉢	突起部縦位沈線から横位沈線	堀之内1	3トナ	85	縄文土器	鉢	横位沈線 弧状集合沈線	堀之内1	1・2?リット
8	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部から斜位の押圧隆帯が左右にのびる	称名寺	1トナ	55	縄文土器	鉢	突起部盲孔から横位沈線	堀之内1	Bトナ	86	縄文土器	鉢	弧状・斜行・縦位集合沈線 縄文LR充填	堀之内1	6トナ
9	縄文土器	深鉢	弧状の刻み隆帯 片側に縄文LR小波状口縁? 口縁部内折	称名寺	3・4?リット	56	縄文土器	鉢	小突起部縦位・横位の短い沈線 円形刺突から横位沈線	堀之内1	きく5?リット	87	縄文土器	深鉢	2条の沈線 区画内磨消縄文LR	堀之内1	お5
10	縄文土器	深鉢	口縁下横位の沈線と弧状の沈線間に縄文LR	称名寺	Bトナ	57	縄文土器	鉢	口縁部内折 口縁に沿った隆帯上と上位に横位沈線 隆帯下位に沈線 さらに縄文LR充填 内面円形刺突から横位沈線	堀之内1	1・2?リット	88	縄文土器	鉢	隆帯片側をなぞる沈線 区画内縄文LR充填	堀之内1	う3
11	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚 沈線区画内縄文LR	称名寺	Aトナ	58	縄文土器	鉢	口縁部内折 口縁に沿って横位沈線 その下縦位の短沈線	堀之内1	6トナ	89	縄文土器	鉢	楕円状沈線区画内に円形刺突 楕円区画から横位沈線と溝巻状沈線に挟まる斜行沈線 斜行沈線区画内に円形刺突	堀之内1	きく5?リット
12	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下に横位の沈線 沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	Aトナ	59	縄文土器	鉢	細かな縄文LR充填	堀之内1	く4	90	縄文土器	鉢	2条の横位沈線下に弧状沈線 3条の横位集合沈線を3条の斜行沈線が結ぶ	堀之内1	1・2?リット
13	縄文土器	深鉢	口縁部内折 沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	Aトナ	60	縄文土器	鉢	口縁部内折 口縁に沿って横位沈線	堀之内1	3・4?リット	91	縄文土器	鉢	弧状から縦位となる集合沈線	堀之内1	き3?リット
14	縄文土器	深鉢	口縁部内折 沈線区画	称名寺	1・2?リット	61	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁に沿って横位沈線 縦位沈線 縄文LR	堀之内1	う4?リット	92	縄文土器	鉢	横位と斜行する集合沈線	堀之内1	6トナ
15	縄文土器	深鉢	口縁部内折 波状口縁 円孔下 弧状・三角形上の沈線	後期前半	Aトナ	62	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に円形刺突から横位沈線 沈線区画外に磨消縄文LR	堀之内1	1・2?リット	93	縄文土器	鉢	横位・弧状沈線	堀之内1	1・2?リット
16	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚する 沈線区画	称名寺	3・4?リット	63	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に円形刺突から横位沈線 J字状沈線 縄文LR	堀之内1	Aトナ	94	縄文土器	鉢	斜行・横位集合沈線	堀之内1	3トナ
17	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚気味 口縁部下 横位・弧状沈線	称名寺	く4	64	縄文土器	深鉢	盲孔から2条の縦位沈線間に磨消縄文LR	堀之内1	く4	95	縄文土器	鉢	垂下沈線を上下2段の筋錐形沈線が囲む	堀之内1	3・4?リット
18	縄文土器	深鉢	口縁部内折 櫛歯状工具による縦位の条線	称名寺	3・4?リット	65	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に円形刺突から横位沈線 口縁部から肥厚する 波状口縁?	堀之内1	Aトナ	96	縄文土器	鉢	垂下する3条の集合沈線 弧状沈線	堀之内1	1・2?リット
19	縄文土器	深鉢	2列の連続円形刺突	称名寺	2トナ	66	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に円形刺突から横位沈線 口縁部から肥厚する 波状口縁?	堀之内1	く4	97	縄文土器	深鉢	垂下・斜行する3条の細い集合沈線	堀之内1	3・4?リット
20	縄文土器	深鉢	J字状沈線区画外に縄文LR充填	称名寺	2トナ	67	縄文土器	深鉢	盲孔から2条の縦位沈線間に磨消縄文LR	堀之内1	く4	98	縄文土器	深鉢	方形状の沈線区画	堀之内1	1・2?リット
21	縄文土器	深鉢	沈線区画外に縄文LR充填	称名寺	3トナ	68	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に円形刺突から横位沈線 J字状沈線 縄文LR	堀之内1	Aトナ	99	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による横位刻み隆帯	堀之内1	きく5
22	縄文土器	深鉢	沈線区画外に磨消縄文LR	称名寺	3・4?リット	69	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に円形刺突から横位沈線 J字状沈線 縄文LR	堀之内1	1トナ	100	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状条線	堀之内1	きく5
23	縄文土器	深鉢	J字状沈線区画外に縄文LR充填	称名寺	き3	70	縄文土器	鉢	小突起2個の盲孔から横位隆帯なぞる沈線 さらに2条の縦位隆帯なぞる沈線	堀之内1	6トナ	101	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	Aトナ
24	縄文土器	深鉢	沈線区画外に縄文LR充填	称名寺	か5	71	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	102	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による垂下する蛇行条線	堀之内1	3・4?リット
25	縄文土器	深鉢	弧状の沈線区画 縄文LR充填	称名寺	3・4?リット	72	縄文土器	鉢	円形貼付文脇に弧状沈線	堀之内1	え2	103	縄文土器	深鉢	垂下する3条の集合沈線 弧状沈線	堀之内1	き3?リット
26	縄文土器	深鉢	弧状の沈線区画 縄文LR充填	称名寺	6トナ	73	縄文土器	鉢	横位の沈線	堀之内1	3・4?リット	104	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による垂下する蛇行条線	堀之内1	き3?リット
27	縄文土器	深鉢	沈線区画 縄文LR充填	称名寺	5トナ	74	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文から横位隆帯	堀之内1	6トナ	105	縄文土器	深鉢	垂下・斜行する3条の細い集合沈線	堀之内1	3・4?リット
28	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	Aトナ	75	縄文土器	鉢	小突起2個の盲孔から横位隆帯	堀之内1	6トナ	106	縄文土器	深鉢	方形状の沈線区画	堀之内1	1・2?リット
29	縄文土器	深鉢	U字状沈線区画内に縄文LR	称名寺	く5	76	縄文土器	鉢	なぞる沈線 さらに2条の縦位隆帯なぞる沈線	堀之内1	6トナ	107	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
30	縄文土器	深鉢	弧状の隆帯	称名寺	Aトナ	77	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	108	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による垂下する蛇行条線	堀之内1	3・4?リット
31	縄文土器	深鉢	2列の連続刺突	称名寺	き3	78	縄文土器	鉢	円形貼付文脇に弧状沈線	堀之内1	え2	109	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	き3?リット
32	縄文土器	深鉢	沈線区画内に連続刺突	称名寺	く5	79	縄文土器	鉢	横位の沈線	堀之内1	3・4?リット	110	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による垂下する蛇行条線	堀之内1	き3?リット
33	縄文土器	深鉢	弧状・横位・縦位沈線区画 磨消縄文LR	称名寺	1・2?リット	80	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	111	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
34	縄文土器	深鉢	沈線	後期前半	Aトナ	81	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	112	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による垂下する蛇行条線	堀之内1	き3?リット
35	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位押圧隆帯	後期前半	1トナ	82	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	113	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
36	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位押圧隆帯	後期前半	く4	83	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	114	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
37	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位押圧隆帯	後期前半	2トナ	84	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	115	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
38	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位押圧隆帯	後期前半	2トナ	85	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	116	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
39	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位押圧隆帯	後期前半	き3	86	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	117	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
40	縄文土器	深鉢	口縁部内側に肥厚 横位押圧隆帯	後期前半	3・4?リット	87	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	118	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
41	縄文土器	深鉢	口縁部わずかに内折 横位押圧隆帯	後期前半	3トナ	88	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	119	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
42	縄文土器	深鉢	口縁部わずかに内湾 横位押圧隆帯	後期前半	Aトナ	89	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	120	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
43	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	1・2?リット	90	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	121	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
44	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	B?リット	91	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	122	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
45	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	1・2?リット	92	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	123	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
46	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	き4?リット	93	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	124	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5
47	縄文土器	鉢	環状突起 円孔周りに4個の盲孔 口縁に沿って沈線 外側に張り出す突起に垂直な円孔	堀之内1	く4?リット	94	縄文土器	鉢	くびれ部円形貼付文の両面に縦位の弧状短沈線 さらに上にのびる隆帯	堀之内1	え5	125	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 櫛歯状工具による蛇行条線	堀之内1	きく5

第21表 A地区遺構外出土遺物観察表

A地区

A地区												残存く 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)						
No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	
122	縄文土器	鉢	口縁部内折 小突起部に縦位の短い沈線 その両脇に円形刺突片側の盲孔から口縁に沿って沈線	堀之内2	き・く5'リット	158	縄文土器	深鉢	口縁部内折 波状口縁? 横位3条の平行沈線	堀之内2	く4	198	縄文土器	注口土器	横位隆線と斜行沈線で区画 縄文LR充填		堀之内1	A11'リット
123	縄文土器	鉢	口縁部内折 内面突起部盲孔から口縁に沿って沈線	堀之内2	く4'リット	159	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位沈線下3条の沈線で三角形等の幾何学文様を描く 縄文LR充填	堀之内2	き4	199	縄文土器	注口土器	頸部横位隆線 弧状・斜行沈線で区画 縄文LR充填		堀之内2	え5
124	縄文土器	鉢	内面突起部縦位沈線と並ぶ盲孔から口縁に沿って沈線	堀之内2	6'リット	160	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位沈線下2~3で菱形等の幾何学文様を描く	堀之内2	き5	200	縄文土器	注口土器	弧状沈線で区画 縄文LR充填		堀之内2	4'リット
125	縄文土器	鉢	口縁部内折 内面小突起部に盲孔	A11'リット		161	縄文土器	深鉢	口縁部に沿った横位沈線下2条の沈線で三角形?当の幾何学文様を描く	堀之内2	く4	201	縄文土器	注口土器	横位・弧状・斜行沈線で区画 横位小さな横位の連続刻み		堀之内2	く4
126	縄文土器	鉢	口縁に沿って沈線	堀之内2	B11'リット	162	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位平行沈線 内に極細い縄文LR充填	堀之内2	3'リット	202	縄文土器	深鉢	横位沈線の下 2個の8字貼付文から3条の横位隆線		堀之内2	く4
127	縄文土器	鉢	口縁に沿って2条の沈線	堀之内2	1・2'リット	163	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の平行沈線	堀之内2	A11'リット	203	縄文土器	注口土器	隆帯と沈線で円文等を描く		堀之内2	A11'リット
128	縄文土器	深鉢	内面重棒状の沈線	堀之内2	1・2'リット	164	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁下横位隆線	堀之内2	A11'リット	204	縄文土器	注口土器	口縁部内折 横位平行沈線間に沈線で三角形を描き内部と斜行沈線で充填		堀之内2	B11'リット
129	縄文土器	鉢	垂下する刻み隆線と横位刻み隆線との交差点に8字貼付文	堀之内2	B11'リット	165	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁下横位隆線 円形貼付文から縦位・斜位の刻み隆帯が垂下する	堀之内2	B11'リット	205	縄文土器	注口土器	口縁部内折 横位平行沈線間に沈線で充填		堀之内2	B11'リット
130	縄文土器	鉢	斜行沈線間に縄文LR充填	堀之内2	3・4'リット	166	縄文土器	深鉢	口縁部内折 小突起? 横位刻み隆帯に8字貼付文 貼付文の上短い沈線 貼付文を避ける沈線と横位沈線間に縄文LR充填	堀之内2	1'リット	206	縄文土器	注口土器	2条の平行沈線間に沈線で菱形・三角形に区画し、円形・半円形を描く 縄文LR充填		堀之内2	3'リット
131	縄文土器	鉢	縦位・弧状集合沈線 LR充填	堀之内2	3'リット	167	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の刻み隆帯を跨ぐ8字貼付文と円形貼付文 沈線で三角形等の幾何学文様 縄文LR充填 168と同一個体	堀之内2	1・2'リット	207	縄文土器	注口土器	注口部		後期	1え'リット
132	縄文土器	鉢	内面縦位短沈線から横位沈線	堀之内2	A11'リット	168	縄文土器	深鉢	167と同一個体沈線で幾何学文様を描く 縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	208	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
133	縄文土器	深鉢	波状口縁 波頂部の小突起から瘤状小突起まで口唇部沈線 2条の横位刻み隆線に8字貼付文斜行平行沈線間に縄文	堀之内2	1'リット	169	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	209	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
134	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁内折 2条の口縁に沿った刻み隆線 その下2条の沈線間に縄文LR充填三角文を描く	堀之内2	1え'リット	170	縄文土器	深鉢	沈線で幾何学文様を描く 縄文LR充填	堀之内2	3'リット	210	縄文土器	注口土器	注口部		後期	え5'リット
135	縄文土器	深鉢	口縁部内折 小突起部に縦位沈線 突起下の縦位3個の円形貼付文から3条の横位刻み隆線	堀之内2	B11'リット	171	縄文土器	深鉢	2条の沈線間に沈線で渦巻?棒状文を描く 縄文LR充填	堀之内2	き4	211	縄文土器	注口土器	注口部		後期	き3'リット
136	縄文土器	深鉢	口縁部内折 縦位3個の円形貼付文から横位刻み隆線	堀之内2	1・2'リット	172	縄文土器	深鉢	横位沈線 棒状の沈線 縄文LR充填	堀之内2	お5	212	縄文土器	注口土器	注口部		後期	き3'リット
137	縄文土器	深鉢	小突起下に縦位に4個の円形貼付文(ダブル8字貼付文)から横位刻み隆帯 弧状沈線区画内に縄文LR充填 内面小突起から	堀之内2	1・2'リット	173	縄文土器	深鉢	2条の沈線間に沈線で渦巻?棒状文を描く 縄文LR充填	堀之内2	き4	213	縄文土器	注口土器	注口部		後期	1え'リット
138	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位の横長刻み隆帯に8字貼付文	堀之内2	6'リット	174	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	214	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
139	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆帯上に8字貼付文	堀之内2	B11'リット	175	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	215	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
140	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆帯上に8字貼付文	堀之内2	き3'リット	176	縄文土器	深鉢	沈線で幾何学文様を描く 縄文LR充填	堀之内2	3'リット	216	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
141	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁に沿って2条の刻み隆帯	堀之内2	お5'リット	177	縄文土器	深鉢	2条の沈線間に沈線で渦巻?棒状文を描く 縄文LR充填	堀之内2	き4	217	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
142	縄文土器	鉢	くびれ部に2条の刻み隆帯	堀之内2	B11'リット	178	縄文土器	深鉢	横位沈線 棒状の沈線 縄文LR充填	堀之内2	お5	218	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
143	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆帯	堀之内2	4'リット	179	縄文土器	深鉢	沈線で幾何学文様を描く 縄文LR充填	堀之内2	3'リット	219	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
144	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯上に8字貼付文 8字貼付文を避ける沈線	堀之内2	5'リット	180	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	220	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
145	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯上に8字貼付文 8字貼付文を避ける沈線	堀之内2	3・4'リット	181	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	221	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
146	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯上に8字貼付文	堀之内2	1・2'リット	182	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	222	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
147	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯上に8字貼付文	堀之内2	6'リット	183	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	223	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
148	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯上に橋形形貼付文	堀之内2	き3	184	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	224	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
149	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯 横位沈線縄文LR充填	堀之内2	き3	185	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	225	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
150	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線 2条沈線間に縄文LR充填 弧状の沈線	堀之内2	A11'リット	186	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	226	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
151	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線 横位沈線	堀之内2	き4	187	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	227	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
152	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線 内面2条の横位沈線	堀之内2	B11'リット	188	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	228	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
153	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 内面横位沈線	堀之内2	3'リット	189	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	229	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
154	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯	堀之内2	1'リット	190	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	230	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
155	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯	堀之内2	6'リット	191	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	231	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
156	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位隆帯 横位沈線下 同心円状・棒状の沈線	堀之内2	き・く5	192	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	232	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
157	縄文土器	深鉢	波状口縁 頂部に円文貼付 内面突起下に円形貼付文 外面突起下に付け替えた痕跡ある8字貼付文から横位の細い隆線	堀之内2	A11'リット	193	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	233	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
						194	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	234	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
						195	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	235	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
						196	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット	236	縄文土器	注口土器	注口部		後期	う5'リット
						197	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 弧状の沈線 区画外縄文LR充填	堀之内2	1・2'リット							

第22表 A地区遺構外出土遺物観察表

A地区

残存< 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
237	縄文土器	注口土器?	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	3・4'リット	275	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 別の編物重なる	後期	6'リット	313	縄文土製品	土器片 円板	口縁部加工 全周研磨 長辺3.2短辺2.5 器厚0.8	後期	お9'リット
238	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	4'リット	276	縄文土器	深鉢	網代底 1本越1本潜り 横条・縦条間隔あり	後期	4'リット	314	縄文土製品	土器片 円板	胴部片加工 敲打・刺離痕 口径 3.5 器厚 1.1	後期	1'リット
239	縄文土器	鉢?	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	B'リット	277	縄文土器	深鉢	網代底 2本越2本潜り 間隔密	後期	6'リット	315	縄文土製品	土器片 円板	胴部片加工 敲打・刺離痕 口径 3.5 器厚 0.7	後期	き4'リット
240	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	<4'リット	279	縄文土器	不明	網代底 3本越3本潜り 間隔密	後期	1'リット	316	縄文土製品	土器片 円板	胴部片加工 敲打・刺離痕 口径 3.3 器厚 0.8	後期	1え'リット
241	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	き4'リット	281	縄文土器	不明	網代底 4本越2本潜り	後期	<4'リット	317	縄文土製品	土器片 円板	網代底 編み方不明 口径 3.0 器厚 1.0	後期	1'リット
242	縄文土器	注口土器?	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	き・5'リット	282	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 縦条1本編み方不明	後期	A'リット	318	縄文土製品	土器片 円板	胴部片加工 一部研磨痕 口径 3.0 器厚 0.8	後期	き4'リット
243	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	か5	284	縄文土器	不明	網代底 1本越1本潜り?	後期	1・2'リット	319	縄文土製品	土器片 円板	胴部片加工 一部研磨痕 口径 2.4 器厚 1.0	後期	き4'リット
244	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	き・<5	285	縄文土器	不明	網代底 縦条と横条の素材が 異なっている3本越1本潜り	後期	<3'リット	320	縄文土製品	土器片 円板	胴部片加工 一部研磨痕 口径 2.0 器厚 0.8	後期	A'リット
245	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい	後期	6'リット	286	縄文土器	不明	網代底 複数の編み方不明	後期	3・4'リット	321	縄文土製品	土器片 円板	胴部片加工 一部研磨痕 口径 2.4 器厚 1.6	後期?	1・2'リット
246	縄文土器	鉢?	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい 他に2本越1本潜りが重なる	後期	3・4'リット	287	縄文土器	不明	先端丸い工具?の圧痕	後期	6'リット	322	縄文土製品	土器片 円板	胴部片加工 洗練縄文 全周研磨 口径 2.3 器厚 0.8	後期	<4'リット
247	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい 他に2種類の編物が重なる	後期	3・4'リット	288	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	3・4'リット	323	縄文土製品	土器片 円板	ハート形 深鉢胴部片加工 全周研磨 V字先端部に浅い伏り	後期	き3'リット
248	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい 他に3種類の編物が重なる	後期	き4	289	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	き5'リット	324	縄文土製品	不明	右上部を欠く 焼成前に両側から 穿孔 長さ 4.5 幅 2.3 厚さ 1.6	後期?	1・2'リット
249	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい 他に2種類の編物が重なる	後期	3・4'リット	290	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	325	縄文土製品	不明	円形 下面に突起 側面の挟り状の 部分は使用による磨減か?	後期?	3・4'リット
250	縄文土器	注口土器?	網代底 2本越2本潜り 条間密 素材細かい	後期	A'リット	291	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	326	縄文土製品	陽形 土製品	外面丁寧に調整 D2-16に形状類似する	後期?	6'リット
251	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	B'リット	292	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	3・4'リット	327	縄文土製品	陽形 土製品	外面全面丁寧にミガキ D2-16に形状類似する	後期?	B'リット
252	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	3'リット	293	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か3'リット	328	縄文土製品	高筒 土偶	底が楕円形で平らな安定した脚部 に孔径0.2cmと0.3cm 深さ1cmの2箇の盲孔がある 全周する 横位平行沈着溝巻状の平行沈着(8.2cm)幅55cm厚さ5.1cm	堀之内1	B'リット
253	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	1え'リット	294	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	<4'リット	329	縄文土製品	土偶	斜め上方に首を突き出した形でY字 隆帯で眉と鼻を、口は透し孔で、 目は沈線で表現する。顔と頭部 境の隆帯は帽子をかぶったような 形である 突起状の頭頂部から 貫通孔 孔を交点として平行沈線内 に小円形刺突のX字文が施文される 後頭部に2条の沈線 長さ7.6cm 幅4.7cm 厚さ5.3cm	堀之内1	か3'リット
254	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	3・4'リット	295	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	3・4'リット	330	縄文土製品	高筒 土偶	底に孔径0.5cm深さ5cm脚部中はど に孔径0.2cmと0.3cm 深さ1cmの2箇の盲孔がある 全周する 横位平行沈着溝巻状の平行沈着(8.2cm)幅55cm厚さ5.1cm	堀之内1	B'リット
255	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	6'リット	296	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	331	縄文土製品	土器 土製品	足底が楕円形 平らで安定した脚部 上端に孔の一部が見られ 上部と 内側に接合部位の割れた痕 底底は2本越1本潜り 素材の細かい網代底長さ6.5cm幅5cm厚さ4cm	堀之内	え'リット
256	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	A'リット	297	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	A'リット	332	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	き4'リット
257	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	1・2'リット	298	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	333	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
258	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	1え'リット	299	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	3・4'リット	334	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	き4'リット
259	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	2'リット	300	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	335	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
260	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	A'リット	301	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	336	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
261	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	1え'リット	302	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	337	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
262	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	堀之内 6'リット	303	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	338	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
263	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 別の編物重なる	後期	き2'リット	304	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	339	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
264	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	3・4'リット	305	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	340	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
265	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	3・4'リット	306	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	341	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
266	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	B'リット	307	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	342	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
267	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	A'リット	308	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	343	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
268	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 別の編物重なる	後期	A'リット	309	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	344	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
269	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条・縦条間隔あり	後期	A'リット	310	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	345	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
270	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 縦条交互に2本1組	後期	3・4'リット	311	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	346	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
271	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 間隔密	後期	3・4'リット	312	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	347	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
272	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 間隔密	後期	1え'リット	313	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	348	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
273	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 別の編物重なる	後期	5'リット	314	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	349	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット
274	縄文土器	不明	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 別の編物重なる	後期	き4'リット	315	縄文土器	深鉢	木炭痕	後期	か4'リット	350	縄文土製品	土器 土製品	内斜口縁 調整が手づくね様 口縁部横ナデ 体内内外面ナデ 底部外面ヘラケズリ	古墳後期	5'リット

No.	器種	素材	所見	出土位置	No.	器種	素材	所見	出土位置	No.	器種	素材	所見	出土位置	No.	器種	素材	所見	出土位置
336	石鏃	灰色チャート	(1.65) (1.4) (0.4) (1.03) 先端欠損	< 4	344	石鏃	黒曜石	1.8 1.3 0.25 0.36	< 4	351	二次加工のある剥片	粘板岩	2.8 1.3 0.4 1.47 正裏に二次加工痕	き4	358	剥片	灰色チャート	2.5 2.1 0.7 3.66 上部に二次加工痕	2'リット
337	石鏃	黒曜石	(1.5) (1.4) (0.4) (0.82) 上部→右側欠損	3'リット	345	石鏃	黒曜石	(1.3) (1.0) 0.2 (0.21) 左脚部先端欠損	き4	352	二次加工のある剥片	灰色チャート	2.5 2.1 0.7 3.66 上部に二次加工痕	2'リット	359	削器	輝石山岩	5.4 8.6 0.8 53.42 正面に自然面残る	お9' N区
338	石鏃	黒曜石	1.8 1.5 0.5 1.21 剥離の粗いことから未製品と思われる	B'リット 検出面	346	石鏃	黒色緻密山岩	(1.7) (1.3) (0.25) (0.27) 左脚部欠損	< 4	353	剥片	黒曜石	自然面残る剥片	< 4					
339	石鏃	灰色チャート	1.8 1.3 0.3 0.45	け4 IV層	347	石鏃	黒曜石	1.7 0.9 0.6 0.64	き4 IV層	354	二次加工のある剥片	黒曜石	上下に二次加工痕	< 4					
340	石鏃	褐色チャート	(2.6) (2.1) (0.6) (3.51) 上下欠損	1・2列	348	石鏃	黒曜石	(2.1) (0.75) (0.3) (0.54) 上部欠損	< 4	355	二次加工のある剥片	黒曜石	1.9 2.1 0.8 8.67	き・< 5					
341	石鏃	黒曜石	1.9 0.8 0.3 0.42 未製品?	か3 IV層	349	槌	黒曜石	2.3 1.3 0.8 2.83 両極からの打撃 槌として使用か	1・2列	356	二次加工のある剥片	褐色チャート	1.3 1.0 0.25 0.28 下部に二次加工痕	< 4					
342	石鏃	黒曜石	(1.0) (1.0) (0.2) (0.19) 基部欠損	3・4列						357	剥片	赤褐色チャート	3.2 2.1 0.7 3.35	検出面 B'リット					
343	石鏃	黒曜石	(3.1) (1.6) 0.5 (1.32) 右脚部欠損	き4 IV層						358	剥片	灰色チャート	2.0 1.7 0.5 1.93 自然面残る剥片	検出面 B'リット					

第23表 A・B地区遺構外出土遺物観察表

A 地区

No.		器種	素材	所見	出土位置	No.		器種	素材	所見	出土位置	No.		器種	素材	所見	出土位置
360	石核	褐色チャート	5.7 8.3 6.8 371.65	多方面から剥離があり打面に対して鈍角に行き詰まっている	3・4 列	380	磨製石斧	緑色凝灰岩	(6.7) (4.0) (2.5) (111.46)	下部欠損 整形のための敲打痕残る	< 5 IV層	401	敲石	砂岩	(6.9) (5.8) (1.6) (62.04)	左側~下部欠損 右側に敲打痕	Aトレンチ
361	打製石斧	硬質砂岩	12.8 5.5 1.6 128.37	刃部に磨減(使用痕)	IV層	381	磨製石斧	緑色凝灰岩	(4.7) (2.9) (1.5) (35.31)	刃部欠損 整形時の敲打痕残る	え 5	402	凹石	輝石安山岩	(7.4) (7.8) (3.2) (246.00)	正面に敲打痕 下部欠損	Aトレンチ
362	打製石斧	輝石安山岩	(8.8) (5.8) (1.3) (70.70)	上部欠損 磨減した面の上に剥離あり 再生して使用か	3・4 列	382	磨石	輝石安山岩	(7.5) 8.6 (6.7) (619.46)	下部欠損 正裏・右側にすり面	1・2 列	403	凹石	輝石安山岩	11.0 7.2 4.1 527.82	正面に2ヶ所ずつの凹み 周囲に敲打痕	き・く 5
363	打製石斧	輝石安山岩	4.2 2.8 1.1 14.82	打斧の側面の一部と思われる 正面は自然面か	Bトレンチ	383	磨石	輝石安山岩	5.0 3.2 2.1 49.40	全体に滑らか すりによるものか	< 4	404	石皿	砂岩	(7.8) (8.2) (2.7) (171.09)	被熱あり(右半部 黒褐色化) 左側を残し欠損か 裏面の欠損状態不明	3・4 列
364	打製石斧	硬質砂岩	(4.4) (5.0) (1.9) (38.01)	下部欠損 両側に着柄痕	お 4	384	磨石	輝石安山岩	7.5 6.9 4.8 415.52	正裏にすり面	1・2 列	405	台石	輝石安山岩	24.0 14.9 5.2 311.0	被熱あり(正面黒化) 正面が使用面	え 5 IV層
365	打製石斧	輝石安山岩	(5.2) (5.9) (1.3) (58.93)	正裏に節理面残る 右側に着柄痕(つぶれ)	1・2 列	385	磨石	輝石安山岩	9.0 6.5 3.1 287.99	正裏にすり面	Aトレンチ	406	台石	輝石安山岩	21.7 15.9 5.8 254.0	正面が使用面	え 9
366	打製石斧	輝石安山岩	(4.6) (4.6) (1.4) (33.79)	下部欠損	< 4	386	磨石	輝石安山岩	8.0 5.2 4.6 220.65	被熱あり(全体に黒化) 正面・両側にすり面	き 4	407	凹石	花崗岩	(16.0) (15.4) (12.4) (387.0)	一部剥落 正裏に凹み 使用痕	き 3
367	打製石斧	輝石安山岩	(7.2) (5.5) (2.3) (128.38)	上部欠損 刃部に使用による磨減	3・4 列	387	磨・敲石	輝石安山岩	9.0 6.5 4.7 438.30	正面中央に敲打痕 正裏にすり面	6トレンチ	408	台石	輝石安山岩	(9.9) (14.9) (2.3) (548.39)	全周欠損 正面が使用面	2トレンチ
368	打製石斧(未製品)	砂岩	(6.7) (4.6) (1.5) (68.45)	正面に節理面残る 上下欠損	Aトレンチ	388	磨石	砂岩	(5.7) (7.8) (1.9) (108.66)	被熱あり(正面黒化) 正裏にすり面	き 4	409	台石	輝石安山岩	(6.9) (9.9) (3.3) (498.46)	被熱あり(裏面黒化) 正面が使用面	2トレンチ
369	打製石斧	砂岩	(6.8) (4.5) (1.5) (52.48)	下部欠損 正面に自然面残る	3・4 列	389	磨石	砂岩	6.3 4.4 1.1 43.04	正裏にすり面 周囲は使用痕か?	か 5	410	台石片?	輝石安山岩	(8.3) (9.6) (0.8) (77.02)	全周欠損 表面が滑らか	2トレンチ
370	打製石斧	安山岩	(4.2) (3.4) (1.6) (29.72)	上下欠損 正面は節理面か	< 4	390	磨石	砂岩	5.1 4.0 2.0 54.85	正裏にすり面	Aトレンチ	411	砥石?	砂岩	(2.5) (9.4) (2.0) (406.17)	被熱あり? (裏面黒化) 右側~裏面欠損 砥石と思われる	お 8
371	打製石斧	安山岩	(6.8) (6.0) (2.4) (126.85)	上下欠損 正面に自然面残る	< 4	391	磨石	砂岩	5.1 4.5 1.3 34.49	正裏にすり面 被熱あり(正面 黒化および赤化)	え 5	412	砥石	砂岩	(6.0) (4.2) (2.5) (72.07)	上下~裏面欠損 砥石数4	1・2 列
372	打製石斧	安山岩	(9.0) (5.3) (1.3) (74.36)	上下欠損 正面と右側は節理面か	3・4 列	392	磨・敲石	輝石安山岩	10.3 8.7 6.1 740.51	正面に敲打痕とすり面	お 8	413	礮石	砂岩	8.4 3.5 2.2 77.03	右側に明瞭な抉り	Aトレンチ
373	打製石斧	輝石安山岩	(4.6) (4.9) (1.8) (54.59)	上下欠損	Aトレンチ	393	磨・敲石	輝石安山岩	12.4 8.9 (5.8) (844.71)	裏面一部欠損 正裏にすり面 正面と周囲に敲打痕	6トレンチ	414	磨石	軽石	3.4 3.0 1.8 8.65	正面に条痕 全体にすり	お 4
374	磨製石斧	輝石安山岩	(6.0) (6.3) (1.0) (39.69)	正裏とも下側に磨減があることから石斧の刃部と思われる	Aトレンチ	394	磨・敲石	輝石安山岩	11.6 5.0 3.4 333.49	正裏にすり面 下部面に敲打痕	1・2 列	415	石剣	緑泥片岩	22.8 3.7 1.9 291.36	被熱あり(赤化および黒化) 上下端面は欠損か使用痕不明	3トレンチ
375	転用敲石	石英閃緑岩	4.0 5.1 2.0 68.23	表面に敲打痕 欠損後敲石として使用か	き 3	395	磨・敲石	硬質砂岩	11.9 6.4 3.3 386.82	上下端面に敲打痕 正面にすり面(後縁あり)	2トレンチ	416	石棒	緑泥片岩	(21.5) (3.9) (3.2) (416.53)	一部欠損	え 5
376	磨製石斧	緑色凝灰岩	(4.1) (5.4) (2.0) (70.06)	上部欠損 一部を残し表面剥離 刃部先端が敲打痕に濡れる 二次的使用か	Bトレンチ	396	磨・敲石	角閃石安山岩	9.8 6.0 2.8 234.47	被熱あり(全体に黒色および褐色化) 正裏にすり面 周囲に敲打痕	え 5	417	石棒	緑泥片岩	(3.6) (7.0) (3.5) (93.06)	周囲~裏面欠損	か 4
377	磨製石斧	灰色チャート	(1.5) (2.9) (1.2) (5.77)	周囲~裏面欠損 擦痕あり	き 4	397	磨・敲石	角閃石安山岩	8.9 7.0 1.7 171.60	正裏にすり面 左側に敲打痕	Aトレンチ	418	石棒	緑泥片岩	(4.7) (2.8) (2.6) (41.44)	上下欠損	3・4 列
378	磨製石斧	石英閃緑岩	(6.8) (4.0) (2.5) (70.96)	上部~右側欠損	か 2	398	磨・敲石	砂岩	7.8 6.7 1.3 88.79	正裏に条痕様のすり 縁辺に敲打痕	< 4	419	不明	砂岩	3.2 2.6 0.3 4.55	正裏とも被熱残る 3孔は両面から穿孔(孔径 0.3~0.4)	Aトレンチ
379	磨製石斧	緑色凝灰岩	(7.4) (5.0) (1.9) (133.32)	刃部欠損 擦痕顕著 基部面取り状に加工	き・く 5	399	磨・敲石	輝石安山岩	7.2 4.7 2.7 133.29	周囲に敲打痕 正裏にすり面	6トレンチ	420	鉄製品	角釘	8.5(伸ばして) 0.7 0.4 5.32	ほぼ完成	Aトレンチ
						400	敲石?	砂岩	6.9 3.2 2.8 88.51	被熱あり? 縁辺の剥離は被熱によるもの?	3・4 列	421	鉄製品	角軸	12.2 0.7 0.7 13.31	上下欠損	Aトレンチ
												422	古銭	「寛永通宝」			Bトレンチ
												423	刀子		(11.6) 1.4 0.6(刃身部)1.2(環状部) (23.18)		5トレンチ

B 地区

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
1	縄文土器	注口	橋状把手 無文	後期	こ13'ト	16	縄文土器	深鉢	口縁部内折 突起中央2条の縦位沈線 線部の円形刺突から横位沈線	堀之内1	す11'ト	34	縄文土器	深鉢	渦巻状沈線区画内に縄文LR充填	堀之内1	し10'ト
2	縄文土器	深鉢	波状口縁 微隆起帯文下に縦位弧状沈線 地文縄文LR	中期末~後期初頭	10ト	17	縄文土器	深鉢	口縁部内折 小突起から左右に横位沈線	堀之内1	す11'ト	35	縄文土器	深鉢	垂下する縦位・斜行沈線	堀之内1	す14'ト
3	縄文土器	深鉢	環状微隆起帯文をなぞる沈線 地文縄文LR	称名寺	し12'ト	18	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁下降帯に縄文LR 内面小突起部に盲孔	堀之内1	10ト	36	縄文土器	深鉢	縦位刺突列	後期前半	10ト
4	縄文土器	深鉢	沈線もつ橋状把手 中央に円孔左下に円孔 右に円形刺突から沈線内に縄文LR 内面微隆起の波頂部から沈線 円孔の両側に円形刺突	称名寺	10ト	19	縄文土器	鉢	口縁部内折 小突起中央の円孔から横位沈線 突起下に8字状貼付文 内面小突起に円形刺突	堀之内1	こ13'ト	37	縄文土器	深鉢	刺突文	三十稲場	8ト
5	縄文土器	深鉢	口縁部下横位沈線 沈線区画	称名寺	8ト	20	縄文土器	深鉢	口縁部内折 斜格子状の隆帯 交点に円形貼付文	堀之内1	す11'ト	38	縄文土器	深鉢	磨歯状工具による弧状沈線	堀之内1	B地区
6	縄文土器	深鉢	波状口縁 横位刻み隆帯 斜位の沈線	称名寺	す11'ト	21	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁に沿った沈線 刻み隆帯	堀之内1	さ10'ト	39	縄文土器	深鉢	磨歯状工具による縦位の蛇行条痕	堀之内1	8ト
7	縄文土器	深鉢	口縁からの縄文LR	称名寺	11ト	22	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁に沿った沈線 以下垂下する2条の縦位斜行沈線	堀之内1	B地区	40	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	す11'ト
8	縄文土器	深鉢	口縁部下 弧状(刻)み隆帯	後期前半	10ト	23	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁に沿った沈線 縄文LR充填	堀之内1	こ13	41	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	す11'ト
9	縄文土器	深鉢	波状口縁 縄文LR施文後横位平行沈線・弧状沈線区画	後期前半	す11'ト	24	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁に沿った沈線	堀之内1	10ト	42	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	し11'ト
10	縄文土器	深鉢	沈線区画 縄文LR	称名寺	8ト	25	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁に沿った隆帯	堀之内1	す13'ト	43	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	す14
11	縄文土器	深鉢	J字状隆帯	称名寺	す10'ト	26	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	堀之内1	B地区	44	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯	後期前半	す11
12	縄文土器	深鉢	口縁部内折 環状把手 外面弧状・斜行沈線 側面円形刺突から沈線 口縁部剥落するも2箇の盲孔が伺える	堀之内1	こ10'ト	27	縄文土器	鉢	横位集合沈線の斜行 渦巻状沈線	堀之内1	11ト	45	縄文土器	鉢	くびれ部に横位刻み隆帯	後期前半	け13
13	縄文土器	深鉢	口縁部内折 環状突起 外面突起 内面円孔めぐる沈線 円形刺突	堀之内1	B地区	28	縄文土器	鉢	横位集合沈線の斜行 渦巻状沈線	堀之内1	け13'ト	46	縄文土器	鉢	砕状沈線	後期前半	7ト
14	縄文土器	深鉢	口縁部内折 突起中央に4条の弧状沈線 左に円孔・C字状沈線 縦位沈線 右に横位沈線 内面突起中央に円形刺突を囲む弧状沈線	堀之内1	B地区	29	縄文土器	鉢	垂下する刻み隆帯をなぞる沈線 3条の集合位沈線と渦巻状沈線	堀之内1	し12'ト	47	縄文土器	鉢	口縁部内折 小突起の口唇部に円形刺突から沈線	堀之内1	11ト
15	縄文土器	深鉢	口縁部内折 突起中央の円形刺突から上下に刻みが配される横位沈線 反対側に弧状沈線	堀之内1	す11'ト	30	縄文土器	鉢	横位連続列をなぞる沈線	堀之内1	さ10'ト	48	縄文土器	鉢	口唇部内折 内面円形刺突から横位沈線	後期後半	B地区
						31	縄文土器	鉢	円形貼付文から横位沈線	堀之内1	し14'ト	49	縄文土器	深鉢	口唇部内折 内面2条の沈線	堀之内2	す14'ト
						32	縄文土器	鉢	垂下する2条・3条の沈線	堀之内1	10ト	50	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆帯の下 幾何学的沈線区画内縄文LR	堀之内2	9ト
						33	縄文土器	深鉢	渦巻状沈線 縄文LR充填	堀之内1	7ト	51	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆帯の下 幾何学的沈線区画内縄文LR	堀之内2	9ト
												52	縄文土器	鉢	内面2条の沈線	堀之内2	す14'ト
												53	縄文土器	鉢	外面垂下する2条の刻み隆帯 内面口唇部連続刻み横位隆帯	堀之内2	し10'ト
												54	縄文土器	鉢	外面垂下する刻み隆帯 内面砕状沈線の下に横位沈線	堀之内2	9ト
												55	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆帯の下 幾何学的沈線区画内縄文LR	堀之内2	9ト
												56	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部連続刻み 外面横位2条の刻み隆帯 内面1条の横位沈線	堀之内2	し9ト

第24表 B地区遺構外出土遺物観察表

B地区

										残存() 石器 最大長・最大幅・最大厚・重量 (cm・g)									
No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置		
57	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位1条の刻み隆帯上に8字貼付文 その下に横位沈線		堀之内2	57	縄文土器	浅鉢	口唇部面取り 内湾しながら外反する内外面口縁部付近よく磨かれる 無文	後期	8トナ	116	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	B地区		
58	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位1条の刻み隆帯		堀之内2	58	縄文土器	浅鉢	口唇部面取り 内湾しながら外反する内外面丁寧な調整 磨かれる	後期	こ10トナ	117	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	け13トナ		
59	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位1条の刻み隆帯上に8字貼付文 その下横位の沈線		堀之内2	59	縄文土器	浅鉢	口唇部面取り 内湾しながら外反する内外面丁寧な調整 内面磨かれる	後期	7トナ	118	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	こ10トナ		
60	縄文土器	深鉢	口縁部内折 小突起下8字貼付文から横位刻み隆帯 内面突起部円形 刺突 横位沈線		堀之内2	60	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 底径 13.5cm	堀之内	7トナ	119	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	9トナ		
61	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下1条の刻み隆帯		堀之内2	61	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	11トナ	120	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	7トナ		
62	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位刻み隆帯 その下幾何学的沈線区画 縄文LR充填		堀之内2	62	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	さ10トナ	121	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	こ10トナ		
63	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位刻み隆帯 その下幾何学的沈線区画内縄文LR充填		堀之内2	63	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 底径 (8.4cm)	堀之内	け13トナ	122	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	B地区		
64	縄文土器	深鉢	口縁部極わずかに内折 口縁部下横位刻み隆帯 その下横位沈線		堀之内2	64	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	B地区	123	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	B地区		
65	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位刻み隆帯 その下幾何学的沈線区画内縄文LR充填		堀之内2	65	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	B地区	124	縄文土器	鉢	木葉痕	後期	B地区		
66	縄文土器	深鉢	口縁部下横位刻み隆帯		堀之内2	66	B地区	99	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	B地区	125	縄文土器	土器片 円板	鉢口縁部加工 敲打・剥離・研磨痕 刻み隆帯・沈線・円形刺突 径5.5cm 厚さ1.4cm	堀之内2	B地区
67	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位刻み隆帯 その下横位沈線 縄文LR充填		堀之内2	67	7トナ	100	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	す13トナ	101	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	す12トナ
68	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位刻み隆帯		堀之内2	68	7トナ	102	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	し10	103	縄文土器	土器片 円板	鉢口縁部加工 敲打・剥離・研磨痕 縄文LR施文後3条の集合 沈線 径4.6cm 厚さ1.2cm	堀之内1	B地区
69	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部外側に肥厚 口縁部下に横位隆帯		堀之内2	69	さ12トナ	103	縄文土器	鉢	網代底 2本越2本潜り 横条・縦条間隔なし	後期	B地区	104	縄文土器	土器片 円板	胴部片 敲打・剥離痕 無文 径3.9cm 厚さ0.8cm	後期	す13トナ
70	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部外側に肥厚 横位・弧状沈線区画		堀之内2	70	11トナ	104	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	す12トナ	105	縄文土器	土器片 円板	胴部片 敲打・剥離痕 無文 径3.9cm 厚さ0.8cm	後期	11トナ
71	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位2条の沈線		堀之内2	71	9トナ	106	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	B地区	107	縄文土器	土器片 円板	深鉢胴部片 敲打・剥離・研磨痕 平行沈線 縄文 径3.6cm 厚さ0.9cm	堀之内2	9トナ
72	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯の上に8字貼付文 その下横位平行沈線 縄文LR充填		堀之内2	72	8トナ	107	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い 素材の異なる2本越 1本潜りが重なる 底径 (13.5cm)	後期	7トナ	108	縄文土器	土器片 円板	胴部片 敲打・剥離・研磨痕 無文 径3.0cm 厚さ1.1cm	後期	け12トナ
73	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯の上に8字貼付文 その下幾何学的沈線区画 区画内に縄文LR充填		堀之内2	73	9トナ	108	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	こ13トナ	109	縄文土器	土器片 円板	2条対の沈線 径(3.2cm) 厚さ(0.8cm)	堀之内	B地区
74	縄文土器	深鉢	2条の横位刻み隆帯		堀之内2	74	こ10トナ	109	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い 底径 (6.0cm)	後期	こ10トナ	110	縄文土器	土器片 円板	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	8トナ
75	縄文土器	深鉢	横位平行沈線間に縄文LR充填		堀之内2	75	9トナ	110	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	8トナ	111	縄文土器	土器片 円板	無文 径 2.8cm 厚さ 0.6cm	後期	す12トナ
76	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯と弧状の刻み隆帯の 交点に円形刺突 2条対の沈線区画内を斜行沈線で充填		堀之内2	76	こ13	111	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	す10トナ	112	縄文土器	土器片 円板	無文 径 1.8cm 厚さ 0.8cm	後期	9トナ
77	縄文土器	深鉢	縄文LR施文後枠状・弧状沈線区画		堀之内2	77	す12トナ	112	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	け13トナ	113	縄文土器	土器片 円板	土製円板(方形) 胴部片 敲打・剥離痕 無文 長径30cm 短径27cm 厚さ11cm	後期	B地区
78	縄文土器	深鉢	横位沈線 楕円形状沈線区画 縄文LR 充填		堀之内2	78	7トナ	113	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	け13トナ	114	縄文土器	土器片 円板	土製円板(方形) 胴部片 敲打・剥離痕 無文 長径33cm 短径30cm 厚さ0.6cm	後期	B地区
79	縄文土器	深鉢	幾何学的沈線 縄文		堀之内2	79	9トナ	114	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	B地区	115	縄文土器	深鉢	横位沈線の矢羽根状沈線	加曾利B2	8トナ
80	縄文土器	注口土器	横位平行沈線下 三角形渦巻状沈線		堀之内2	80	す12トナ	115	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	B地区	116	縄文土器	土器片 円板	裏面に接合部位が剥落した痕がみえる 唇と鼻をY字隆帯で、目を浅い沈線で口を小さな円形刺突で表現する	堀之内1	し13トナ
81	縄文土器	注口土器	注口土器7条の細い横位沈線		加曾利B1	81	7トナ	116	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	B地区	117	縄文土器	土器片 円板			
82	縄文土器	注口土器	注口土器		後期	B地区	118	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	B地区	118	縄文土器	土器片 円板				
83	縄文土器	鉢	木葉痕		後期	B地区	119	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	こ10トナ	119	縄文土器	土器片 円板				
84	縄文土器	深鉢	無文 所謂粗製土器		後期	7トナ	120	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	7トナ	120	縄文土器	土器片 円板				
85	縄文土器	浅鉢	口縁部内折 口唇部面取り 内湾 しながら外反する 無文 丁寧な調整 ミガキ		後期	さ12	121	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	7トナ	121	縄文土器	土器片 円板				

長さ 幅 厚さ(mm) 重量(g)

No.	器種	素材	所見	出土位置	No.	器種	素材	所見	出土位置	No.	器種	素材	所見	出土位置
138	石鏝	黒曜石	1.5 1.3 0.2 0.27	こ10	148	打製石斧	輝石	上下欠損		157	磨石	砂岩	被熱あり 周囲～裏面欠損 正面に磨り面	さ11
139	石鏝	閃石チャート	1.9 1.3 0.3 0.60	す12・13		安山岩	<5.1> <5.3> <1.0> <36.42>	け12			磨石	砂岩	<6.9> <5.7> <3.1> <109.93>	
140	剥片	黒曜石	上側に正裏からの二次加工 3.0 3.6 1.5 13.61	し11	149	打製石斧	輝石	下部欠損 左側着柄痕	す10	158	磨石	輝石	下部欠損 正面と両側に磨り面	表彰
141	剥片	黒曜石	上部欠損 正裏に二次加工 <2.4> <1.6> <0.5> <1.85>	こ11		安山岩	<5.1> <4.7> <1.5> <32.70>				磨石	安山岩	<6.4> <7.2> <4.6> <284.13>	
142	石匙か 削器	硬質砂岩	左側欠損 <4.6> <5.4> <1.1> <21.40>	II区 検出面	150	打製石斧	輝石	周囲～裏面欠損	さ12	159	磨・敲石	輝石	正裏にすり面 周囲に敲打痕	す12
143	剥片	硬質砂岩	裏ボン1面の剥片 2.7 4.6 1.0 11.68	し10・11		安山岩	<9.7> <5.3> <0.7> <34.64>				磨石	安山岩	6.3 4.8 2.0 95.41	
144	スクレイパー	硬質砂岩	上側～正面に自然面残る 両側下辺刃部か 5.2 8.3 2.3 160.62	す12	151	磨製石斧	輝石	風化のため剥落顕著	け12	160	凹石	輝石	下部欠損 正面に敲打痕	け12
145	打製石斧	硬質砂岩	上部～右側欠損 正面は自然面か <3.8> <7.8> <1.6> <59.49>	9トレ		安山岩	9.4 4.5 2.9 135.70				磨石	輝石	一部欠損 全体に磨り	す11
146	打製石斧	硬質砂岩	上部欠損 剥離粗く未成品か <10.8> <7.0> <1.4> <113.57>	す11	152	敲石?	砂岩	左側欠損 右側に敲打痕 <7.3> <5.3> <3.2> <127.07>	7トレ	161	磨石	軽石	3.6 3.4 <1.3> <7.91>	
147	打製石斧	安山岩	未製品か 台石の機能か? <14.0> <15.7> <3.7> <1034.60>		153	磨石	砂岩	裏面欠損 正裏に磨り面 <7.1> <4.8> <1.8> <87.57>	こ13	162	原材	千枚岩	7.2 2.9 0.9 27.86	9トレ
					154	敲石	安山岩	下部部に敲打痕 6.7 3.5 2.2 80.13	11トレ	163	石剣	緑泥片岩	下部欠損 <9.4> <2.4> <1.8> <67.62>	こ13
					155	敲石?	砂岩	6.2 3.7 <1.3> <37.73>	7トナ	164	石皿	輝石	<30.8><25.9><5.3><4.070>凹面の	D22
					156	磨・敲石	花崗岩	正裏にすり面 上部部に敲打痕 9.0 4.5 2.3 138.78	7トレ	165	紡錘車	鉄	上下欠損 <4.5> <0.4> <0.3> <2.31>	こ11



西近津Ⅷ遺跡近景（南西より）



西近津Ⅷ遺跡から長野県埋文センター調査地点西近津遺跡群を臨む（北西より）



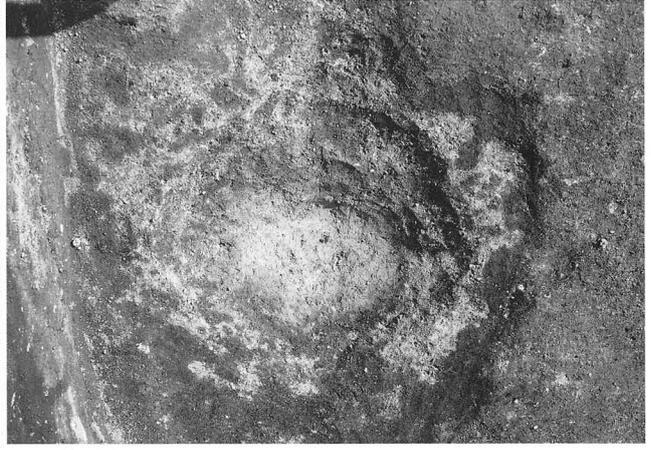
H1号住居址 南より



H1号住居址掘り方 南より



H1号住居址遺物出土状況



H1号住居址炉



H2号住居址遺物出土状況



H2号住居址カマド



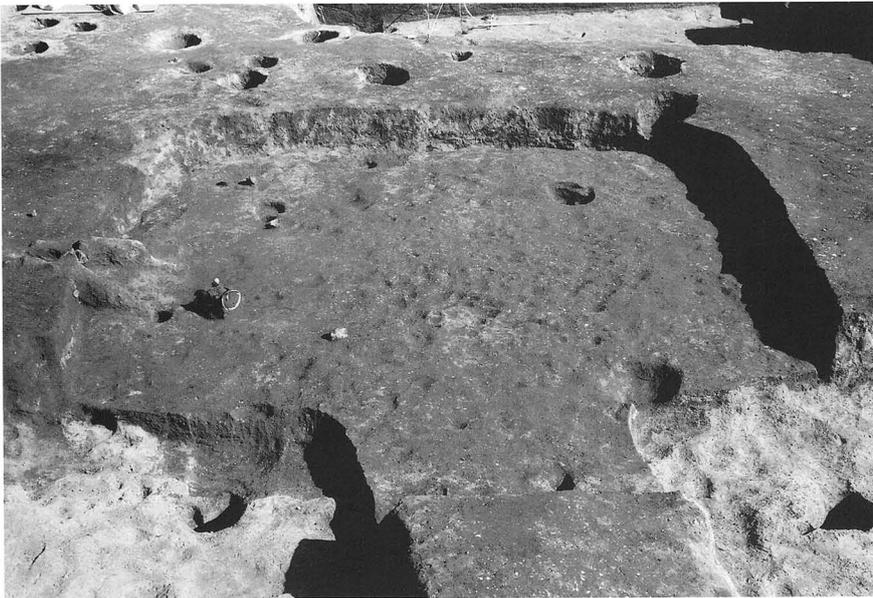
H2号住居址カマド



H2号住居址掘り方 西より



H2号住居址カマド掘り方



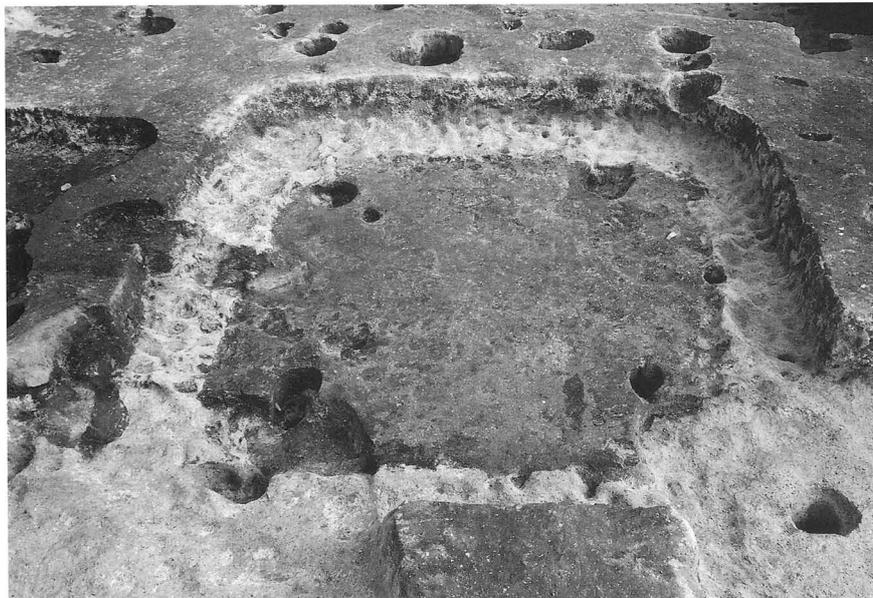
H3号住居址 西より



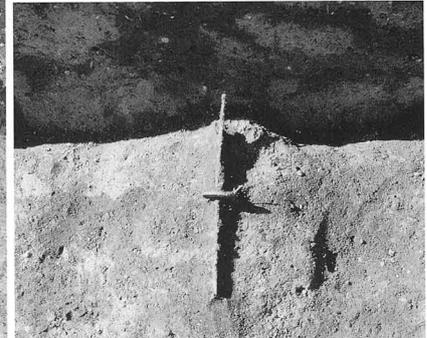
H3号住居址カマド



H3号住居址カマド石組状況



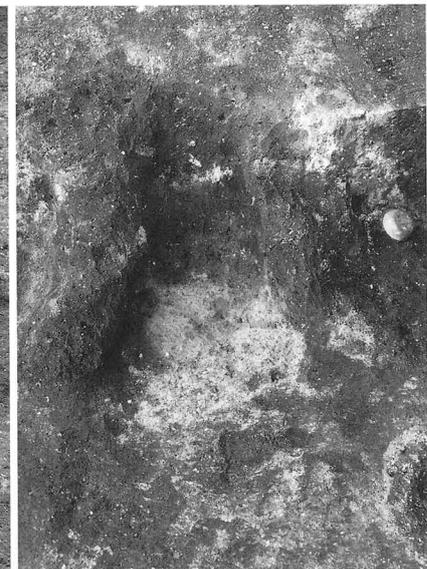
H3号住居址掘り方 西より



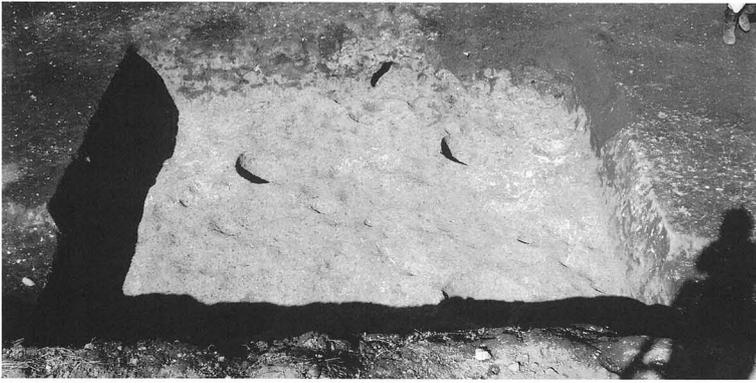
H3号住居址遺物出土状況



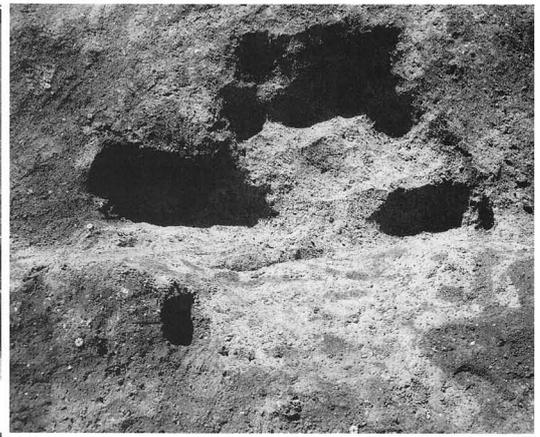
H4号住居址 東より



H4号住居址カマド



H4号住居址掘り方 南より



H4号住居址カマド掘り方



H5号住居址 東より



H6号住居址 西より



H5号住居址掘り方 東より



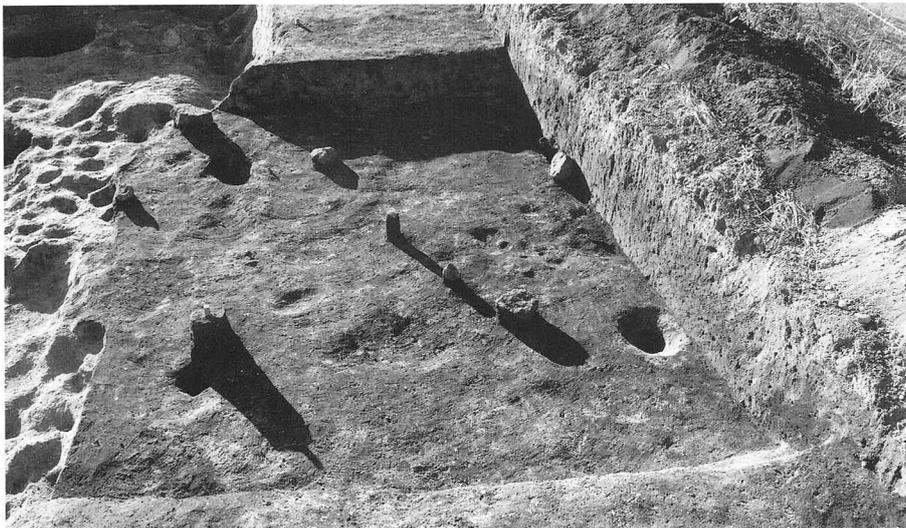
H5号住居址カマド



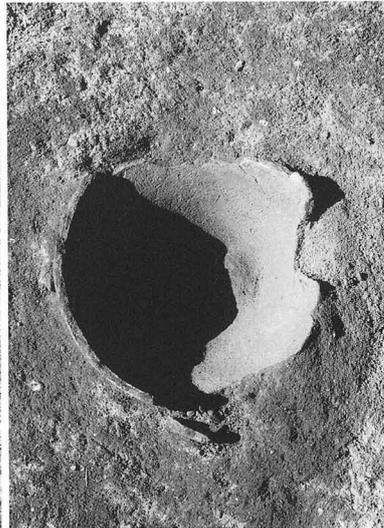
H5号住居址カマド掘り方



H7号住居址遺物出土状況



H7号住居址 東より



H7号住居址炉



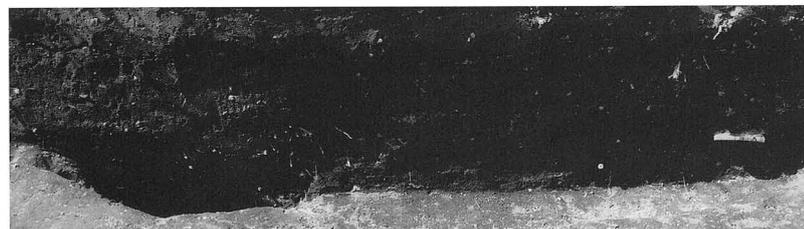
H8号住居址 東より



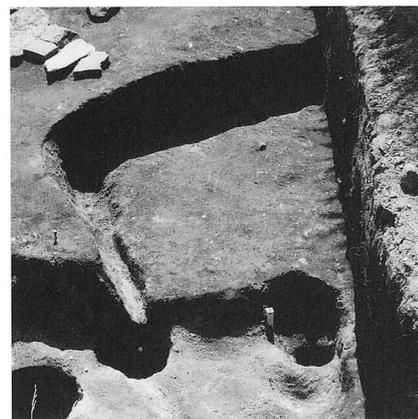
H9号住居址 東より



H12号住居址掘り方 北より



H10号住居址 東より



H11号住居址 北より



H11号住居址掘り方 北より



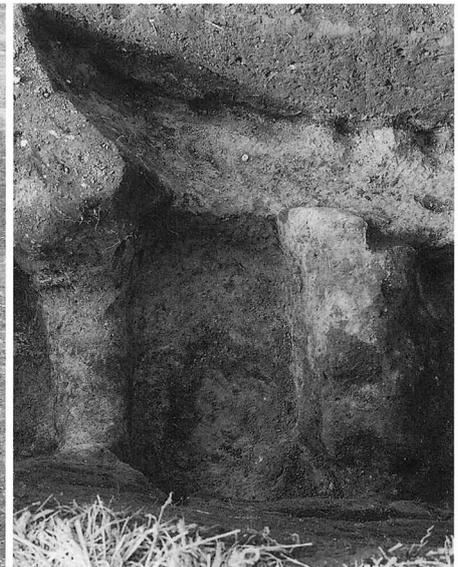
H12号住居址 北より



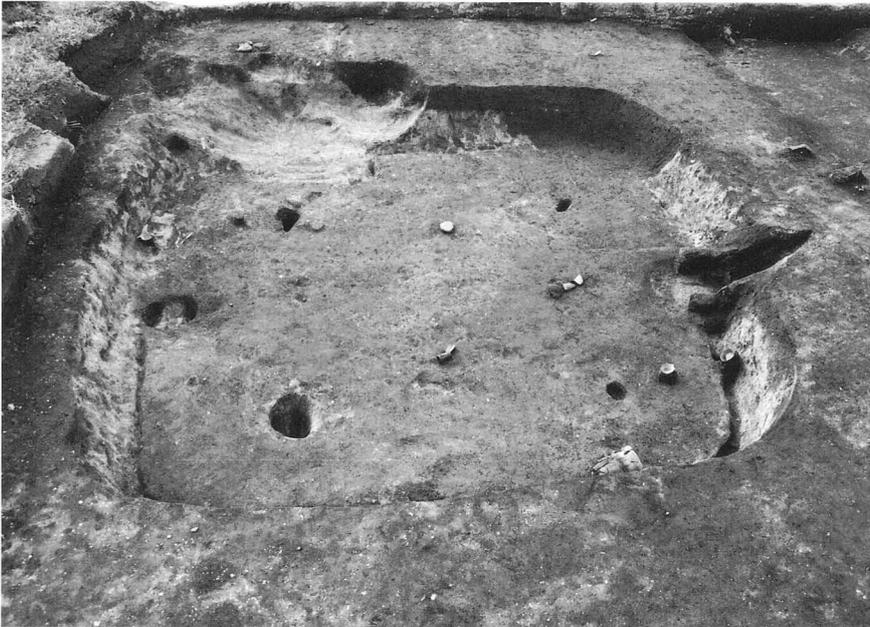
H13号住居址 東より



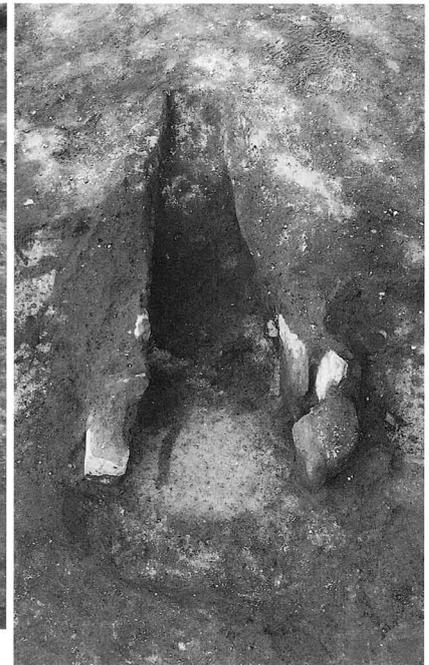
H13号住居址掘り方 東より



H13号住居址カマド



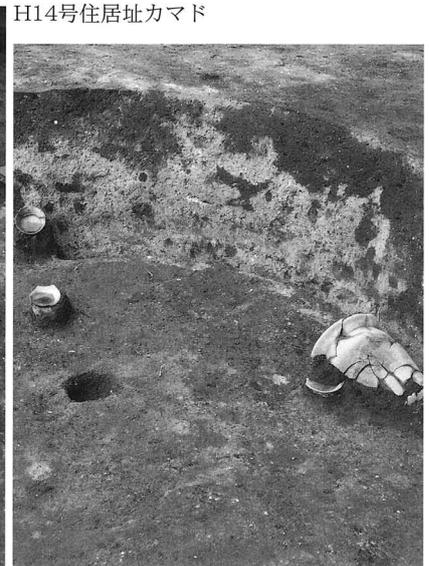
H14号住居址 東より



H14号住居址カマド



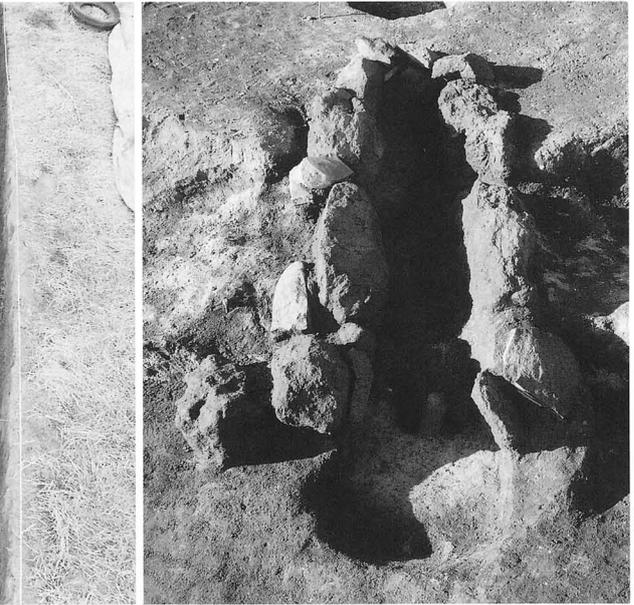
H14号住居址掘り方 東より



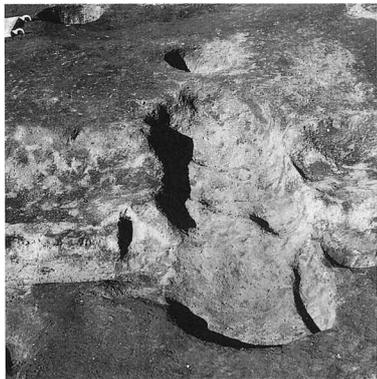
H14号住居址遺物出土状況



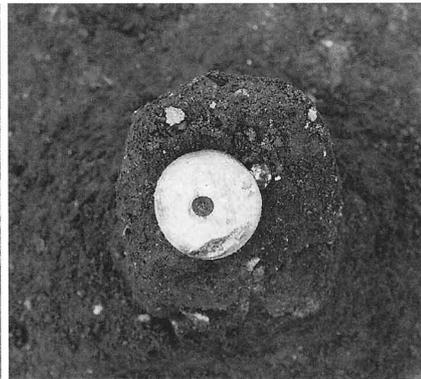
H15号住居址 南より



H15号住居址石組状況



H15号住居址カマド掘り方



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



H16号住居址 北より



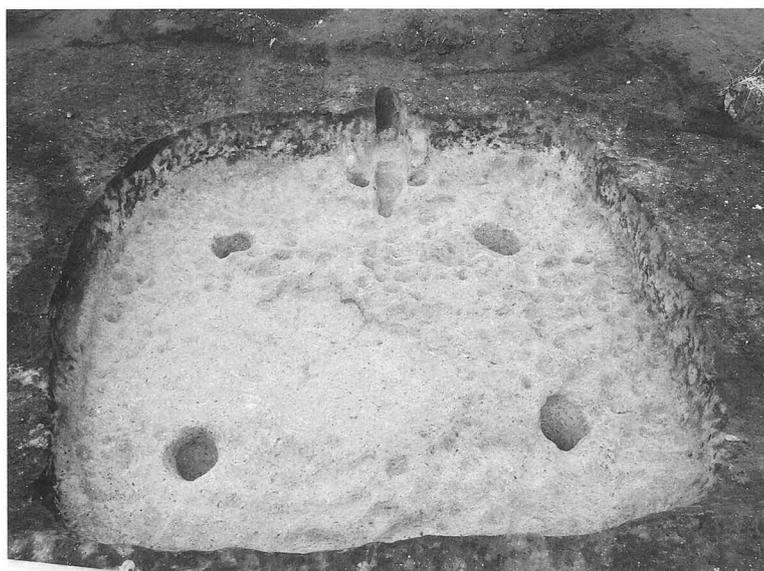
H16号住居址掘り方 北より



H17号住居址 南より



H17号住居址カマド掘り方



H17号住居址掘り方 南より



H17号住居址カマド



H17号住居址遺物出土状況



H17号住居址遺物出土状況



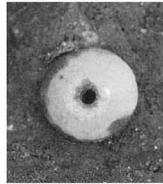
H18号住居址 南より



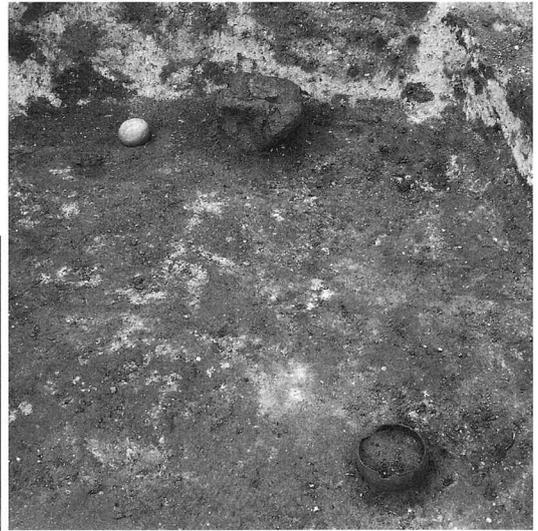
H18号住居址掘り方 南より



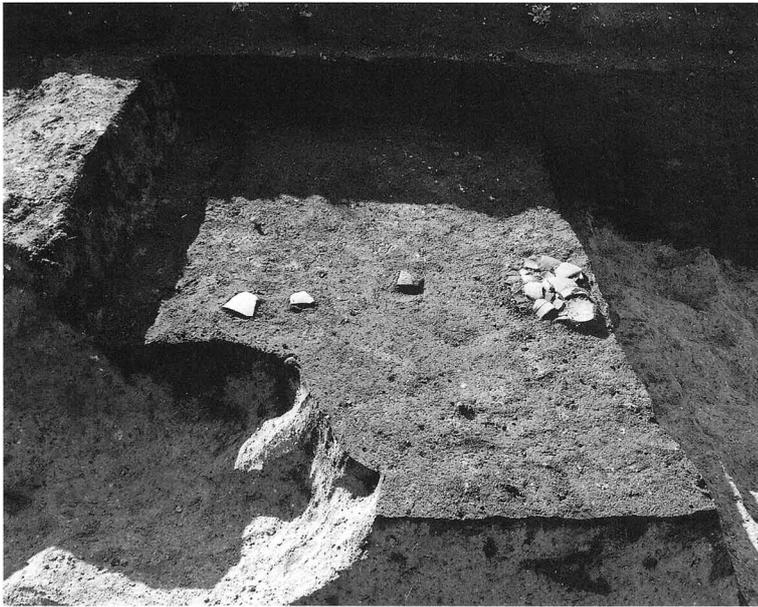
H18号住居址遺物出土状況



H18号住居址
遺物出土状況



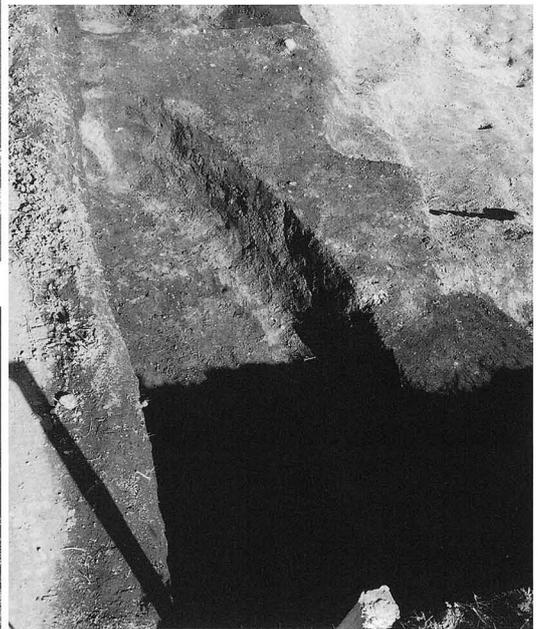
H18号住居址遺物出土状況



H19号住居址 南より



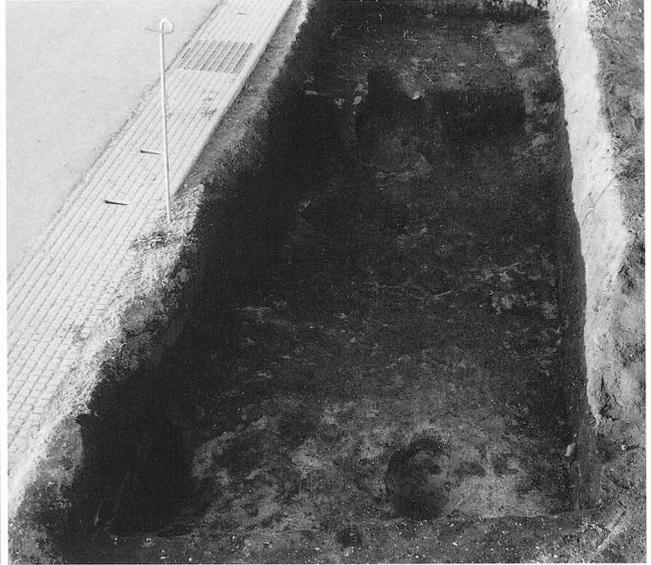
H19号住居址遺物出土状況



H20号住居址 南より



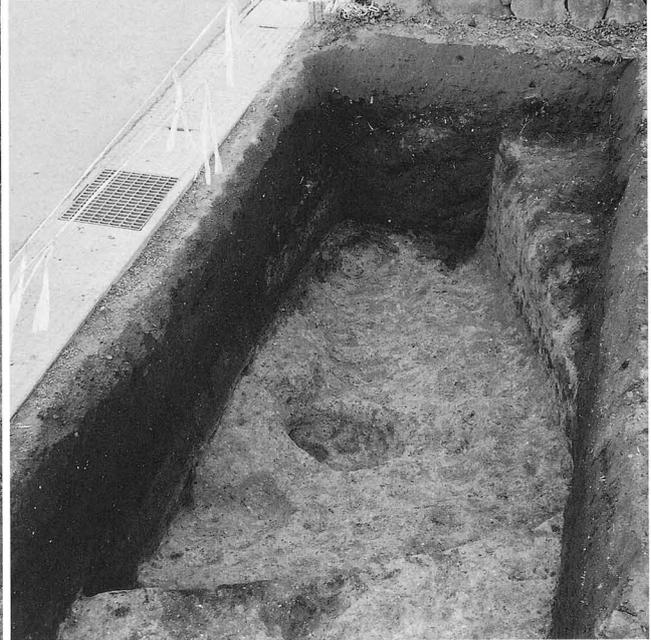
H21号住居址遺物出土状況



H21号住居址 南より



H22号住居址 南より



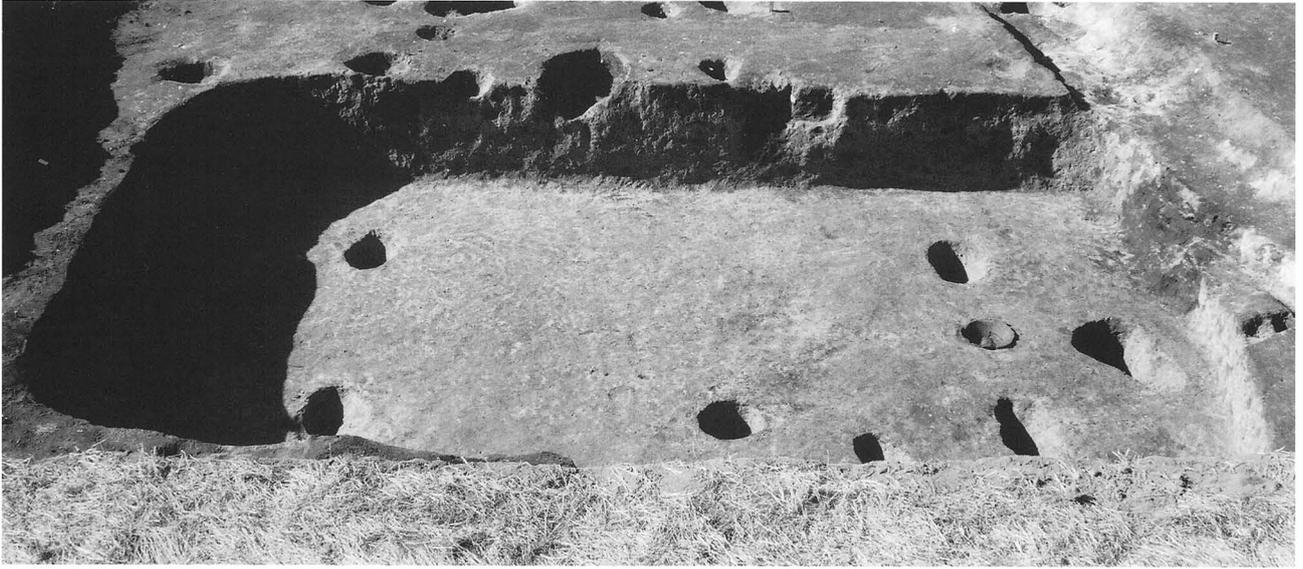
H22号住居址掘り方 南より



H23号住居址 西より



H24号住居址掘り方 南より



H25号住居址 東より



H25号住居址 北より



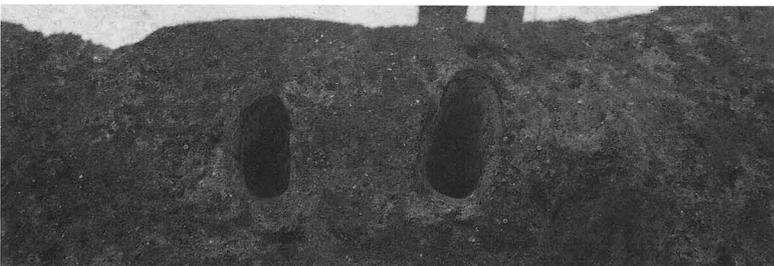
H25号住居址炉



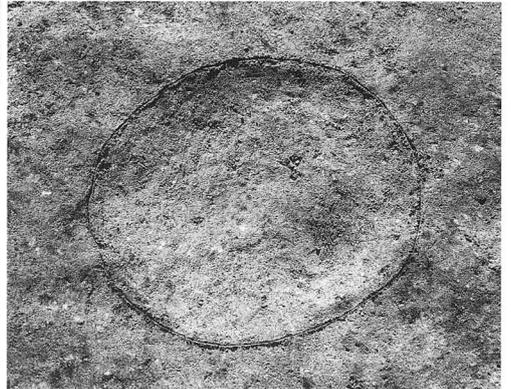
H25号住居址遺物出土状況



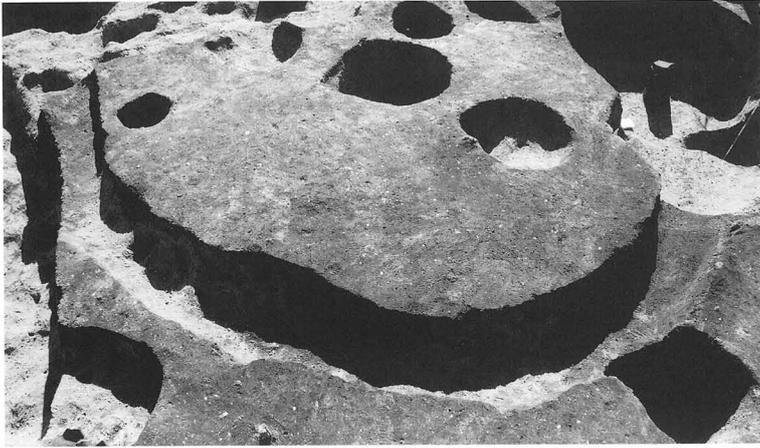
H25号住居址炉掘り方



H25号住居址入り口部



H25号住居址炉2掘り方



円形周溝1 北より



円形周溝2 南より



円形周溝1 西より



調査風景



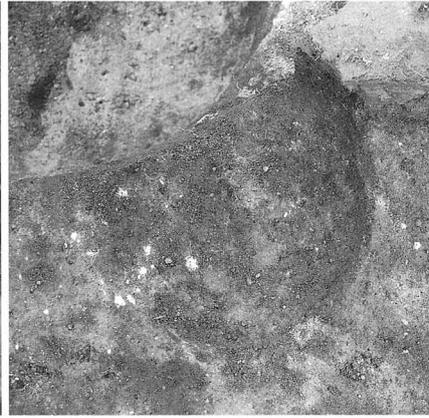
円形周溝1 東より



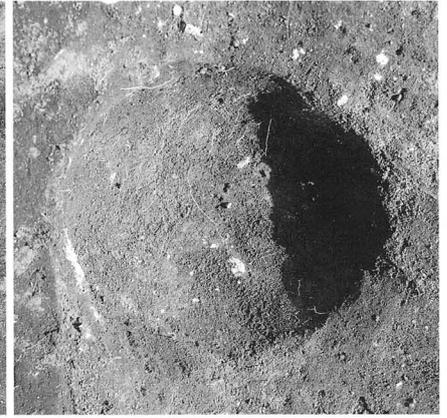
B区調査風景



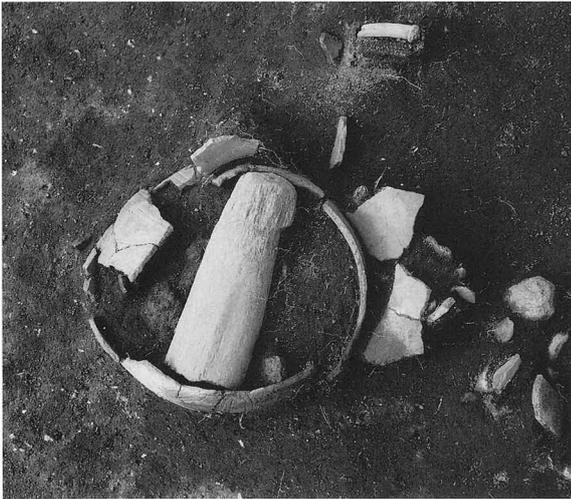
D1号土坑遗物出土状况



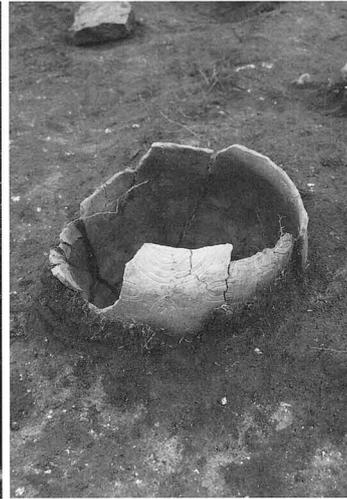
D1号土坑



D2号土坑



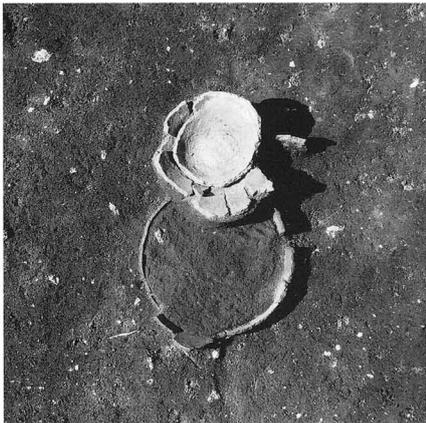
D2号土坑遗物出土状况



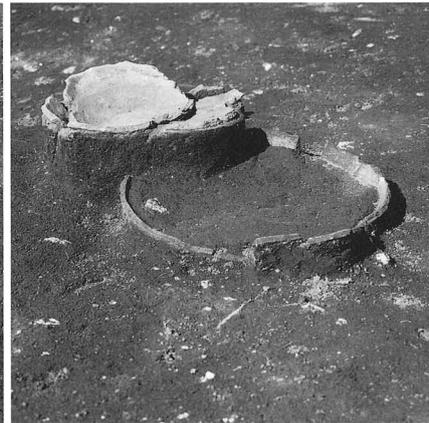
D2号土坑遗物出土状况



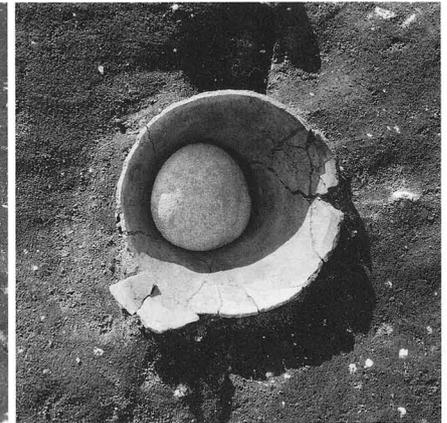
D2号土坑遗物出土状况



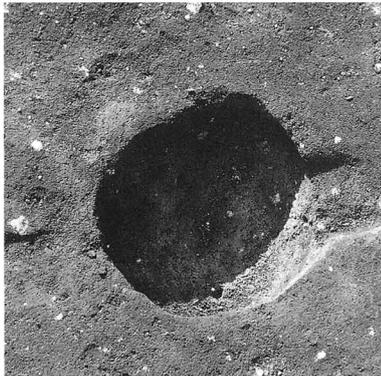
D3号土坑遗物出土状况



D3号土坑遗物出土状况



D3号土坑遗物出土状况



D3号土坑



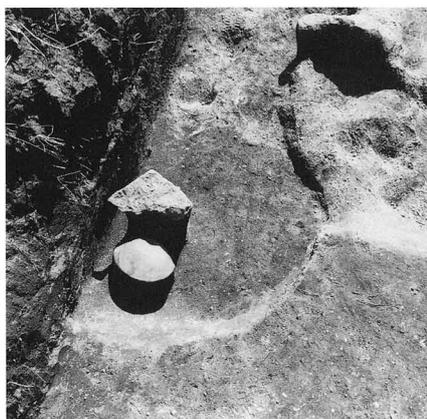
D4号土坑



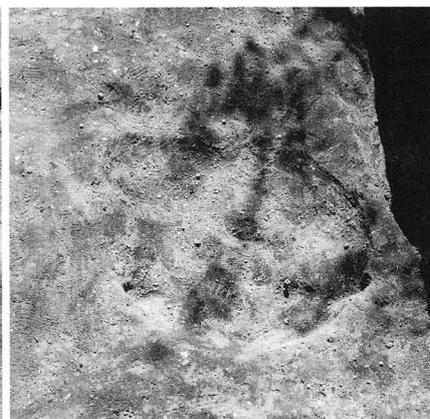
D5号土坑



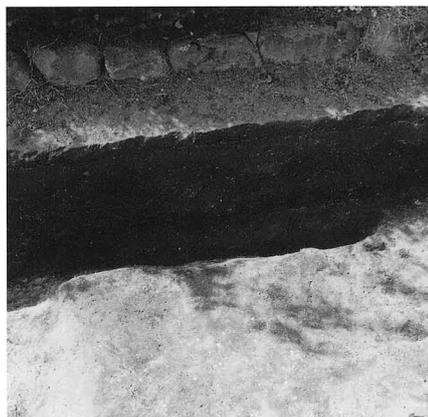
D6号土坑



D7号土坑遗物出土状况



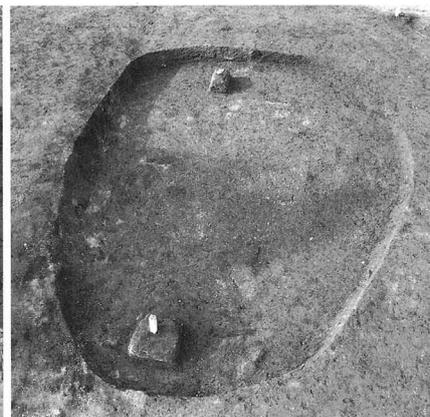
D8号土坑



D9号土坑



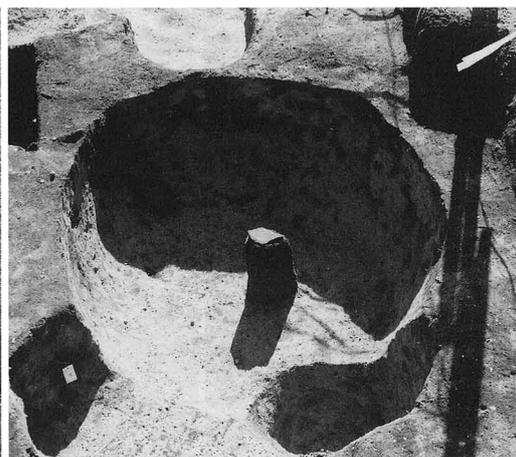
D11号土坑



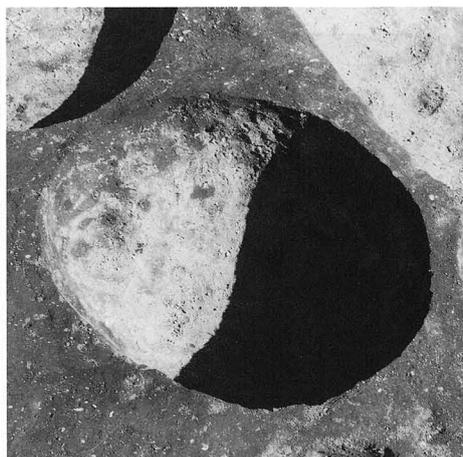
D13号土坑



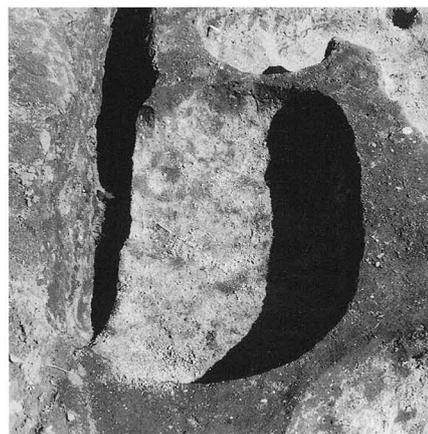
D13号土坑遗物出土状况



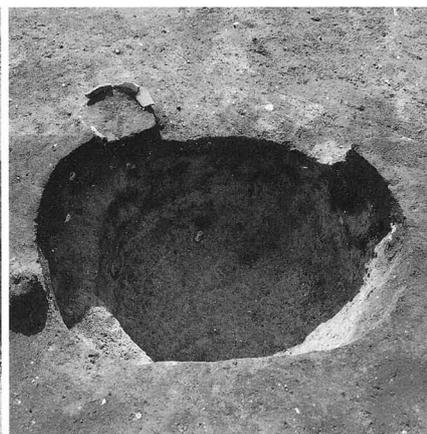
D14号土坑



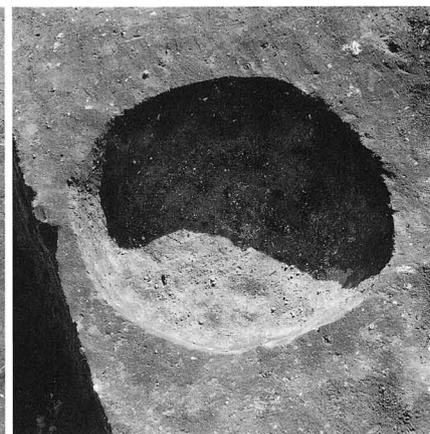
D15号土坑



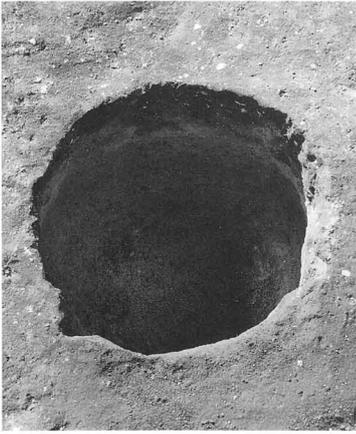
D16号土坑



D17号土坑



D19号土坑



D20号土坑



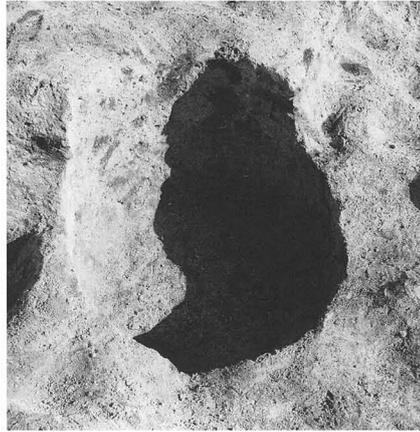
D21号土坑



D22号土坑遺物出土狀況



D23号土坑



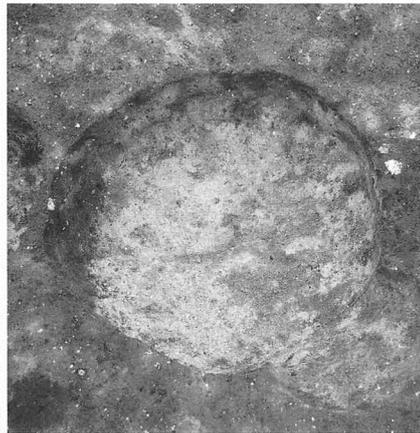
D25号土坑



D26号土坑



D27号土坑



D28号土坑



D29号土坑



D30号土坑



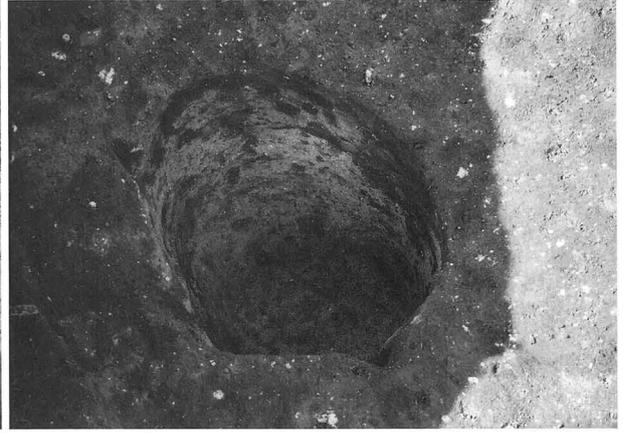
D31号土坑



D32号土坑



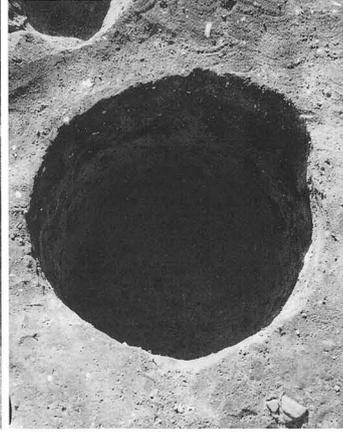
D33号土坑



D34号土坑



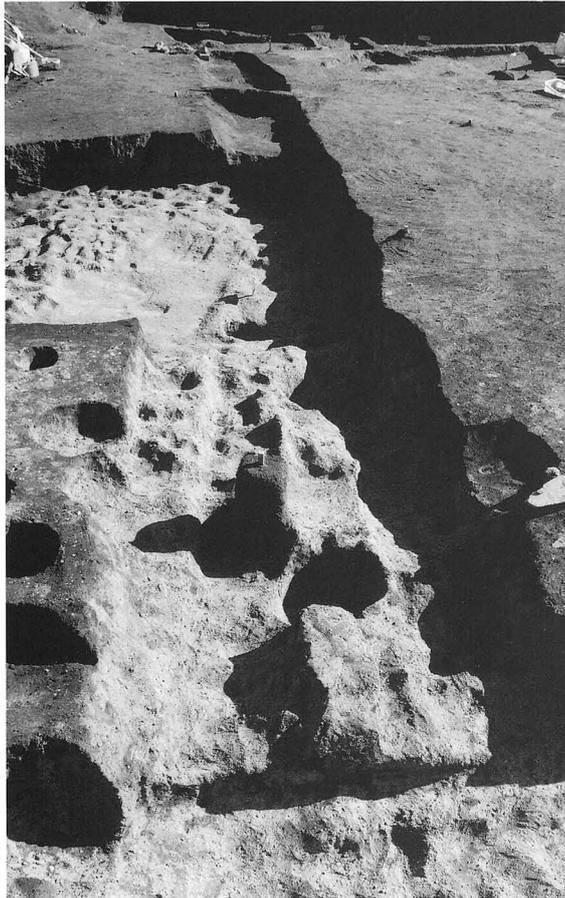
D35号土坑



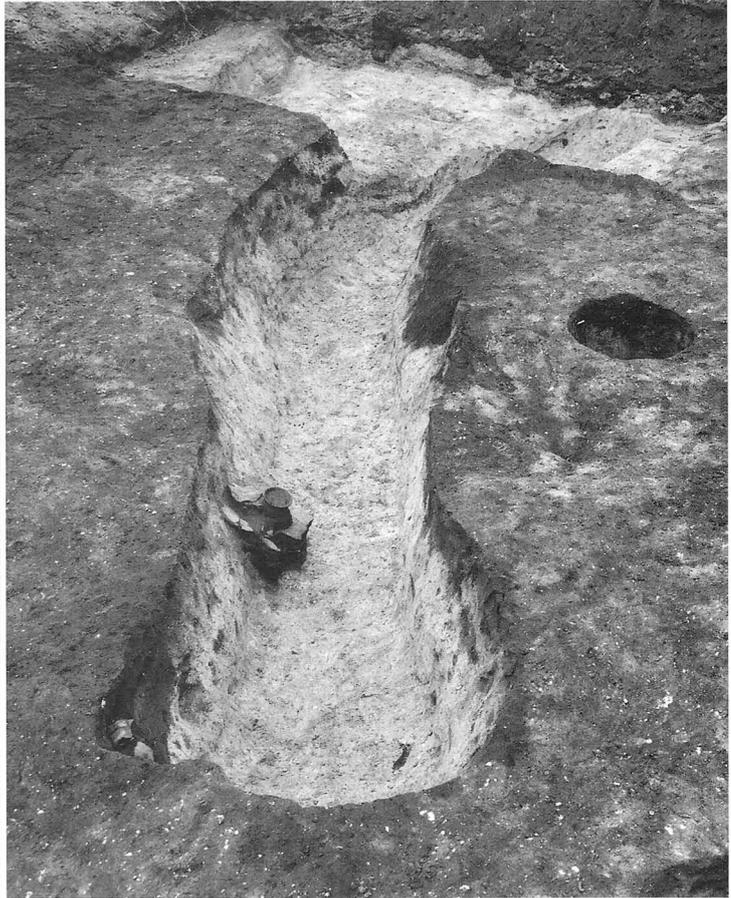
D37号土坑



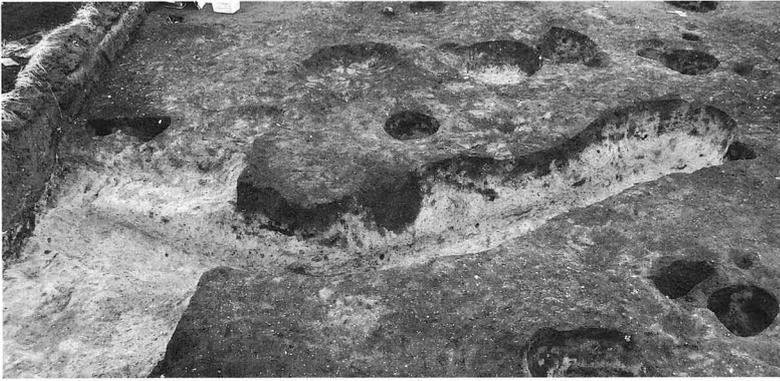
D36号土坑



M1号溝状遺構 西より



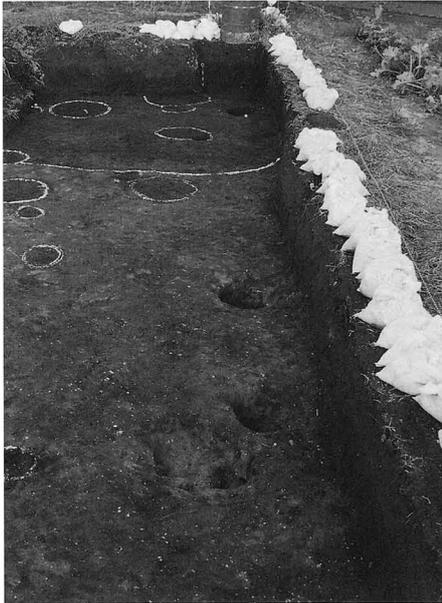
M3号溝状遺構 南より



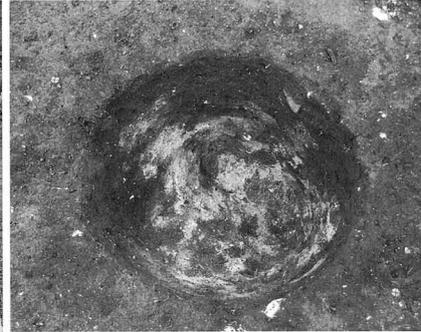
M3号溝状遺構 西より



M3号溝状遺構遺物出土状況



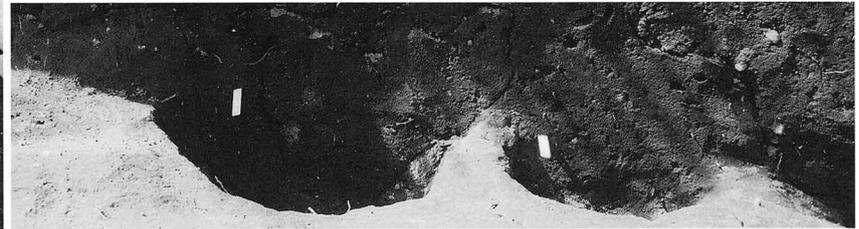
P1、P2、P3付近



P4



P7



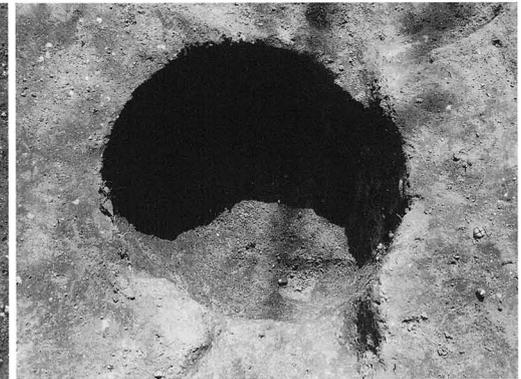
P12、P13



P14



P15



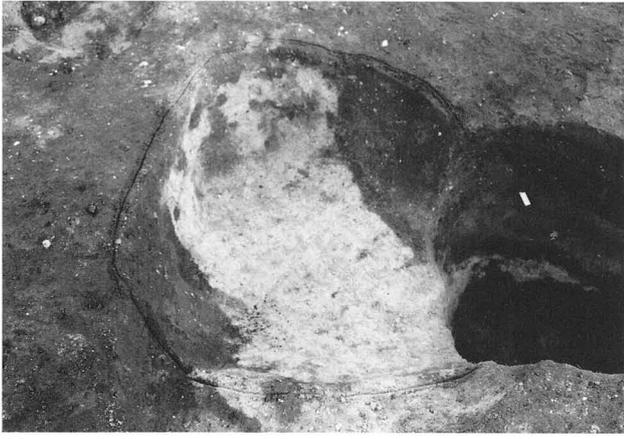
P22



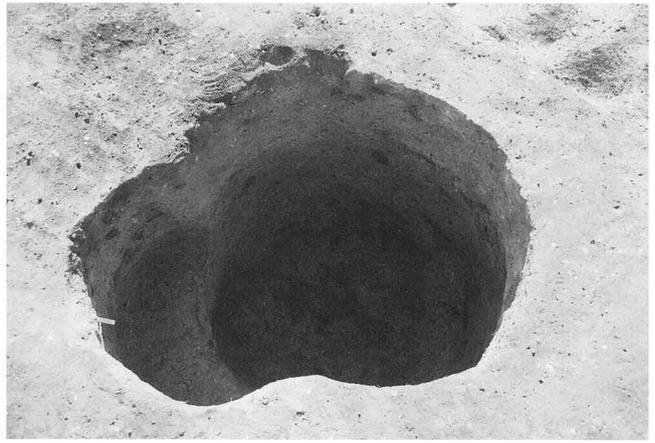
P97遺物出土状況



P106遺物出土状況



P98



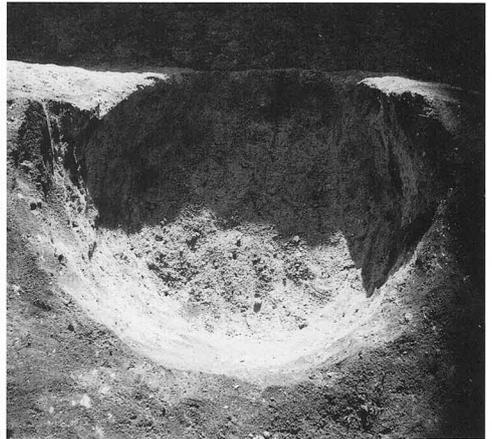
P165



P178



P180



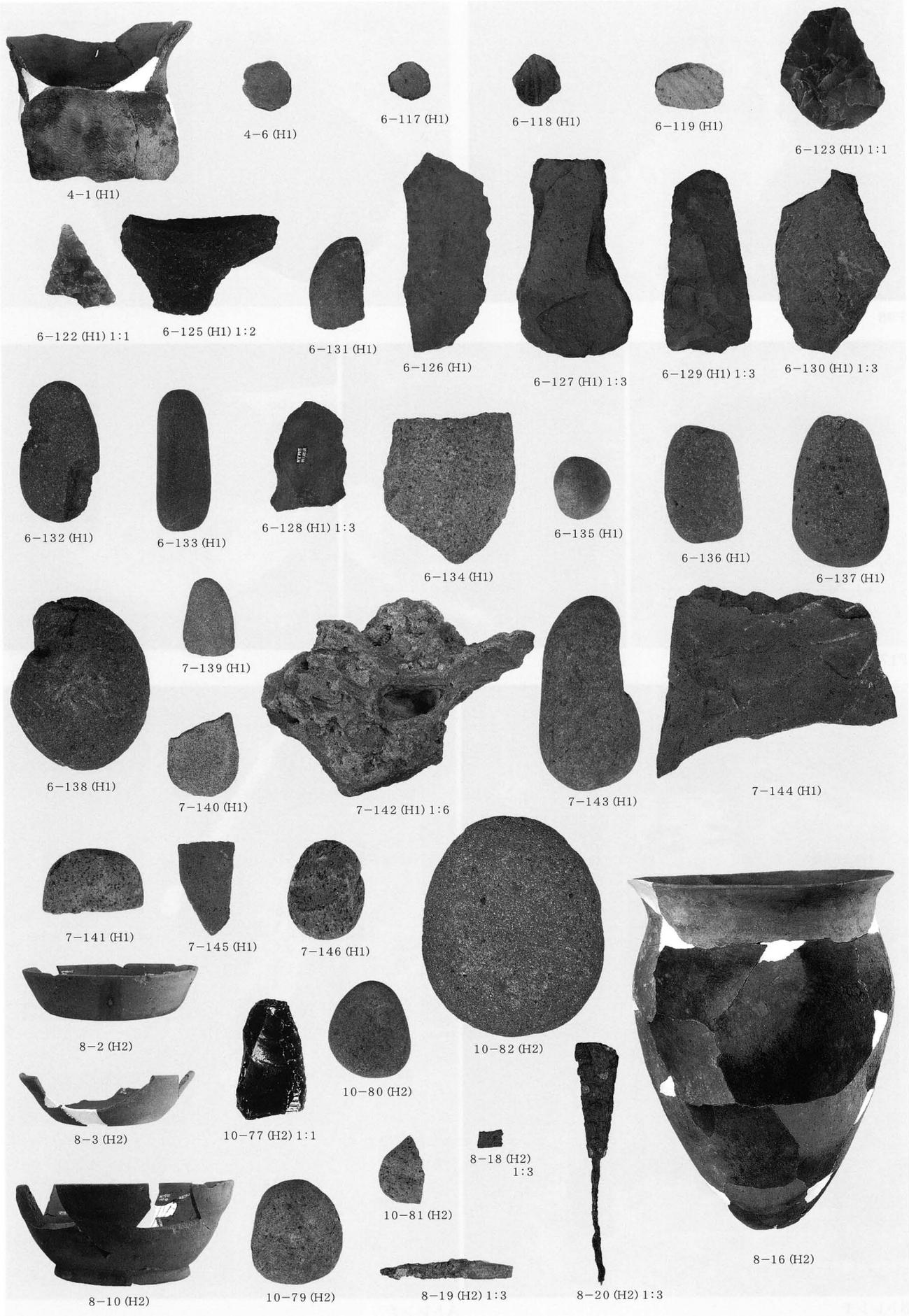
P189



Bトレンチ



Aトレンチ





12-1 (H3)



12-2 (H3)



12-3 (H3)



12-7 (H3)



12-10 (H3)



12-10 (H3)



12-5 (H3)



12-13 (H3)



12-16 (H3)



12-17 (H3)



12-18 (H3)



13-25 (H3)



13-32 (H3) 1:3



15-150 (H3)



15-157 (H3) 1:1



15-166 (H3) 1:1



15-173 (H3)



15-174 (H3)



15-169 (H3) 1:3



15-170 (H3)



15-171 (H3)



15-172 (H3)



15-176 (H3)



15-177 (H3)



15-178 (H3)



15-179 (H3)



15-182 (H3)



15-175 (H3)



15-180 (H3)



15-183 (H3)



15-181 (H3)



16-184 (H3)



16-185 (H3)



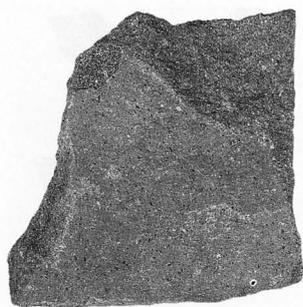
16-186 (H3)



16-187 (H3)



16-188 (H3)



16-189 (H3)



16-190 (H3) 1:6



16-191 (H3) 1:6



16-192 (H3)



16-193 (H3)



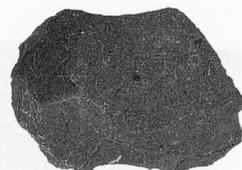
16-194 (H3) 1:1



17-3 (H4)



19-15 (H4)



20-93 (H4)



16-195 (H3)



16-196 (H3)



17-5 (H4)



20-92 (H4) 1:2



20-95 (H4) 1:1



20-94 (H4) 1:1



20-96 (H4) 1:1



20-97 (H4) 1:1



20-103 (H4) 1:3



20-104 (H4) 1:3



20-107 (H4) 1:3



20-105 (H4) 1:3



20-108 (H4)



20-109 (H4)



20-110 (H4)



22-17 (H5)



22-16 (H5)



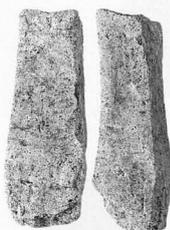
22-25 (H5) 1:1



22-26 (H5) 1:1



22-27 (H5) 1:1



22-28 (H5)



23-89 (H5) 1:3



23-85 (H5) 1:1



23-86 (H5) 1:1



23-87 (H5) 1:1



22-20 (H5)



23-90 (H5) 1:3



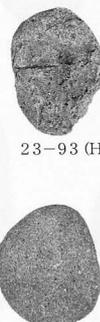
23-88 (H5) 1:1



23-91 (H5)



23-94 (H5)



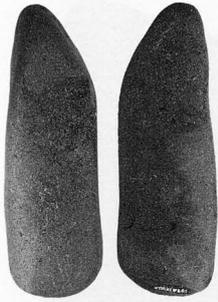
23-93 (H5)



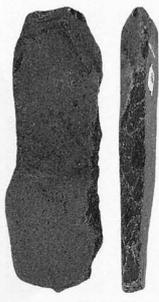
23-99 (H5)



23-100 (H5)



23-97 (H5)



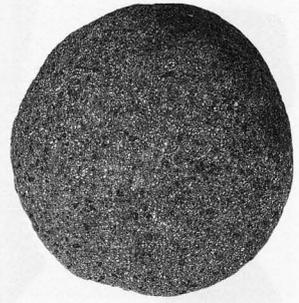
23-98 (H5)



23-101 (H5)



23-104 (H5)



24-105 (H5)



25-23 (H6)
1:1



25-27 (H6)



25-28 (H6)



25-29 (H6)



25-30 (H6)



25-31 (H6)



25-32 (H6)



25-33 (H6)



26-7 (H7)



26-2 (H7)



28-111 (H7)
1:1



28-114 (H7) 1:1



28-110 (H7) 1:1



28-108 (H7)
1:1



28-112 (H7)
1:1



28-113 (H7)
1:1



28-115 (H7) 1:1



28-109 (H7)
1:1



28-117 (H7) 1:1



28-116 (H7) 1:1



28-119 (H7)



28-120 (H7)
1:3



28-121 (H7) 1:3



28-124 (H7)



28-125 (H7)



28-122 (H7)



28-127 (H7)



28-123 (H7)



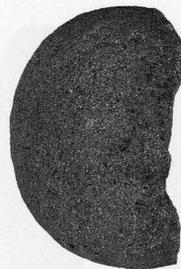
28-128 (H7)



28-129 (H7)



28-130 (H7)



28-131 (H7) 1:6



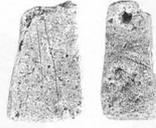
29-13 (H8) 1:2



29-14 (H8) 1:6



29-12 (H8) 1:2



32-2 (H10)



34-16 (H12)



34-17 (H12)



36-1 (H14)



36-8 (H14)



34-15 (H12)



38-67 (H14) 1:1



38-69 (H14)
1:1



38-70 (H14) 1:1



38-68 (H14)
1:2



37-32 (H14)



38-72 (H14) 1:3



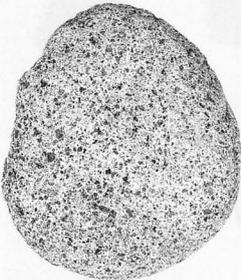
38-73 (H14)
1:3



38-74 (H14)



38-77 (H14)



38-78 (H14)



38-83 (H14)



38-79 (H14)



38-80 (H14)



38-85 (H14)



38-81 (H14)



38-88 (H14)



38-82 (H14)



38-84 (H14)



38-86 (H14)



38-87 (H14)



38-89 (H14)



37-27 (H14)



39-1 (H15)



40-10 (H15)



41-19 (H15)



41-16 (H15)



42-40 (H15)



42-51 (H15)



41-20 (H15) 1:2



42-58 (H15) 1:1



42-60 (H15) 1:1



42-59 (H15) 1:1



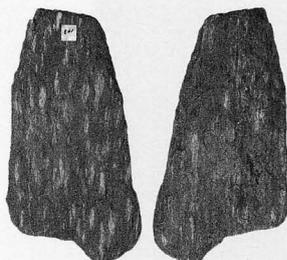
42-64 (H15) 1:2



42-67 (H15)



42-68 (H15)



42-77 (H15) 1:6



42-72 (H15)



42-74 (H15)



42-66 (H15) 1:3



42-73 (H15)



42-69 (H15)



42-75 (H15)



42-76 (H15)



44-4 (H16)



45-1 (H17)



45-2 (H17)



45-4 (H17)



45-6 (H17)



45-5 (H17)



45-7 (H17)



45-13 (H17)



47-21 (H17)



45-12 (H17)



45-11 (H17)



45-14 (H17)



47-18 (H17)



47-19 (H17)



47-17 (H17)



47-23 (H17) 1:1



48-76 (H17)



48-81 (H17)



49-7 (H18)



49-12 (H18)
1:2



48-77 (H17)



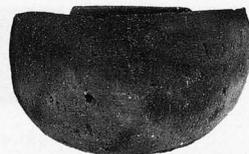
48-80 (H17)



48-79 (H17)



48-84 (H17)



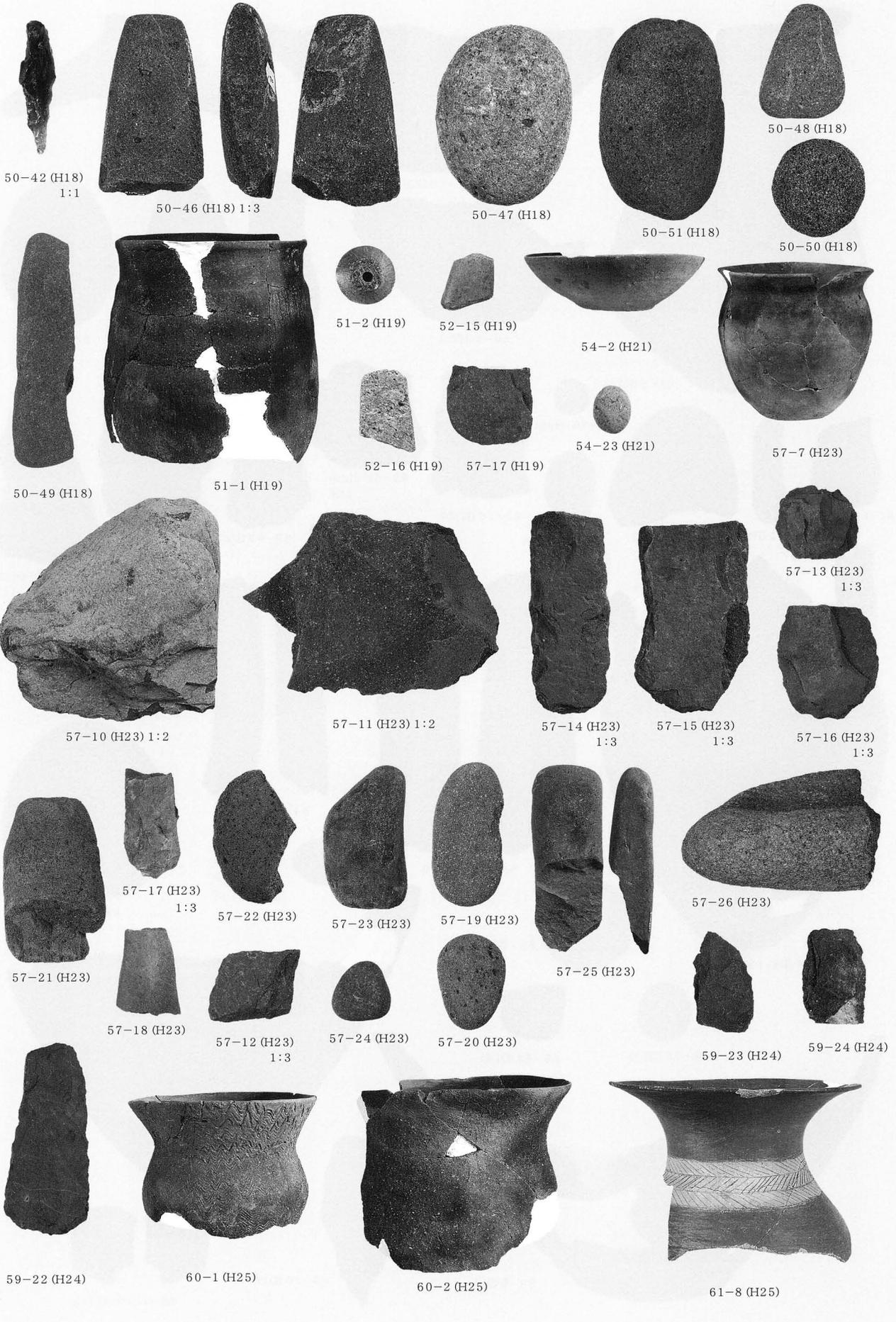
49-6 (H18)

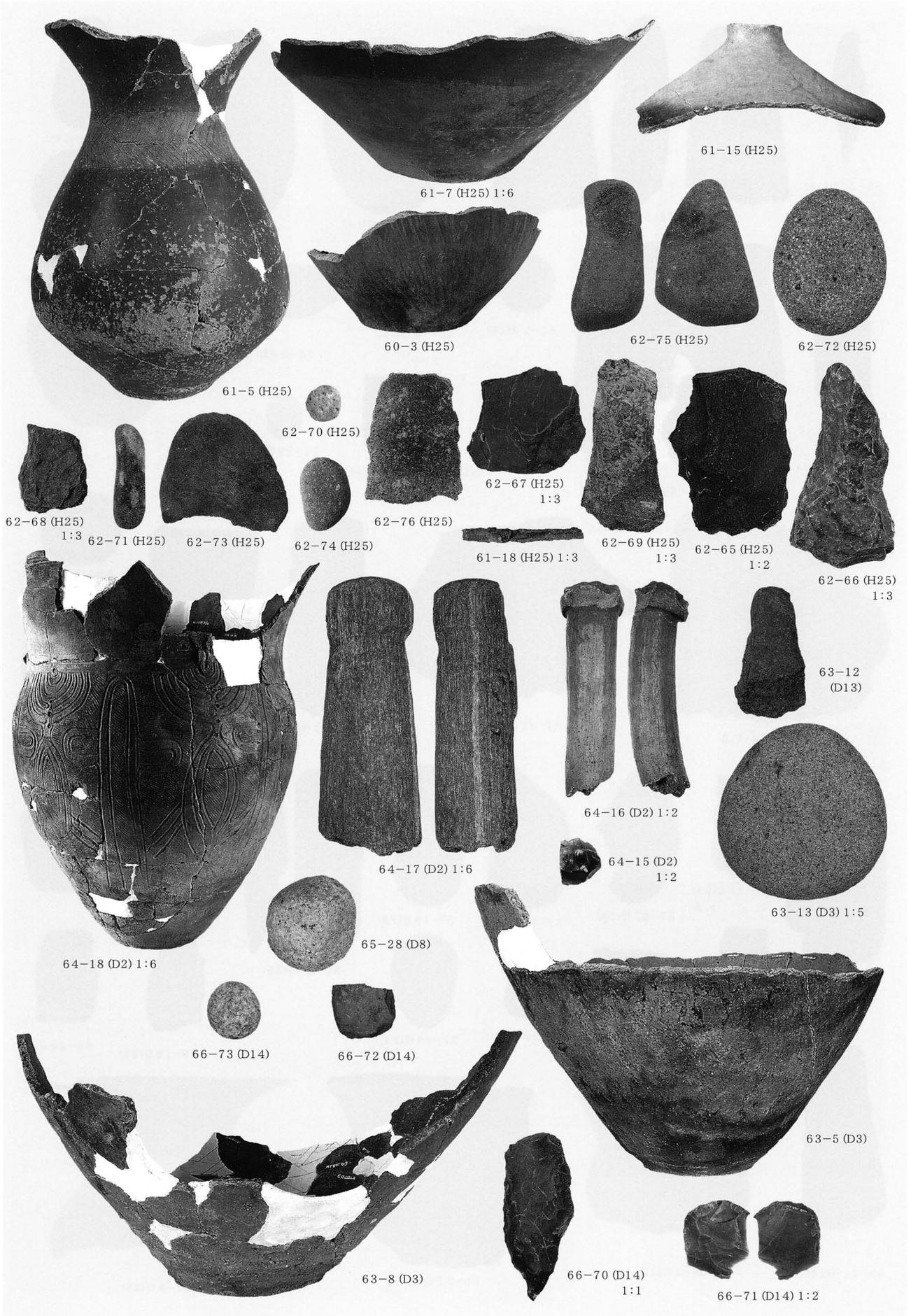


49-13 (H18)
1:1



49-14 (H18)
1:3







65-36 (D13)

68-161 (D22)

68-162 (D22)

68-160 (D22)

67-89 (D16)



68-132 (D20) 1:1

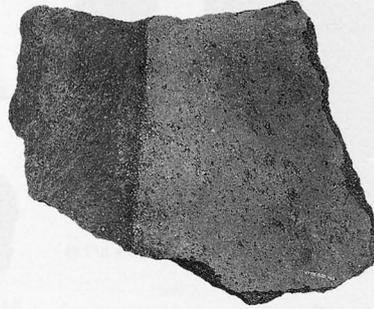


68-164 (D22) 1:6



68-159 (D22)

65-37 (D13) 1:2



68-163 (D22)



68-158 (D22) 1:1



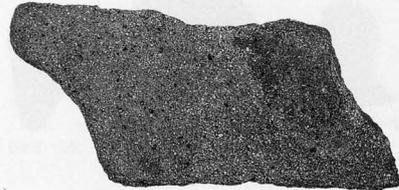
69-210 (D29)



70-221 (D31)



70-249 (D34)



71-252 (D34) 1:6



70-246 (D34) 1:1



70-247 (D34) 1:1



71-250 (D34)



71-251 (D34)



71-264 (D37) 1:6



71-263 (D37)



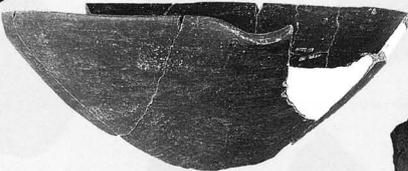
72-272 (OT1)



73-278 (OT2)



76-341 (M3) 1:6



76-322 (M3)



75-316 (M1) 1:1



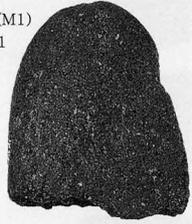
75-321 (M1)



76-330 (M3)



75-320 (M1)



75-319 (M1)



77-359 (M3) 1:1



77-360 (M3) 1:1



77-361 (M3)



75-318 (M1)

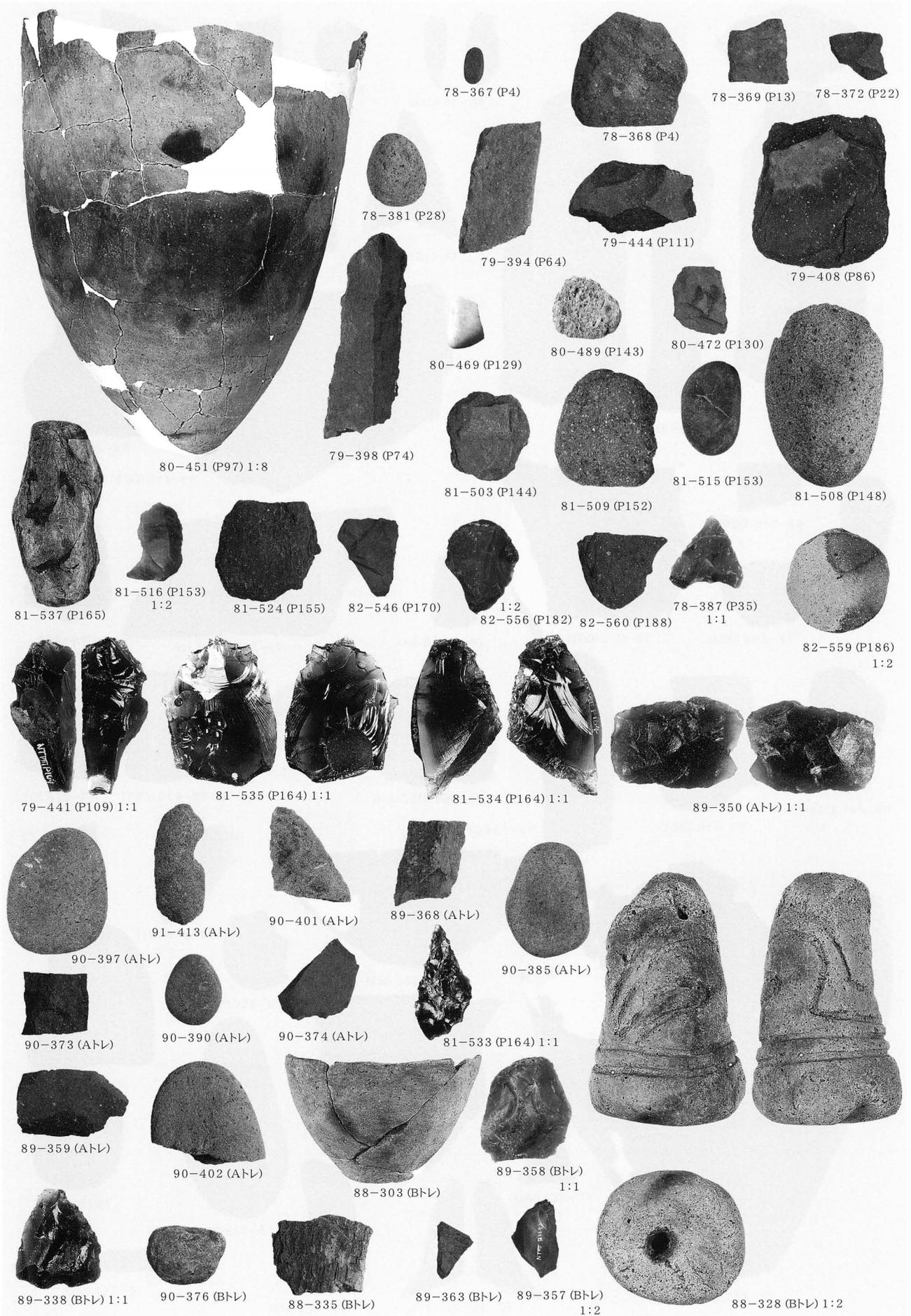


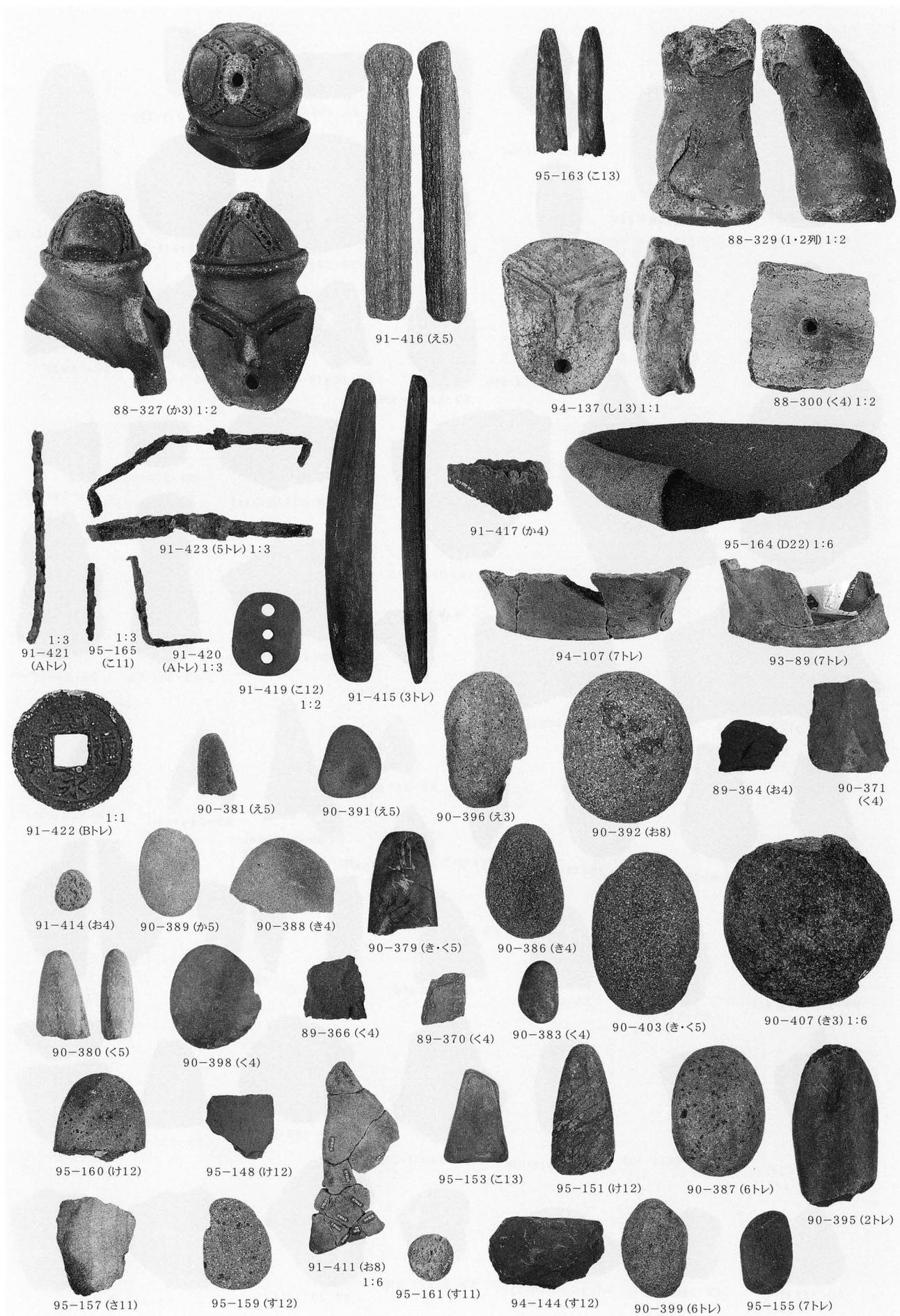
75-317 (M1)

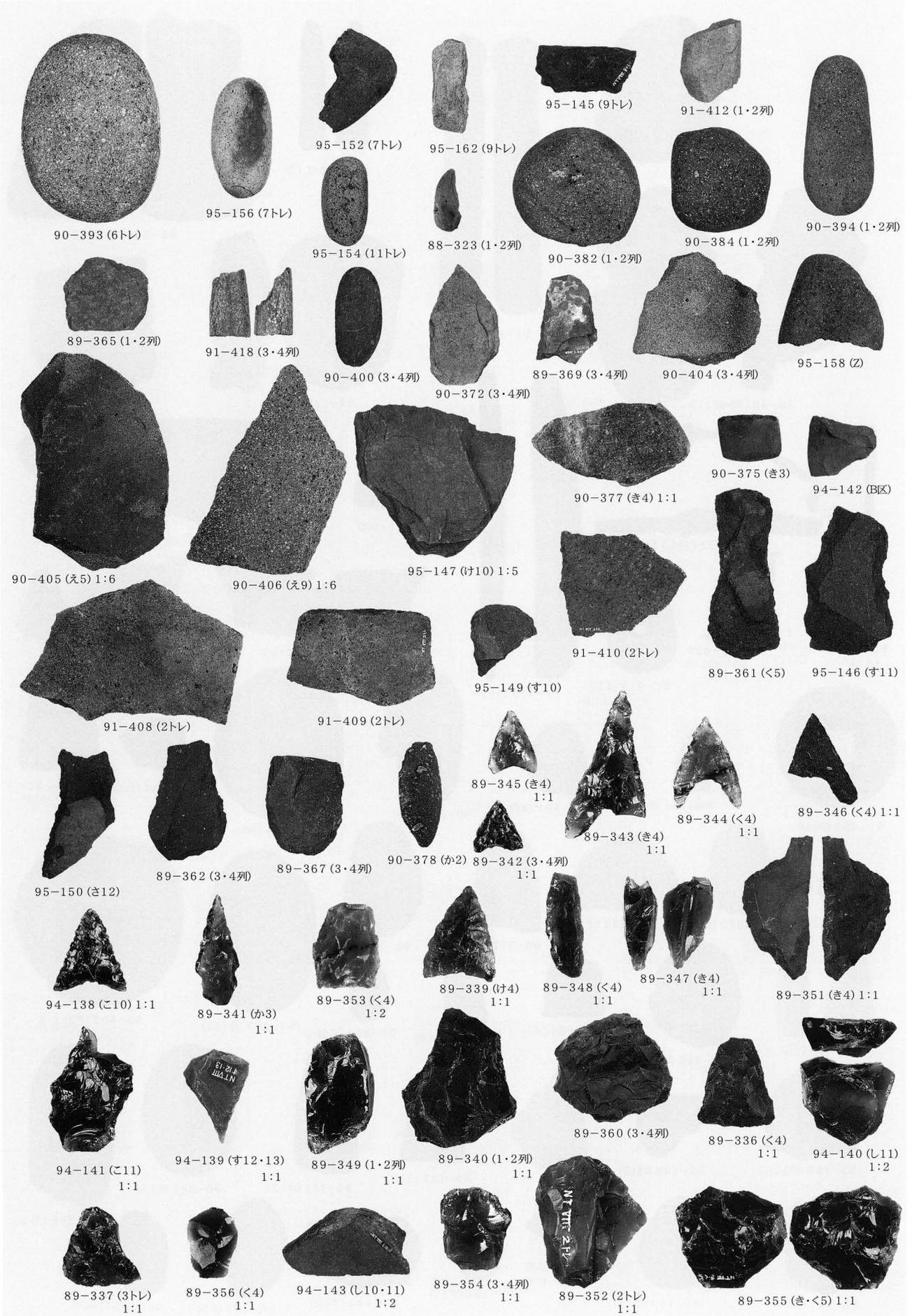


75-281 (M2)

1:3







第三章 西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅸ

第1節 調査体制

調査担当者 上原 学
調査員 浅沼勝男 江原富子 小幡弘子 風間敏 木内勇 小井戸秀元
小林百合子 清水澄生 滝沢三男 土屋武士 中嶋フケジ
比田井久美子 日向昭次 武者幸彦 渡辺長子 渡辺学

第2節 調査日誌

平成23年度

- 7月20日 文化財保護法93条に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出。
- 11月 8日 試掘調査。(住居址・ピット発見)
- 11月10日～文化財保護協議。
遺跡の破壊される建物部分の発掘調査を実施することとなった。
- 11月22日 平成23年度埋蔵文化財委託契約。
- 11月24日 発掘調査開始。重機による表土剥ぎ。(原因者による)機材搬入。
- 11月25日～機材搬入・遺構検出・掘り下げ・図面作成・写真撮影
- 11月28日 基準杭設定。(原因者による)
- 12月 8日 調査終了。機材撤収。
- 12月 7日～平成24年 3月16日 報告書作成。



西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅸ全景(南西から)

(遺物＝遺物洗浄・注記作業・接合復元作業・実測図作成・トレース・写真撮影・図版作成、遺構＝図面修正・写真整理・トレース・図版作成・原稿作成)

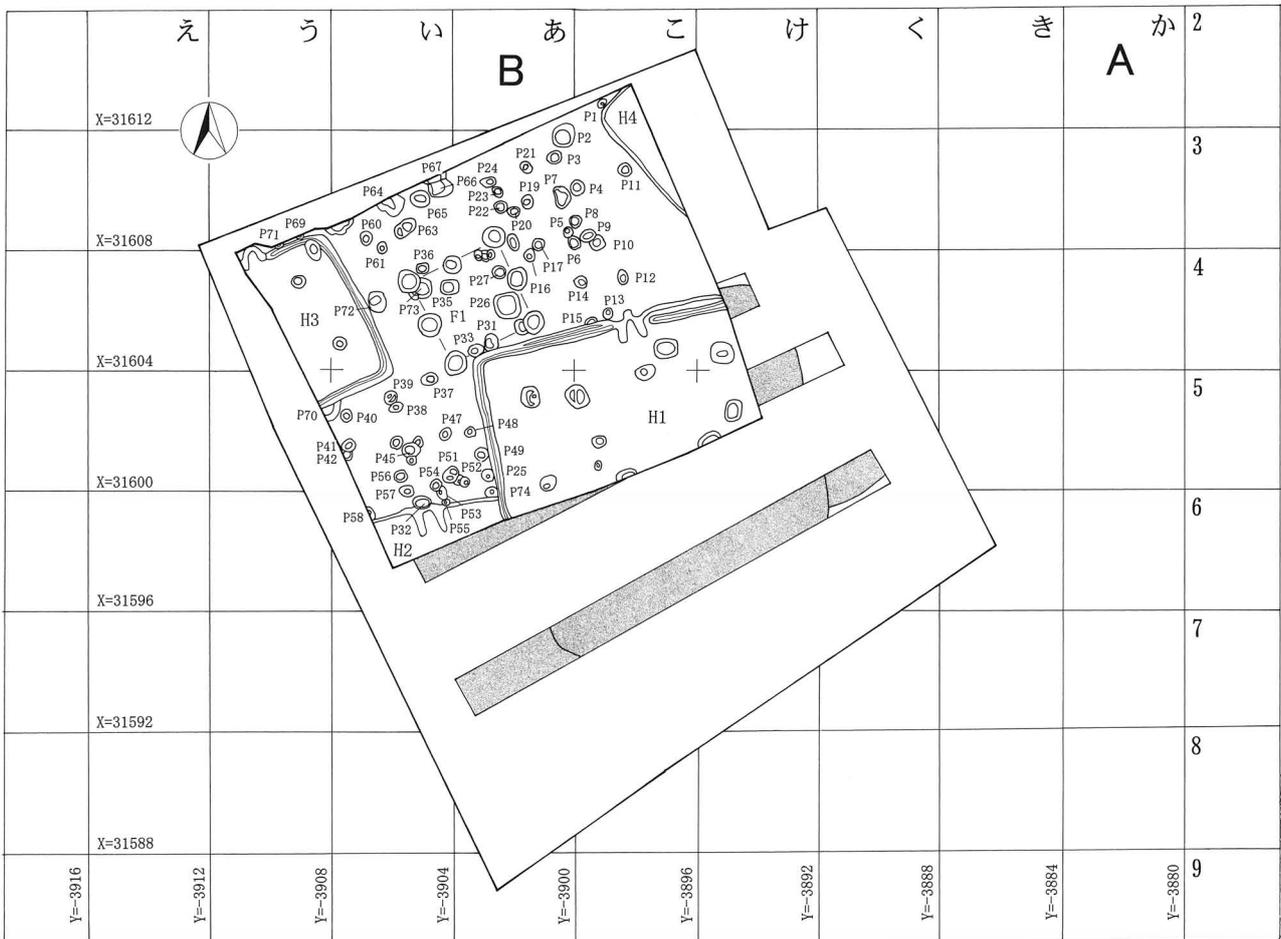
- 1月20日 平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約の変更契約。
- 3月16日 平成23年度発掘調査作業完了・請求。

平成24年度

- 6月29日 平成24年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。
- 1月～ 報告書原稿入稿。校正。図面・遺物整理作業。
- 3月 報告書刊行。

第3節 発見された遺構と遺物

- 遺 構 竪穴住居址 4軒 (弥生時代1・古墳時代3)
- 掘立柱建物址 1棟 (奈良・平安時代)
- ピット
- 遺 物 縄文土器
- 弥生土器
- 土師器 (坏・甕・鉢)
- 須恵器 (坏・甕・壺)
- 石製品 (すり石・編物石・敲石)

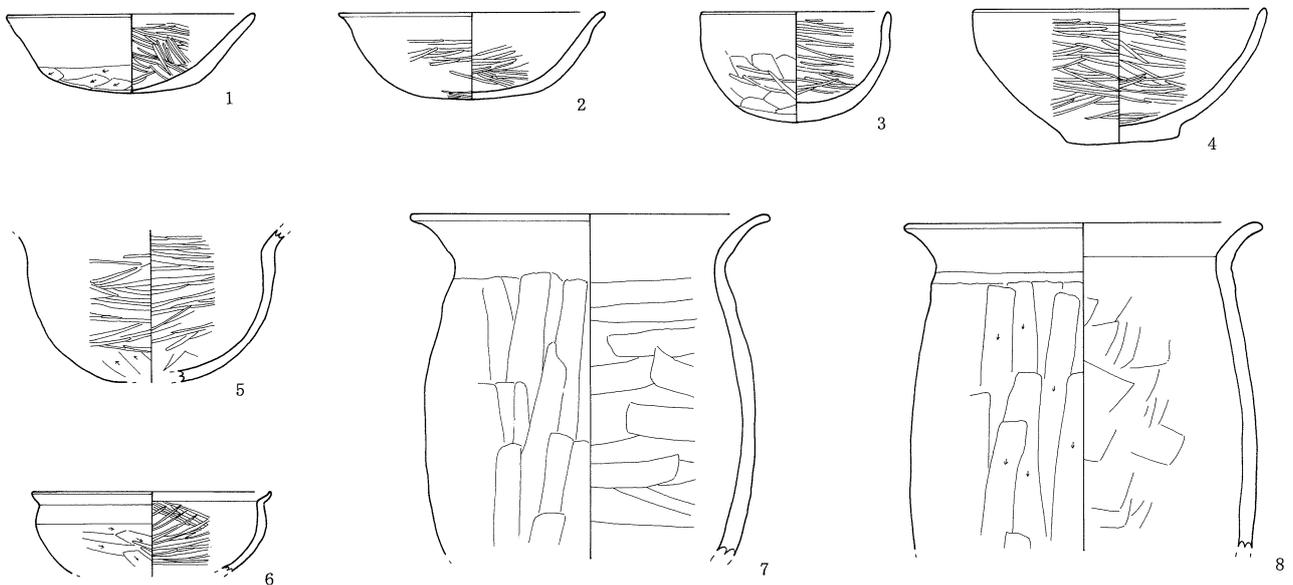


第96図 調査遺構・試掘トレンチ配置図 (1:250)

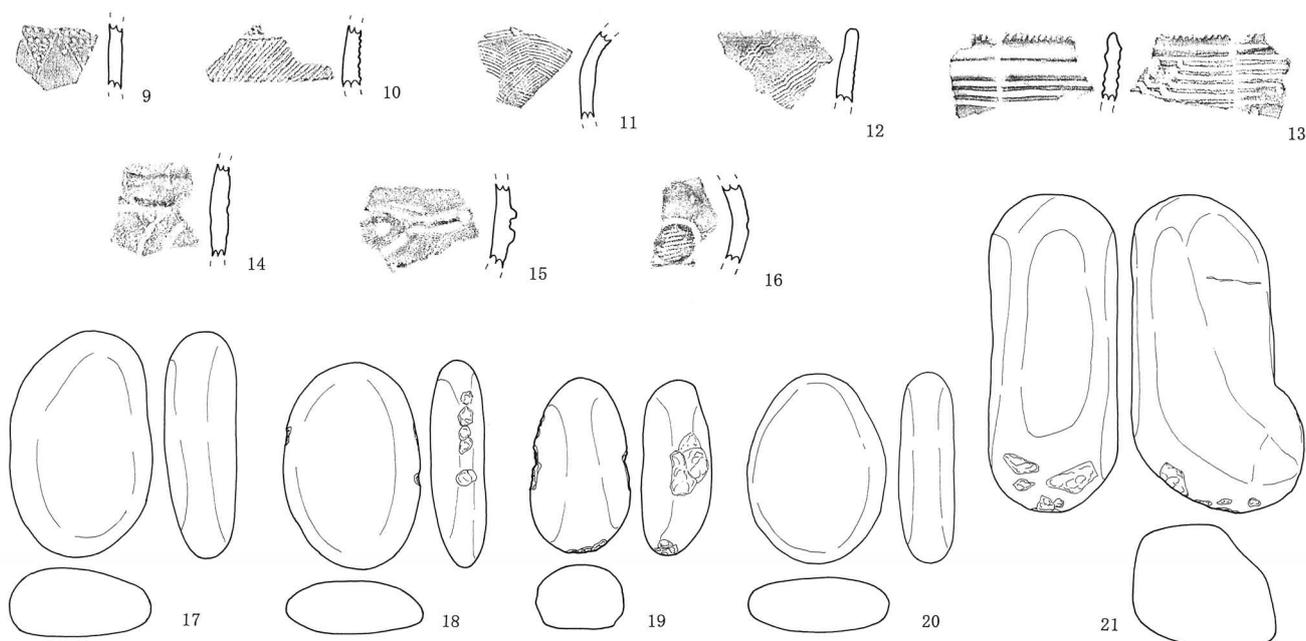
- | | |
|---|---|
| 9 赤灰色土 (2.5YR6/1) 灰層。炭化物、焼土含む。 | 29 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土、炭化物少量含む。 |
| 10 赤褐色土 (2.5YR4/6) 焼土層。 | 30 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焼土含む。 |
| 11 褐色土 (7.5YR4/3) ローム多く、焼土、炭化物含む。 | 31 にぶい赤褐色土 (2.5YR5/4) 焼土化した粘土。 |
| 12 黒褐色土 (7.5YR3/2) ローム多く、焼土、炭化物含む。 | 32 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 焼土化した粘土。 |
| 13 黒褐色土 (10YR3/2) 黒色土ブロック、軽石、炭化物、ロームブロック含む。 | 33 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 硬質。焼土化した粘土。 |
| 14 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロック、軽石、炭化物含む。 | 34 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土。 |
| 15 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム多い、軽石、炭化物含む。 | 35 褐色土 (7.5YR4/3) 硬質。貼り床。ローム多い。 |
| 16 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、炭化物、軽石含む。 | 36 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体。暗褐色土含む。 |
| 17 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土と暗褐色土の混合土。炭化物、焼土含む。 | 37 極暗褐色土 (7.5YR2/3) ローム、炭化物含む。 |
| 18 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土と暗褐色土の混合土。炭化物、焼土含む。 | 38 褐灰色土 (10YR5/1) 白色粘土。焼土含む。 |
| 19 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム、炭化物、軽石含む。 | 39 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム主体。炭化物含む。 |
| 20 暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土とロームの混合土。マブル状。 | 40 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロック、炭化物、焼土含む。 |
| 21 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石、炭化物含む。 | 41 にぶい黄褐色土 (10YR6/4) ローム主体。暗褐色土粒、炭化物含む。 |
| 22 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石やや多い。 | 42 暗褐色土 (10YR3/4) しまりなし。周溝。 |
| 23 褐色土 (10YR4/4) ローム多い。軽石含む。 | 43 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土、ローム、褐色土の混合土。 |
| 24 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石含む。しまりなし。 | 44 褐色土 (10YR4/6) ローム主体。褐色土少量含む。 |
| 25 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ローム主体。 | 45 褐色土 (10YR4/4) ローム主体。褐色土含む。 |
| 26 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、焼土、炭化物少量含む。 | 46 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体。褐色土含む。 |
| 27 暗褐色土 (10YR3/4) ローム、軽石やや多い。 | 47 褐色土 (10YR4/6) ローム主体。 |
| 28 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム多い、軽石含む。 | |

遺構は調査区南東のB-あ-5グリッド周辺に位置する。遺構の南及び東側の一部は調査区域外となる。調査規模は、南北5.2m、東西8.6m、確認面から床面までの深さは65cm内外を測る。試掘調査の結果を考えると、一辺10mを越える大型の住居址である。平面形態は調査状況から方形と思われる。床面は壁際の一部を除き土間状の貼り床が認められ、硬質である。壁際には幅20cm内外、深さ15cm内外の溝が巡っている。カマド両脇の壁溝北側には北壁に沿って、幅5~20cmのテラスが存在した。ピットは床面上で9個、掘方で2個が認められた。P1~P2が北側の支柱穴で、大型の住居址であることから、支柱穴間に補助的なP3・4・5が立てられたと考えられる。ピットの深さは、いずれも50cm以上を測る。P6は位置的にカマド脇の貯蔵穴的役割があった可能性が窺える。カマドは北壁の中央と思われる位置に構築されている。カマドの土台は地山のロームで削り出し、これを粘土で覆う構造である。天井部は崩落しているが、袖部分は比較的良好な状態で確認できた。袖に挟まれた火床部分には、直径50cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。

遺物は土師器の坏・鉢・甕、須恵器の坏、編物石・敲石が出土した。このほかに混入品として、破片だが縄文土器・弥生土器が出土している。縄文土器については、本報告書と合冊である西一本柳遺跡Ⅷから形状の窺える縄文後期の土器が出土している。本住居址は6世紀、古墳時代としたい。



第98図 H1号住居址遺物実測図(1)



第99図 H1号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	12.6	丸底気味	4.3	外面底部及び周辺部ヘラ削り・体部横ナデ 内面ナデ後ミガキ	70	外面7.5YR6/6橙色
2	土師器	坏	13.1	丸底気味	4.2	外面底部から体部ヘラ削り・口縁横ナデ 体部内面ミガキ・剥離多い、みこみ部ミガキ	40	外面7.5YR5/4にぶい褐色
3	土師器	坏	[10]	丸底気味	5.9	外面体部ヘラ削り後ミガキ、口縁部横ナデ 底部ヘラ削り 体部内面横ナデ みこみ部ミガキ	40	外面7.5YR6/3にぶい褐色
4	土師器	鉢	15.5	6	7.1	体部外面ヘラ削り後ミガキ 底部ヘラ削り 内面ナデ後ミガキ	80	外面7.5YR5/3にぶい褐色
5	土師器	鉢	—	—	(8)	外面ヘラ削り後ミガキ 口縁横ナデ 内面ミガキ	40	外面5YR4/2灰褐色
6	土師器	坏	[12.6]	—	(4.3)	外面ヘラ削り後ミガキ・口縁部横ナデ 内面ナデ後ミガキ	30	外面7.5YR5/6明褐色
7	土師器	甗	[19]	—	(18.2)	外面縦ヘラ削り 口縁横ナデ 内面横ヘラナデ	口縁～胴部片	外面5YR6/6橙色
8	土師器	甗	[18.9]	—	(17.3)	外面縦ヘラ削り 口縁横ナデ 内面ヘラナデ	口縁～胴部片	外面5YR5/6明赤褐色
9	弥生土器	壺	—	—	—	外面赤色塗彩、山形内刺突文	頸部破片	外面10R3/6暗赤色 混入遺物
10	弥生土器	壺	—	—	—	外角平行沈線内柵斜線文	頸部破片	外面10YR7/4にぶい黄褐色 混入遺物
11	弥生土器	甗	—	—	—	外面柵描羽状文	頸部破片	外面7.5YR7/6褐色 混入遺物
12	弥生土器	甗	—	—	—	口縁横ナデ後外面柵描斜波状文	口縁破片	外面7.5YR4/2灰褐色 混入遺物
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	口唇部刻み 外面横沈線文 内面横浮線文・沈線文	口縁破片	外面10YR6/4にぶい黄褐色 混入遺物 縄文後期加曾利B式
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面横・斜沈線 やや表面摩耗 裏面剥離	胴部破片	外面10YR4/2灰黄褐色 混入遺物 縄文後期堀之内式
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面横浮線文・円形浮線文	胴部破片	外面7.5YR7/4にぶい褐色 混入遺物 縄文後期堀之内式
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面円形沈線内縄文	胴部破片	外面7.5YR6/4にぶい褐色 混入遺物 縄文後期堀之内式
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
17	石器	編物石	12	7.4	3.7	被熱なし 裏面なめらか、すりに使用か?	525.62	I区出土
18	石器	編物石	11	7.1	2.8	被熱なし 右側に敲打痕	294.88	I区出土
19	石器	編物石	9.3	5.1	3.5	やや赤み・黒色化、被熱あり? 両側に抉り状の剥離	228.05	Ⅲ区出土
20	石器	編物石	10	7.3	3	被熱なし 表面なめらか、すりに使用か?	262.56	Ⅱ区出土
21	石器	蔽石	16.8	9	6.8	全体に赤褐色 被熱あり? 下部に敲打痕	1416.42	全体に赤褐色

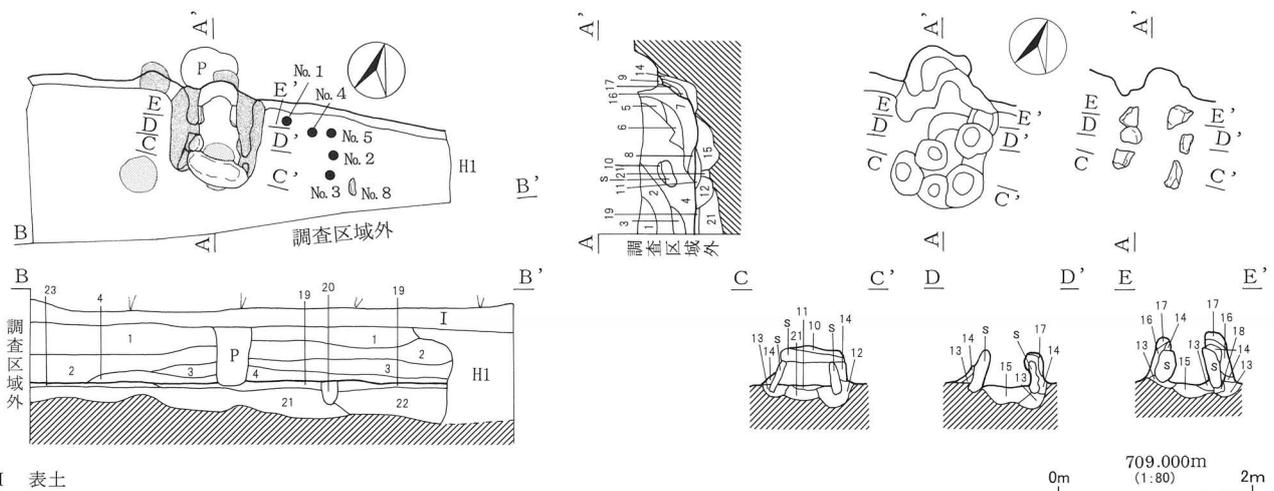
第24表 H1号住居址遺物観察表

H2号住居址

遺構は調査区南西のB-1-6グリッドに位置し、東側をH1に切られ、カマドなど一部を単独ピットに切られる。南及び西側は調査区域外となる。調査規模は最大で南北1.7m、東西4.4m、確認面から床面までの深さは60cmを測る。平面形態は試掘調査の状況から方形と思われる。調査範囲での床面は壁際の一部を除き、全体に貼り床され硬質である。壁溝と考えられる明確な掘り込みは認められなかった。ピットは確認できなかった。カマドは北壁に構築され、芯材に石を利用し、粘土で覆って構築していた。天井部は崩落しているが、両袖及び焚口部の天井石が残存していた。カマドの内壁と煙道部への立ち上がり壁面は熱により硬質化していた。焚口部の天井石直下に径40cm、深さ5cmの焼土が堆積していた。また、カマド西側には床面上に円形の焼け込みと北壁部に抉り込むように粘土が張り付

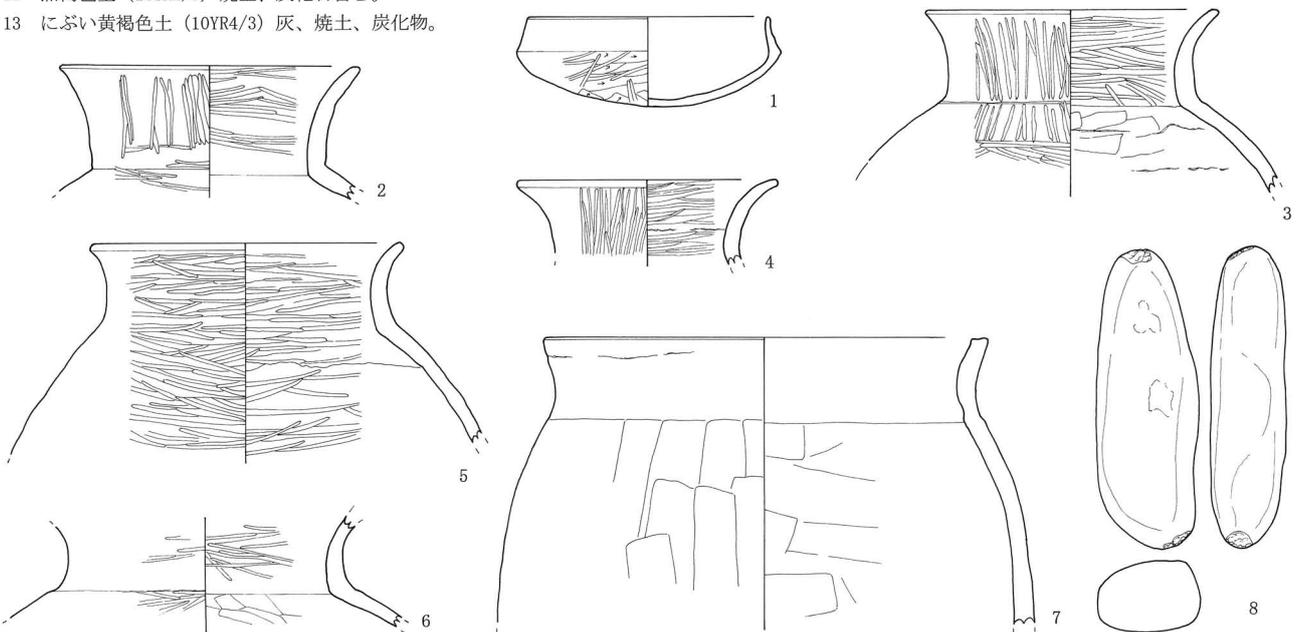
いていることから、以前は西側にカマドが存在し、東側に造り替えた可能性が考えられる。カマド東脇からは、形状の残る土器が出土した。掘方は10~20cmを測り、3cm内外の硬質な貼床直下に極暗赤褐色土と褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕、敲石及び炭化米が出土した。カマド横から出土した土器は、甕の胴上半部から口縁部までを輪切りにした状態で土器の器台として使用していた可能性が窺える。坏は体部途中に明瞭な稜を伴う坏である。時期は坏の特徴から6世紀、古墳時代後期としたい。

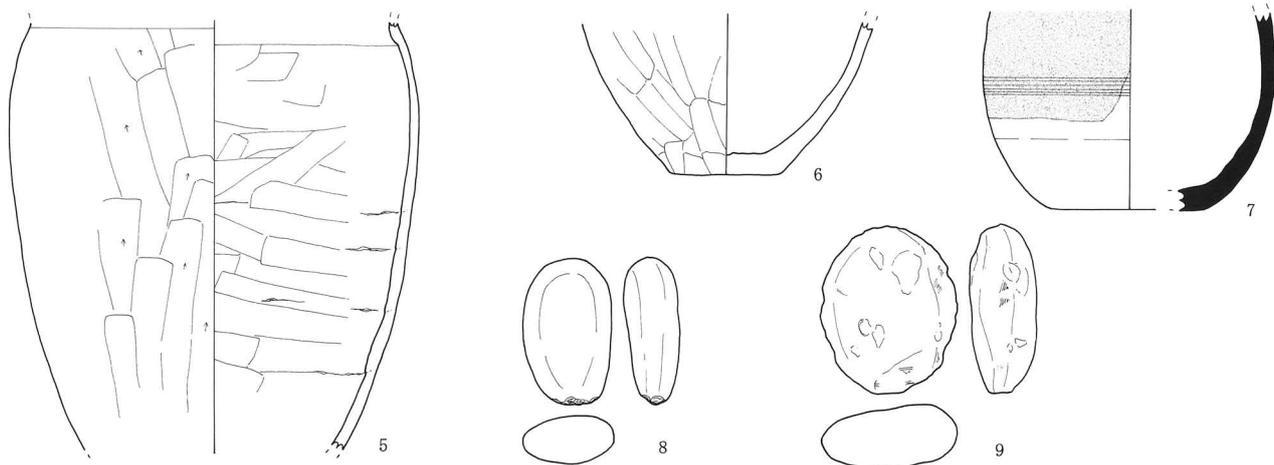


I 表土

- | | |
|---|---|
| 1 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石、ローム、黒色土 ⁺ ロック含む。 | 14 灰褐色土 (7.5YR4/2) 焼土層。 |
| 2 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色土 ⁺ ロックや多い。ローム、軽石、炭化物含む。 | 15 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土とロームの混合土。焼土、炭化物含む。 |
| 3 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土 ⁺ ロック、炭化物含む。 | 16 にぶい赤褐色土 (2.5YR4/3) 焼土化した粘土層。 |
| 4 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石、炭化物、粘土 ⁺ ロック、焼土含む。 | 17 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焼土化した粘土層。 |
| 5 にぶい赤褐色土 (5YR5/4) 焼土化した粘土 ⁺ ロック。 | 18 にぶい赤褐色土 (5YR4/3) 焼土、炭化物含む。 |
| 6 暗褐色土 (2.5YR3/4) 焼土化した粘土 ⁺ ロック・炭化物・灰多い。しまりなし。 | 19 暗褐色土 (7.5YR3/3) 床面。硬質。 |
| 7 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 粘土、焼土、灰、炭化物多い。 | 20 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石、炭化物含む。 |
| 8 褐灰色土 (7.5YR5/1) 白色粘土層。 | 21 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 黒色土とロームの混合土。 |
| 9 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土、炭化物含む。 | 22 褐色土 (7.5YR4/4) ローム主体。暗褐色土含む。 |
| 10 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 焼土化した粘土。 | 23 灰褐色土 (7.5YR4/2) 床面。硬質。 |
| 11 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焼土層。 | |
| 12 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物含む。 | |
| 13 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 灰、焼土、炭化物。 | |



第100図 H2号住居址遺構・遺物実測図



第102図 H3号住居址遺物実測図

遺構は調査区北西のB-う-4グリッドに位置し、西側の約半分は調査区域外となる。調査規模は南北5.3m、東西2.9m、確認面から床面までの深さは60cmを測る。平面形態は方形と思われる。床面は壁際を除き貼り床が施され、硬質である。壁際には幅10cm内外、深さ15cm内外の溝が巡る。ピットは床面上で2個、掘方で2個確認できた。P1・2は主柱穴である。主柱穴は、床面上で柱痕部のみ軟質で、周辺の掘方部上面は貼り床され硬質であった。カマドは北壁に構築され、土台を地山のロームを削り出し、これを粘土で覆うように構築されている。天井部は崩落しているが、袖部は比較的良好な状態であった。火床部分には径40cm、厚さ10cmの焼土が堆積していた。掘方は15~25cmを測り、3cm内外の硬質面直下に、にぶい褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の壺、すり石、敲石が出土した。時期は体部に明瞭な稜を伴う土師器坏、甕の形状から6世紀、古墳時代後期としたい。

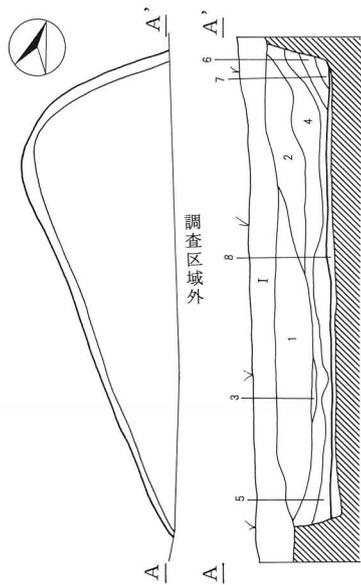
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	[11.4]	丸底	4.6	口縁横ナデ 外面ヘラ削り後ミガキ 内面ミガキ	25	外面5YR5/6明赤褐色
2	土師器	坏	[13.4]	丸底	(3.9)	口縁横ナデ 外面ヘラ削り後ミガキ 内面ミガキ	体部~口縁破片	外面7.5YR4/3褐色
3	土師器	坏	[12.6]	丸底	(6.3)	口縁外面横ナデ 底部から体部ヘラ削り 内面ミガキ	体部~口縁破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色
4	土師器	甕	22	-	(29.5)	口縁横ナデ 外面ヘラ削り・被熱・表面粘土付着 内面ミガキ	70	外面7.5YR6/2灰褐色
5	土師器	甕	-	-	(22.7)	外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	胴部破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色
6	土師器	甕	-	[5.7]	(8.1)	外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 表面被熱・粘土付着	底部~胴部破片	外面2.5YR4/2灰赤色
7	須恵器	壺	-	[7.7]	(8)	内外面ロクロナデ 底部及び周縁部ヘラ削り 自然軸付着	底部~胴部破片	外面5Y6/1灰色
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
8	石器	敲石	7.8	4.6	2.8	先端部敲打痕	130.3	
9	石器	すり石	9	7.2	3.4	全体にすり痕	76.3	

第26表 H3号住居址遺物観察表

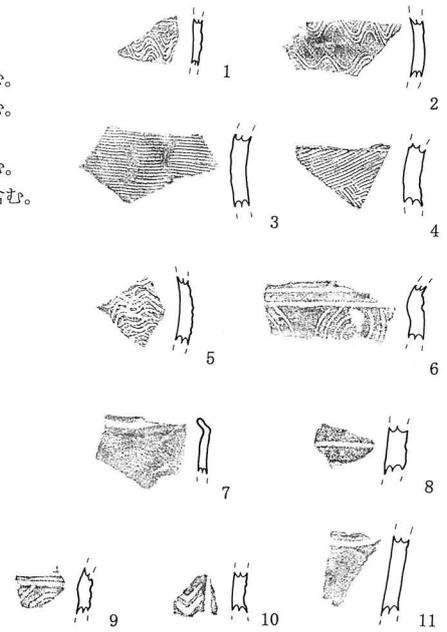
H4号住居址

遺構は調査区北東のA-こ-3グリッドに位置する。遺構東側の大半は調査区域外である。調査規模は、北壁1.8m、西壁4.6m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。床面はやや硬さを持つ。壁溝、ピットは確認できなかった。貼床の硬質面直下は地山となり、明確な掘り込みは認められなかった。

遺物は縄文土器（後期）、弥生土器（赤色塗彩された壺、櫛描波状文の甕）、土師器甕、須恵器坏が出土した。いずれも小破片である。弥生時代と異なる時期の遺物が出土しているが、掘方の認められない床の状況等から弥生時代の可能性が高い。新しい土器は、山林になる以前に行われた耕作等によって混入したと考えられる。



- I 表土
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ロ-ム、軽石、炭化物含む。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) ロ-ム、軽石、炭化物含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR2/2) ロ-ム粒、軽石含む。
 - 4 黒褐色土 (10YR2/3) ロ-ム、軽石、炭化物含む。
 - 5 褐色土 (10YR4/4) ロ-ム多い。軽石、炭化物含む。
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石やや多い。ロ-ム、炭化物含む。
 - 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロ-ム多い。軽石、炭化物含む。
 - 8 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 硬質、床面。



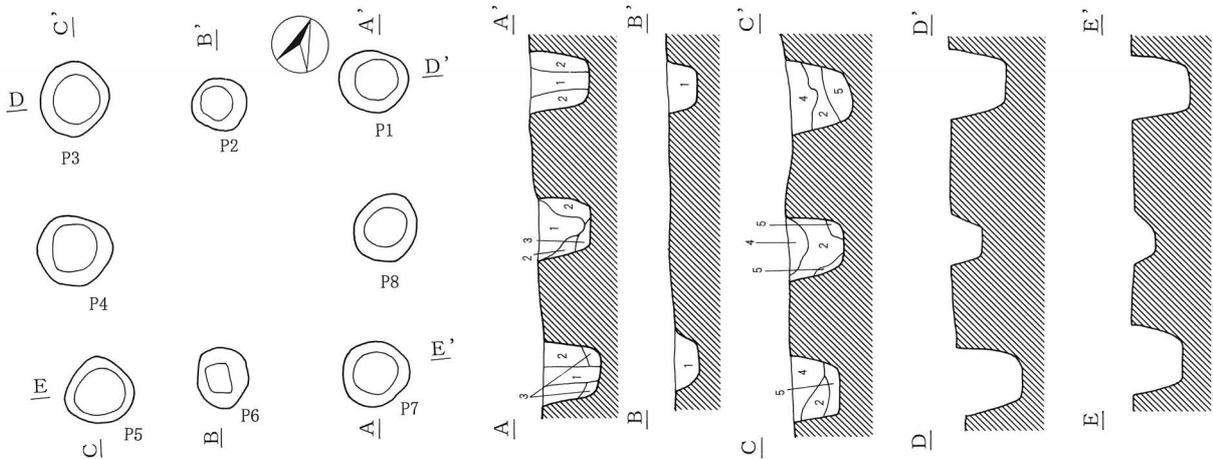
第103図 H4号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	甕	-	-	-	外面櫛描波状文	体部破片	外面10YR7/4にぶい黄褐色
2	弥生土器	甕	-	-	-	外面櫛描波状文	体部破片	外面10YR7/4にぶい黄褐色
3	弥生土器	壺	-	-	-	外面櫛描横線文	頸部破片	外面7.5YR7/6橙色
4	弥生土器	甕	-	-	-	外面櫛描羽状文	頸部破片	外面10YR7/4にぶい黄褐色
5	弥生土器	甕	-	-	-	外面櫛描波状文	胴部破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面横平行沈線、弧状沈線	破片	外面10YR6/4にぶい黄橙色混入遺物
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	内外面ナデ	破片	外面10YR6/4にぶい黄橙色混入遺物
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面沈線文	破片	外面7.5YR6/4にぶい橙色混入遺物
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面横・斜沈線文	破片	外面10YR5/3にぶい黄褐色混入遺物
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面横・>沈線文	破片	外面10YR5/3にぶい黄褐色混入遺物
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面沈線文	破片	外面10YR6/4にぶい黄褐色混入遺物

第27表 H4号住居址遺物観察表

第5節 掘立柱建物址 (F)

F1号掘立柱建物址



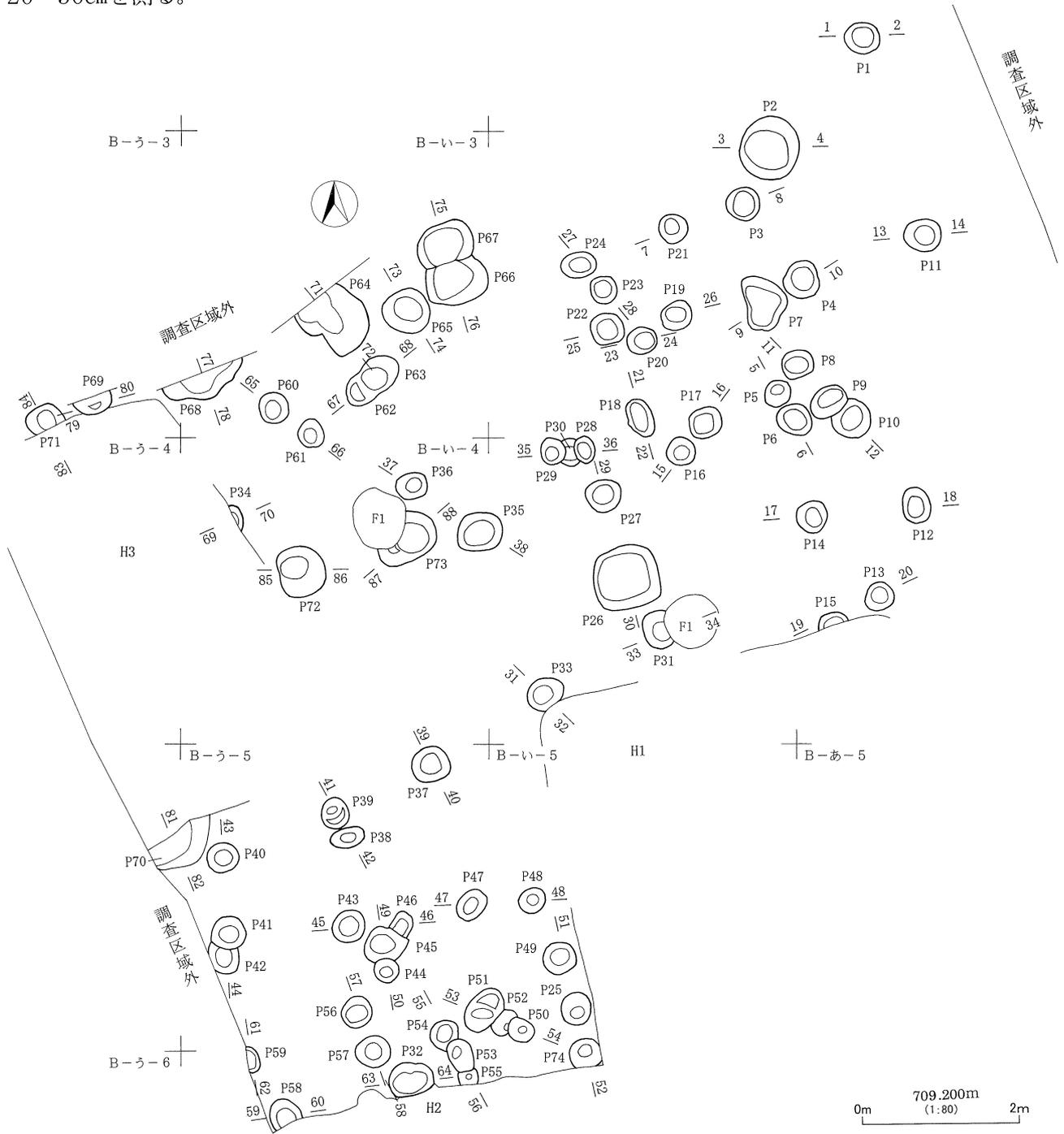
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ロ-ム少量含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ロ-ムと暗褐色土の混合土。
- 3 褐色土 (10YR4/4) ロ-ム主体。暗褐色土含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、焼土少量含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) ロ-ムブロック、炭化物含む。

第104図 F1号掘立柱建物址実測図

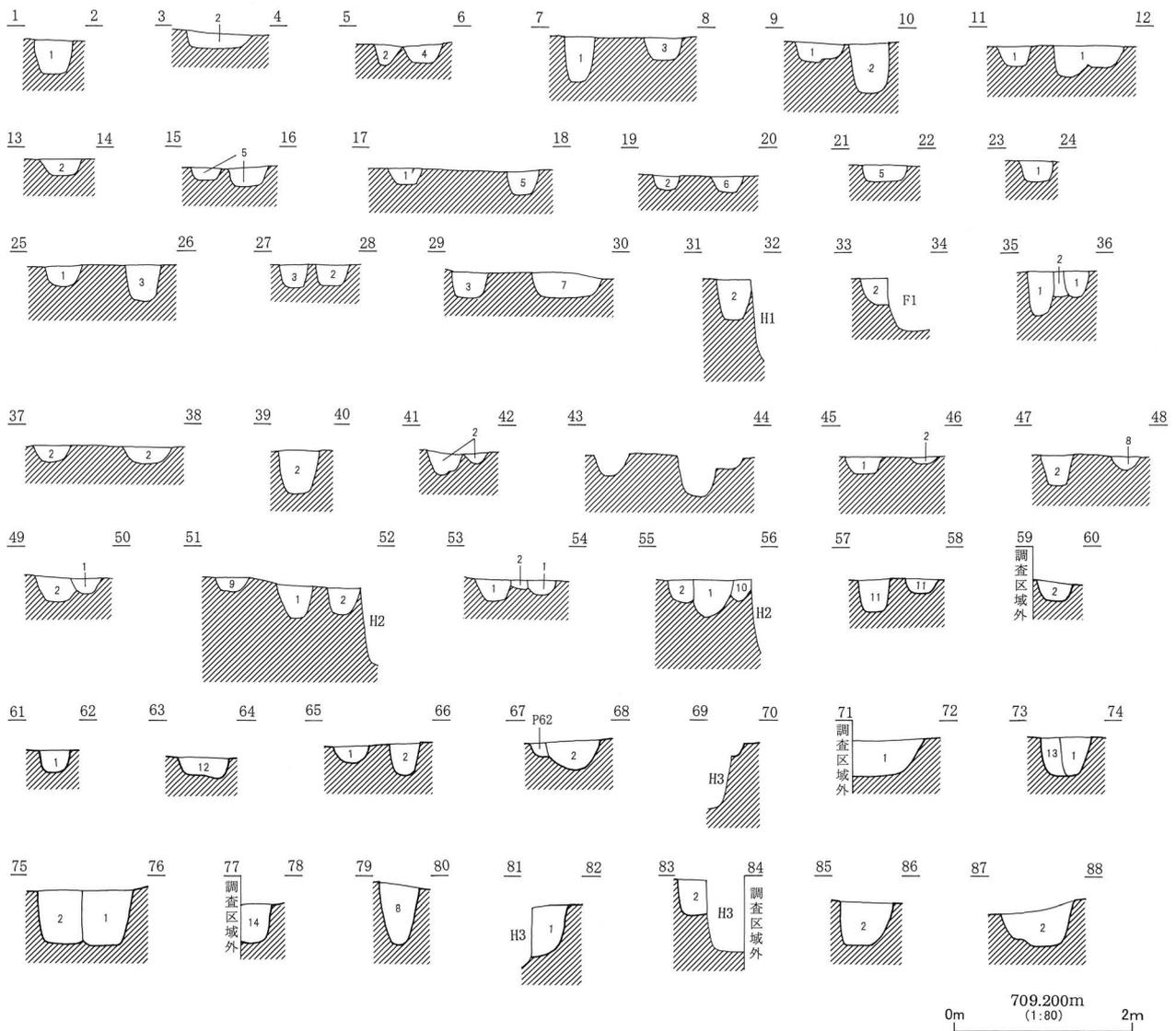
遺構は調査区中央のB-あ-4グリッドに位置する。2間×2間の側柱である。P2とP6は他のピットに比べ浅いことから補助的なピットである可能性も考えられる。全体規模は南北3.8m、東西3.8mを測る。ピットの形状は円形で、規模は径70cm内外、深さはP2・6が30cm、それ以外は60cm内外を測る。遺物はピット内から弥生土器、土師器杯・甕の破片等が出土した。時期は、古墳時代の住居址を切り、奈良・平安時代の土器が含まれることから、奈良・平安時代としたい。

第6節 ピット (P)

規則性の配列が認められないピットを単独ピットとして取り扱った。平面形態は基本的には円形又は楕円形である。覆土は黒褐色土、暗褐色土が認められる。規模は大半が径40cm内外を測り、深さは20~50cmを測る。



第105図 ピット実測図



- | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR2/3) | 8 暗褐色土 (10YR3/4) |
| 2 暗褐色土 (10YR3/3) | 9 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) |
| 3 黒褐色土 (10YR2/2) | 10 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石多い。 |
| 4 黒褐色土 (10YR3/2) | 11 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石多い。 |
| 5 暗褐色土 (10YR3/3) ロームやや多い。 | 12 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム、軽石、焼土、炭化物含む。 |
| 6 暗褐色土 (10YR3/4) ローム多い。 | 13 褐色土 (10YR4/6) |
| 7 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多い。 | 14 暗褐色土 (10YR3/3) 斑状。 |

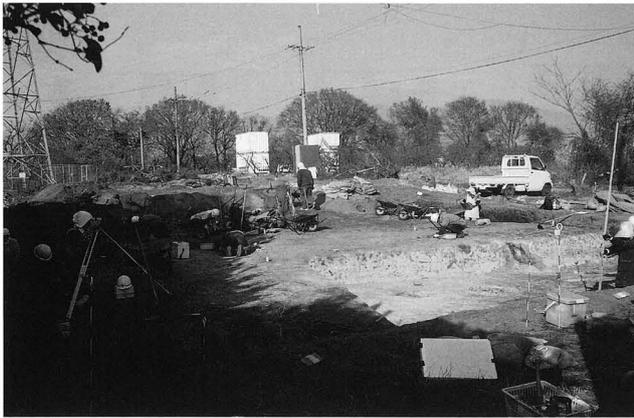
第106図 ピット実測図



西近津遺跡群西近津遺跡区全景 (北から)



西近津遺跡群西近津遺跡区全景 (南から)



調査風景1 (南から)



調査風景2 (南東から)



H1号住居址全景 (西から)



H1号住居址カマド全景 (南から)



H1号住居址カマド堀方 (南から)



H1号住居址掘方 (南西から)



H1号住居址カマド造り出し (南から)



H2号住居址全景 (東から)



H 2 号住居址カマド (南から)



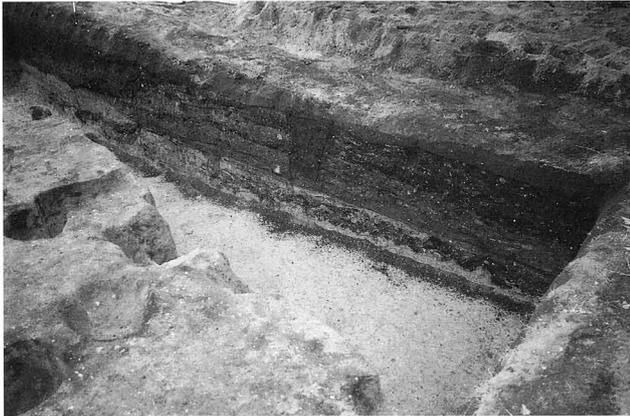
H 2 号住居址カマド 焼き口天井石除去後 (南から)



H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址カマド堀方 (南西から)



H 2 号住居址堀方 (北西から)



H 3 号住居址全景 (南から)



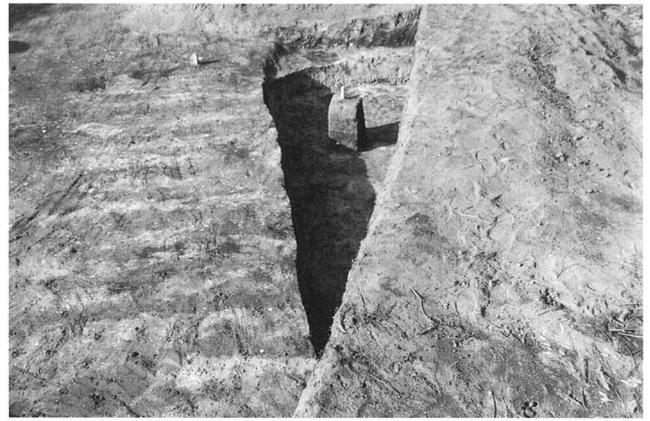
H 3 号住居址カマド (南から)



H 3 号住居址カマド堀方 (南から)



H 3号住居址掘方（南から）



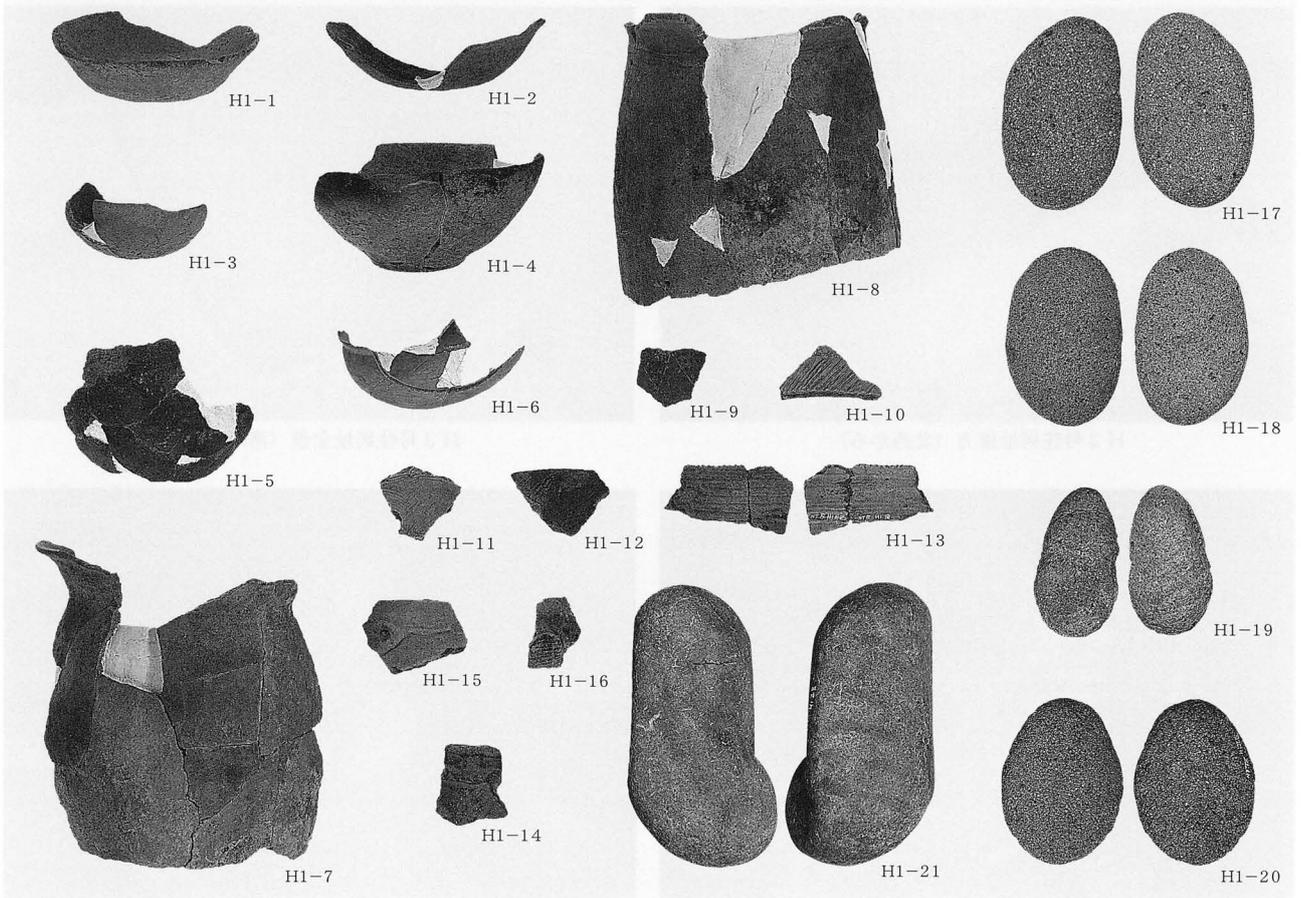
H 4号住居址全景（南から）



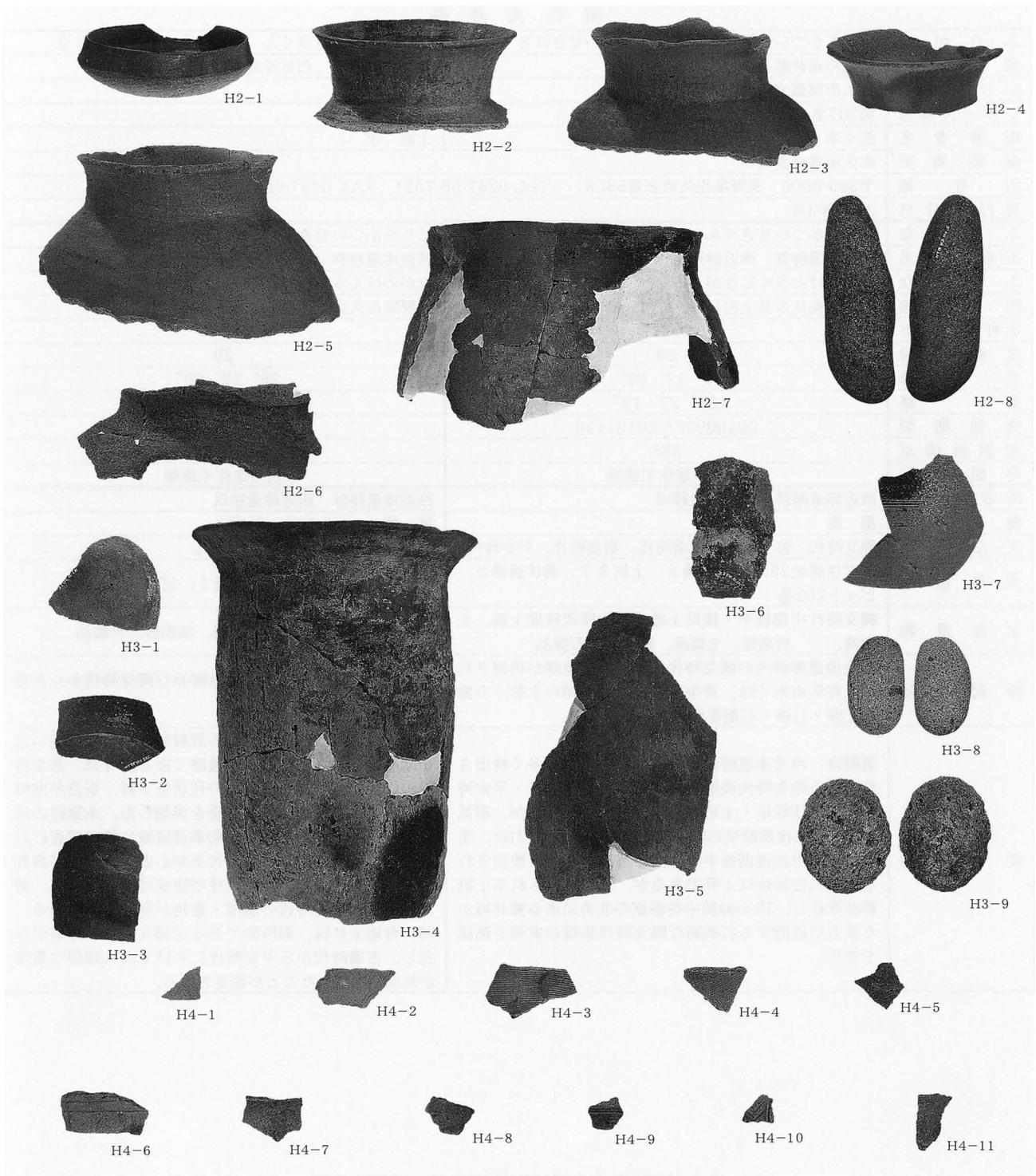
H 4号住居址掘方（北から）



F 1号掘立柱建物址全景（東から）



H 1号住居址出土遺物



H 2 · 3 · 4 号住居址出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきはち	にしちかついせきぐん にしちかついせききゅう
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅷ	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅸ
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書	
シリーズ番号	第207集	
編著者名	佐々木 宗昭 林 幸彦	上原 学
編集機関	佐久市教育委員会	
所在地	〒385-0006 長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323	
発行年月日	2013年3月	
ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきはち	にしちかついせきぐん にしちかついせききゅう
所収遺跡名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅷ	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅸ
ふりがな	ながのけんさくしながとろ	ながのけんさくしながとろ
所在地	長野県佐久市長土呂1796-2、1796-4	長野県佐久市長土呂1764-1、1764-15
市町村コード	20217	20217
遺跡番号	29	29
北緯	36° 17' 02"	36° 17' 06"
東経	138° 27' 19"	138° 27' 24"
発掘期間	20100927～20101126	20111124～20111208
発掘面積㎡	598	170
発掘原因	長屋建住宅建築	長屋建住宅建築
所収遺跡名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅷ	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅸ
種別	集落	集落
主な時代	縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代	弥生時代、古墳時代、平安時代
主な遺構	竪穴住居址25、円形周溝3、土坑37、溝状遺構3、ピット202基	竪穴住居址4、掘立柱建物址1、ピット
主な遺物	縄文時代中期後半・後期土器、弥生時代後期土器、土師器、須恵器、土製品、鉄製品、石製品	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品
特記事項	西近津遺跡群内の縄文時代後期集落の東端が確認された。佐久市内では、希少な縄文時代後期の土器・石器・土偶・石棒・石剣等が出土した。	弥生時代から古墳時代の集落跡及び縄文時代から古墳時代の遺物が発見された。
要約	遺構は、西近津遺跡群や周辺の遺跡群で数多く検出されている弥生時代後期・古墳時代・奈良時代・平安時代の住居址1軒、土坑・溝状遺構等であったが、初見の縄文時代後期前半の敷石住居址が1軒確認された。また、縄文時代後期前半の遺構と遺物が多量に検出された。竪穴住居址は1軒であるが、墓坑とみられる土坑群が存在し、JR小海線中佐都駅の北方にある鷲林城から東方に展開する広範囲な縄文時代集落の東端を確認できた。	佐久地域特有の浅間山麓から放射状に伸びる細長い田切地形の台地上に展開する遺跡である。今回、弥生時代の住居址1軒、古墳時代の住居址3軒、奈良平安時代の掘立柱建物址1棟の調査を実施した。本遺跡の周辺では、東側の中部横断自動車道建設に伴う調査において、弥生時代から平安時代を中心とする遺構が多数検出され、南側では長屋建住宅建設に伴う調査で、縄文時代から平安時代の遺構・遺物が発見されている。同一台地上には、局所的であるが縄文時代の集落が存在し、古墳時代から平安時代にかけては大規模な集落が形成されていたことが想定される。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第207集

西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅷ

西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅸ

2013年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL0267-68-7321

印刷所 キクハラインク株式会社

